

Mutsu Nakanishi Home Page

『 Iron Road 和鉄の道 2011 』 【 11 】

－ 日本の源流・たたら遺跡探訪 －



2012.1.15. by Mutsuo Nakanishi

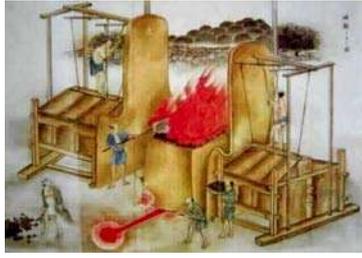


わてつ みち

# 和鉄の道 ・ Iron Road

## 鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」

日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、維持している日本独自の製鉄法である。



日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約 800 年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術をさらに磨き高めながら 1500 年続いてきた日本独自の製鉄技術。

「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本を作ってきた。そんな今、急速な社会変革の中で この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。

製鉄炉は生産された鉄塊の取り出しの度に壊されるので 製鉄関連遺跡に残っている遺構はそんな生産設備の残骸でも、製鉄関連遺跡には、そんな残骸・生産の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマが、周りの美しい景色とともにうもれて残っています。

そんな日本で繰り広げられたドラマ そして その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地を Country Walk しつつ集めています。

鉄は「文化」をはぐくむとともに数々の「戦さ」を生んだといわれる。それだけ 鉄の力の大きさの証明であり、これからも そうだろうと思いますが、大事なのは それを使う人々の力・心である。「鉄」の持つ魅力 「鉄のまばゆい輝き・閃光」と「鉄の黒光り・肌光」その美しさをこれからも大事にしたいものです。



(愛媛大学「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を語る」シンポジウムより)



古代大和への鉄の道 澁川・木津川・大和川・紀ノ川



古代 尾張の大製鉄コンビナート 稲崎 鞋井川(脚製鉄遺跡群)



砂鉄採取の残丘が残る砥峰高原 奥出雲 松江道路建設工事でたたら製鉄遺跡々々



## 2011年 和鉄の道 Iron road【11】 たたら遺跡探訪 もくじ

「和鉄の道 Iron Road」【11】 口絵

11iron00.pdf

**口絵-1. 2011年 見学した製鉄関連遺跡・遺構**

1. 西播磨 古墳時代の鍛冶工房跡 赤穂市有年牟礼・井田遺跡
2. 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡
3. 平城京 朱雀門のすぐ横から出土した奈良時代前半の鍛冶工房

**口絵-2. 弥生時代前期の広大な水田跡 御所市条 中西遺跡**

**口絵-3. 日本列島で一番低い分水嶺を越える水上回廊**

**口絵-4. 鉄系超高温伝導体の急速展開と超高温伝導体実用化技術の進歩**

**口絵-5. 鉄のモニュメント [ 1. 神戸 兵庫港にある浮きドック群 2. 鉄のアーティスト 榎忠の作品群 ]**

1. 近畿 弥生時代後期 淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の2・3世紀 「鉄器は出ないが、急速な鉄器化が進行という「幻の鉄器」の時代があった」という考えには疑問符 - 鉄器時代のイメージ先行の弥生時代「北部九州以外 実用鉄器はさほど普及していなかったのではないか」-	11iron01.pdf
2. 「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」 西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる	2011.2.11. 11iron02.pdf
3. 西神戸神出東西に秀麗な山並みを見せる神奈備山 雌岡山・雄岡山 Walk 鍛冶神大己貴命の伝説の地「神出」渡来鍛冶技能集団の進出地の伝承も	2011.3.11. 11iron03.pdf
4. 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡を訪ねる大坂城南側から見つかった大規模な鍛冶工房跡 大坂城のお堀端南約100m 大阪市中央区森ノ宮2丁目	2011.4.16. 11iron04.pdf
5. 日本で一番低い中央分水界を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ水上回廊 加古川から由良川水系へ 山越のない「水別れ街道」を行く	2011.5.14. 11iron05.pdf
6. 神戸でも北の縄文と交流 遮光器土偶[部分]が出土した神戸篠原遺跡 縄文後期・晩期 関西にも日本列島をつなぐ広い交流路がつながっていた	2011.5.20. 11iron06.pdf
7. 京都の新しいパワースポット 磁石が吸い付く平野神社の「すえひろがね・餅鉄」を訪ねる 東北と関係深く東北蝦夷の族長アテルイの顕彰碑がある清水寺にも久しぶりにゆきました	2011.5.22 11iron07.pdf
8. 南北市纏(してき) 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」 魏志倭人伝の時代 朝鮮半島の鉄との交易品は何か……	11iron08.pdf
9. 鉄のモニュメント 奈良 三輪山 大神神社の大鳥居 久しぶりに巻向・三輪 三輪山山裾を歩く	11iron09.pdf
10. 古墳時代 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる 脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学 & 若狭小浜港・遠敷(おにゅう)の里 Walk	2011.8.30. 11iron10.pdf
11. 鉄のモニュメント「浮きドック」・神戸兵庫の港 界限 walk	2011.9.15. 11iron11.pdf
12. 淡路・出雲・高千穂 三大神話の郷 神楽の競演 淡路島伊弉諾神宮 三大神話 神楽祭	2011.9.23. 11iron12.pdf
13. 最近の鉄の話題「新しい鉄 高温超電導体」 BSフジ 10月9日(日)8:00 放送「ガリレオX 電気抵抗ゼロがひらく未来」より	11iron13.pdf
14. 鉄のモニュメント 鉄のアーティスト 榎忠氏(1944-)の鉄の作品群 兵庫県立美術館「榎忠展 -美術館を野生化する-」より	2011.11.23. 11iron14.pdf
15. 北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼンスライド 「和鉄の道 Iron Road」から見た日本誕生前夜-北近江・若狭が輝いた時代-	2011.12.1. 11iron15.pdf
16. 平城京 朱雀門前から大規模な鍛冶工房が出土した 平城第486次平城京左京三条一坊一坪の調査 奈良時代前半の鍛冶工房跡 平城京建設に鉄製品供給か??	2011.11.25. 11iron16.pdf
17. 「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」 国内最大級弥生時代前期の水田跡2千枚が出土?御所市 中西遺跡	2011.11.25. 11iron17.pdf

# 2011年 和鉄の道 Iron road【11】 たたら遺跡探訪 もくじ

## 〔目次詳細版〕

「和鉄の道 Iron Road」【11】 口 絵

11iron00.pdf

- 口絵-1. 2011年 見学した製鉄関連遺跡・遺構
  - 1. 西播磨 古墳時代の鍛冶工房跡 赤穂市有年牟礼・井田遺跡
  - 2. 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡
  - 3. 平城京 朱雀門のすぐ横から出土した奈良時代前半の鍛冶工房
- 口絵-2. 弥生時代前期の広大な水田跡 御所市条 中西遺跡  
大和は早くから開けた大穀倉地帯だった・・・大和の力の源泉か??
- 口絵-3. 日本列島で一番低い分水嶺を越える氷上回廊  
太古から動植物の移動路 古代から多くの物産・人の移動路・交易路
- 口絵-4. 鉄系超高温伝導体の急速展開と超高温伝導体実用化技術の進歩
- 口絵-5. 鉄のモニュメント [ 1. 神戸 兵庫港にある浮きドック群 2. 鉄のアーティスト 榎忠の作品集 ]

「和鉄の道 Iron Road」【11】 記 事

- 1. 近畿 弥生時代後期 淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の2・3世紀 11iron01.pdf  
「鉄器は出ないが、急速な鉄器化が進行という「幻の鉄器」の時代があった」という考えには疑問符  
- 鉄器時代のイメージ先行の弥生時代「北部九州以外 実用鉄器はさほど普及していなかったのではないか」
- 2. 「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」 11iron02.pdf  
西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる 2011.2.11.
  - 赤穂市有年 牟礼・井田遺跡 walk
  - 有年 牟礼・井田遺跡 現地説明会
  - 古墳時代の鍛冶工房跡が出土した赤穂市有年を歩いて
- 3. 西神戸神出東西に秀麗な山並みを見せる神奈備山 雌岡山・雄岡山 Walk 2011.3.11. 11iron03.pdf  
鍛冶神大己貴命の伝説の地「神出」渡来鍛冶技能集団の進出地の伝承も
  - 1. 神出の古代伝説 & 古代 日太最大の巨大窯 神出古窯跡群【参考資料】
  - 2. 鍛冶神大己貴命の伝説の地「神出」の信仰の山 雌岡山・雄岡山 Walk
- 4. 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡を訪ねる大坂城南側から見つかった大規模な鍛冶工房跡 2011.4.16. 11iron04.pdf  
大坂城のお堀端南約100m 大阪市中央区森ノ宮2丁目
  - 1. 豊臣時代 大坂城の鍛冶工房跡出土地 walk 大坂城御堀端から南約100m 難波宮史跡公園の東端
  - 2. 大坂城の鍛冶工房跡出土遺物の展示 大阪歴史博物館ロビーで
  - 3. 【写真アルバム】難波宮史跡公園・大坂城から大川端界限 walk資 料 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡 大阪文化財研究所・大阪歴史博物館資料
- 5. 日本で一番低い中央分水界を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊 2011.5.14. 11iron05.pdf  
加古川から由良川水系域へ 山越のない「水別れ街道」を行く
  - 1. 氷上回廊を南北に走る水別れ街道 [国道175号線]を行く  
「氷上回廊を通れば 山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海までゆけるのか??」
  - 2.【資 料】氷上回廊 概要 と 古代 氷上回廊周辺の古代遺跡分布
  - 3. まとめ 氷上回廊 山越・峠越のない「水別れ街道」を行く

< 次頁に続く >

6. 神戸でも北の縄文と交流 遮光器土偶[部分]が出土した神戸篠原遺跡 2011.5.20. 11iron06.pdf  
 縄文後期・晩期 関西にも日本列島をつなぐ広い交流路がつながっていた  
 1. 神戸でも北の縄文と交流 遮光器土偶[部分]が出土した神戸篠原遺跡  
 2. 篠原縄文遺跡概要 と 神戸市の主要縄文遺跡分布図  
 3. [写真アルバム] 遮光器土偶が出土した神戸篠原遺跡周辺 Walk  
 参考 神戸の遺跡から見た縄文 西岡誠司氏「縄文時代の神戸」講演要旨・図面抜粋  
 2011.5.21. 神戸市埋文センター歴史講演会「神戸の歴史探検」
7. 京都の新しいパワースポット 磁石が吸い付く平野神社の「すえひろがね・餅鉄」を訪ねる 2011.5.22 11iron07.pdf  
 東北と関係深く東北蝦夷の族長アテルイの顕彰碑がある清水寺にも久しぶりにゆきました  
 1. 京都の新しいパワースポット 磁石が吸い付く平野神社の「すえひろがね・餅鉄」を訪ねる  
 2. 解説 餅鉄・清水寺・東北蝦夷の族長「アテルイ」和鉄の道・Iron Road より
8. 南北市糶(してぎ) 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」 11iron08.pdf  
 魏志倭人伝の時代 朝鮮半島の鉄との交易品は何か……
9. 鉄のモニュメント 奈良 三輪山 大神神社の大鳥居 久しぶりに巻向・三輪 三輪山山裾を歩く 11iron09.pdf  
 1. 鉄のモニュメント 三輪山大神神社の大鳥居  
 2. 巻向 箸墓から 三輪山大神神社の大鳥居へ歩く
10. 古墳時代 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる 2011.8.30. 11iron10.pdf  
 脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学 & 若狭小浜港・遠敷(おにゅう)の里 Walk  
 1. 【和鉄の道】若狭「上中熊川宿& 脇袋古墳群 walk 2008.9.1.  
 朝鮮半島の鉄を求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」より 2. 若狭「上中熊川宿&脇袋」より抜き出し  
 2. 古墳時代 朝鮮半島との交流の玄関口「若狭」を再度訪ねる 2011.8.30.  
 2.1.古墳時代 朝鮮半島との交流の玄関口 若狭 小浜の港  
 2.2.若狭町歴史文化館で上中地域古墳群の出土遺物展示を見る  
 2.3.若狭と大和の深い関係を示す 若狭遠敷(おにゅう)川 鶴の瀬の水送り  
 3. 若狭の国 Walk まとめ  
 大陸・朝鮮半島から大和へと続く東アジアの文物交流路の日本海側窓口 若狭の実像が見えてきた
11. 鉄のモニュメント「浮きドック」・神戸兵庫の港 界限 walk 2011.9.15. 11iron11.pdf  
 1.【概要】神戸港の西部 兵庫港にある浮きドックと神戸市中央卸売市場  
 2. 神戸中央卸売市場を歩く  
 3. 兵庫港岸壁から西出町の浮きドック walk
12. 淡路・出雲・高千穂 三大神話の郷 神楽の競演 淡路島伊弉諾神宮 三大神話 神楽祭 2011.9.23. 11iron12.pdf  
 1. 淡路 神楽「鉾の舞」  
 2. 高千穂 神楽「手力雄の舞」「佃女の舞」「戸取の舞」「御神躰の舞」  
 3. 出雲 大土地神楽「八千矛」
13. 最近の鉄の話題「新しい鉄 高温超電導体」 11iron13.pdf  
 BS フジ 10月9日(日)8:00放送「ガリレオX 電気抵抗ゼロがひらく未来」より  
 鉄系高温超電導体に注目 高温超電導体の実用化実験がすでに始まっている
14. 鉄のモニュメント 鉄のアーティスト 榎忠氏(1944-)の鉄の作品群 2011.11.23. 11iron14.pdf  
 兵庫県立美術館「榎忠展 -美術館を野生化する-」より
15. 北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼンスライド 2011.12.1. 11iron15.pdf  
 「和鉄の道 Iron Road」から見た日本誕生前夜-北近江・若狭が輝いた時代-
16. 平城京 朱雀門前から大規模な鍛冶工房が出土した 平城第 486 次平城京左京三条一坊一坪の調査 11iron16.pdf  
 奈良時代前半の鍛冶工房跡 平城京建設に鉄製品供給か?? 2011.11.25.
17. 「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」 2011.11.25. 11iron17.pdf  
 国内最大級弥生時代前期の水田跡2千枚が出土?御所市 中西遺跡



3. 平城京 朱雀門のすぐ横から出土した奈良時代前半の鍛冶工房 2011. 11. 25.

3つの工房に52基の炉跡が出土 平城京造営に関する鍛冶工房か・・・



工房から出土した鉄滓・羽口・金床石

口絵-2 弥生時代前期の広大な水田跡 御所市条 中西遺跡

大和は早くから開けた大穀倉地帯だった・・・大和の力の源泉か?? 2011. 11. 25.

大和の国力の源泉「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」



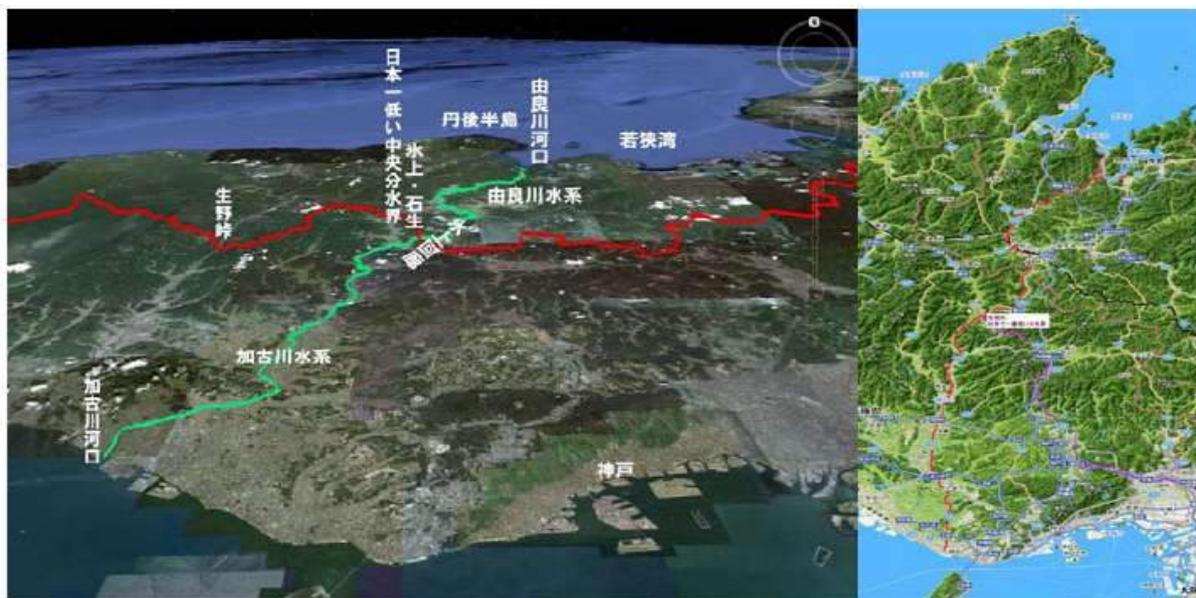
金剛山・葛城山を背に御所道路の建設が進む御所市条 弥生前期の大水田跡 中西遺跡 2011. 11. 25.



大和が大穀倉地帯であったことを示す弥生前期の広大な水田跡 御所市条 中西遺跡 2011. 11. 25.

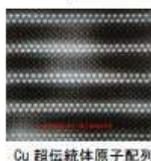
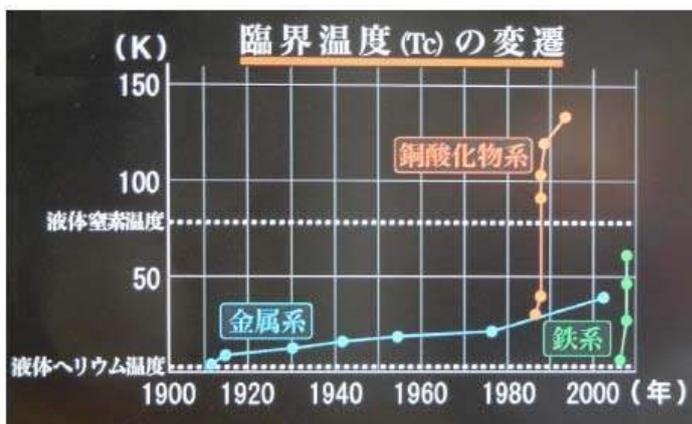
### 口絵-3 日本列島で一番低い分水嶺を越える氷上回廊

太古から動植物の移動路 古代から多くの物産・人の移動路・交易路



日本一低い中央分水界 丹波市氷上町石生 「水別れ」 2011. 5. 14.

### 口絵-4 鉄系超高温伝導体の急速展開と超高温伝導体実用化技術の進歩



## 口絵-5 鉄のモニュメント

### 1. 神戸 兵庫港にある浮きドック群



浮きドックに入ったアルミの小型船 2011.9.15.



川崎重工の巨大な浮きドックの正面 左 No.3 Dock 右 No.2 Dock



西出町の小さな浮きドック群と

川重の浮きドック



浮きドックへの入渠 → ドック内海水の排出 → 船底の清掃

### 2. 鉄のアーティスト 榎忠の作品群 2011.11. 兵庫県立美術館 榎忠展より



厚板サブマージ多層盛り溶接タブを並べた作品



極厚ロールバンド溶接管 テストサンプル切出し後の作品



スラブの端部を並べたアイアン サークル



高炉湯道をほとぼした鉄鉄の初花



構造体継手試験後のサンプル



1、

近畿 弥生時代後期 淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の2・3世紀

「鉄器は出土しないが急速な鉄器化が進行した「幻の鉄器」の時代」には疑問符

—鉄器時代のイメージ先行の弥生時代「北部九州以外 実用鉄器は まだ さほど普及していなかったのではないかな」—

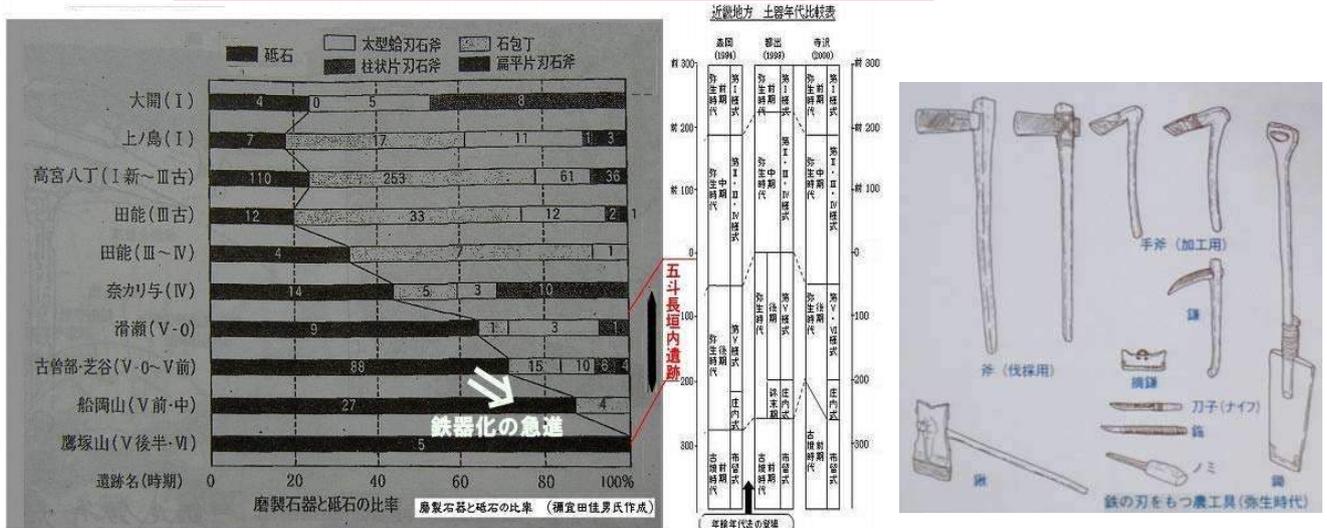
2011.3.5. by Mutsu Nakanishi

先月 掲載した「和鉄の道」 淡路島「弥生時代の後期の大鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡」の記事の中で、「この五斗長垣内遺跡が出現した2・3世紀頃 近畿地方では 近畿での鉄器の集落遺跡からの出土は少ないが、石器から鉄器への急速な変革が起こったのではないかな」とする話を紹介した。

【和鉄の道 Iron Road】

弥生後期から卑弥呼の時代へ ベールを脱いだ「弥生の Iron Road 和鉄の道」 2010.11.21.

- ◆ <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron14.pdf>  
 ( <http://www.infokkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012gossa00.htm> )



弥生時代後期(1世紀後半~2世紀)には出土する石器のほとんどが砥石となり、石器製の農耕具の出土が激減する  
 近畿地方においても この時代に実用鉄器の時代へ入ったことがうかがえる。  
 (腐食等で鉄器の出土は少ないが、 鉄斧の柄が出土するなど実用鉄器の時代へ入ったことがうかがえる)

鉄の刃を持つ農耕具の一例

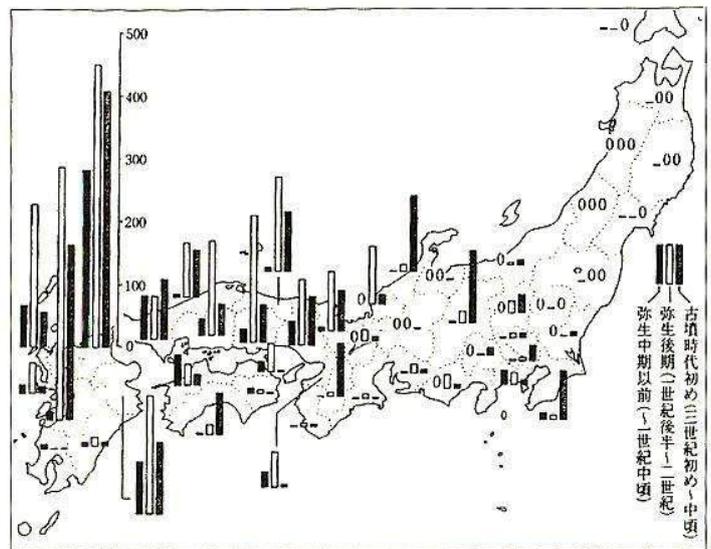
弥生の後期 近畿地方での鉄器需要急増の変化を示出土石器の急変  
 [補宜田佳男氏作成資料を基に整理して本図作成]

- 「鉄器は腐食で土に帰ってゆくため出土しないが、鉄器の木製の柄が多数出土する」
- 「石器出土数に対する砥石数が急速に増加し、石器が減少し、鉄器の研磨が急速に増加したことが推定される」との考え方である。

この時代 近畿では九州や急速に出土数を伸ばした日本海側山陰沿岸や安芸・吉備など瀬戸内沿岸に比しても鉄器の出土数が少ない。そしてトピック的な大型鉄器も出土していない。  
 記事はけいさいしたもの この「幻の鉄器」の時代・「卑弥呼の登場前の近畿地方の集落では急速な鉄器化が進んでいた」との考え方には どうもじっくりゆかず、この疑問について本資料にまとめました。

図 弥生時代県別の鉄器出土数

弥生の後期 九州各地に加え 山陰・安芸・吉備での鉄器出土が増加するが、近畿での出土数は依然として少ない



地図1 県別にみた鉄器の出土数

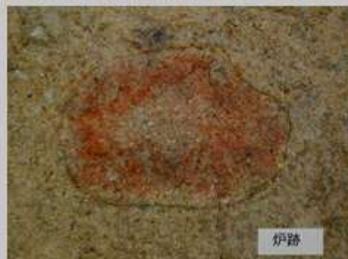
鉄器は弥生時代を通じて圧倒的に北部九州に集中する。3世紀初めにヤマト王権が誕生してもいぜんこの傾向は変わらないが、東日本にも普及しはじめる。この直後、3世紀後半以降の定型化した前方後円墳からの大量の鉄器副葬によって九州と近畿の鉄器量は逆転する(寺沢薫氏による説明。地図1は、川越哲志編『弥生時代鉄器総覧』(2000年刊)を一部時期補正して寺沢薫氏が作成)

## 五斗長垣内遺跡の位置と遺構概要

弥生時代後期初め AD 20・30年頃からAD200年頃 後期末まで 淡路島北部 津名丘陵の西側 播磨灘を望む海岸から約3km入った 標高200m播磨灘を見下ろす南北の尾根筋の西面から東西に延びる枝尾根上 南北 約50m 東西約500mの範囲で約170年間継続的に維持された集落遺で、23棟の竪穴住居のうち13棟に鍛冶遺構がある国内最古・最大級の鍛冶工房村遺跡。



五斗長垣内遺跡 遺構配置図 (※赤色が炉跡のある建物跡)



五斗長垣内遺跡の遺構配置図 赤○内の数字は 遺跡出土建物跡を約30年刻みに5期に分けて時代を区分した数字  
伊藤宏幸氏(淡路市教育委員会)講演より



淡路島・西日本最大級の鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡 出土した鉄器(下左)と鉄素材・鉄切片(下右)

この「幻の鉄」の考え方は次の古墳時代には日本の中心になってゆく近畿にも 日本海沿岸地域と同じく 弥生時代後期には急速な鉄器化鉄器の集積があったのではないかと…との考え方である。

「鉄器は腐食で土に帰ってゆくため、出土せず、鉄器の木製の柄が多数出土する」事実や

「鉄器出土数に対する砥石数が急速に増加し、鉄器の研磨が急速に増加したことが推定される」事実を紹介し、

「鉄が出土しないが鉄器が急速に普及していったことが読み取れるとした『幻の鉄器』の時代」の存在の可能性を紹介した。

しかしながら、「幻の鉄」の時代といわれるこの時代に 西日本大級の鍛冶工房村とみられる「淡路島 五斗長垣内遺跡」が発掘され、そこから出土した鍛冶炉は近畿の鉄器の時代を象徴するには どうも弱い弱であり、出土鉄遺物も小さくて薄いものが主で 時代を引っ張るような鉄器は出土していない。

五斗長垣内遺跡で多数出土している鍛冶炉はすべて防湿構造がなく床面に直接火床がある炉で、

高温保持が難しく、大型鉄器の鍛冶加工が行われた痕跡はみられない。薄い素材の鑿切加工が主であったとみられる。

また、出土した鉄遺物は薄い鉄素材を鑿切加工した鉄鏃など薄い小型鉄器や薄い鑿切の鉄破片などが主である。

一点厚い大きな板状鉄斧が出土しているが、この五斗長垣内遺跡の鍛冶炉では この大型素材を加工できる高温に保持することは難しいというのが専門家の人たちの考え方である。

次の古墳時代には大和・近畿が主役となって大和王権が構築され、前方後円墳など大規模な土木工事が行われ、大規模国土開拓や古墳工事などには大型鉄器の農耕具・工具が必須不可欠であり、この時代が来る前にはすでに急速な鉄器化が近畿で起こっていたと考えるのですが、次の時代に通じる大型の鉄器・農耕具など厚さのある立体的な高温鍛冶加工を可能とする大々的な鉄器加工工房のイメージからは遠く離れている。ギャップが大きすぎるのである。

冷静にこの時代を振り返ると、

近畿での鉄器出土数が少ないばかりだけでなく、大阪湾沿岸で数多く繰り広げられた弥生の戦さによる殺傷痕のある人骨に刺さっていた鏃は石鏃や青銅製がほとんどで、この時代にあった弥生の戦の主武器として鉄鏃が広く戦に使われたとも言い難い。「鉄が土中にうずまっている間に錆によって 土に帰るため、出土しない。」また、「実用鉄器はすぐに再加加工され実用されるため、出土しない」とする考えもある。しかし、そうだとしても この状況は近畿のみならず、日本列島全部同じであり、一番さびて 土に帰りやすい薄い鉄鏃が数多く出土しているのである。

また、弥生の集落で出土してくる鉄の遺物などを見ると 依然として農耕具の主役は石器であり、弥生時代が「鉄の時代」とはいいがたいのではないか???

弥生時代後期 2・3 世紀 鉄器は出土しないが、「近畿地方では 急速な鉄器化が進行した「幻の鉄器」の時代 それを促す大鍛冶工房村が五斗長垣内遺跡」とする考えには疑問符を付けざるを得ない。

弥生後期 2・3 世紀頃の近畿の鉄器普及の実態はどうか・・・事実はどうなのでしょう・・・

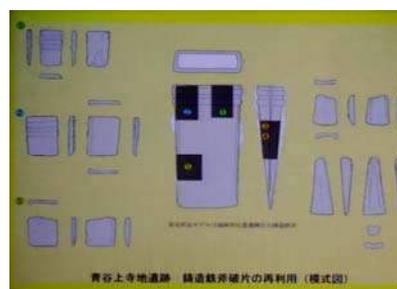
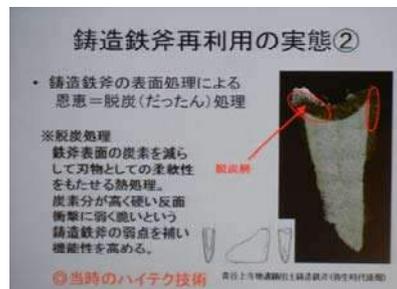
また、この時代に淡路に出現した大鍛冶工房村五斗長垣内遺跡の位置づけを含め、即断は無理なようだ。

ちょうど 1 月 30 日 明石で「鳥取発! 弥生文化シンポジウム 『とっとり倭人伝 鉄のみち 明石海峡と日本海』」があり、弥生時代後期 大量の鉄器を蓄積した日本海側 妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡と淡路島五斗長垣内遺跡を結び 弥生時代後期の鉄の道を検討するシンポジウムがあり、新しい知見を得て、近畿地方の弥生時代後期の鉄を考えるよい機会となりました。



これらの知見も入れ、弥生時代の鉄器について考えると やはり本当に実用鉄器が日本列島全体に普及するのは古墳時代 近畿に「幻の鉄の時代」はなかったのではないかと・・・と。

弥生時代後期 大量の鉄器を蓄積した日本海沿岸 山陰の妻木晩田遺跡 青谷上寺地遺跡並びにと淡路島五斗長垣内遺跡を結び 弥生時代後期の鉄の道のシンポジウムで得た知見・スライドなどを以下に紹介し、弥生後期 卑弥呼登場前夜の鉄についてフォローさせていただきます。



「鳥取発! 弥生文化シンポジウム  
『鉄のみち 明石海峡と日本海』  
高尾浩司氏討論スライドより 2011. 1. 30.

硬い大型鉄素材を加工するには 高温保持が可能な鍛冶炉技術など高度な鍛冶加工技術が必要で、朝鮮半島・中国に近く、交流のあった北部九州周辺のみが、稚拙ではあるが、その技術が伝えられたのであろう。

このため、独自のルートを持たぬ北部九州をのぞく他の地域での鉄器製造は中国・朝鮮半島からの小型鉄素材の加工や薄い板状鉄素材の鑿切加工が主であったと考えられる。

朝鮮半島・中国に近い北部九州では比較的距離の近い大陸・朝鮮半島との交流により、限定的とはいえ、豊富に鉄器・鉄器素材が供給され、鉄器に関連する高度な技術情報も入ってきたと考えられる。しかし、北部九州から離れるにしたがって、それらのすべてがさらに先細り、鉄器の普及が進まなかったと考えられる。

鑄造鉄斧などの素材である鑄鉄は硬くて脆いため、そのまま鍛冶加工できない。

しかし、中国では早くから高温加熱して、表面から脱炭して柔らかく韌性のある脱炭鑄鉄にする技術が開発実用され、鉄素材として用いる技術がすでに開発されていた。

日本に伝来した鑄造鉄斧もそんな表面処理がなされていたものがあるが、大型素材であるため、高温保持が十分行えない鍛冶加工技術では無理であった。

ただし、脱炭鑄鉄の小型・棒状素材は北部九州や独自ルートを開拓した日本海沿岸諸国を通じて搬入され、この素材を使った小型鉄器・工具の製作が一部行われた。

朝弥生中期後葉に北部九州ではヤリガンナや鉄鎌などの鍛造鉄器がいち早く普及し、高度な鍛冶技術を獲得し、大形鉄器の製作を行うことができるようになったようだ。しかし、鉄器素材の流通・鉄器加工の技術情報を北部九州に独占隠匿されたそれ以外の地域では大型で高品質の鉄器素材はもとより、高度な加工技術そのものも獲得できなかったと考えられる。

村上恭通氏らの研究によると弥生中期後葉以降 北部九州では明瞭な掘形をもつ防湿構造のある鍛冶炉がみられ、この高温を保持ができる炉を得て、高度な高温鍛冶による大型鉄器が現れてくる。

しかし、その他の地域では 大多数の鍛冶炉が、防湿構造がなく 床面に直接火床がある鍛冶炉しかみられず、しかも 一部不完全ながらも薄い掘り込みのある鍛冶炉も時代と共に床面を直に火床とする鍛冶炉に退歩する。

また、この北部九州の防湿構造のある鍛冶炉さえもが、弥生時代が進むにつれ、退歩してゆく。

掘形をもつ防湿構造のある火床・鞆を有する本格的な鍛冶炉が広く現れてくるのは古墳時代になってからである。

その原因の一つには 鑄造鉄斧など鉄器の伝来は弥生時代の前期にまでさかのぼれるにしても、日本に鉄器が供給されるルートは一部の中国・朝鮮半島からにかぎられ、鉄を造る技術「製鉄技術」や「大型鉄器なども作れる高度な鉄器加工技術」は大陸側 そして北部九州で厳しく制限されていたためであろうか。

また、弥生時代の後期 戦乱に見舞われ、鉄器・鉄器素材の流通は益々先細りになっていったのも原因と言えようか…

この時期 中国・朝鮮半島は戦乱に巻き込まれた時代であり、日本への供給がままならぬ時代であったとも考えられる。

鉄素材・鉄器技術の供給地から遠く離れた近畿での実用鉄器の普及はまだまだ思うに任せない時代であったと考えられる。

しかし、魏志倭人伝など中国の史書に書かれた日本と朝鮮半島・中国の交流史によれば、弥生時代「鉄」の重要性が強く認識されていたことは疑う余地はない。

そして、弥生の終末期から古墳時代にかけて、この大陸の鉄を求める西日本・瀬戸内の国々は連合して邪馬台国連合・初期大和王権をつくり、北部九州から鉄の覇権を奪い取り、日本国家形成へと進んでいったとのシナリオが最近では 広く語られるようになってきた。

近畿にこの動きが出てくる弥生の終末・古墳時代の始まりまで、近畿で農具など広く鉄器が実用される状況はどうもなかったようだ。2・3世紀畿内は「幻の鉄」の時代として鉄器が集落内で広く使われたと結論付けることはできず、弥生時代 最大級の鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡の位置づけを含め、まだまだ議論のあるところであろう。

2011. 1. 30. 近畿の2・3世紀 幻の鉄の時代について

『とっとり倭人伝 鉄のみち 明石海峡と日本海』シンポジウムを聞いて

by Mutsu Nakanishi

【参考まとめ 添付資料】

1. 弥生時代 西日本特に日本海沿岸地域を中心とする鉄器 野島永氏「弥生・古墳時代における鉄器文化」より
2. 写真紹介 西日本・近畿 弥生の鍛冶工房遺跡並びに 近畿 弥生の鉄  
[鳥取発! 弥生文化シンポジウム『鉄のみち 明石海峡と日本海』  
村上恭通氏ほか 討論スライドより 2011. 1. 30.]
3. 高尾浩司氏 「鉄器文化の伝わった道」-とっとりネット「とっとり弥生の王国の謎をさぐる」より-

【参考・まとめ資料】

1. 【和鉄の道・Iron Road】弥生後期から卑弥呼の時代へ ペールを脱いだ「弥生の Iron Road 和鉄の道」 2010. 11. 21.  
◆ <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron14.pdf>  
◆ <http://www.infokkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012gossa00.htm>
2. 野島永氏 「弥生・古墳時代における鉄器文化」
3. 高尾浩司氏 「鉄器文化の伝わった道」-とっとりネット「とっとり弥生の王国の謎をさぐる」より  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=32826>



次のページに まとめに使った資料を収録しています

添付 まとめ 1 弥生時代 西日本 特に日本海沿岸地域を中心とする鉄器の普及  
野島永氏「弥生・古墳時代における鉄器文化」より

添付 まとめ 2 写真紹介 西日本・近畿 弥生の鍛冶工房遺跡並びに 近畿 弥生の鉄  
「鳥取発! 弥生文化シンポジウム 『とっとり倭人伝 鉄のみち 明石海峡と日本海』  
村上恭通氏ほか 討論スライドより 2011. 1. 30.

代表的な淡路島 五斗長垣内遺跡 青谷上寺木遺跡・妻木晩田遺跡の写真は省略

添付 まとめ 3 高尾浩司氏 「鉄器文化の伝わった道」

-とっとりネット「とっとり弥生の王国の謎をさぐる」より-

【 添付 まとめ 1 】

弥生時代 西日本 特に日本海沿岸地域を中心とする鉄器の普及

野島永氏「弥生・古墳時代における鉄器文化」より

弥生時代中期の丹後地域では、水晶や碧玉、緑色凝灰岩を素材とした勾玉や管玉、小玉などの製作を開始。京都府京丹後市奈具岡遺跡（河野・野島 1997）で作られた玉製品は丹後の地域社会のなかで消費されたわけではなく、その大部分が贈答用の装身具として特別に生産されたものであったと想定できる。前漢で生産された鉄素材（鑄鉄脱炭鋼）の存在（大澤 1997）からは、海上交易によって日本列島では得られない鉄資源を入手していたことがわかる。

この鉄素材をうまく加工して玉生産や木器生産に利用し始めた（野島・河野 2001、村上 2005）。

後期になると、日本海沿岸各地域の首長達は貴重財を原料とした手工業生産の管理を行うことによって経済的な特権を獲得し、潟湖を拠点とした海上交流を通して中国大陸や北部九州をはじめとした日本海沿岸諸地域との交易に成功した。（たとえば妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡）

その結果、瀬戸内海や近畿地方よりも鉄製武器や工具の出土数が上回ることとなる（図 5.5、図 5.7）。

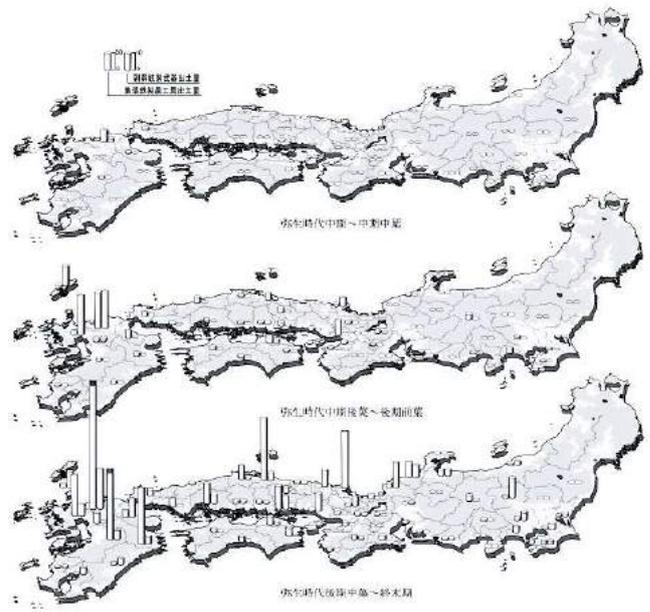
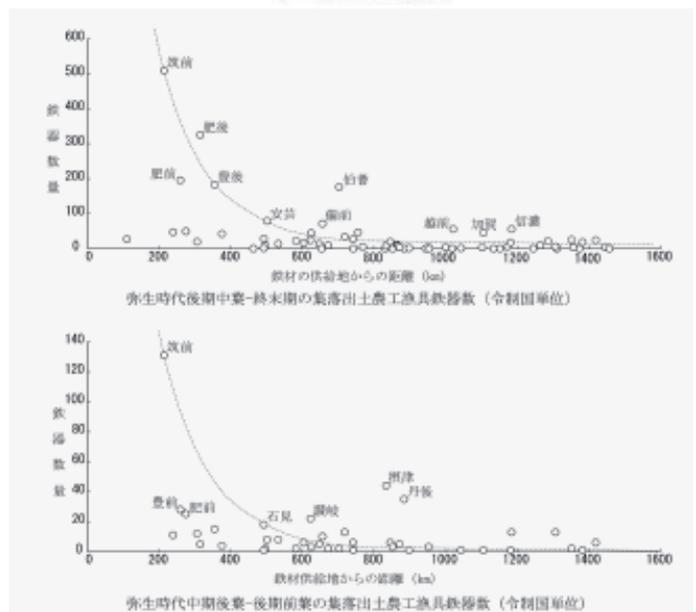


図 5.5 弥生時代の鉄器出土量



鳥取県 妻木晩田遺跡の出土鉄器



鳥取県 青谷上寺地遺跡出土鉄器



青谷上寺地遺跡出土船載遺物

青谷上寺木遺跡・妻木晩田遺跡にみられる朝鮮半島産鉄斧のように北部九州地域以外に分布する鉄器は朝鮮半島との直接交易路が存在した可能性を示す。

また、北部九州を除く 他地域での出土鉄器の大半が鉄鏃であるのに対し、両遺跡では 鉄鏃は少なく 多種多様な鉄器(農工具)が出土し、集落や周辺地域で使うというより、日本海沿岸 そして 山を越えた瀬戸内地域との交易品としての様相がある。また、妻木晩田遺跡には鍛冶工房が出土し、妻木晩田遺跡で鉄器加工を行っていたことが明らかになりつつある。

日本海沿岸では 潟湖という天然の良港が点在し、それを最大限に活かした交易が独自の鉄器文化を生み出していったと考えられている。

参考 野島 永氏 「弥生・古墳時代における鉄器文化」  
 高尾浩司氏 とっとりネット「とっとり弥生の王国の謎をさぐる」—鉄器文化の伝わった道—  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=32826>

### 鑄造鉄斧再利用の実態②

- 鑄造鉄斧の表面処理による恩恵＝脱炭(だったん)処理

※脱炭処理  
 鉄斧表面の炭素を減らして刃物としての柔軟性をもたせる熱処理。炭素分が高く硬い反面衝撃に弱く脆いという鑄造鉄斧の弱点を補い機能性を高める。

◎当時のハイテク技術

青谷上寺地遺跡出土鑄造鉄斧(弥生時代後期)

### 鑄造鉄斧片再利用の実態

- 石器の製作技術による加工  
 → 擦り切る・割る・磨く

大塚原立遺跡(弥生文化)出土の石器(石斧・石鏃)の弥生文化より約1000年前の弥生前期の遺跡より出土

青谷上寺地遺跡出土小型板状鉄斧(鑄造鉄斧再利用品)

青谷上寺地遺跡 鑄造鉄斧破片の再利用 (模式図)

### 青谷上寺地出土鉄器にみる当時の鉄器製作手法(技術)

「鳥取発! 弥生文化シンポジウム 『とっとり倭人伝 鉄のみち 明石海峡と日本海』  
 高尾浩司氏討論スライドより 2011. 1. 30.

【 添付 まとめ 2 】

写真紹介 西日本・近畿 弥生の鍛冶工房遺跡並びに 近畿 弥生の鉄

「鳥取発! 弥生文化シンポジウム 『とっとり倭人伝 鉄のみち 明石海峡と日本海』

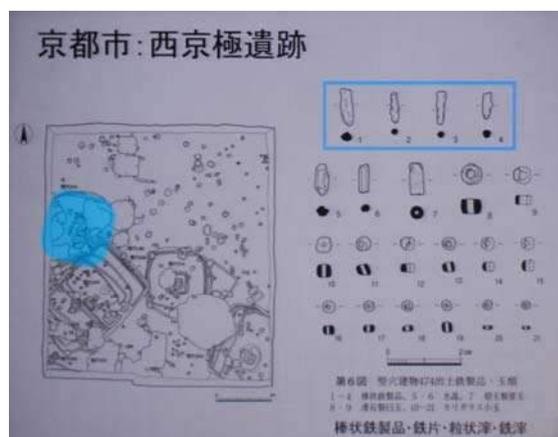
村上恭通氏ほか 討論スライド より 2011. 1. 30.

代表的な淡路島 五斗長垣内遺跡 青谷上寺木遺跡・妻木晩田遺跡の写真は省略



弥生後期末 山陰地方最古の鉄器製作工房跡

弥生時代後期末大阪府星丘遺跡 II類の鍛冶炉(写真インターネットより)



弥生時代後期後半の本位田権現谷A遺跡 (佐用町)

西京極遺跡 弥生時代後期 (1世紀後半～2世紀初め) の鍛冶炉跡



弥生時代後期中葉の拠点集落玉津・田中遺跡

頭高山高地性集落遺跡の鉄

弥生時代の明石川流域の集落から出土した鉄



II 三田盆地の遺跡から出土した弥生の鉄

シンポで紹介討論された内容掲載していませんが、上記資料を見る視点として 頭に残っていることは下記のとおりです。

1. 弥生後期 近畿に現れた鍛冶炉も時代が下がるにつれ、退化の傾向がみられそうである。
2. 近畿の弥生の鉄器は 海岸沿いというより、高地性集落や三田など内陸部より出土する鉄に着目

## 【 添付 まとめ 3 】

とっとりネット「とっとり弥生の王国の謎をさぐる」

鉄器文化の伝わった道 高尾浩司（鳥取県埋蔵文化財センター）

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=32826>

「とっとり弥生の王国」の特徴を示すものの一つに全国屈指の出土量を誇る鉄器があります。今回は鉄器の伝わった道と山陰弥生社会に花開いた独自の鉄器文化について探ってみましょう。



### 鉄との出会い

鉄器は稲作とそれに伴うさまざまな農具と同じように、朝鮮半島から日本へ伝わりました。弥生時代初め、北部九州に伝わった鉄器はまだわずかで、ごく一部の人が手にできないものでした。やがて稲作文化が日本各地に定着したころ、中国が戦国時代をむかえ国内外が動乱した影響で、朝鮮半島製青銅器とともに中国製鉄器が日本に流入するようになりました。それらを独占した北部九州の有力者は、権威を表すものとして良質の管玉・勾玉を欲し、日本海を渡り山陰や北陸と交易を行ったようです。 潟湖に接した海辺のムラ・青谷上寺地遺跡は、その交易ルート上に位置する重要な寄港地だったのでしょう。

山陰・北陸地方で最も古い中国製鉄器（写真①、約2300年前）は、そうした背景のもとで獲得されたと考えられます。いち早く鉄に触れた青谷上寺地の人々はその効用に感嘆し、ものづくりの有効な道具として強く意識するようになったと思われる。



写真① 山陰最古級の鉄器  
（鑄造鉄斧破片・青谷上寺地遺跡）

### 中国製鉄斧の入手と使用

日本に伝わった初期の鉄器は中国製で、溶かした鉄を鑄型に流し込んで造った鑄造の斧がほとんどでした。それらは木を伐採するのに絶大な威力を発揮しました。また、たとえ割れて破片になってしまっても、一辺を砥石で磨き刃をつけ、ノミや小型の斧として再利用されました（写真②）。

こうした工夫は弥生時代の石器にもみられるもので、倭人が考え出したリサイクル方法といえます。鑄造された鉄斧は炭素をたくさん含むために堅い反面、衝撃に弱くて壊れやすい特徴があり、これを補うために表面の炭素を減らして柔軟性を持たせる”脱炭処理を施していました。青谷上寺地遺跡の鑄造鉄斧を分析したところ、やはり表面に脱炭処理を施した痕跡がみられました（写真③）。初期の鉄器使用を可能にしたのは先進地・中国の高度な技術と倭人の知恵だったのです。



写真② 鑄造鉄斧と破片の  
再利用品（青谷上寺地遺跡）



写真③ 鑄造鉄斧の断面  
（銀色に輝く鉄の周囲にみられる黒灰色の膜状の部分が脱炭層・青谷上寺地遺跡）

### 二つの交易ルート

破片となった鑄造鉄斧を再利用するかたわら、約2000年前には青谷上寺地遺跡で鉄器が製作され始めました。あらかじめ用意された棒状・板状の鉄素材を炉で熱して軟らかくし、打ち延ばしたり、切ったり曲げたりする鍛造という方法で小型の斧などを製作したようです。弥生時代の鍛造用鉄素材は中国あるいは朝鮮半島で造られたもので、鑄造鉄斧も含め日本海を通じた北部九州との交易によって入手したほか、石器石材とともに瀬戸内地方からも入手していたようです。青谷上寺地遺跡の朝鮮半島製板状鉄斧（写真④）とよく似た鉄斧が、伯耆町・永山馬籠遺跡など山間部を抜ける交通の要衝にある集落遺跡でも出土しており、当時は鉄を入手する2つの交易ルートがあったと考えられます。



写真④ 朝鮮半島製鉄斧  
（青谷上寺地遺跡）

## 山陰弥生社会と独自の鉄器文化

少し遅れて、丘陵上に集落を営む妻木晩田遺跡でも鉄器を製作するようになります。交易で得た外国産素材から作られた地元製品と、九州から運ばれた製品、そして少数の外国製品という鉄器の組み合わせは青谷上寺地遺跡も同じで、両集落が最盛期を迎える頃(約1800年前)には、他に例を見ないほど多数の鉄器を保有するまでになります(写真⑤)。同じ頃、朝鮮半島で鉄器の生産がさらに活発となって倭国内での鉄器の流通量が増え、鉄の効用が広く知られるようになったことで、木製農工具の多くに鉄製の刃が付けられました。その結果、日本海沿岸ルートでの交易の比重が大きくなり、山陰は周辺地域との関わりを深めていきました。特に北陸は鉄と交換する玉材の産地であり、高杯に代表される木製容器や鉄器・玉の製作技術に共通点が見られることから、強いつながりがあったことがうかがえます。当時のリーダーには次第に高まる鉄の需要を満たすだけの供給量を確保することが求められましたが、北部九州を窓口とする交易だけでは十分な量は賅えなかったことでしょう。

そのため、北部九州を仲介しない朝鮮半島との交易を試み、鉄器を獲得しようとしたと考えられます。青谷上寺地遺跡の大型鉄斧(写真④上)や妻木晩田遺跡の踏み鋤(土堀具)など、北部九州でも出土していない朝鮮半島製鉄器がみられ、大刀などの大型武器が日本海沿岸地域の王墓に副葬されることも朝鮮半島との交易を示しているのではないのでしょうか。「とっとり弥生の王国」には潟湖という天然の良港が点在し、それを最大限に活かした交易が独自の鉄器文化を生み出していたのです。



写真⑤ 鉄製農工具(妻木晩田遺跡)



青谷上寺地遺跡復元鉄器  
(愛媛大学・村上恭通教授製作)

[とっとりネット「とっとり弥生の王国の謎をさぐる」](http://www.tottori-net.jp)

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=32826>

文=高尾浩司(鳥取県埋蔵文化財センター)

## 2. 西播磨 古墳時代後期末の鍛冶炉跡 有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる

初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨から出土した鍛冶遺跡

赤穂市 有年牟礼・井田遺跡 2011.2.11.



2011.2.8. NHK の 18 時兵庫県のローカルニュースで、  
 「兵庫県西部の赤穂市の北部の弥生時代中期から古墳時代後期にかけての集落跡「有年牟礼・井田遺跡」で、  
 古墳時代末期の鉄器工房と見られる比較的規模の大きい鍛冶炉跡が見つかった」と報じ、  
 鍛冶炉の炉床と推定される楕円形の高熱焼土部や黒い炭や赤茶けた焼土が集積したこれらの廃棄場所の映像が映し出された。  
 周辺部からは 鉄片や鎌の羽口片も出土したという。  
 「やっぱり 西播磨で製鉄関連遺跡が出た」とうれしくなりました。

「東西の瀬戸内海路と山陰日本海諸国と瀬戸内戸を南北に結ぶクロスポイント」に位置し、初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨。その勢力の源泉はいったい何なのだろうか??

重要交易路の結節点というだけではなく、ほかに何かある。それは やっぱり「鉄」ではないか・・・と何度か 西播磨の古い古墳群周辺を訪ねてきました。

綾部山古墳群・権現山古墳群・養久山古墳群など西播磨の瀬戸内海岸に近い丘陵には綾部山古墳群・権現山古墳群・養久山古墳群など初期大和と関係深いとみられる豪族たちの王墓である初期期古墳群が数多くあり、その中には 初期前方後円墳や中国鏡や三角縁神獣鏡が出土した初期古墳もある。

また、千種川河口の赤穂市坂越は渡来の技術集団秦氏の古い進出地。「鉄の道」で大陸と大和とつながっている。

「この地には「鉄」資源があるのではないか」「きっと 古い鉄関連遺跡が出土するに違いない」と。

「有年牟礼・井田遺跡」とは どこだろうか???

インターネット検索ですぐに調べると、相生の西側で海岸線沿いを走る赤穂線を分岐して、山陽本線が丘陵地の中に分け入ったところに「赤穂市 有年」がある。兵庫県の西の端 岡山と兵庫の県境近く 相生市の市街地の西の丘陵地南と北を山々に挟まれた狭い平地を東から西へ矢野川が流れ、すぐ南を山陽線・国道2号線が山に沿って走る。

「有年 牟礼・井田遺跡」は JR 有年駅のすぐ東側 南の丘陵地の山裾が迫る崖の上を山陽本線が走る線路沿い北側の畑地にあり、北側には 奥の丘陵地へ向かって 集落と田園地が点在す



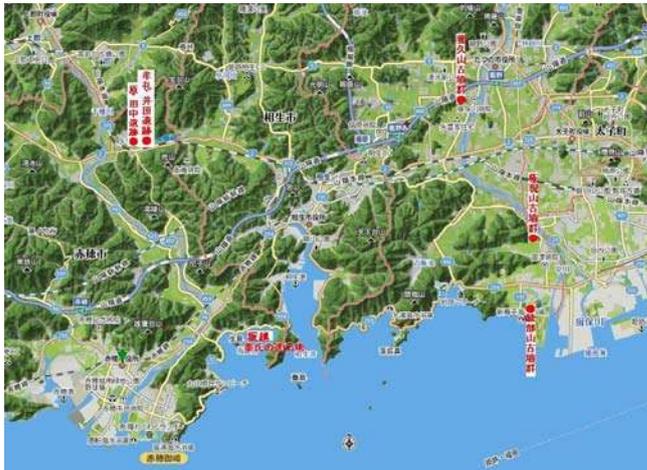
2011年02月08日 赤穂民報記事  
<http://www.akishima-shinbun.jp/news/4626.html>

### 西播磨初、古墳時代の鍛冶炉跡

赤穂市 有年牟礼・井田遺跡から古墳時代後期末(6世紀末～7世紀初)の鍛冶炉跡出土  
 兵庫県立考古博物館が発掘調査を進めている「有年牟礼・井田遺跡」で、伊賀を含む古墳時代後期末(6世紀末～7世紀初)の鍛冶遺跡がこの地で見つかった。同博物館によると、「この時代の鍛冶炉跡が発見されたのは県内でも珍しく、西播磨でも初めて」。2月11日(金・祝)に一般向け現地説明会を開催。  
 発掘現場はJR有年駅の北東約300メートルの一角。国道2号の付け替え工事に伴い、同博物館が昨年12月から約2000平方メートルを掘削中だ。遺跡は調査区西側の一角。耕土から約40センチ掘り下げた地層で炉床とみられる直径約40センチの焼土面が見つかった。半径10メートル以内には楕円状の焼土部と推定される柱穴跡、鉄屑や炭、製鉄時に生じた「スラグ」の破片も出土。また、20メートルほど離れたところからは炉で空気を送り込む「風口」の破片も発見された。同博物館の常務理事菅原(62)は「炉跡は鍛冶工場に関連のある建物跡の可能性が高く、そこで農民や武器を作っていたのではないかと推測」。当時の生活を知る上で貴重な調査成果と語っている。  
 有年牟礼・井田遺跡は土地区画整理に伴い、赤穂市が平成19年度からの半年かけて発掘。これまで弥生中期後半の竪穴式住居、古墳前期の土器遺跡などが見つかった。今回の調査でも、これらの時代の特徴を示す土器が多く出土した。



西播磨で初めて古墳時代の鍛冶炉跡が見つかった有年牟礼・井田遺跡。カメラを当てている部分が炉跡。



るなだらかな傾斜地が伸びている。

かつての矢野川の川岸にあり、「2月11日の午後に今回の発掘調査の現地説明会がある」と知れる。

この矢野川はこの有年で 蛇行を繰り返し、現在の矢野川は 牟礼・井田遺跡の東端で北にカーブして 遺跡の北側 丘陵地の上を横切って東へ流れ下ってゆく。今回の発掘調査は 山裾の狭い崖の上を走る国道2号線を崖下におろして拡幅する工事に先立つ遺跡調査であったという。

「有年」の地名は知っていましたが、この地を歩いたことはなく、調べてみると この地は弥生時代から開けた地で、数々の古代遺跡がこの平地部や北側の丘陵に点在しているのにびっくり。

特に この遺跡の西側 矢野川が千種川に合流する川岸には弥生時代後期 前方後円墳の相形と言われる墳丘墓が出土した有年 原・田中遺跡がある。

また、この遺跡の北側の山裾への傾斜地には 弥生時代の集落が広がり、その奥の山にはこの集落と関連するとみられる6世紀後半の古墳群 塚山古墳群など数多くの古墳群がある。

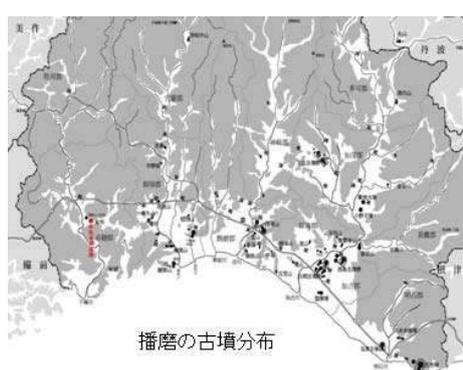
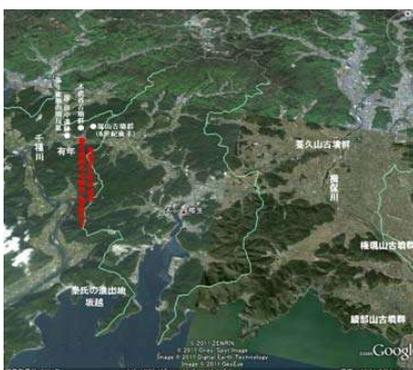


「長年抱えてきた西播磨の勢力の源泉を解き明かしてくれる「古墳時代の鍛冶工房」かもしれない。

南の山の向こう瀬戸内海岸は 渡来の職能集団 秦氏の進出地 赤穂市坂越。この有年にも渡来人の痕跡はないか 是非とも 現地説明会に行こう。」と。

### 【参考資料】

1. 【和鉄の道】 古代 神戸の「鉄」を訪ねて 神戸にも製鉄遺跡があった 「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」  
<http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/7iron01.pdf>
2. 【風来坊】 西播磨 歴史の町に春を訪ねる 西播磨綾部山梅林と江戸の町並みが残る坂越港  
<http://1buffalonas.com/mutsu/www/dock/walk/10walk01.pdf>
3. 有年牟礼・井田遺跡 現地説明会 資料 2011.2.11.  
<http://www.hyogo-koukohaku.jp/excavation/p6krdf0000001nst-att/p6krdf0000001ntx.pdf>

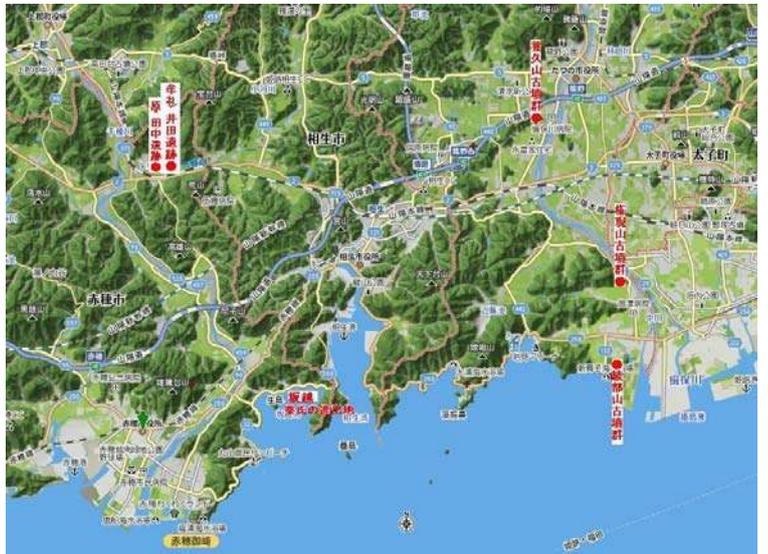




西播磨初の古墳時代末の鍛冶工房跡が出土した有年牟礼・井田遺跡 現地説明会 2011.2.11.午後

2月11日 神戸の朝は大雪。いくらなんでも今日は言説ないだろうと念のため、確かめの電話を入れると 西播磨は天気も回復し、遺跡の周辺も全く雪もなく、予定通り現地説明会があるという。もう 西播磨と神戸では全く天候も違う。

あわてて 11 時過ぎの新快速・快速と乗り継いで、相生発糸崎行の電車に飛び乗る。赤穂から左手海岸沿いに行く、赤穂線の電車を眺めながら、相生の市街地を抜けるとすぐ電車は 岡山との県境の山岳地帯の入口にあたる丘陵地の間に入ってゆく。



西播磨の地図 相生から真直ぐ西へ山の間に入ったところが「有年」

地図を見ると 南北両側に小さな山並みが連なる幅の狭い平地部が西の千種川が流れ下る谷筋へ伸びており、この狭い平地の底中央を矢野川が流れ下り、この南北を山々で隔てられた狭い平地部の両側傾斜地に点々と田園と集落が点在。

また、南側山際の一段高いところを国道 2 号線と山陽線が岡山へ走り抜ける。

この矢野川が西の千種川に合流するまでの東西に延びる丘陵地が有年である。西の千種川との合流点を上へ遡れば 上郡から佐用を通過して中国山地 南へ下ると赤穂。そのまま西へ山中を船坂峠を越えると岡山県備前・和気へと抜けてゆく。

あまり 気には留めていませんでしたが、この「有年」は千種川左岸 瀬戸内と山陰 そして山陽道の結節点 弥生時代から開けたところで、弥生後期から古墳時代にかけて 矢野川の北側の緩やかな傾斜地や山裾には数多くの初期古墳群があり、吉備と大和を結ぶ西播磨の重要ポイントとの側面を見せる。



有年周辺の地形と有年地域にある遺跡分布

相生駅を出て 約 5 分 山間に広がる田園の風景を眺めていると 北側線路沿いの畑の一角にブルドーザーと整地残土の山と共に横にテントが張られた発掘調査地が見え、これが「有年 牟礼・井田遺跡」。電車はスピードを緩め、有年駅に停車。神戸から約 1 時間半 12 時 30 分到着。13 時 30 分から現地説明会があるので、もっと沢山人が下りるかと思いましたが、京阪神からはちょっと離れたところで鍛冶遺跡では人気がないのか、有年駅では数人がばらっと下車。

駅前に有年の地域案内板があるのですが、よく判らず。一緒に降りたおばちゃんが「駅前の国道を戻って 途中踏切を渡るのが一番早い」と教えてくれる。周囲を山で囲まれてはいるが、南側の山裾の一段上にある駅から見る北側には奥行きのある傾斜地に田園が広がり東西に延びる平地部も長いので閉塞感はない。明るい平地が広がる山合いの感じの場所である。



山陽線が有年駅に入るすぐ手前線路際に有年 牟礼・井田遺跡が見える 有年駅[上:東 相生側 下:西 上郡側]

国道 2 号線に出て、東へ少し戻る。 国道 2 号線というと片側 2 車線が標準と思っていましたが、ここでは南側を山腹 北側を崖になった傾斜地に阻まれた狭い地形で拡幅の余地がなく、今回この国道を並行する山陽線の北側の平地部に移す工事が計画され、その道路部にあたる牟礼・井田遺跡の発掘調査が平成 19 年から進められてきた。

今までの調査で北側奥から南側 かつての矢野川の岸まで広がる緩やかな傾斜地に弥生中期後半の集落遺跡跡があり、屋根の上に土がかぶせられた土屋根の焼失竪穴 住居 2 棟が見つかるなど貴重な弥生中期後半の集落跡や古墳時代前期の集落遺跡であることが分かった。



今回は一番南側の川岸 集落のはずれ部にあたる場所の 調査で、弥生中期後半の集落跡に加え、古墳時代の前期・後期の集落跡とその時代を示す遺物が数多く見つかった。

牟礼・井田遺跡の南側山際を走る国道 2 号線 すぐ下を山陽本線が並行する



有年 牟礼・井田遺跡の今回の調査区域(左)と発掘された遺構概略図 現地説明会資料より

その中で、今回の調査区西側の一角の田圃耕土から約40センチ掘り下げた地層で炉底とみられる直径約40センチの焼土面や広範

圃の焼土・炭集積部や多数の土器が見つかった。また、この区画の中 半径10メートル以内で掘立柱建物跡と考えられる柱穴列、鉄滓も出土。また、20メートルほど離れたところからは炉に空気を送り込む「ふいご」の羽口片も発見され、土器片などから 古墳時代後期の鍛冶工房に関連する建物跡の可能性が高いという。西播磨で古墳時代の鍛冶工房の出土は初めてである。

( 2011.2.11 現地説明会資料より まとめ)

左手遠くに遺跡を眺めながら国道を東へ少し歩くと国道から左の平地に降りる道があり、踏切が見えている。

この道を下りて 踏切を渡ると東西に広い耕作地がひろがっており、この耕作地から北側一帯が有年牟礼・井田遺跡である。

右手相生側 線路沿いのところが今回の遺跡調査区。区画の端の残土の上にブルドーザが見え、そのブルドーザと山陽本線の間が発掘調査された部分で、調査区のグランシートが取り外され、出土した遺構の横に遺構名を示す看板が立てられ、今日の現地説明会の準備がされている。



西側から 有年牟礼・井田遺跡 現地説明会の準備がされた今回の調査区を眺める 2011.2.11.

田圃のあぜ道を歩いて 遺跡の前に出ると現地説明会の受付テントが設けられ、その横に今回の発掘の概要が写真パネル展示されている。まだ 1 時前で人もまばら。受付で現地説明会の資料をもらう。北側奥には両側をこちらへ枝尾根を張り出した小さな山があり、この二つの枝尾根に挟まれた傾斜地に田畑や集落がこの遺跡まで広がり、この傾斜地を横切って 東西に流れる現在の矢野川の土手が見える。言説の資料によればこの矢野川までの広い範囲が牟礼・井田遺跡である。

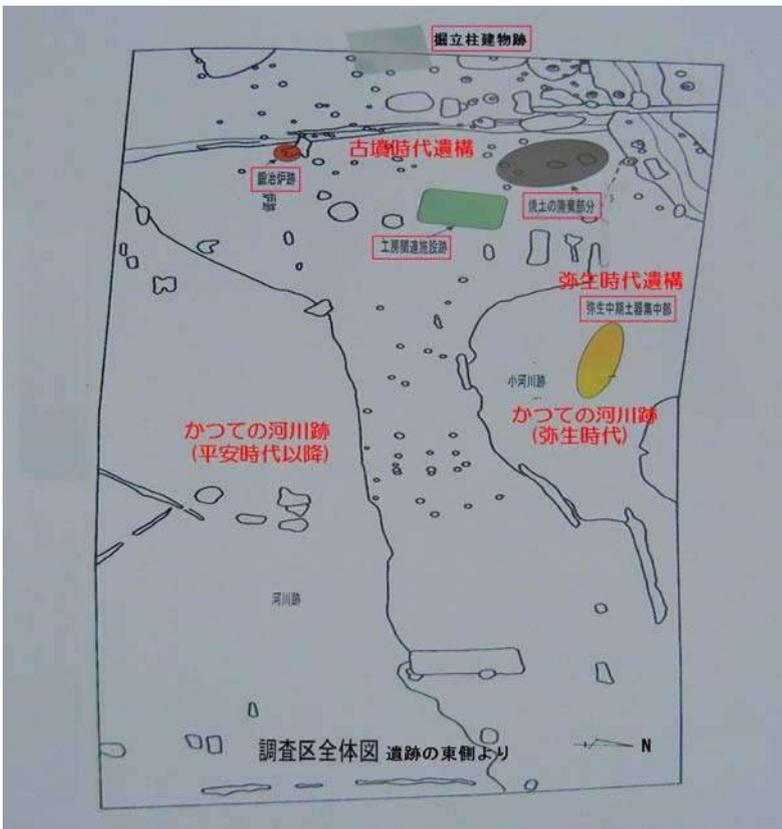


現地説明会の準備の整った有年 牟礼・井田遺跡の南側から北側を眺める

遺跡の北側小高い山までのなだらかな斜面に集落や田畑が広がり その中央部を現在の矢野川土手が横切っている

発掘調査された調査区は平地の田圃の中にあり、遺跡の端に立っても全体がつかみにくい。

現地説明会が始まるまで、まだ時間があるので、東側に高く積み上げられた残土の上に登って、もらった現地説明会資料と突き合わせながら 遺跡の概要を頭に入れる。



南側すぐ上を山陽本線が並行して 東西に延びる今回の調査区は国道2号線付け替えで道路になるところ。

後の現地説明で聞いた話では 矢野川は何度もこの周辺で氾濫し、水路を変更。

線路側半分斜めに水がたまっている部分は平安時代の河川跡で、右側の端を斜めに弥生時代の小河川跡が露出していると。

そして 調査区の北側から緩やかな斜面でこの川岸まで 弥生時代中期の集落があり、写真上方に古墳時代の集落跡の東端がみつき、そこに鍛冶工房が出土。

この調査区の更に西側未調査部にさらに古墳時代の集落跡が眠っており、この部分の調査が進まないと今回の鍛冶工房跡の性格も確定できないという。

また、写真に写ってはいないが、写真右側北側奥の山にはこの遺跡の時代の古墳群(塚山古墳群・木虎谷古墳群)が眠っているという。

残土の上から見ると この「有年」の地も 他の古代豪族の本拠地とよく似通っていることがわかる。

ぐるりとまわりを見渡すと 四方をなだらかな山に囲まれ、東西にこの地の入口があり、東の口をでると広大な西播磨の平野部  
西の入り口には中国山地から瀬戸内海に流れ下る千種川で、川を下ればすぐ瀬戸内 川を遡れば奥播磨から美作・山陰へと続く。  
北から南へなだらかに傾斜する平地が南側の山裾を東口から西口へ流れ下る矢野川の川岸までひろがり、その時代時代の集落が  
営まれ、背後の山腹には 古墳時代 ここに住んだ人たちの古墳群が営まれている。

やっぱり この地は西播磨の豪族が拠を構えた地だろうか 南の山の向こうは 古代の職能渡来集団 秦氏の進出地  
渡来人と関係していないだろうか この地は「古代の鉄の道」につながっているのだろうか…  
「大和王権の成立に大きな役割をはたした西播磨 その源泉はなにか」この地もそんな西播磨の拠点  
そして それには「鉄」が絡んでいるのか…… ますます 夢が膨らむ。

## 2. 有年 牟礼・井田遺跡 現地説明会 2011.2.11.

午後1時30分 参加者は約30名ばかり。

有年牟礼・井田遺跡発掘調査の直接担当の兵庫県立考古博物館 岸本一宏学芸員の案内解説で 調査区内の遺構のすぐそばまで  
立ち入っての現地説明会が始まった。きさくな解説に 色々質問が飛び、丁寧に解説いただいて楽しい現地説明会でした。



有年牟礼・井田遺跡発掘調査の直接担当の兵庫県立考古博物館 岸本一宏学芸員の案内・解説で現地説明会 2011.2.11.



弥生時代中期の小河川跡と弥生の土器集積出土地から奥 古墳時代の鍛冶工房跡出土地



調査区の南西端で出土した鍛冶工房跡 古墳時代後期集落跡の東端とみられる

赤茶けた焼土や黒い炭が集積 廃棄場所 また 奥に楕円形に硬く焼しめられ田場所があり炉跡とみられる  
 この区域からは鍛冶炉跡 炭・焼土の廃棄場所跡 建物跡とみられる柱穴を伴う平坦面 などの遺構とともに鉄滓・鍛造  
 剥片 周辺部から 鑢羽口片がみつき、古墳時代後期末(6世紀末頃)の鍛冶工房跡とみられる。  
 また、「これらの遺構は今回の調査区の更に西側の未調査区につながっているとみられ、ここに古墳時代後期の集落中心部  
 があるとみられる。この鍛冶工房も この集落の「村の鍛冶屋」なのか もっと規模の大きなものなのか さらに調査に待  
 たないと何にも言えない」と。



出土した鍛冶炉跡



出土した鍛冶関連の遺物

鍛冶炉跡は 黄白の高温に焼き締められた部分 赤茶けた色の部分がみられるが、「鍛冶炉そ  
 のものは すでに削り取られていて、炉の構造の詳細はよく判らない。

また、この地域の北側山腹にほぼ同時代の塚山古墳群があり、おそらくこの人たちがこの鍛冶工房  
 をいとなんだのであろう」と。

また、一番興味のあったこの人たちと渡来や大和の職能集団との関係はよく判らなかった  
 「一部 朝鮮半島系の遺物も出ていることは出ているが、はっきりしていない」と。



### 3. 古墳時代後期末の鍛冶工房跡が出土した赤穂市有年 を歩いて



遺跡の中を歩きながらの約1時間ほどの現地説明会。知らなかった「有年」の昔を知ることができました。弥生時代から開けた歴史ある場所。兵庫県に居ながら しかも 何度も通ったことがありながら まったく知りませんでした。綾部山古墳群や権現山古墳群などにみる古墳時代 西播磨が初期大和王権成立に大きな役割を果たしたと知って、そもそも なぜ この地の首長たちが 大和王権と結ぶほどの勢力をのばしたのか…… 播磨には 西播磨より もっと広大な播磨平野中心部があるのに……と 不思議がったのが始まり。

淡路島で弥生時代後半の大規模な鍛冶工房跡が出土し、この位置づけをめぐって ますます 播磨の重要性がクローズアップ。播磨の勢力の源に「鉄・金属」資源があるではないか 播磨には渡来技能集団の痕跡もあるし、播磨の奥の中国山地は古代からの大製鉄地帯。また、中国山地まで行かずとも播磨の北には銅など金属資源が出る。

綾部山など西播磨にも金属資源・「鉄」があったのではないかと……

その「鉄」が西播磨の首長の勢力拡大のひとつのキー

そんな夢を描いて 西播磨を眺めていた時に この赤穂市有年 で鍛冶工房出土。

残念ながら まだ この鍛冶工房がどんな性格の鍛冶工房なのか また 上記したような「鉄のロマン」を秘めた遺跡なのかよく判らない。 現地説明の岸本さんは「今のところ村の鍛冶屋ではないか……」と。五斗長垣内遺跡の鍛冶工房遺跡でも 同じことが言われたのですが、それなら もっと各地で鍛冶工房跡が出土してもよさそうなものとも思っています。

また、この有年 牟礼・井田遺跡で鍛冶工房が営まれたこの時代は大和王権がしっかり確立し、日本でも製鉄が始まり、鉄素材が広く流通した時代になっていただろう。その素材はどこから来たのか…… 千種川を下ってきたのだろうか……

西播磨の地で古墳時代後期末に出土した初めての鍛冶工房 しかも その地は西播磨の初期古墳群が集積する「有年」の地。

これからどんな展開が出てくるのか 「鉄のロマンを秘めた鍛冶工房跡」の出土である。

現地説明の後 北側の古墳群のある山にまで 行きたかったのですが、地図もなく 時間もおそく 古墳群を見ることはできませんでしたが、遺跡の北を流れる現在の矢野川の土手に立って 遺跡を見ながら 西播磨のロマンに思いをはせました。

鍛冶工房跡の遺構につながる西側未調査部分の発掘で どんな展開がみられるのか 楽しみ。

夕日に染まる牟礼・井田遺跡をながめながら 矢野川の土手を JR 有年駅へ

久しぶりの現地説明会 「鉄のロマン」に浸りながらの一日でした。

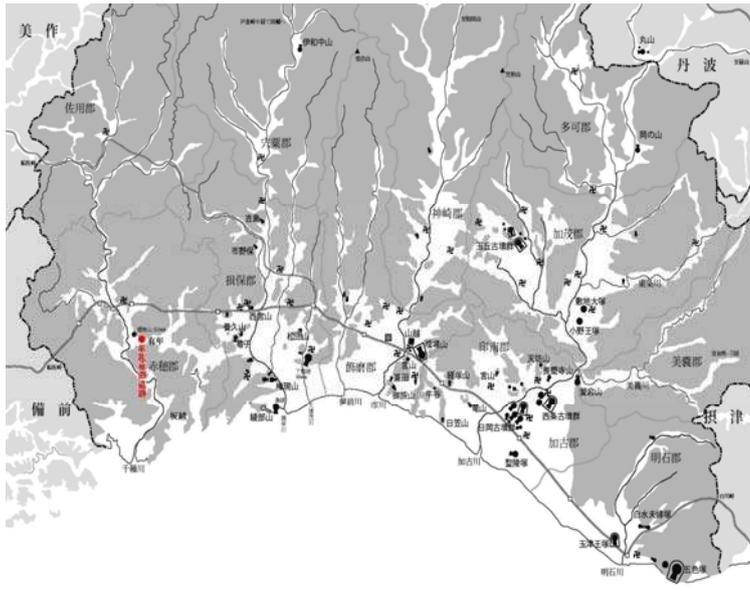
2011.2.11. 赤穂市 有年 矢野川の土手より 夕暮れの牟礼・井田遺跡を眺めながら

By Mutsu Nakanishi



現在 有年 牟礼・井田遺跡の北側を流れる矢野川

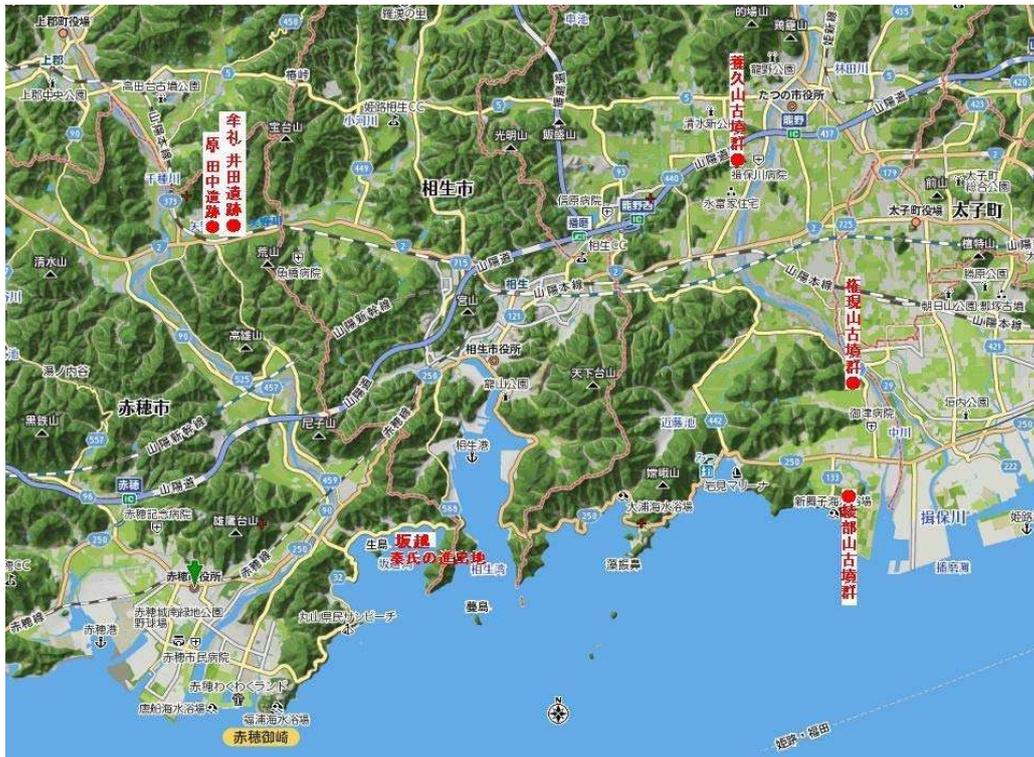
参考1 初期古墳群数多く分布する播磨の古墳分布図と古墳時代の幕開けに大きな役割を演じた播磨



兵庫県考古学年表(部分) 古墳時代の始まりに大きな役割を演じた播磨

年代	本土の時期区分	主なできごと	県内の主な遺跡
2万年前	前期		
	中期		
	後期	石斧・ナイフ・石器類など日本固有の旧石器文化成立	西八木遺跡(神戸市)
B.C.14000	前期		
	中期	豊後・豊前・豊後・豊前・豊後・豊前・豊後・豊前	七日市遺跡(春日町)
	後期	豊後の水田期のピーク、豊前・豊後・豊前・豊後・豊前	藤井・寺ヶ谷遺跡(備前市)
B.C.10000	前期		
	中期	土器・石器の使用が始まる	神鏡遺跡(高松市)
	後期	土器の使用が始まる	福本遺跡(神崎町)
B.C.6000	前期		
	中期	海峽の閉鎖、海水面の上昇、海が内陸に入る	
	後期	各地に大規模な縄文遺跡成立	片吹遺跡(鹿野市)
B.C.2000	前期		
	中期	瀬川・石川・石川・石川・石川・石川・石川・石川	福野遺跡(一宮町)
	後期	土器・石器・石刀などを用いた祭祀が盛んになる	若狭遺跡(高松市)
B.C.1000	前期		
	中期	日本に先づいた土器文化が畿内・近畿地方に広がる	長瀬遺跡(高松市)
	後期	畿内や畿西の文化が播磨に広がる	大瀬遺跡(神戸市)
A.D.1	前期		
	中期	近畿・中国・四国を中心に銅鏡が広まる	吉田遺跡(神戸市)
	後期	畿内・中国・四国を中心に銅鏡が広まる	吉田遺跡(神戸市)
500	前期		
	中期	畿内の動乱、西進性集落が盛んになる	山崎遺跡(高松市)
	後期	畿内の動乱が畿内から畿外に広がる	山崎遺跡(高松市)
600	前期		
	中期	26年高松台の卑弥呼が畿内を治める	山崎遺跡(高松市)
	後期	前方後円墳が生まれ、各地で盛んになる	山崎遺跡(高松市)
700	前期		
	中期	畿内・中国・四国を中心に銅鏡が広まる	山崎遺跡(高松市)
	後期	畿内・中国・四国を中心に銅鏡が広まる	山崎遺跡(高松市)

播磨の古墳分布図と古墳時代の幕開けに大きな役割を演じた播磨



古墳時代後期末の鍛冶工房が出土した「有年」と周辺西播磨の古墳群



「有年」と周辺の遺跡群

弥生時代中期から古墳時代にかけての集落遺跡群・初期古墳群が集まっている

参考2 【有年 牟礼・井田遺跡 現地説明会 現地展示パネル】 2011.2.11.

一部 現地説明会に参加して撮った写真を加えています



調査区全景（東から）



調査区全景（西から）



調査区西部遺構群（北西から）



焼土・灰塵集積所（手前）と鍛冶工房関連施設（奥）北西から





調査区西部遺構群 (北西から)



弥生中期土器の出土状態

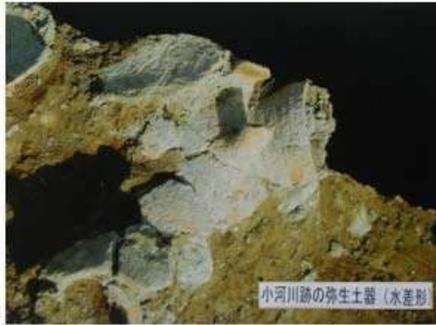


集落景観図

(集落の調査区域  
内緑色の部分が調査区域)



弥生時代の小河川跡 (東から)



小河川跡の弥生土器 (水差形)



かめ

高杯

弥生時代中期後半の土器



小河川跡の弥生土器出土状態 (南から)



鉢

刃器

器台 (弥生時代後期末)

弥生時代中期後半の土器 石製の矢じり

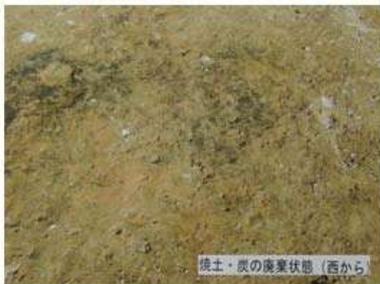
土器・炭の炭化状態 (南から)

土器・炭の炭化状態 (西から)

鍛冶炉跡 (西から)

炭化場所の炭化物詳細 (北から)

鍛冶関連の遺物



須恵器 杯蓋

土師器 甑 (こしき)

須恵器 杯身

須恵器 高杯

古墳時代後期末の土器



ろいこの裂口

鉄片

鍛造剥片

鉄さい

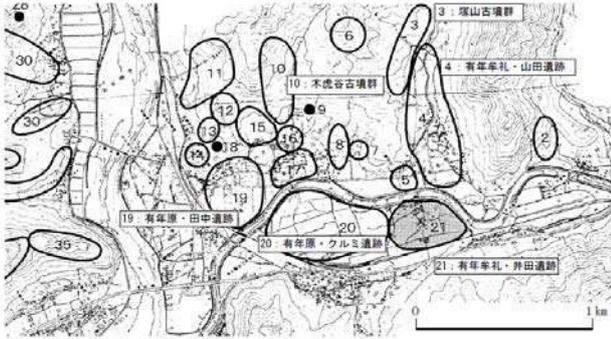
鍛冶関連の遺物

# 有年牟礼：井田遺跡

## 現地説明会資料

2011年2月11日

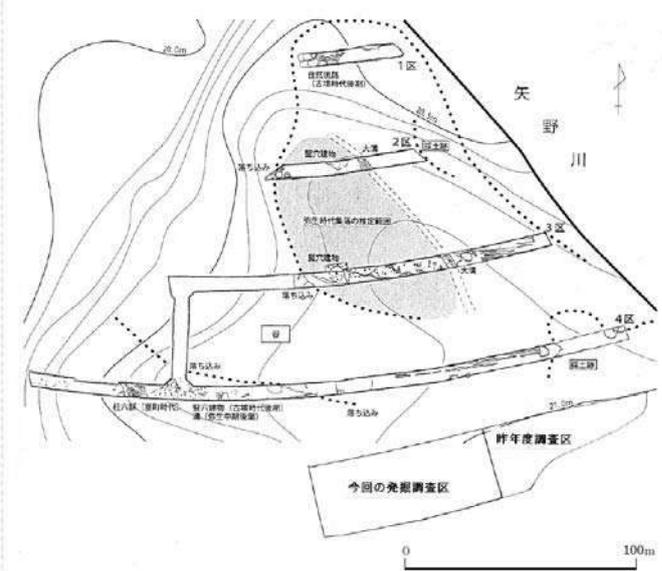
一般国道2号相生有年道路整備事業に伴い、兵庫県立考古博物館では、赤穂市有年橋・有年牟礼に所在する「有年牟礼・井田遺跡」の調査を実施しています。  
調査は、道路予定部分のうち約2,000㎡について12月から実施していますが、弥生時代中期後半（約2,000年前）と古墳時代後期末（約1,400年前）を中心とした、遺跡の一部の姿を明らかにすることができました。今回、その調査結果を説明いたします。



周辺の遺跡

### これまでの調査

有年牟礼・井田遺跡は、平成19年度～21年度に赤穂市教育委員会により、土地区画整理事業にもなっており、発掘調査が行われました。  
その結果、弥生時代中期後半、古墳時代前期、古墳時代後期末を中心とした集落跡であることがわかりました。同時に、弥生時代集落の範囲も推定されており、発見された竪穴建物跡はどちらも消失しており、残っていた土の状態から土ぶき屋根であった可能性も指摘されています。  
古墳時代前期のものでは土器のみで、古墳時代後期末では竪穴建物跡が見つかり、古墳時代後期末の集落についても中心部分がある程度推定することができます。  
なお、これらの時代のほかに室町時代の柱穴も多く見つかったことから、その時代にも人々が生活していた建物跡があったことがわかります。  
今回の調査区は弥生時代集落推定部分の南側。古墳時代後期末集落と思われる部分の南東側にあたり、それら2時期の生活痕跡を発見することができました。また、古墳時代前期（約1,700年前）の溝跡を発見し、土器も出土しました。



有年牟礼・井田遺跡の集落景観図（赤穂市調査成果・赤穂市教育委員会作製）

（奥木幸治 2010『有年牟礼・井田遺跡』赤穂市教育委員会に加工）

### 今回の調査成果

兵庫県立考古博物館による有年牟礼・井田遺跡の発掘調査は、今回で2回目となります。  
弥生時代中期後半 東西方向の小河川跡から多量の土器が捨てられた状態で見つかりました。赤穂市による調査によって、弥生時代集落の東端は大溝で区画されていたと判断できますが、今回の土器の発見から、集落の範囲が南側に拡大し、南端については小河川を限りとしていた可能性ができました。  
古墳時代後期末 調査区の西部で炉跡、広範囲の焼土・炭集積部分、完形に近い土器が多くあり柱穴を伴う平坦面が発見され、そこから鉄滓（てつさい）や鍛冶剥片（たんごうはくへん）が出土し、周辺からは輪（ふいご）の羽口（はぐち）も見つかっていることから、鍛冶（かじ）工房跡と考えられます。また、炉跡などはそれぞれ、鍛冶炉跡、焼土や炭などの廃棄場所、屋根をもつ鍛冶工房関連施設と判断しています。  
この時期の集落の中心部は、今回調査区の北西側にあると推定できますが、そうすると、鍛冶工房は集落南東部のはずれに位置することになり、そこで農具や武器などの製品を作っていたと想定されます。  
また、この時期の竪穴建物跡になると思われる柱穴が並んだ部分も、西端で確認されています。  
鍛冶工房跡は、淡路市の五斗長垣内遺跡において兵庫県で最も古い弥生時代後期のものが見つかっています。有年牟礼・井田遺跡の鍛冶炉跡はそれよりも新しいものですが、古墳時代の西播磨では初例となるようです。



炭・焼土の廃棄部分



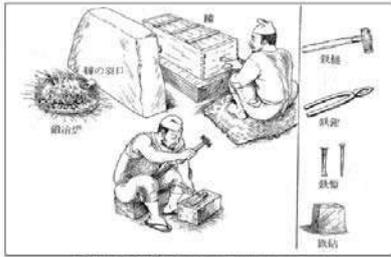
工房関連施設跡



工房関連施設での土器出土状況



鍛冶炉跡



鍛冶工房の様子（参照『技術の考古学』より）



小河川跡の弥生土器出土状況



弥生土器（壺）出土状況

## その東西に秀麗な姿を見せる神奈備山 雌岡山・雄岡山 Walk

神戸市西区神出 2011. 3. 11.



雌岡山

雄岡山

## 古代伝説の地「神出」集落の信仰の山 雌岡山と雄岡山 渡来鍛冶技能集団の伝承があると知りました

子午線が走る明石の街をまっすぐ北へ約 10km の明石平野の北の端 西神戸の丘陵地「神出」に美しい三角形をしたほぼ同じ高さの二つの山 雌岡山(標高 249m) 雄岡山(標高 241m)が東西に並ぶ。

「神出」の地名が示す通り、古代から開けた伝説の地で この二つの山はこの地の神奈備山。特に西側の雌岡山の山頂は日本標準時東経 135 度の子午線が通り、古代鍛冶神「スサノオ」「大己貴(スサノオの子 大国主命)」を祭るこの地の守り神「神出神社」がある。

子午線に並行して 明石と福知山をつなぐ国道 175 号線を北へまっすぐ北へ明石平野を突き切った位置で、東側にある西神ニュータウンの北東数キロのところで、自宅から西の播州や北の丹波へ行くときに いつも見かける山である。

「神出」の地名の由来は神代のころ、大己貴命(おおなむちのみこと=オオクニヌシノミコト)が、雌岡山上に天降りして、ここで百八十一柱の神々を生んだので、この地を「神出」というようになったと伝えられている。

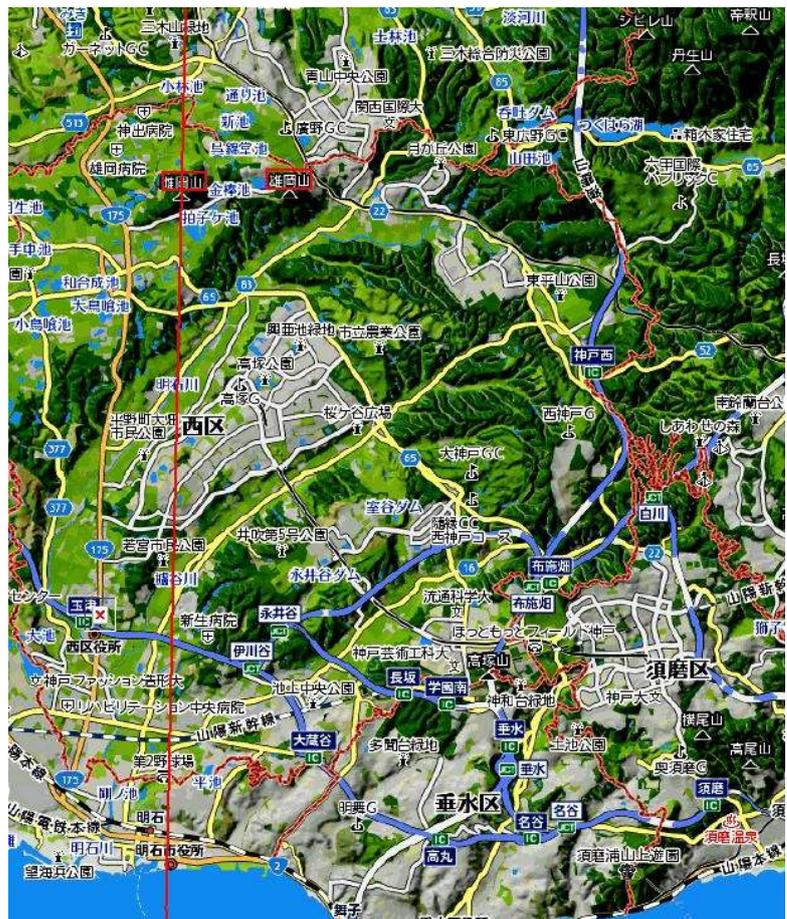
また、この地域一帯は、平安時代から鎌倉時代にかけて、須恵器生産が盛んに行われ、現在約 100 基余りの窯跡の存在が確認されており、「神出窯跡群」と呼ばれ、製作された須恵器は各地に送られ、東北から九州にまで分布しているという。

春が近づくと毎年北播磨の佐用に「カタクリ」の花を見に行くのですが、「今年はどうか?」とインターネットをしらべたら、偶然すぐ近くの雌岡山の南西山腹の斜面で「カタクリ」栽培して、春には花を咲かしている人たちがいることを知り、びっくり。この山にはカタクリが群生していて、春 カタクリが花を咲かせると 集落の娘たちが カタクリの花見を兼ねてこの山中にあるお宮(裸石神社・姫石神社)にお参りしたという。

また、この雌岡山には人工的に掘られた穴が多く、雄岡山の東側押部谷に進出した渡来鍛冶技術集団忍海氏が開発した山で、「金出」=神出となったという説もあり、神出では平安時代「罐子(かんす)」と云う茶釜を作っていたという。

この神出のすぐ北に「金物の街 三木」があり、「神出窯跡群」が出土したときに ひょっとして「たたら郷?」ではないかと山麓を歩いたこともあったのですが、そのまま忘れていました。

「やっぱり 鍛冶伝承のある郷だったんですね」



いつでも登れる低い山。いつでも行けると山麓は何度も遠めのですが、山の中にはいったことなし。

まだ ちょっと時期は早く「カタクリの花」は咲いていないでしょうが、その栽培地をたしかめがてら、鍛冶の郷の痕跡を探そうとやっと暖かくなった3月11日の午後 古代伝承の地「神出」雌岡山・雄岡山 walk にでかけました。

( walk を終え 神戸の農業公園の丘に座って 二つ並んだ雌岡山・雄岡山を眺めている時に、家内からの携帯電話で 東北関東大震災のニュースを聞き あわてて 家に帰ってきました)

## 【 参考 】 1. 古代伝承の地「神出」 雌岡山・雄岡山伝承



神出南から眺めた雌岡山と雄岡山 2011.3.11.



### 1-1. 「神出」の由来となった雌岡山とその山中にある裸石神社・姫石神社

神代のころ、大己貴命が、三角錐の秀麗な山 雌岡山上に天降りして、ここで百八十一柱の神々を生んだので、この地を神出というようになったと伝えられ、そして、後に雌岡山の頂上には素盞鳴尊、奇稲田姫命大己貴命が祀られて神出神社がと  
なった。また 下記の異説も伝承されている。

#### ■ 神出神社の社伝

素盞鳴尊、奇稲田姫命がここに降臨遇会し、両神は葉草を採取し住民の病苦を救い、禁厭(まじない)を教えて災厄を祓い農耕を指導奨励された。また、二神の間に多くの神々が生まれたが、大己貴命がこの地で誕生されたことから、この地を「神出」という。大同4年平城天皇諸国を巡幸の際にこの地に立ち寄られ、神代の古事をしのび、三柱の神を勧請祭祀されたのが「神出神社」の起こりであるという。



神出神社 祭神は素盞鳴命・奇稲田姫命・大己貴命  
大同4年(809年) 平城天皇の勧請により建立

## ■ 渡来の鍛冶集団忍海部造がこの地を開発「金出」=神出となったという説

雌岡山は人工的に掘られた穴が多く、忍海部造の採鉱冶金族が開発した山で、「金出」=神出となったという説もある。

( 雄岡山の東側の谷押部谷は大和葛城山麓の渡来鍛冶技術集団忍海氏の進出地との伝承があり、押部谷の地名もこの「忍海」に由来するという。)

また、この地域一帯は、平安時代から鎌倉時代にかけて、須恵器生産が盛んに行われていました。

現在約100基余りの窯跡の存在が確認されており、「神出窯跡群」と呼ばれている。

「神出窯跡群」で製作された須恵器は各地に送られ、東北から九州にまで分布しているという。

### 1-2 雌岡山 山中 縁結びの神様 裸石神社と姫石神社

景行天皇の頃、九州の熊襲を討伐しようと、大和を出発した日本武尊がこのあたりに来た時、雌岡山に立ち寄った。山上で勝利を祈り、「スサノオノ神よ。無事に熊襲を打ち取ることができるなら、この石を羽根のように軽く飛ばせて下さい」と、一つの石を蹴った。すると、大きな石が羽根のように高々と舞い上がり、落ちてくるときはガラガラッと雷鳴のような響きをあげた。そこで人々は、それを雷鳴石と呼んでいたが、いつしかライ石（裸石）と呼ぶようになった。これが、裸石（らいせき）神社の始まりである。

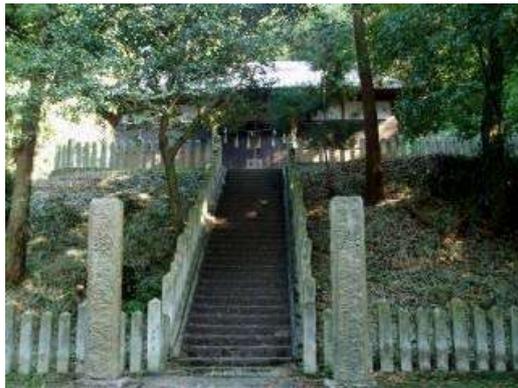
裸石神社のすぐ横の山腹におおきな岩が御神体の姫石神社がある。

見ようによっては女性自身に見えるので「姫石」という。

裸石・姫石神社は雌岡山の中腹にあり、いずれも雌岡山の奇岩（磐座）が御神体で、赤石伝説や神出伝説とも結びついてこの神出の縁結びの神様として 今も親しまれている。



姫石神社の御神体 姫石 磐座か？



裸石神社



姫石神社

### 1-3. 「赤石伝説 - 明石の地名由来 -」 雄岡山・雌岡山

その昔、雄岡山と雌岡山は、遠くから眺めると子牛の角のように見えたことから、男牛（おご）、女牛（めご）と言われていた。

それが、雄子尾、雌子尾となり、やがて雄岡（おっこ）と雌岡（めっこ）になったといわれる。

神話によると、雄岡と雌岡は夫婦の神で、男神の雄岡が小豆島の美人神に惚れたことから、妻が止めるのもきかず鹿に乗り会いに行った。その途中、淡路の漁師に弓を撃たれ、男神と鹿は共に海に沈んでしまった。すると、鹿はたちまち赤い石になり、ここから「赤石」→「明石」となり明石の名称の起こりとも言われている。昔は、雌岡山の神出神社から小豆島が見わたせたといわれる。

### 1-4. 雄岡山・雌岡山の高さ比べと金棒池の伝承

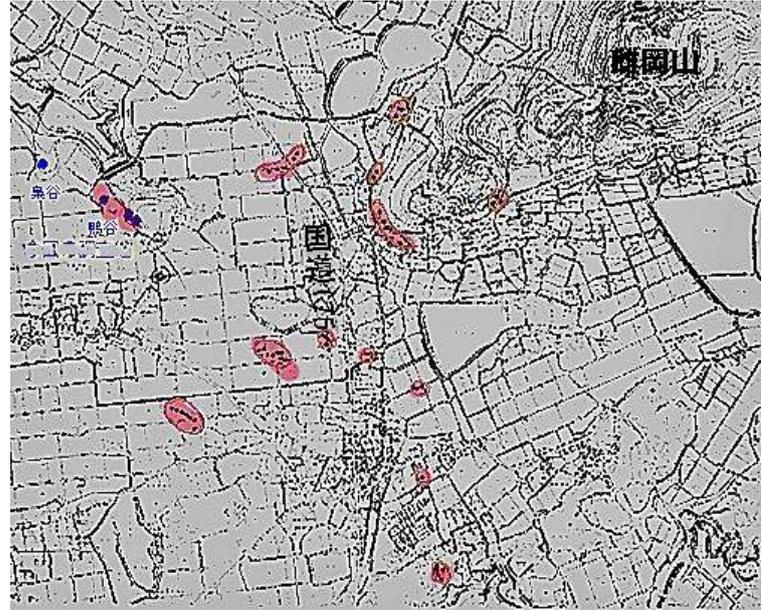
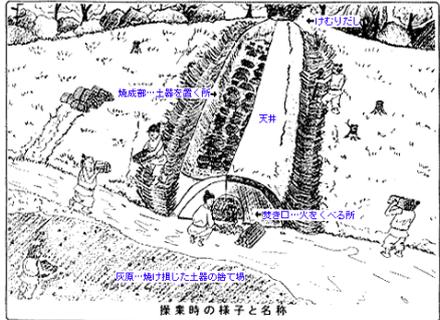
その昔、雄岡山と雌岡山が、金棒を芯にして土を盛って高さ比べをしていたところ雄岡山の金棒が折れて、二つの山の間にはささり、その跡が金棒池になった。そのため、雄岡山（標高241m）の方が雌岡山（標高249m）より8m低くなった。

### 1-5. 弁慶と金棒池

雄岡山と雌岡山を庭の築山にしようと考えた弁慶は、二つの山の間に立ち、持っていた金棒の両端を雄岡山と雌岡山に突き刺して持ち上げようとした。金棒は、弁慶の肩の上でしなり、ついに折れてしまった。この時、金棒の落ちた跡に水がたまったのが金棒池である。池の中には小さな二つの古墳があるが、これは弁慶の足跡だといわれている。



## 2. 神出古窯跡群 古代では日太最大の巨大窯発見!



神戸市西区神出(かんで)町で、国道 175 号神出バイパス建設に伴い発掘調査を行い、100 基を超える古い窯跡が出土した。この辺り一帯は、神出古窯址群と呼ばれ、平安時代末～鎌倉時代の須恵器や瓦の一大生産地。長さ 13m、幅 3m の大きな窯もみつきり、大窯の規模は、古代の須恵器窯としては、日本最大級。また、神出古窯址群中、最古の窯も発見され、同古窯址群のルーツをたどる大きな手がかりとなっている。

備前焼・丹波焼などの中世六古窯とともに、我が国の中世窯業を代表する生産地の一つで、恵器(すえき)と呼ばれる土器、そして瓦が生産された。

東播系中世須恵器」とも呼ばれる須恵器の鉢は鎌倉時代にかけて大量に生産され、関東から九州に至る広い範囲に流通し、各地で料理に使われた。また、瓦の方は、平安京の寺院からの注文だったようで、京都の鳥羽離宮や、東寺、尊勝寺などの屋根を飾っていたことが、発掘調査で確かめられている。



神出窯跡群の発掘調査 と出土した須恵器・瓦

## 2. 鍛冶神 大己貴命の伝説の地「神出」の神奈備山 雌岡山・雄岡山 Walk

2011.3.11.



摂津/播州国境 須磨 旗振山から眺めた 神出 雌岡山・雄岡山

3月11日 暖かい午後 まだ カタクリの花は咲いていないが、雌岡山の自生地をと雌岡山・雄岡山の登り口を確認しようと出かける。明石から北へまっすぐ三木へ伸びる国道275号線の傍で何度も通ったところであるが、いつでも行けると登ったことはない。神戸の市街地の北側 西神戸の丘陵地の新しく開かれた住宅地を縫って西へ走るバイパスを約20分ほど原付で走って、国道175号線とぶつかったところが神出集落。いつも見慣れた景色で、気にもとめていませんでしたが、古代からの信仰の山・神奈備山と知って 改めて 雌岡山・雄岡山がほぼ同じ高さ・形で二つ並んでならかな裾野を左右に広げているのを見ると本当に神々しく見えてくる。この優美な姿は海岸沿いの須磨・明石からも見え、西からの播磨/摂津国境越えの目印にもなったに違いない。

もともとは「この雌岡山山腹にカタクリの花の自生地がある」と知って調らべる中、この地が古代製鉄関連地の可能性があるを知って、その痕跡も是非探してみたい。「神出」が古代から開けた地であることはよく知っていましたが、その伝説が鍛冶神 オオナムチ・スサノウの出雲の神と関連していることを知ったのは最近。

雌岡山・雄岡山のすぐ東 丘陵地の間を明石川が流れ下る平地が渡来の鍛冶集団忍海氏の進出地。この神出のすぐ北隣は「金物の街・三木」である。

「この雌岡山・雄岡山の山麓は古代の産鉄・鍛冶集団にとって魅力ある土地であったに違いない。

カタクリは氷河期の生き残りであり、北播磨の和鉄関連地 佐用・三日月にもカタクリの花が毎年春を告げる。

この雌岡山のカタクリも そんな産鉄地の痕跡かもしれない。山にはまだ産鉄地の痕跡があるに違いないと。

西神戸ニュータウンを抜けて丘陵地を西へ続くバイパスが丘陵地を抜けたところで、明石から北へ登ってきた国道175号線とぶつかる。(田井南) 眼前には播磨平野の東の端 広々と明石平野の田園地が広がっている。この十字路を北に曲がったところが「神出」の集落。国道の西側には広々と田園地 東側には雌岡山から雄岡山の丘陵地が続き、この山裾を取り囲む形で「神出」の集落がある。「京都に田舎あり」というが、「神戸にも 田舎あり」といった田園地帯の小さな集落で、この集落の中を福知山へ向かって縦に兵庫県を貫く大動脈国道175号線が走り抜ける。(瀬戸内と日本海を結ぶ日本で一番低い分水嶺氷上回廊を結ぶ道である。)

田井南交差点から北へ 道に沿って両側に神出の街が広がり、右手に雌岡山がまじかに見える。間もなく雌岡山の山裾がすぐそばになって、老ノ口の信号。この辺りが、神出集落の中心地で、右へ雌岡山の南山裾の高台を東の雄岡山から押部谷へつながるかつての幹道が伸びている。もっと狭い道と思っていましたが、舗装道路のいい道が整備されていて、雌岡山・雄岡山へはこの道を行く。また この辺りから北側一帯が国道175号線の改良工事で出土した神出古窯群の遺跡が点在する場所である。



国道175号田井南交差点(東より)

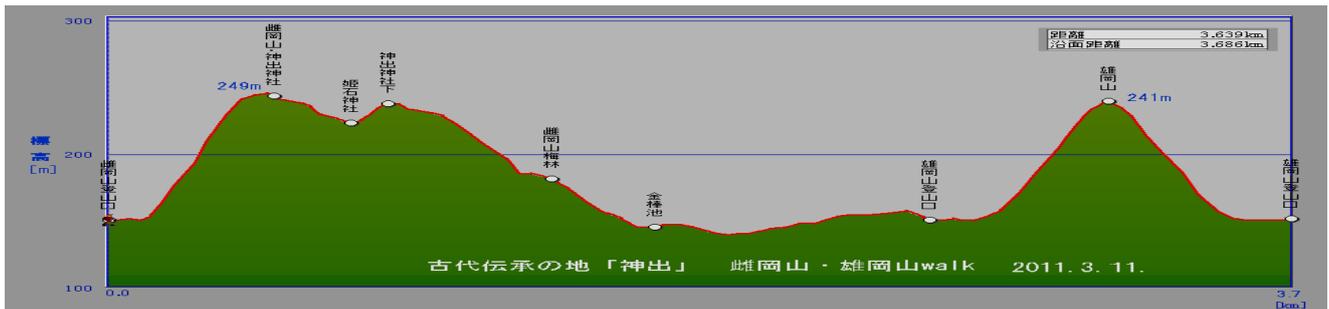
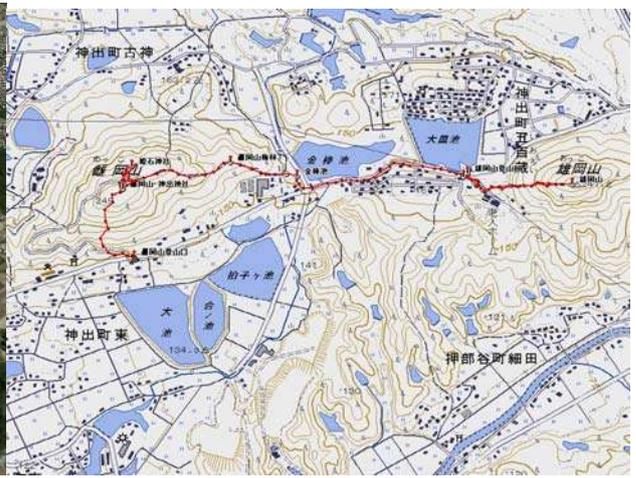
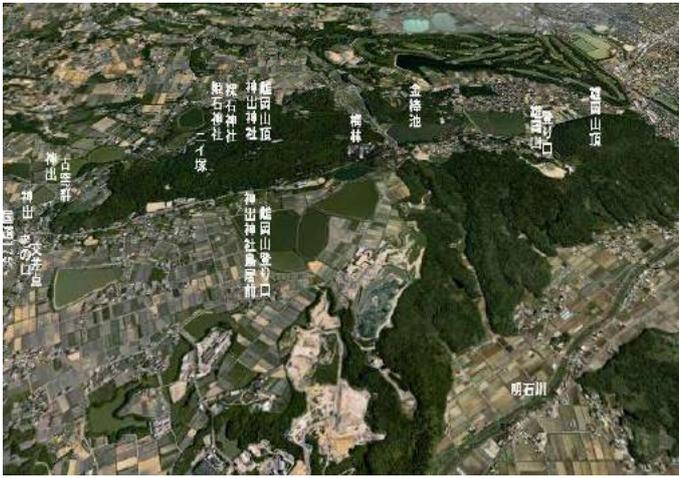


国道175号田井南交差点(南より)



老ノ口周辺より北 右に雌岡山

Google Map ストリートビューより 国道175号線 神出集落



老の口から、東へ雌岡山の南山裾に広がる集落の中を抜け、どこかに登り口はないかと原付を走らせる。道の反対側下にはいくつかため池が点在する広大な田園地が広がっている。神出中学の下を抜けると雌岡山の山腹が道脇にせまり、大きな石の鳥居のある神出神社の参道横に出て、舗装された参詣道が山を登ってゆく。ここから山へ登れる。



見逃した神出中学東門にある子午線標識 雌岡山の登り口 神出神社石の鳥居前 鳥居前にある雌岡山の案内板

山が小さいので 国土地理院の地図では 様子がよく判らなかったのですが、すぐ横に雌岡山の案内板があり、雌岡山はよく整備された公園になっていて、神出神社のある雌岡山頂上まで車で登れ、またしっかりした直登の参詣道があることが分かった。

そのまま車道を登るのも芸がないし、20分も登れば 頂上まで行けそう。「カタクリの自生地」の位置を探すことも考えて、鳥居の横の道脇に原付を止めて歩いてゆく。

山腹を斜めに登る参詣道を少し上ると 直角に頂上へ向かって直登の道が切り開き道が斜めにクロス。道脇に神出神社まで400m 反対側100m ほど行くと子午線標識の標識が立っている。先ほど通過した神出中学の東門から子午線上をまっすぐ神出神社・雌岡山山頂へ登る直登の参詣道である。(来る時見過ごしていましたが、神出中学東門の所の丘に子午線標識がありました)



子午線上を直登の神出神社参詣道 2011.3.11.

## 2.1. 整備された神出参道は「赤土」がむきだしに 古代鉄鍛冶集団がこの地にいた痕跡か

車道と別れて この切り開かれた急な坂道を行く。幅はひろいのですが、雑木が生い茂る山腹を切り開いて造られた山土むき出しの急な坂道。

はっと気づく「道が赤い 赤土の道」。道のあちこちにむき出しとなった石のかけらも赤い。鉄分が随分含まれているのでは・・・と。

でも ここから北東にある丹生山の辰砂の岩で見た赤にも近い。この赤は 鉄分なのか 辰砂なのかよく判らないが、かなり鉱物が含まれている。

まあ 和鉄の郷の痕跡 鉄分と思いたい。この山の北側山腹では水晶が取れたとの話もあり、この雌岡山には鉱物資源があり、古代鍛冶集団が住み着き、古代伝説を生む伝説の郷になったのではないかと考えてくる。ポケットにひょいと赤い石のかけらを入れて持ち帰ってきました。



整備された参道は赤土がむきだしに 古代鉄鍛冶集団がこの地にいた痕跡か



雌岡山の神出神社への直登参道で見つけた赤い土と石のかけら 2011. 3. 11.

雑木林に包まれた赤土の参道 子午線の上をまっすぐ歩いて頂上へ登っているんだと思いながら、約 20 分ほどのぼっゆくと正面に石段が現れ、その上に石の鳥居。

それをくぐると 雑木林の向こうへ続く道の奥に神出神社の境内と社殿が見え、雌岡山頂上の神出神社到着である



子午線上をまっすぐ登る参道 頂上部 神出神社への入口周辺 2011. 3. 11.

## 2.2. 雌岡山山頂 神出神社からの明石平野展望と北側山腹にある伝説の姫石・裸石神社



雌岡山山上 神出神社境内からの南東側の大展望 左端北側に雄岡山 右 正面に明石海峡が見える 2011. 3. 11.



神出神社社殿 東に開ける明石平野の大展望を正面に東向いて社殿がある 2011.3.11.

参道を登り切って雌岡山頂上部の南西端から神出神社の境内に入る。周囲を雑木林に囲まれた雌岡山頂上 雑木林を背に展望が開ける南東を向いて社殿が建つ。眼下に広がる明石平野の大展望の先には 明石大橋と淡路島が春の霞の中にうっすら見える。周囲をうっそうとした森に包まれた中に立派な社殿とそれが見晴らす広大な明石平野と明石海峡。信仰の山である由縁がよくわかる。かつては この雌岡山からは 明石から小豆島までが遠望でき、「明石」の地名由来となった「雄岡山・雌岡山」伝承が残る。また、社殿の直ぐ脇にはこの神出神社の由来が書かれた碑があり、出雲の三柱の鍛冶神・開拓神が祭神として祭られている。雌岡山はこの地の神奈備山 眼下に広がる郷は古名「神出」がそのまま受け継がれてきた鍛冶の郷との思いがつのる。



雌岡山山頂 神出神社からの展望【1】 上段:東の雄岡山(上左) 下段:眼下に広がる明石平野から明石海峡



東奥に須磨海岸の旗振山から横尾山の山並み



明石海峡大橋から淡路島がうっすらと

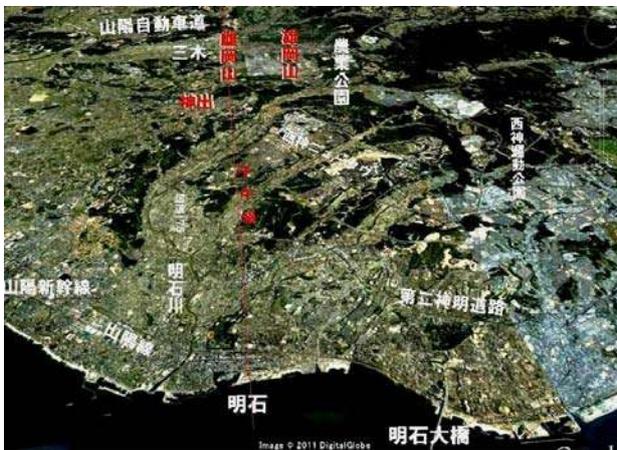
### 雌岡山山頂 神出神社からの展望【2】

気楽な散歩で行けるこんなに素晴らしい明石平野の展望台が雌岡山にあるとは全く知りませんでした。

山の展望台からはどうしても 山並み越しに平野部を見ることになるのですが、いきなりどこまでも広がる平野部の展望  
そして その奥に明石海峡。

神出神社境内をふくめ、雌岡山はよく整備された自然公園。 車道は北斜面側頂上すぐ下の駐車場まで続き、 そのまま東に  
緩やかな山腹にひろがる梅林を経て雄岡山との鞍部 金棒池の岸に出られるようになっている。

お勧めの静かなハイキング コースです。



ゆっくりと明石平野の展望を楽しんだあと 下の鳥居から北側山腹を斜めに  
登ってきた車道の終点の駐車場へ出て 山頂北側山腹にある磐座? 裸石神  
社・姫石神社へ。

この駐車場からは東の山腹を梅林へ下って行く車道(遊歩道)があるが、入口  
に車止めのロープが張られていましたが、この道が地図にある金棒池へ下  
る道である。このまま東へ下ると裸石神社・姫石神社や「カタクリの自生地」も  
探せないで、裸石神社・姫石神社を見て 一旦 車道を鳥居まで下って、再  
度 原付で登りなおして ちょうど見頃と思われる梅林へ行くことにする。

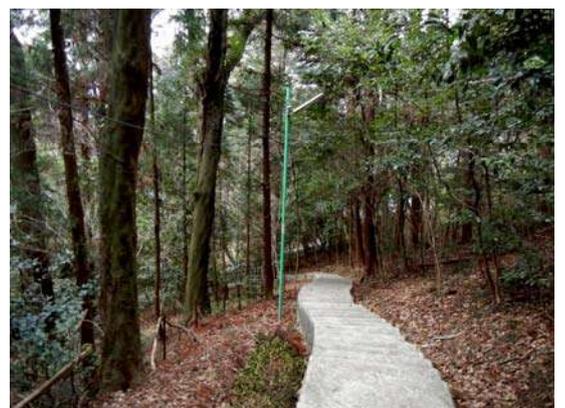


駐車場から神出神社のある頂上の下を回り込むように車道を下ると車道脇  
に姫石・裸石神社の大きな石柱が建ち、まっすぐ斜面を下る階段道が崖下へ  
続く。人っ子一人いない静寂と木々に包まれた山腹につけられた急な階段  
道を下ってゆくと山腹にへばりついて、裸石神社の小さな社があり、そこから  
少し横へトラバースしたところに石柱垣に囲まれた巨岩が祭られていて、こ  
こが姫石神社である。

どちらも 古代伝承の残るこの地の古くからの縁結びの神様で、裸石神社は  
小さな社殿があるが、姫石神社には社殿がない。

裸石神社は男性 姫石神社は女性シンボルと見立てた奇岩が御神体と聞く。

裸石は社殿の裏から覗きこむことができました。

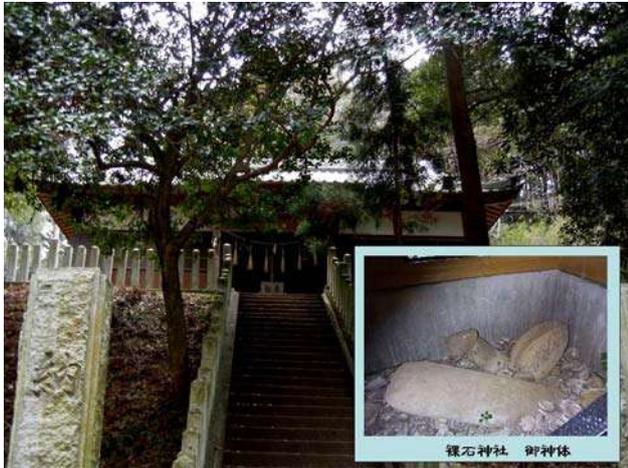




裸石神社



姫石神社



雌岡山の北山腹の山中にある奇岩が御神体の裸石・姫石神社 この地の古くからの縁結びの神様である

「むかし、この地の娘たちは 春「カタクリの花」が咲くとアワビの貝殻をもって雌岡山に登り、この裸石神社・姫石神社へお参りしたという。」と聞きました。とってつけたような話で 信憑性はちょっと・・・。

でも この地の守り神(神出神社)が見下ろす誰もいない静寂の山中 奇岩に込めた土着の信仰はあったに違いない。

姫石神社からはそのまま南へ山腹に沿ってトラバースしながら下ってゆく小道がついているが、「カタクリの自生地」を探したくて 再度元の車道のところまで戻る。南へ北側山腹を眼をキョロキョロさせながら少し下ったところ、車道の上の斜面雑木林を切り開いたところに「カタクリ」の栽培地がありました。

この地に入る階段が通行止めにされていて 中にまだ入れませんでした。4月上旬 可憐な花を咲かせると聞きましたので、今年はずいぶんこの神出のカタクリの花を見ようと思っています。



雌岡山 カタクリの自生・栽培地 2011.3.11.



ニイ塚(古墳?)

雌岡山の北斜面に沿って南側へ  
ニイ塚(古墳?)の横を通って車道をさらに下って  
石鳥居の登山口まで 頂上から約30分ほどで、戻ってきました。  
今度は原付で車道を登って頂上を乗越して東側の山腹を梅林から金棒池へ。

### 2.3. 雄岡山を見晴らす雌岡山 東山腹に広がる満開の梅林



雌岡山東山腹梅林 2011. 3. 11.



雌岡山東山腹梅林より 雄岡山を望む 2011. 3. 11.

雄岡山を見晴らす雌岡山 東山腹に広がる満開の梅林 2011. 3. 11.



雄岡山



農業公園から西神

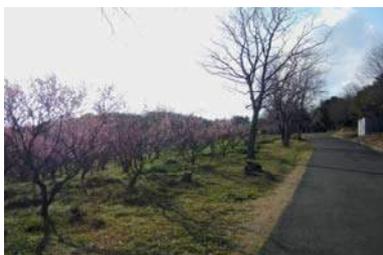


西神ニュータウンから明石

雌岡山東山腹梅林よりみる雄岡山から明石の眺望 2011. 3. 11.

雌岡山頂上から東へなだらかな山腹をくだると満開の花が咲く梅林。その向こうに円錐形の雄岡山が実に美しい。山が低いので雌岡山と雄岡山の間にある伝説の金棒池は見えない。どうも開園前で満開の梅が独り占めである。雄岡山の方が少し低いが、この周辺からは形が整っていて 実に美しい。

梅林を下りきったところが、金棒池の岸で金棒池側からの雌岡山登り口で、ここにも案内板がありました。

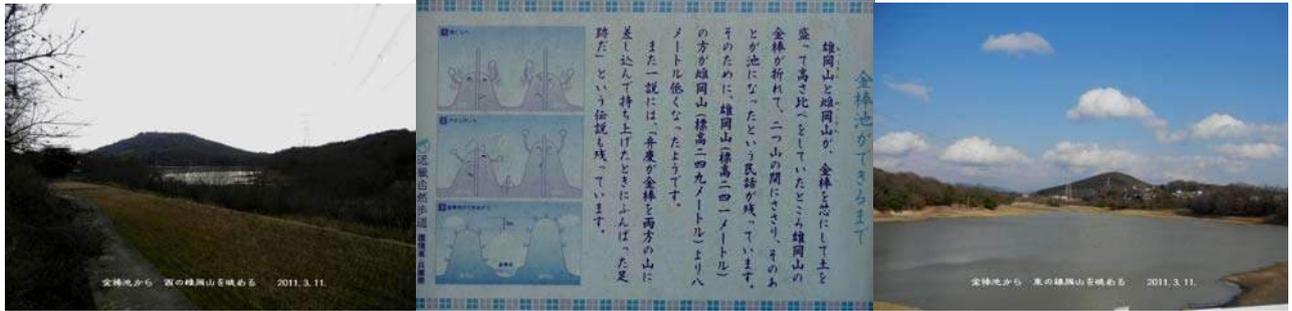


梅林から見る雌岡山



金棒池の民話が書かれた案内板が立つ金棒池の西端岸 2011. 3. 11.

## 2.4. 金棒池から雄岡山頂上へ



金棒池民話と金棒池から見る雌岡山と雄岡山 2011.3.11.

雌岡山の東側登り口を外に出たところが金棒池の西端で、池の向こうに雄岡山が見える。この岸のすぐ南側で、老ノ口から雌岡山の南側を通過して雄岡山から押部谷へ抜ける幹線道路にでる。広い金方池の縁を雄岡山の麓へ。

金棒池の南側に沿って数分雄岡山に向かって原付を走らせ、雄岡山の端で北側に道が折れまわったところが十字路になっていて、ちょっと北へ入ったところに雄岡山登山口のバス停がある。そこで、歩いていた高校生に雄岡山への道を聞くと折れ曲がりの角南への細い道を入ったところに登山口があると教えてくれた。



雄岡山の端 金棒池の東端に雄岡山登山口のバス停 2011.3.11.

雄岡山の山腹に沿って雑木林の中の細い道に入ってゆくと、デイサービスの建物の入り口にぶち当たり、その前から左手に雄岡山への案内標識が立っていて、雑木林の中を細い登山道がまっすぐ頂上へ続いていた。

この雄岡山の登山道のある山腹全体がどうも私有地のように、雌岡山のように整備された公園にはなっていないが、ただ一本細い山道がまっすぐ頂上を越えて北の神鉄緑ヶ丘駅へ伸びていてハイキングコースになっているようだ。



雄岡山への登り口 南側のこの登山口から真直ぐ北へ 頂上への登山道



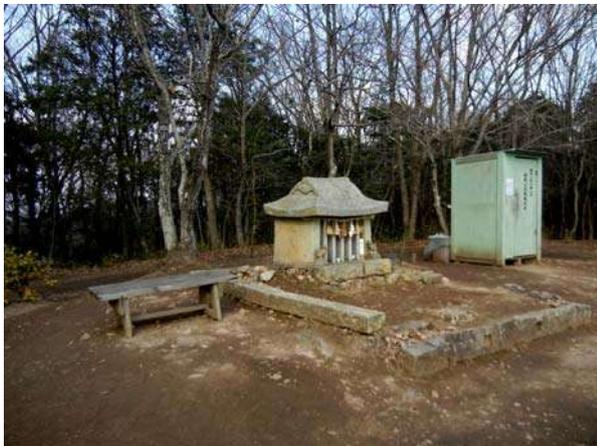
雑木林の中 山腹を北へまっすぐ続く雄岡山への登山道 2011.3.11.

雌岡山では道が鉄分を含むと思われる真っ赤な土だったので、この雄岡山の登山道にも赤土がないかと探しながら登りましたが、赤土の部分は見つかりませんでした。なだらかな雑木林の中を歩いて約 15 分ほどで 小さな祠がある頂上の広場に出ました。そして 雑木林に包まれた中 南側が開け、明石方面が見渡せるのですが、残念ながら うっすらと淡路島が見えるだけで 明石海峡大橋は確認できませんでした。

でも ここも 霞が取れば 遮るもののない素晴らしい眺望ポイントになると思われます。



雄岡山頂上 241m からの眺望 うっすらと淡路島が見える明石海峡遠望 2011. 3. 11.



雄岡山頂上標高 241m 小さな祠と一等三角点がありました



祠の横にある雨乞い石



一等三角点

雄岡山では古くからこの祠の前で雨乞いが行われていたという。

祠に祭られているのは木花佐久屋比売命(このはなさくやひめのみこと) という女神と帝釈天。早魃の時・石のご神体に墨を塗り雨乞いをする。ご祭神はきれいな女神であるため、早く雨を降らして黒色を落とそうとされる言うのである。

古くから伝承されてきた素朴な祭りで、数々の伝承とともにこの優美な姿の雄岡山が信仰の山である証拠であろう。

信仰の山 雄岡山の祠 そして雌岡山の神出神社の社殿いずれもが 明石海峡を正面になるように祭られており、明石海峡を強く意識していたことがわかる。 また、この雄岡山の東側は 渡来の鍛冶集団忍海氏の進出地 押部谷であり、この雄岡山・雌岡山に強く惹かれていたに違いないが、この山にまつわる古代伝承や山との関係についてはよく判らない。 この登山路で雌岡山で見た赤土の露出を見つめることができなかつたが、インターネットには この雄岡山の登山路でも赤土がみられるとの記述があり、この山にも鉱物資源があったのかもしれない。

## 2.5. 雄岡山・雌岡山 walk の打ち上げに 二つの山が両方並ぶ姿をとらえる



農業公園から見た雄岡山・雌岡山



雌岡山の神出神社参道 子午線道は鉄分の多い赤土の道

こんな近くで 素晴らしい眺望が楽しめるめぐる気持ちの良いwalk ができるとは全く知りませんでした。

また、古代伝承がある「神出」が渡来の鍛冶集団 忍海氏の進出地 押部谷のすぐ隣であるのに和鉄関連地と結びつけて考えてみたのも今回が初めて。

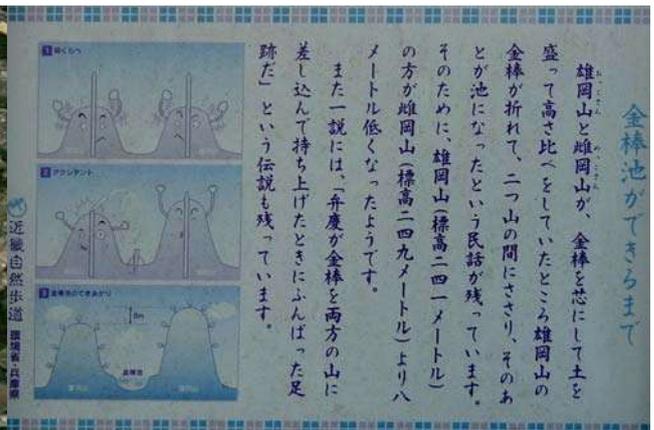
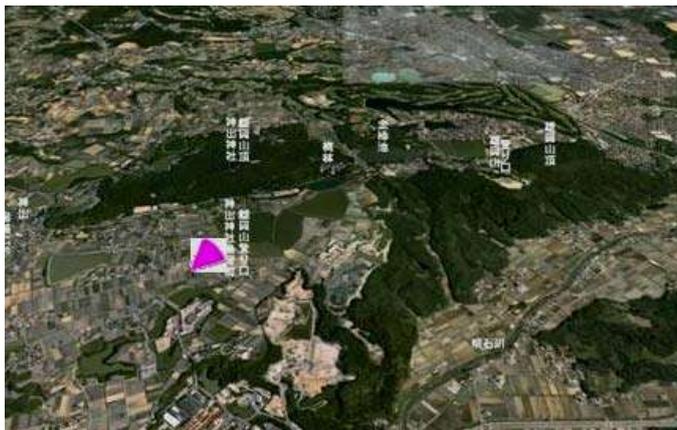
こんな近くで 知らなかったのだから こじつけか・・・とも思っていたのですが、山に入って 赤土で真っ赤な神出神社の参道を見て、この鍛冶神伝承は本物ではないかと思えてきました。もう びっくりです。

Walkの終りに やっぱり 雄岡山 雌岡山 二つの山が立ち並ぶ姿を眺めてみたいと地図を持ち出して検討。

帰り道を神出集落の南のため池の横の田園地帯からは両方の姿がとらえられるだろう。そして、東寄りの神戸農業公園の丘も雄岡山 雌岡山展望の一等地のはずと帰り道に立ち寄ろうと原付を走らせる。

### a. 神出南集落から眺めた雌岡山・雄岡山

眺めた位置が雌岡山に近いので 雌岡山が大きく 形も少しいびつで 二つの山が相似には見えず 神奈備山の神秘性はすこし薄いなあ・・・と。



## b. 神出集落の南東 押部谷 神戸農業公園の丘から眺めた雌岡山・雄岡山

神出集落から少し南東にはなれ、雌岡山・雄岡山の距離にあまり差がなくなった 押部谷 神戸農業公園からの雌岡山・雄岡山。 神戸ワインのブドウ畑に二つ並んで優美な姿を見せる雌岡山・雄岡山がみられました。



押部谷 神戸農業公園の丘から眺めた雌岡山・雄岡山 【1】



押部谷 神戸農業公園の丘から眺めた雌岡山・雄岡山 【2】

### 【参考】

1. 六甲山系周辺の岩石にまつわる民話と伝承

⑮ 雄岡山と雌岡山(神奈備山)

<http://www.eonet.ne.jp/~yamauo2005/minwa2.html>

2. 神の座す山と神出の里

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystat>

3. 【和鉄の道・Iron Road】

1. 神戸の北端 丹生山に古代の赤「朱土・辰砂」を訪ねる 神戸和鉄の山郷 押部谷・志染・丹生山・淡河 Walk

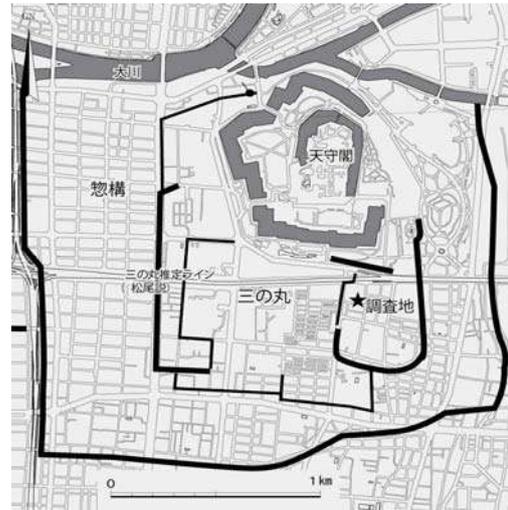
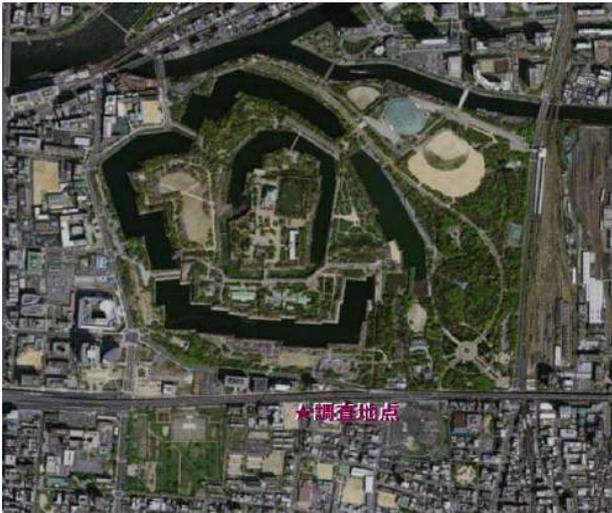
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron02.pdf>

2. 金剛・葛城山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron05.pdf>



4. 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡 (大阪市中央区森ノ宮2丁目) を訪ねる 2011. 4. 16.



豊臣時代の大阪城南側から見つかった大規模な鍛冶工房跡

## 大阪城に鍛冶工房跡

**豊臣方、夏の陣で利用か**

豊臣秀吉が築いた大阪城跡(大阪市中央区)の南側から、刀などの鉄製品を製造する大規模な鍛冶工房跡が初めて見つかった。一度に6基もの鍛冶炉が出土する例は珍しい。14日、大阪市教育委員会と市博物館協会大阪文化財研究所が発表。大坂夏の陣(1615年)を前に豊臣方が軍事的に利用した可能性もあるという。

豊臣時代後期(1598〜1615年)の遺構で、東西15㍍、南北4〜5㍍の敷地に三つの工房が並び、鍛冶炉が2基ずつ、計6基あった。市博物館協会は「大阪城普請のために大名が土木用のくわなどを作る工房として設置した可能性もある」としている。

現地公開はしないが、出土品を16、17日午前9時30分〜午後4時30分、大阪市中央区大手前4丁目の大阪歴史博物館(06・6946・5728)で無料公開する。(大脇和明)

豊臣時代の大阪城南側から見つかった大規模な鍛冶工房跡—大阪市中央区、中里友紀撮影

豊臣時代 大阪城の鍛冶工房跡が出土したと伝える記事 朝日新聞 2011.4.15. 大阪版朝刊

2011年11月14日夜 ラジオのローカルニュースで「大阪城の鍛冶工房跡出土」のニュースが流れ、翌日の新聞にもその記事が掲載された。

「大阪城跡の南側から豊臣時代 大阪城の鍛冶工房跡が出土。出土地が工事現場で 現地説明会はないが、

4月16日・17日に近くの大阪歴史博物館で出土品が展示される。」

安土桃山時代から江戸時代へ移る戦乱の豊臣時代 その中心にあった大阪城の城郭の中に出土した鍛冶遺跡。

鉄製品は出土していないというが、戦乱と直接関連付けられる鍛冶工房が出土したのを聞いたことはなく、詳細は分からないが、どんどこで出土したのか 是非見に行つてこようと4月16日(土)に出かけました。大阪城の南側には広い難波宮跡史跡公園が広がり、その東端 かつて大阪城の城郭 南東の一角 出会ったところが出土地でした。

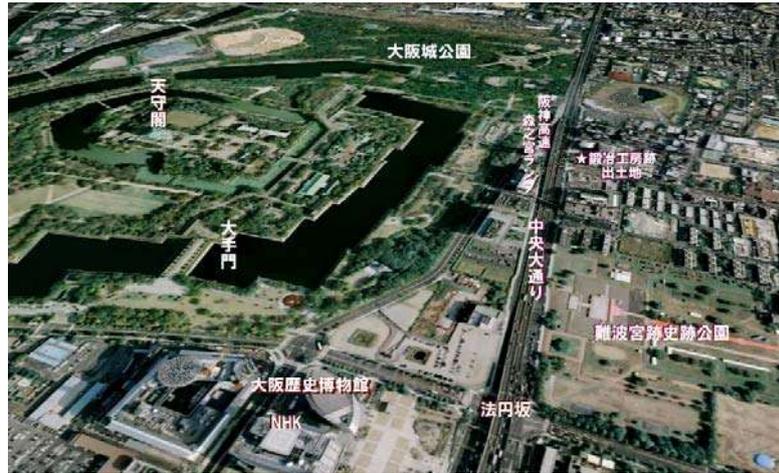
桜の名所 大阪城は桜の散り染め 葉桜が美しく、緑が少ないといわれた大阪の中心。難波宮跡 史跡公園が整備され、かつての殺伐とした法円坂一帯がこんなに緑があったのかと。鍛冶遺跡を訪ねるとともに 新緑の大阪城周辺 walk を楽しんで帰りました。



# 1. 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡地(大阪市中央区森ノ宮2丁目) walk 2011. 4. 16.



中央大通り法円坂交差点角



法円坂西側から 東側 大阪城・難波宮史跡公園を眺めた google 画像

大阪歴史博物館ロビーに展示されていた出土遺物を見学後、出土した鍛冶工房跡の位置を確認して 表に出る。  
大阪城の堀端南西端にあるNHK・大阪歴史博物館から一筋南へ行くと道の上を阪神高速道路が走る大通り「中央大通り」の「法円坂」。今いる法円坂の交差点の西側 本町の方向から、大阪城の南側を通って東の森ノ宮へ、道の上を走る阪神高速とともに大阪の中心を東西に横切る幹線「中央大通り」。

大阪城の鍛冶工房跡が出土した位置はこの中央大通り沿いの南側 難波宮史跡公園の東端の中央大通り森ノ宮ランプ入口「森ノ宮入路」の標識がある交差点の東南側マンションビルの建設工事が今進められている場所でした。

( 森ノ宮2丁目 工事現場の西側沿いの道端に難波宮東端の案内板がある )

ビル工事に伴う難波宮遺跡の東端の発掘調査の過程で、上層の地層からこの鍛冶工房遺跡が出土したという。



北側大阪城公園 天守閣が見える



法円坂交差点 北西歩道橋より



南側 難波宮跡史跡公園から森ノ宮

中央大通り法円坂交差点から東側 森ノ宮方面 2011. 4. 16.

中央大通りの南側に沿って広がる広大な難波宮史跡公園の中を東へ歩き出す。  
かつて この辺りは難波宮跡が眠っていることから開発から取り残され、殺伐とした場所であったが、びっくりするほど広い緑いっぱいの史跡公園に整備されている。大阪には緑がないと良く言われたものですが、こんな大阪の中心に真っ青な青空と新緑が眺められる公園に整備されているとは……。この辺りに来ても ついつい大阪城の方へ眼が行って全く知りませんでした。中央大通りの北側にはビルが立ち並び、大阪城全体を見ることはできないが、北側 100m 弱の位置が大阪城の南御堀端で、ビルの中から時折、大阪城の天守閣が見える。



難波宮史跡公園の中を中央大通りに沿って東へ (左: 西の歴博・法円坂 中央: 北の大阪城公園 右: 東の森ノ宮方面)

この中央大通り沿いを東へ5・600mほどで 難波宮史跡公園の東端に出る。ここから東へビルが立ち並ぶ中に、大きな起重機が何本も並び立ち、工事真っ最中のビル建設の工事現場ある。高速道路「森ノ宮ランプ入口」の下で「森ノ宮入路」の標識がある交差点の南東側で、工事現場の囲いの道端に難波宮東端の案内板が立っている。

この工事現場の中が大阪城の鍛冶工房跡 出土地である。

工事現場に立ち入れないので、鍛冶工房跡を見ることはできないが、現場の入口からは 工事現場全体が見渡せ、一番奥 東南端に青いシートがかぶせられた一角があり、これが鍛冶工房跡だった。



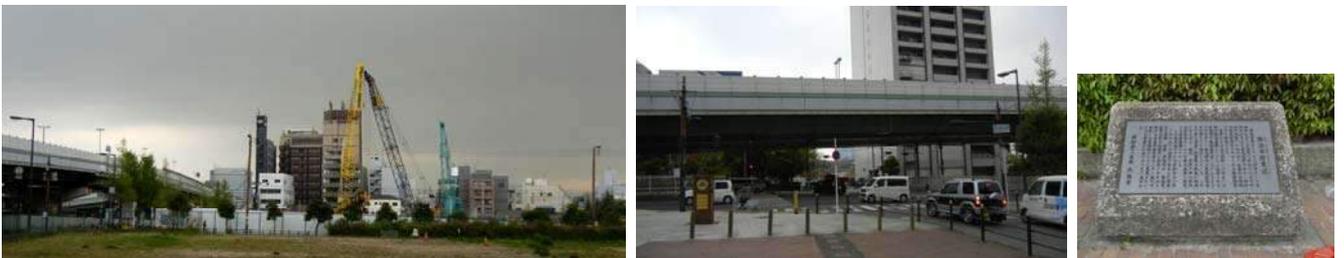
難波宮跡公園の東端周辺中央大通り と その東 森ノ宮ランプ入口周辺 鍛冶工房の出土した工事現場（西側より）

大阪城は中央大通り北側に沿うビル街でみえないが、中央大通りを挟んで北側 約50mに大阪城の南お堀端である



工事現場 中央王通り正面より 左奥が出土地

工事現場 西南角より 奥が出土地



大阪城の鍛冶工房が出土した工事現場の北西角 阪神高速の中央大通り森ノ宮ランプの入口と難波宮東端の案内板

豊臣時代の大阪城の鍛冶工房が出土した森ノ宮二丁目 工事現場 2011. 4. 16.



大阪城南側で発見された豊臣時代の大規模な鍛冶工房跡（注 左写真の上が北 中央写真の上が南 である）

城外郭の軍事的な重要地点に存在した規模の大きな鍛冶工房であり、豊臣方の勢力が設置した工房だろうとみられるが、鉄製品の遺物が出土せず、目的など詳細は不明である。  
大坂夏の陣（1615年）を前に豊臣方が軍事的に利用した可能性や、大坂城普請のために近隣に屋敷を構えた大名が土木用の鋤などを作る工房として設置した可能性もあると考えられている。

小高い高台になっていて、鍛冶工房跡がよく見える工事場の東側にまわって、前日インターネットからコピーした資料(大阪歴博の展示場でもらったものと同じでした)を取り出し、位置関係を照らしあわせる。

この辺りは 上町台地の東北端にあたり、この東北端の台地の上に大阪城が築城された。そして 鍛冶工房が出土した位置は当初鍛冶工房跡の南東側下に谷があった様ですが、工房廃絶後すぐに盛り土で埋められてしまったため、工房跡がしっかりと残っていたらしい。

また、この高台の起伏も 上町台地の起伏の名残なのかもしれぬ。

この小さな谷に面した位置に3区画に区分されて 鍛冶工房が3つ東西に立ち並び、それぞれには2基の鍛冶炉と作業場があったようだ。そして、谷は鍛冶工房から出た鉄滓や炭が捨てられていたようだ。



出土した鍛冶工房跡(写真上が北) 東西に3つの鍛冶工房区画が立ち並んでいた

鉄製品が出土していないので、刀などの武器の製造所であったかどうかは不明であるが、長さ約1m 幅0.2mの木枠施設が見つかっており、内部に詰まった砂は赤く発色し、粉末化した鉄が多く含まれていて、高温の鉄を急冷させて、表面を硬化させる焼き入れに用いた水槽と考えられ、刀などの長い製品を製作した可能性があるという資料にあった。

大阪城築城後も防護機能拡充のため、秀吉が死去するまでに二の丸、三の丸、総構えが建設され、3重の堀と運河によって囲まれた難攻不落の白となった。秀吉は三の丸の完成を見ず、1599年死去する。そして、1600年関ヶ原の戦いを経て、江戸時代が始まったが、豊臣と徳川が大阪城を舞台に対峙し、大阪夏の陣・冬の陣(16014・1615年)を経て大阪城が落城し、豊臣氏が滅んでゆく。この三の丸築造(1598年-)に伴う大規模な盛り土の上に作られた大阪城の鍛冶工房。

滅び行く豊臣氏 大阪城を必死に守るための土木工事に使われた工具類や武器の製造や補修が行われたろう。

そして 数々のドラマを見聞きし、大阪城落城をも見たのだろうか・・・

そんな豊臣氏が滅び行く過程 大阪城落城前夜に大阪城にあった鍛冶工房。そして 廃絶後 すぐに埋められてしまう。

テレビドラマや映画に出てこぬ大阪城落城過程の一ページである。

ぐると工事現場の後を一周して 中央大通りを北にわたって、大阪城公園へ。

葉桜と淡い新緑の緑が入り混じる春の息吹を感じながら 御堀端を北へめぐって 天満橋から大川へ出て 梅田までぶらぶらのwalk。大阪は緑が少ないと言われるのですが、緑いっぱい 大阪新緑探訪のおすすめコース。

また 大阪城から難波宮史跡公園へ 大化の改新で遷都された難波宮の歴史探訪。もっと遡れば、縄文時代 森ノ宮は大阪湾に面する上町台地の北端で、台地の東側に広がる河内湖の入口にあたり、数多くの縄文人が暮らしていた。今回大阪城の鍛冶工房跡が出土した位置から1ブロック東には西日本最大の縄文貝塚遺跡である森ノ宮遺跡。

大阪城周辺へはいつも地下鉄でいって 地下鉄で帰ってしまうため、こんなに気持ちの良い空間が作られていたとは知りませんでした。新緑探報・歴史探訪にお勧めです。

## 2. 大阪城の鍛冶工房跡(大阪府中央区森ノ宮2丁目)から出土した遺物

大阪歴史博物館ロビーで 2011. 4. 16.



馬場町 大阪歴史博物館と NHK



中央大通りより鍛冶工房が出土した工事現場を見る



大阪歴史博物館ロビーに展示された大阪城の鍛冶工房跡の出土品展示 2011. 4. 15.



竹筒と木製鍔



鍛冶炉 羽口



鍛冶炉の碗形滓

大阪城築城後 さらに 二の丸、三の丸、総構えの建設と秀吉が死去するまで防護機能拡充がすすめられる、3 重の堀と運河によって囲まれた難攻不落の城となる。秀吉は三の丸の完成を見ず、1599 年死去し、豊臣と徳川が 1600 年 関ヶ原の戦いで雌雄を決し、江戸時代が始まったが、豊臣と徳川が大阪城を舞台に引き続き対峙し、大阪夏の陣・冬の陣(16014・1615 年)を経て大阪城が落城し、豊臣氏が滅んでゆく。

この三の丸築造(1598 年-)に伴う大規模な盛り土の上に作られた大阪城の鍛冶工房。城外郭の軍事的な重要地点に存在した規模の大きな鍛冶工房で、豊臣方の勢力が設置した工房だろうとみられるが、鉄製品の遺物が出土せず、目的など詳細は不明である。

大坂夏の陣(1615 年)を前に豊臣方が軍事的に利用した可能性や、大坂城普請のために近隣に屋敷を構えた大名が土木用の鍔などを作る工房として設置した可能性もあると考えられている。

### 3. 写真アルバム 新緑の難波宮史跡公園・大阪城公園から大川端へ 2011.4.16.

#### 1. 新緑の難波宮史跡公園 (古代 大化の改新に伴う難波遷都以来 約150年間の都跡)

大化改新(645年)にともなう難波遷都以来8世紀末まで約150年間、難波宮は日本の首都として、また副都として、日本の古代史上に大きな役割を果たした。昭和29年(1954年)以降長年にわたる発掘調査の結果、前期・後期二時期の難波宮跡が、中央区法円坂一帯の地に残っていることが明らかになった。



法円坂周辺から 東南側 難波宮史跡公園 左端木々の向こうに復元された大極殿基壇が見える 2011. 4. 16.



難波宮史跡公園 東側から 大極殿基壇 並びに西側のビル群 2011. 4. 16.

## 2. 新緑と葉桜が美しい大阪城 御堀端

---





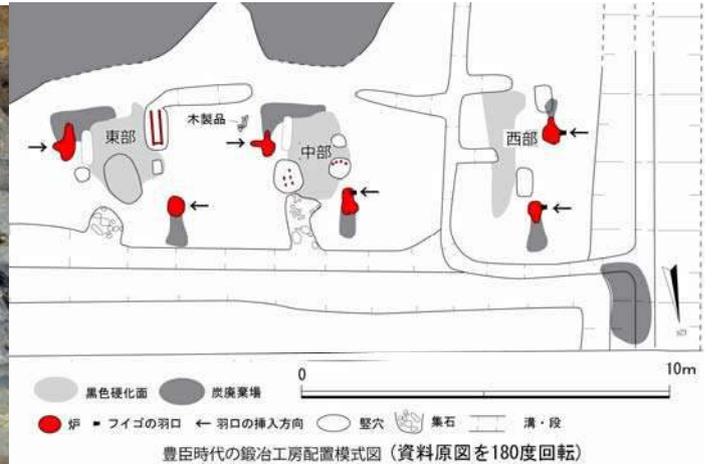
### 3. 桜満開の大川の堤(天満橋から天神橋へ) 八軒家浜界限

大阪城のお堀端の北西角大手町前から北へ坂を下って 大川端の京阪天満橋へ。天満橋・天神橋と大川端を歩いて中島へ。大川端は今は桜満開。 造幣局桜の通り抜けも始まって、天満橋を渡って桜ノ宮へ向かう人の群れが川端から見える。



資料 大阪城南側で豊臣時代の大規模な鍛冶工房を発見

2011. 4. 14. 大阪市 home page イベント・観光 2011. 4. 14. 新着情報 (大阪文化財研究所・大阪歴史博物館) より整理  
<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000121181.html>

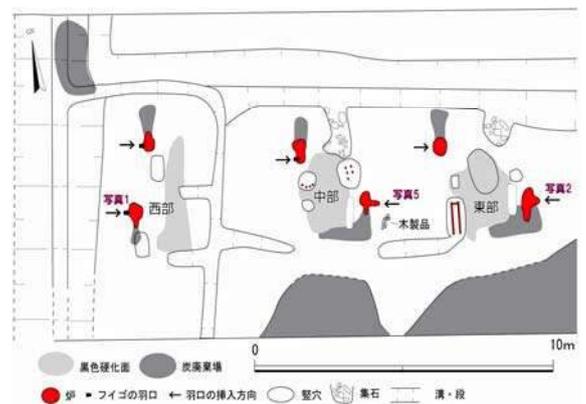
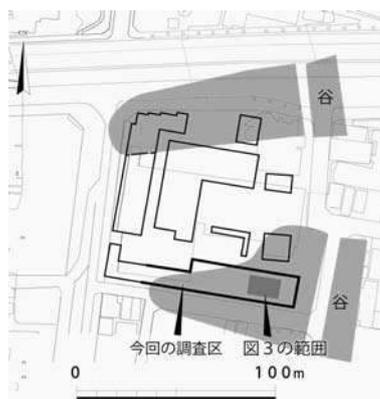


大阪城南側で発見された豊臣時代の大規模な鍛冶工房跡

大阪市教育委員会と財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所は、平成22年6月から中央区森ノ宮中央2丁目で発掘調査を実施しており、今回、大阪城南側で豊臣時代の大規模な鍛冶工房を発見しました。

昨年10月には、調査地北西部でみつかった谷内から前期難波宮の宮殿建物に使われていたと考えられる大量の壁土が出土し、成果を公表したところですが、今回、調査地南部で新たに別の谷がみつき、ここでも豊臣時代を中心とした重要な発見がありました。

(注記：江戸時代以前の大坂を指す場合は大坂としています。)



1. 豊臣氏大坂城と調査地の位置

2. 調査地の位置

3. 豊臣時代の鍛冶工房 配置模式図

調査の概要

調査地南部の調査区で、西から東にのびる谷の北斜面部を検出しました。

この谷は1598年に開始された豊臣期大坂城の三の丸築造に伴うと考えられる大規模な盛土造成によって埋め立てられ、調査区の東側は西側より2m以上低くなっており、この低い東側の平坦地から豊臣後期(1598~1615年)の鉄製品を製造する鍛冶工房が発見されました。

この鍛冶工房は大坂の陣までには廃絶したとみられ、廃絶直後に豊臣後期の盛土で直接埋め戻されていたため、極めて良好な状態で遺存していました。

工房の規模は東西 15m、南北 4~5m あり、内部が東西に並ぶ 3 つのグループ（東部・中部・西部）に分かれています。また、工房の外と考えられる南側に、炭や鉱石の不純物であるスラグ（鉱滓・こうさい）などが廃棄されていました。各グループには鍛冶炉が 2 基ずつあり、合計 6 基あります。

一部の炉には鞆（フイゴ）の羽口が設置された状態で残されており、このことから、鞆（フイゴ）の設置位置や工人の作業空間が想定できる可能性があります。

炉に接した作業空間の周りには複数の竪穴が設けられており、作業穴や水槽と考えられるものもあります。

また、1 基の炉の脇には木製の鋏先とともに、鞆（フイゴ）と羽口をつなぐ送風管と考えられる中をくりぬいた竹筒が置かれていました。



写真 1. 鍛冶工房全景 北側から



写真 2. 東部の一区画 東側から

東西に並んで 3 つのグループに分かれており、人がいる場所がそれぞれ作業空間と考えられる

2 基の鍛冶炉の間に作業空間があり、そのまわりに複数の竪穴が設けられていました。



写真 3. 羽口が設置された鍛冶炉

鍛冶炉の一方に羽口が挿入されており、周囲を年度で、固めて鍛冶炉に固定されていました。



写真 4. 鍛冶炉の横で見つかった竹筒と鋏先

竹筒はフイゴと羽口をつなぐ送風管と考えられ、鋏は未使用であることから、この炉で鋏に装着する刃先を製作していた可能性があります。



写真 5. 水槽と考えられる木枠施設

長さ約 1m 幅 0.2m あり、内部に詰まった砂は赤く発色し、粉末化した鉄が多く含まれているようです。高温の鉄を急冷させて、表面を硬化させる焼き入れに用いた水槽と考えられ、刀などの長い製品を製作した可能性があります。

今回見つかった工房で製作された鉄製品自体は未発見ですが、上述した木製の鋏先は、隣接した竪穴からも出土しており、いずれも未使用であることから、この炉で鋏に装着する刃先を製作した可能性があります。

また、長さ 1m ほどの長方形の木枠施設もみつかり、焼入れ用の水槽と考えられることから、ここで刀などの長い製品を製作していた可能性もあります。現在も調査が進行中ですが、調査区西端の谷頭部分では、16 世紀代の中頃（大坂（石山）本願寺の時期）の礎石建物や大量の瓦が出土しており、寺院に関連する施設があった可能性があります。

## 調査成果の意義

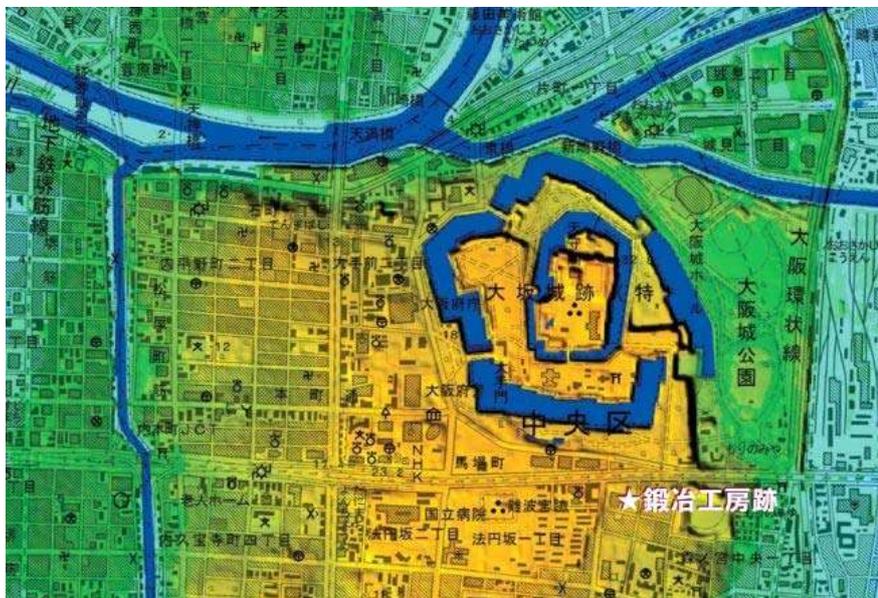
今回の調査では、敷地北側で発見された谷とは別の谷が調査地南部に存在していたことが判明し、豊臣時代後期の鉄製品の鍛冶工房という、重要な遺構が発見されました。工房の遺構は、廃絶直後に埋め戻されたため、極めて残りが良好であり、工房での工人配置や作業工程を解明することができる貴重な資料となります。

また、調査地は大坂城三の丸南部の推定範囲内にあたり、調査地南側の玉造一帯には諸大名の屋敷があったとされます。これまでも三の丸南西部の調査で、豊臣時代の鍛冶炉が発見された事例はありますが、今回のように工房全体の様子がわかる大規模な遺構が発見されたのは初めてです。

鍛冶工房は大坂城内に位置する施設となりますので、豊臣方のいずれかの勢力によって設置されたものであることは明らかですが、目的など詳細は不明です。

鍛冶工房の規模が大きいこと、土木具である鎌の刃先や刀などを製作していた可能性があること、大坂城外郭の軍事的に重要な地点に立地していることなどから、大坂城の普請のために近隣に屋敷を構える大名によって設置された可能性も考えられます。

大阪文化財研究所・大阪歴史博物館資料 大阪市の home page より、4月14日 資料採取し、整理 by Mutsu Nakanishi  
<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000121181.html>



大阪城天守閣



中央大通り



5.

日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊

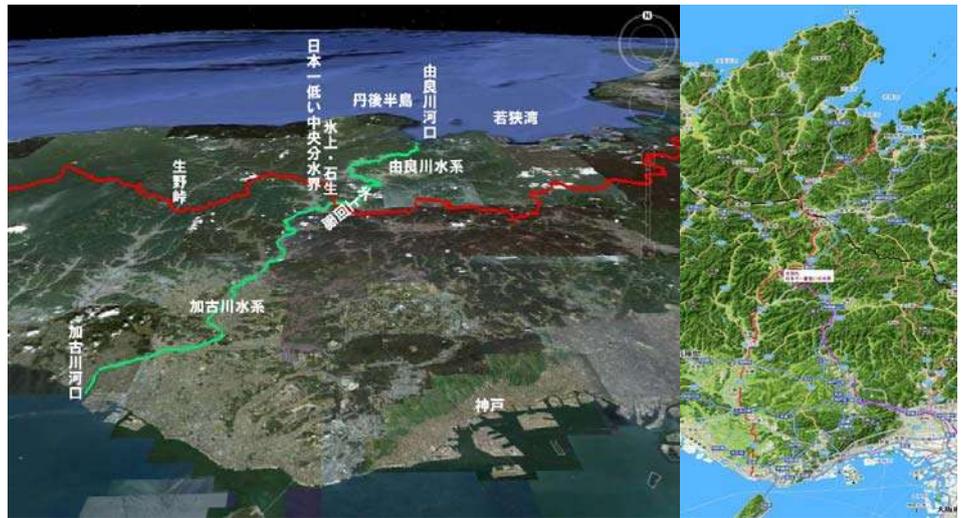
加古川から由良川水系へ 山越のない「水別れ街道」を行く 2011.5.14

古代 大陸・朝鮮半島から日本へ 日本海沿岸から大和を結ぶ鉄の道



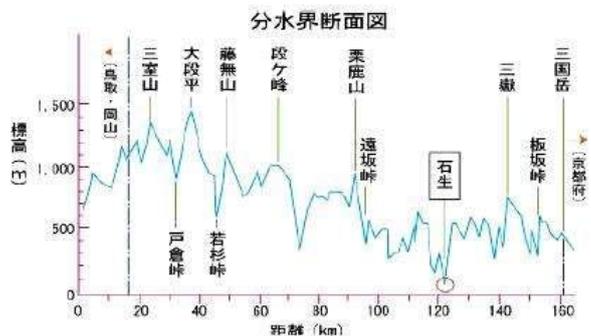
日本一低い中央分水界 丹波市氷上町石生 「水別れ」 2011.5.14.

丹波市氷上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。



日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”日本列島の背骨“中央分水界を容易に越えられるわずか95.4mの標高の氷上回廊は太古の昔から、現在に至るまで 重要な人の交流・交易路であるばかりでなく、数多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

弥生末から古墳時代にかけての日本誕生の黎明の時代 大陸・朝鮮半島の鉄を必要とする卑弥呼邪馬台国・大和初期王権にとって 出雲・妻木晩田・青谷上寺地 そして但馬・丹後と鉄の王国が連なる日本海沿岸へ瀬戸内側から安全・容易に出られるこの氷上回廊は 重要な大陸・朝鮮半島との交流路。瀬戸内海とともに古代の鉄の道をイメージし、何度となく古代の鉄を求めて訪ねた道である。



この4月 書店で「邪馬台国と「鉄の道」-日本の原型を探索する-」という新刊文庫本が目にとまりました。ここにも日本の源流を鉄と結びつけ、氷上回廊を見ている人がいると「鉄の道」の表題に惹かれて読みました。

また、その評価が定まった説ではありませんが、魏志倭人伝に記された北部九州から邪馬台国への道の謎が、

「 朝鮮半島→北部九州から  
山陰日本海沿岸→氷上回廊  
→淡路島→紀ノ川を通過して大和へ 」と

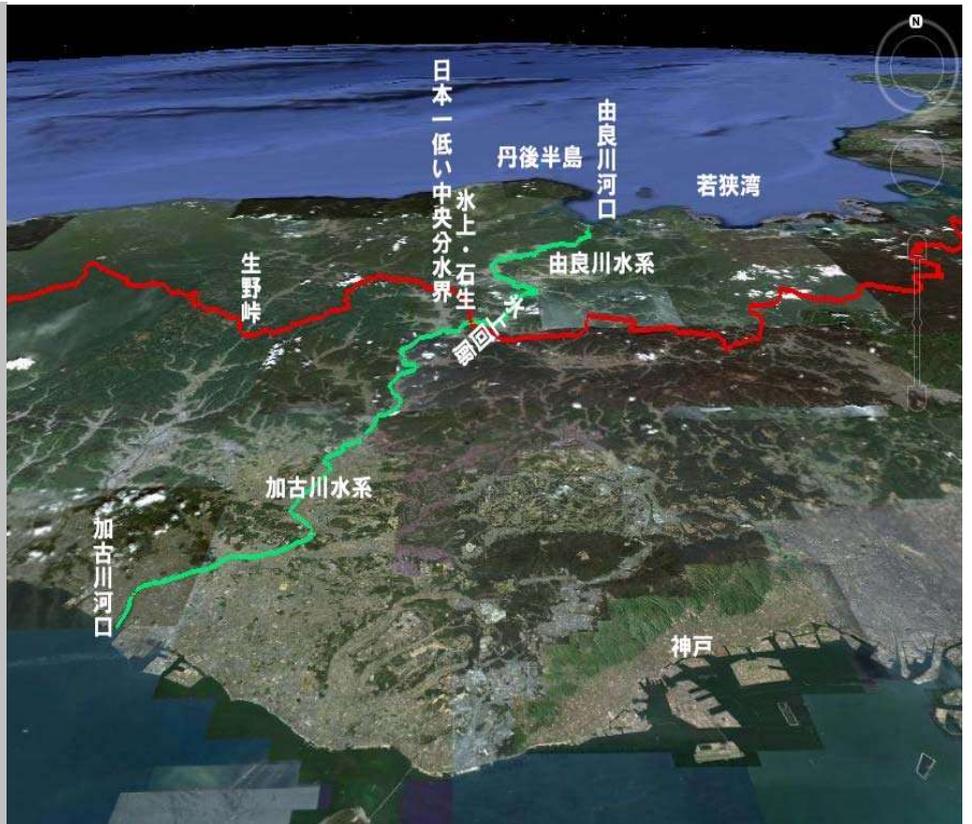
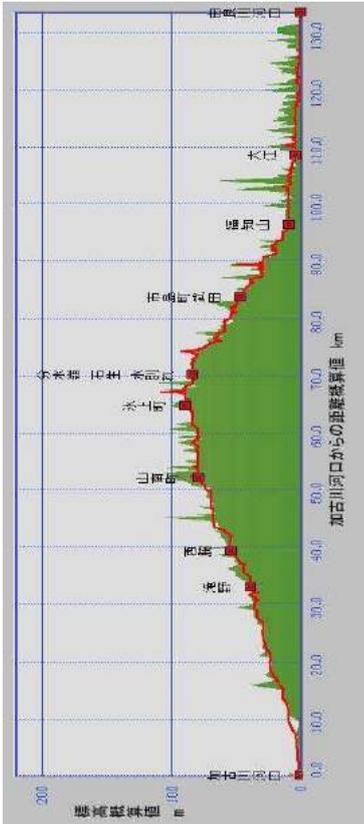
実に明快に謎解きされていました。  
また、この氷上回廊の鉄の道が日本での製鉄の始まりとともに琵琶湖経由の鉄の道へ移ってゆくとの説も新鮮で気に入っています。

何度も通ったことがある氷上回廊周辺ですが、「本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海までゆけるのか??？」

古代 まだ馬がない時代 陸路では平坦さが本当に重要だったろう。

瀬戸内の海路では島が多く 海賊や多くの国々との和睦なしには海路は厳しく、平坦で安全が確保できる日本海沿岸から氷上回廊を通るルートは古代の重要路に違いない。 国土地理院の地図上でねーとをしらべると 本当になだらかな道筋。分水界の低さもさることながら、瀬戸内から山越え・峠越えなしで 日本海へ行けそうである。

これは おもしろそう 是非やってみなければ…



国土地理院の地図での氷上回廊並びに分水界の標高トレース 氷上回廊の面白さが一目

また、尼崎で育った私には摂津の国 武庫川水系を遡って篠山から氷上・水別れを越える道 現在の福知山線が通る道の方に昔から親しみがあり、この道との比較も実際に確認してみたい。

日本で一番低い分水界「水別れ」を直接見たのも随分昔。以前とは全く違う美しい公園に整備されていると聞く。

是非 きっちりと周囲の地形を眺めながら 分水界「水別れ」を越えて氷上回廊を行こうと。

この氷上回廊の中を国道 175 号線が明石から加古川を遡り、丹波市氷上町石生「水別れ」で分水界を越えて由良川水系の竹田川沿いを福知山へ抜け、そのまま由良川の河口の日本海(舞鶴)を結んでいる。

何度もミニバイクや車で走った道である

今まで気にも止めていなかったのですが、今回この国道 175 号線を「水別れ街道」と名づけられていること初めて知りました。また、福知山から西へ由良川に合流する牧川沿いの国道 9 号線を進むと但馬和田山から円山水系の日本海側の豊岡・出石へも容易にたどることができて この氷上回廊は今もに瀬戸内側と日本海を結ぶ重要路である。

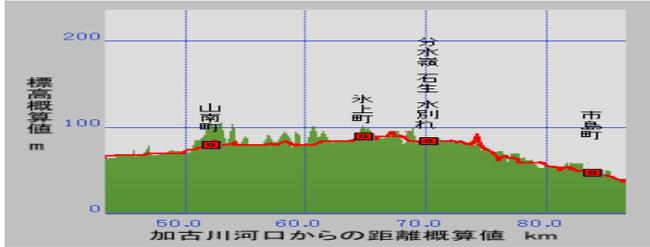
さらに中央分水嶺を挟んで北にある市島町と南側の氷上町が合併して丹波市を形成しているのも、分水嶺が低く合併に抵抗感がなかったためでしょうか・・・珍しいケースです。

地図を見ながら 少し調べはじめると次々と面白いことが出てきて、実に面白い。

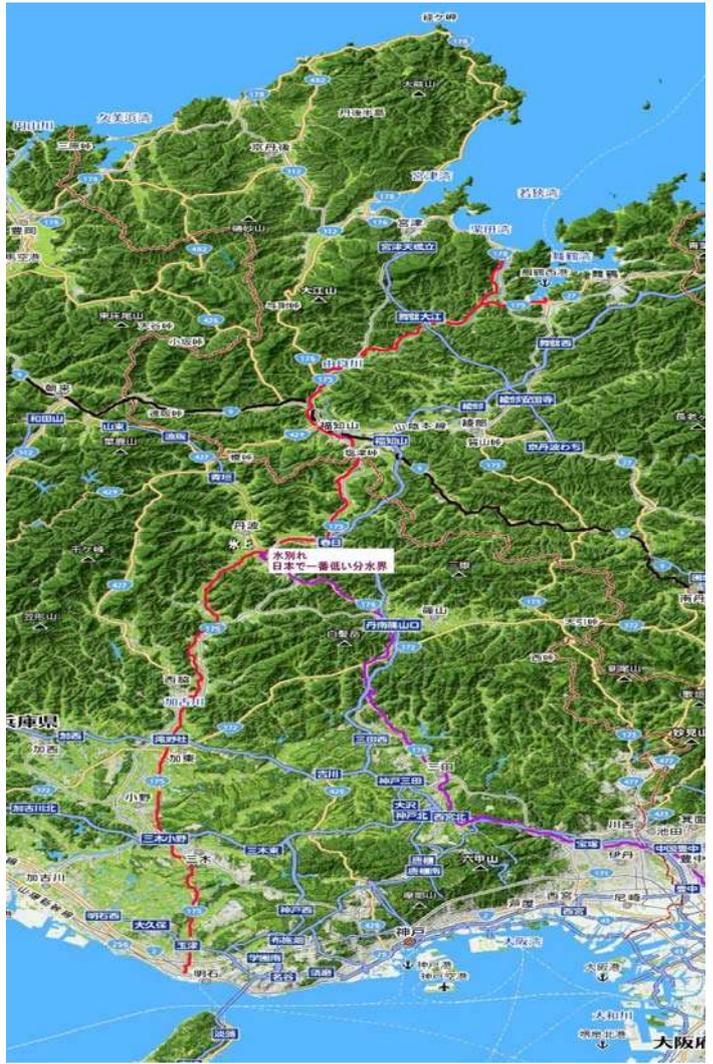
私の好きな青と緑色グラディエーションの美しさにびっくりした「九谷焼 徳田八十吉展」がちょうど篠山立杭の郷 兵庫陶芸美術館で開催されているのに合わせて、

五月晴れの 5 月 14 日朝 本当に山越えなしで瀬戸内側から日本海まで行けるか??」を確かめに

家内と二人神戸を出て 一番の興味「氷上回廊は 新緑の中を流れ下る加古川から由良川へ「水別れ街道[国道 175 号線]」を走りました。



日本で一番低い中央分水界 丹波市氷上町石生「水別れ」  
北側は日本海へ 南側は瀬戸内へと水が別れる



## 2. 【資 料】 氷上回廊 概要 と 古代 氷上回廊周辺の古代遺跡分布

### 1. 氷上回廊 氷上回廊と日本で一番低い分水嶺 丹波市氷上町石生水別れ

風が出会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会い、水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・

丹波市氷上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか95.4mの標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(\*)構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。南下の例としては、日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島諭鶴羽山に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。

このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が出会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。

#### ひょうごの生物多様性ひろば

<http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html> より

氷上回廊は1000～3000m級の山々が連なる本州の内陸部にあって、標高わずか95mで本州を南から北へまたぐことができる兵庫県から京都府の内陸部を南北に貫く細長い低地帯。この特殊な地形によって、雪国と南国の気候が出会い、生命が不思議に入り混じり、豊かな文化と歴史が培われてきました・・・

#### ● 日本海側と太平洋側に大きく分断された川魚たちの世界

氷上回廊の低地帯では、かつて、日本海側へ流れていく川と太平洋側へ流れていく川とが、洪水のたびに入り混じり、北国と南国の二つの世界で進化してきた魚たちが、この入り混じった水の中で頻繁に出会い、相互に広がっていった。氷上回廊を通り抜けて、日本海側と太平洋側の境界線を越えていた。

日本海側の河川にのみに生息するといわれていたヤマメが、太平洋側に生息するアマゴ（ヤマメの近縁種）と混生しているのが見つかった。（丹波市青垣町の佐治川（加古川上流域））

オヤニラミやイトモロコ、ナガレホトケドジョウなどの南方系の魚は北の由良川に、北方系のホトケドジョウやアブラハヤ、ミナミトミヨ（※今は絶滅）などは南の加古川に分布を広げた。

その結果、ホトケドジョウとナガレホトケドジョウ、アブラハヤとタカハヤなど、本来北と南で別々に暮らしていた近縁種同士が同じ河川で共存するとても珍しい水域となっている。

#### ● 陸の生き物たちも、この氷上回廊を南北に駆け抜けてきた。

低地に暮らす植物たちにとって、高い山々に登ることは容易ではありませんが、氷上回廊は、標高100m内外で本州をまたぐことができる低地帯。

太古の昔から、寒冷な氷河期と温暖な間氷期という気候変動を繰り返してきた地球の気候変動のリズムにあわせて、植物たちも、この氷上回廊を北から南へ、南から北へと駆け抜けていた。

氷上回廊を取り巻く地域では、今もなお、南国の森に栄えるカナメモチやリンボク、ヤマモモ、モチツツジなどと、北国の森に栄えるユキグニミツバツツジやカタクリ、エゾエノキなどが豊かに混在しています。

丹波市ホームページ 「氷上回廊」より <http://www.tamba-hikamikairo.com/index.html>

## 2. 【資料】氷上回廊周辺 但馬・丹波・丹後の主要古墳分布図

### 2.1. 氷上回廊周辺 但馬・丹波・丹後の主要古墳分布図

氷上回廊は日本海/瀬戸内を結ぶ重要な交流路

大陸・朝鮮半島と大和を結ぶ重要な交流路であったに違いない

インターネットにあつた資料を集めましたので、時代の異なるものやプロット漏れがあるとおもいます。

古代日本の黎明の時代に氷上回廊周辺から日本海にかけての地域に大きな勢力(国)があり、初期大和王権と大きくかかわっていたことやこの時代に氷上回廊が重要な役割を果たしていたことを示す参考資料とお考えください。



兵庫県の主要全貌後円墳



図26 丹波・丹後の主要古墳の分布  
日本の古代遺跡 京都 I 保育社 刊 より引用作成

丹波・丹後の主要古墳分布



図6 日本海沿岸の大型円墳(直径約50m以上)  
(丹波) 1. 私有円山 5. 新宮 (丹波) 2. 粟土山 3. 瀬江大塚 4. 城谷第1号  
(但馬) 6. 茶すり山 7. 茶臼山 (但馬) 8. 大塚大塚1号 (但馬) 9. 鏡山山17号  
(畿内) 10. 向山1号 11. 栗山 12. 天神山7号 13. 夢成寺山 14. 免鳥山  
(畿内) 15. 南大塚 16. 水白山 (畿内) 17. 熊尾塚

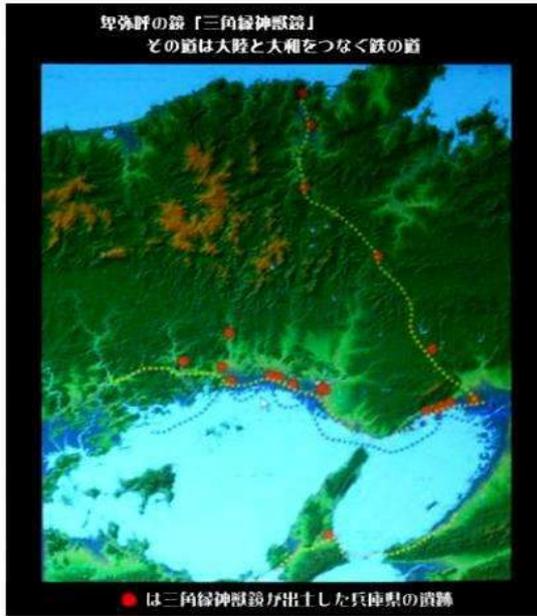
日本海沿岸の大型円墳



### 丹波・丹後・但馬の 主要古墳 概略図

京都府側・兵庫県側の2つの資料を  
合成しました

2.2. 但馬・丹後は古代鉄の王国 そして 水上回廊は日本海沿岸と瀬戸内・大和を結び古代の鉄の道



少々 こじつけ気味であるが、兵庫県で出土した三角緑神獣鏡の出土地を点でつなぐと、畿内攝津の尼崎から大阪湾神戸を播磨へ抜けてゆく重要路 瀬戸内海の道筋と丹波・但馬を抜け、日本海をたどる道筋が見えてくる。  
特に 丹波・但馬・因幡とつなぐ道は、数多くの渡来人・製鉄鍛冶の歴史を刻む鉄の道。この鉄の道の存在が大和王権を作った吉備・出雲・大和を結び付けたに違いないと考えている。

和鉄の道 2007年1月

「神戸市内出土の三角緑神獣鏡の足跡が語る古墳時代の鉄の道」より



鉄の生産地を示す「金屋」系統・湯凝系統・鉄の輸送路を示す湯浦(由良)系統の地名を気がついたら近畿地方の地図に落とす  
鉄の道 マップ

見事に由良川=加古川=淡路島=紀ノ川ラインに乗る  
小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より

【弥生時代 鉄製品が出土した丹後の遺跡】

邪馬台国大研究・ホームページ / 丹後半島の歴史 / 遠所遺跡遠所遺跡より

[http://inoues.net/tango/enjyo\\_iseki.html](http://inoues.net/tango/enjyo_iseki.html)



番号	遺跡名	所在地	遺跡の種類	時期	面積 m <sup>2</sup>	長さ m	幅 m	高さ m	出土品	備考	その他		
1	田中遺跡	福山町	集落	前期-中期							1		
2	田中下遺跡	神保町	集落	中期	1	2					2		
3	田中上遺跡	中津町	集落	中期	3	1			1	2	35	75	117
4	田中下遺跡	福山町	集落	中期	2	1						5	
5	田中上遺跡	加古川町	集落	中期	8	1						9	
6	神保遺跡	神保町	集落	中期								3	2
7	大石遺跡	大石町	集落	中期	1							1	
8	大石遺跡	内務町	集落	前期-中期	1	4	9	1				15	
9	加古川遺跡	加古川町	集落	中期	1							1	
10	加古川遺跡	加古川町	集落	中期	10	5	2					18	
11	加古川遺跡	加古川町	集落	前期-中期	1	2	1	25	10	4		43	
12	中津遺跡	大津町	集落	前期	2	7	1					8	
13	大石遺跡	加古川町	集落	前期	15	6	1			1	8	31	
14	大石遺跡	福山町	集落	前期	6	9	4	1				2	18
15	大石遺跡	加古川町	集落	前期	2							2	
16	大石遺跡	加古川町	集落	前期	3	1	2					3	
17	大石遺跡	加古川町	集落	前期	3	1	1					4	
18	大石遺跡	福山町	集落	前期	2	1	2					16	
19	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	5	1	1			1		7	
20	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	5	1	1					7	
21	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1	2						3	
22	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1	1						3	
23	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1							1	
24	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1	2	11	1	4			19	
25	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1							1	
26	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1	1						2	
27	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	2							2	
28	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1							1	
29	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1							1	
30	加古川遺跡	加古川町	集落	前期	1	1						2	

【但馬・出石 砂鉄を副葬していた入佐山 3号墳】

【但馬の大王の墓 和田山 茶すり山古墳(巨大円墳)】

和鉄の道 コウノトリが結ぶ古代和鉄の道 但馬 出石・豊岡より



### 3. 新緑の加古川から由良川へ 氷上回廊を南北に走る水別れ街道 [国道175号線] を行く スナップ 「氷上回廊を通れば 本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海までゆけるのか??」



#### 1. 陶芸の里 立杭で「九谷焼 徳田八十吉展」を見た後、篠山から国道176号線[デカンショ街道]で丹波市氷上町へ



篠山から直接氷上回廊の氷上盆地に入るには鐘ヶ坂の峠越えが必要だった 2011.5.14.

篠山から加古川に合流する篠山川沿いを西に山南に下れば、氷上回廊に入れるが、大きなロスになる

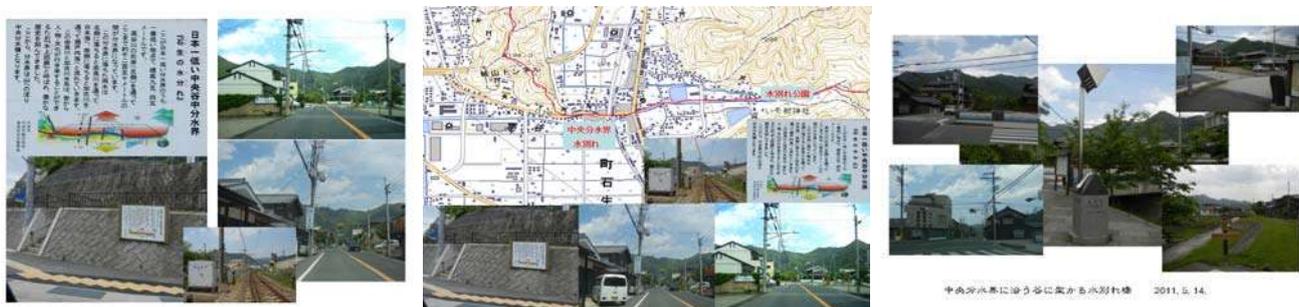
#### 2. 加古川が氷上盆地から南へ流れ出る盆地南端部にて、南から氷上回廊を登ってきた水別れ街道 175号線に出る この加古川の土手周辺に広がる田圃では5月の休みが過ぎ、田植えが始まっていました 丹波市氷上町新郷



周囲を緑に包まれた山に囲まれた氷上盆地の田圃の中をゆったりと加古川が南へ流れ下っていました 田圃では田に水が入り、田植えの真っ最中 そんな中に レンゲ畑が加古川の土手まで続いていました

#### 3. 日本一標高の低い中央分水界 丹波市氷上町石生「水別れ」

氷上回廊はこの水別れの分水界を越えて 北の由良川水系の地域を日本海までなだらかに下ってゆく





街の中を日本一低い分水界が走る丹波市氷上町石生 ここが分水界だととても思えない  
 丹波市氷上町石生水別れ この谷川が分水界の上を走る 左側が日本海側 右側が瀬戸内側



水別れ橋から 水別れ公園方面 谷川沿いの下ってきた道が分水界

水別れ橋から 分水界を越えて 北への道 275号線(旧道)

東西に走る中央分水界を形成する東の丹波山地と西の中国山地  
 その尾根筋の切れ目が 氷上町石生 水別れ公園 水が二手に分かれる

丹波市氷上町石生水別れ 分水界を越えた北側の街道筋



日本で一番低い分水界 水別れ

氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.

4. 水別れの分水嶺を越えて 北側 由良川水系竹田川が流れる丹波市市島町へ 北へ流れる竹田川を見る  
丹波市は中央分水嶺を越えて 表日本・裏日本両方に広がる珍しい街



分水嶺の山々を眺めながら、田園地帯を北へ 春日町から市島町へ 2011.5.14.



竹田川は間違いないと北へ流れている 2011.5.14.  
加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。  
市島町支所まで行って、一軒を借りて、川の流れの写真を撮って引き返そう



市島町を北に流れ下り、由良川に合流する竹田川 2011.5.14.  
竹田川は間違いないと北へ流れている  
加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。

石生の街をぬけ、分水嶺の山々を眺めながら 少し下っていると感じながら北へ  
春日の街並みを抜けると広い田園地帯が広がる市島町 竹田川がゆっくりと北へ下っていく姿が見えました



行く手に竹田川が見え、間違いないと北へ流れている 2011.5.14.



丹波市市島町 白毫寺 大仏殿 2011.5.14.



丹波市市島町 白毫寺 大仏殿 2011.5.14.

市島町を北に走る水別れ街道から少し西へ 分水嶺の山並みに痴れたところに九尺の藤で有名な古刹 白毫寺  
ちょうど満開で ほのかな花の香がただよう淡い紫の花に顔を突っ込む

5. 由良川に合流する竹田川が北に注ぐのを確認して、水別れ街道を明石までまっすぐ氷上回廊の中を引き返す  
氷上回廊はすごい回廊 やっぱり 瀬戸内から日本海まで 高い山越え・峠越えはまったくなし  
古代 大陸と大和を結ぶ鉄の道の本街道 卑弥呼の道だったのかもしれない



加古川の土手に戻ってきて、 まっすぐ加古川に沿って南へ 水別れ街道を下る



黒田の庄 西陽岡辺で



2011.5.14.



山間を抜け、広大な播磨平野をまっすぐ南へ 社町周辺 2011.5.14.

加古川の土手を南へ山間地をぬけると広い播磨平野  
古代 大陸と大和を結ぶ鉄の道の本街道  
卑弥呼の道だったのかもしれない

氷上回廊はすごい回廊 やっぱり 瀬戸内から日本海まで 高い山越え・峠越えはまったくありませんでした

「氷上回廊を通れば 本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海無でゆけるのか???」 氷上回廊の謎解きの Walk もこれで完了

日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊

### 3. [まとめ] 加古川水系域から由良川水系域へ 山越・峠越のない「水別れ街道」に行く

風が出会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会う  
水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・



丹波市氷上町石生の「水分(みわか)れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか 95.4m の標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(\*)構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。

南下の例としては日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島諭鶴羽山に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が出会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。

ひょうごの生物多様性ひろば

<http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html> より



本当に氷上回廊を通れば 瀬戸内海から日本海まで、山越えの峠通らずに行けるのか????

これを確認したくて、氷上回廊を走る水別れ街道を走りました。

新緑に包まれた陶芸の郷で 素晴らしい九谷の陶芸展を見て、水別れ街道を走る山々は新緑に包まれ、街道筋の田圃には水が入り、田植えが始まりました。また、一面ピンクのレンゲ畑も。

そんな中を日本で一番低い分水界から 北に由良川に流れ込む竹田川南へ加古川がゆったりと流れ下っていました。

今でないと見られぬ春から初夏へと移り変わる季節の素晴らしい田園風景でした



1. この氷上回廊に行く水別れ街道は 日本海まで 本当に山越え峠がありませんでした
2. 加古川水系と由良川水系の分水界 日本で一番低い分水界 氷上町石生の「水別れ」  
久しぶりでしたが、美しい公園に整備され、水の流れの分水には作られた分水の感じがしましたが、分水界を越える道にしゃがんで見通すとここが分水界と判る。( 国道176号線が国道175号線にひきつがれる水別れ橋で )
3. もう一つ 「武庫川水系の篠山から山越えなしに水別れの分水界を直接越えられる」と思っていました、篠山盆地と氷上盆地の間の鐘ヶ坂の山越えがありました。

氷上回廊を通して、福知山に出ると由良川を下って丹後の日本海に出られる。

また、福知山から 西に国道9号線の道を取れば、大きな峠を越えることなく和田山から但馬の 中心を日本海に流れ下る円山川に出られる。

氷上回廊は大きな山越・峠越なく、瀬戸内海と日本海側の但馬・丹後をつなぐ道であること確認。 太古からの動植物移動の重要路 古代 大陸と倭を結ぶ「和鉄の道」 「卑弥呼の道」 そして 今も 国道175号線が走る地域交通の要である



# 氷上回廊

【スライド写真集】

加古川から由良川水系へ 山越のない「水別れ街道」を行く 2011.5.14

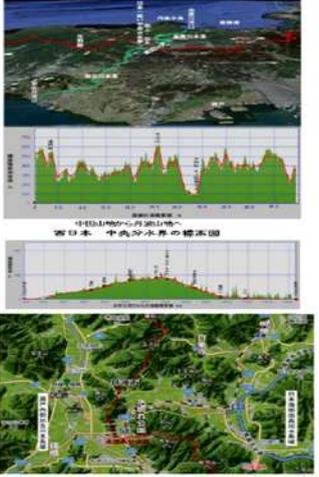
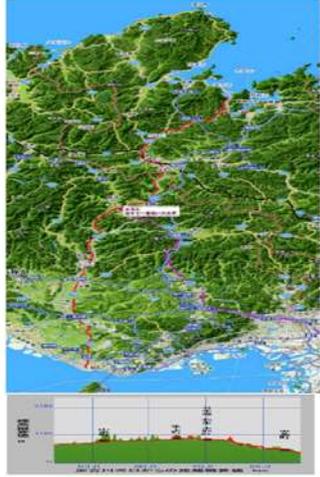
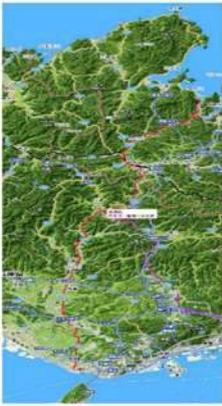
古代 大陸・朝鮮半島から日本へ 日本海沿岸から大和を結ぶ鉄の道

Iron Road [11] 2011

日本で一番低い分水界「水別れ」を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊

加古川から由良川水系へ 山越のない「水別れ街道」を行く 2011.5.14.

古代 大陸・朝鮮半島から日本へ 日本海沿岸から大和を結ぶ鉄の道



**氷上回廊は日本海/瀬戸内を結ぶ重要な交通路**  
大陸・朝鮮半島と大和を結ぶ重要な交通路で新たに建ちたい

インターネットからの資料などから集めたもので、時代が異なるものやプロット漏れなどがありますので、ご容赦ください。古代日本の影響の時代は氷上回廊周辺から日本海にかけて この地域に大きな勢力圏があり、朝鮮大和と大きくかかわっていたこと。そして、その重要な役割を氷上回廊が果たす参考資料とお考え下さい。

**丹波・丹後・但馬の主要古墳 概略図**

**【 氷上回廊は古代の鉄の道 但馬・丹後は古代の鉄の王国 】**

鉄製品が出土した 丹後の遺跡

遺跡名	所在地	出土品	年代
...	...	...	...

但馬・出石 砂鉄を彫磨していた入流山3歩壇 [方墳] 和田山 但馬の大王の墓 [巨大方墳]

茶すり山古墳

本年4月 小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」に出会う  
大陸から 北部九州-日本海沿岸-氷上回廊-淡路-紀ノ川-大和へ  
魏志倭人伝に記された邪馬台国への道 との提案に共感

知っているようで良く知らぬ 鉄の道としての氷上回廊  
日本一低い分水界 氷上町石生「水別れ」を歩きました

**「邪馬台国と鉄の道」**

魏志倭人伝に記された邪馬台国への道

魏志倭人伝に記された邪馬台国への道

魏志倭人伝に記された邪馬台国への道

日本で一番低い分水界「水別れ」を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊  
加古川水系域から由良川水系へ 山越・峠越のない「水別れ街道」を行く

日本一低い中央分水界 丹波市氷上町石生「水別れ」 2011.5.14

**瀬戸内海と山陰を結ぶ日本一低い中央分水界越**  
太古からの重要路 氷上回廊を行く  
加古川に沿って北上し、由良川水系を結ぶ国道175号水別れ街道  
最高標高95mの分水界 氷上・石生 水別れ公園

2011.5.14

瀬戸内海と山陰を結ぶ日本一低い中央分水界越の回廊 氷上回廊は太古から西日本の動植物にとって 気候変動の克服のため、表・裏日本を移動する重要路。この氷上回廊周辺には回廊を通過した数多くの 動植物の分布が今も見られる。小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」ではこの「氷上回廊」が魏志倭人伝に 記載された古代倭と中国との交通路「卑弥呼の道」と提案する。 かつてより ぼんやり抱いてきた「古代の和鉄の道」のイメージが学者によって表裏日本に提案された。 何度も出かけたところのある地域であるが、これを機会に この氷上回廊が「本当に山・峠越のない平坦な回廊なのか？」確かめようと 5月14日 水別れ公園周辺へ出かけました。

日本一低い中央分水界 氷上・石生

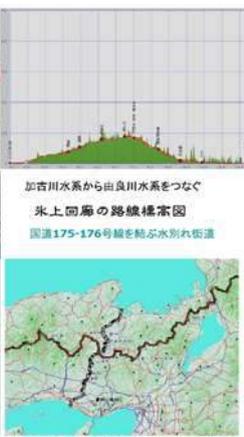
由良川水系

加古川水系

加古川・由良川を結ぶ 国道175号線 水別れ街道  
太古からの動植物移動の重要路  
氷上回廊



中国山地から丹波山地へ  
西日本 中央分水界の標高図



中国山地から丹波山地へ 中央分水界



分水嶺の北 市島町を北から南へ流れる由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



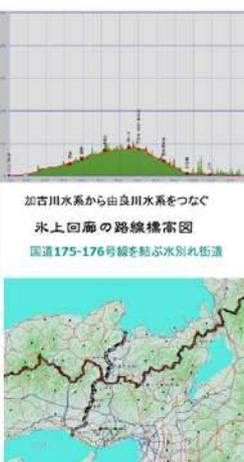
分水嶺の南 米上を北から南へ流れる加古川 丹波市米上町新郷 鉄橋で 2011.5.8.



分水嶺の南 米上を北から南へ流れる加古川 丹波市米上町新郷 鉄橋で 2011.5.8.



中国山地から丹波山地へ  
西日本 中央分水界の標高図



中国山地から丹波山地へ 中央分水界



分水嶺の北 市島町を北から南へ流れる由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



分水嶺の南 米上を北から南へ流れる加古川 丹波市米上町新郷 鉄橋で 2011.5.8.

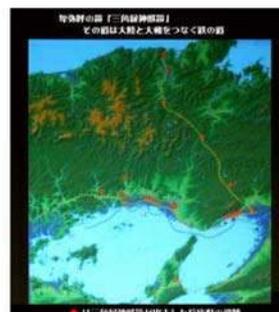


分水嶺の南 米上を北から南へ流れる加古川 丹波市米上町新郷 鉄橋で 2011.5.8.



魏使は日本海側から邪馬台国・大和へ 古代の動脈 由良川＝加古川ライン  
由良川を南に遡上し、支流の土師川・竹田川・黒井川を経て、加古川上流に出ると後は加古川を下るだけ。一度の山登りも経験することなく瀬戸内に出られる。わずかな高低95メートルの峠「いつ越えたかわからぬ」日本一低い分水嶺が一つあるだけである。

小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より



少々 こじつけ気味であるが、高塚塚で出土した三角縁神鏡の出土地を産地と見なすと、畿内福原の花輪から大原河内神井を産地へ抜けてゆく重要路、瀬戸内海の連絡と丹波・備前を駆け、日本海をたどる道筋が見えてくる。特に、丹波・包馬・国津とつなぐ道は、数多くの渡来人・製鉄師達の往来を助けた道。この鉄道の存在が大和と支那をつなぐ西暦・出雲・大和を結び付けたに違いないと考えている。

和鉄の道 2007年1月  
「神戸市内出土の三角縁神鏡の産地が古墳時代の鉄の道」より

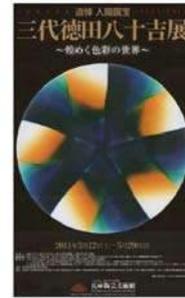


鉄の道 マップ  
鉄の生産地を示す「金屋」系統・湯屋系統・鉄の輸送路を示す湯屋(由良川)系統の地名を羅列しただけ近畿地方の地図に落とす。見事に由良川＝加古川＝淡路島＝紀ノ川ラインに乗る。

小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より



新緑の中に埋もれる陶苺の里 立杭 2011.5.14.



光る炆 人間国宝 三代徳田八十吉展 煌めく色彩の世界  
篠山市立杭 兵庫陶芸美術館 2011.5.14.



デカンショ街道 国境176号線 篠山口駅前 2011.5.14.



武庫川水系の篠山から直接加古川水系の氷上盆地に入る176号線デカンショ街道では鐘ヶ坂の山越が必要。 2011.5.14.

かつて考えたこの駅の遺は鐘ヶ坂の山越えが必要だった

または、篠山から、加古川に合流する篠山川沿いを西に下って山南に出れば、山越えせず氷上盆地に入れる



デカンショ街道 176号柏原駅付近

柏原駅のすぐ北で そのまままっすぐ進めば分水嶺の石生へ出れるが、左に折れて、盆地の西端を流れる加古川岸から「国道175線水別れ街道」にて分水嶺石生へ向かう



加古川へ向かって西へ 加古川に架かる錦橋手前の氷上町稲畑周辺

2011.5.14.



5月の連休が明け 田植えが始まった 丹波・氷上の里で 2011.5.14.



レンゲ満開の加古川西岸土手下の田圃 丹波・氷上町新郷の里で 2011.5.14.



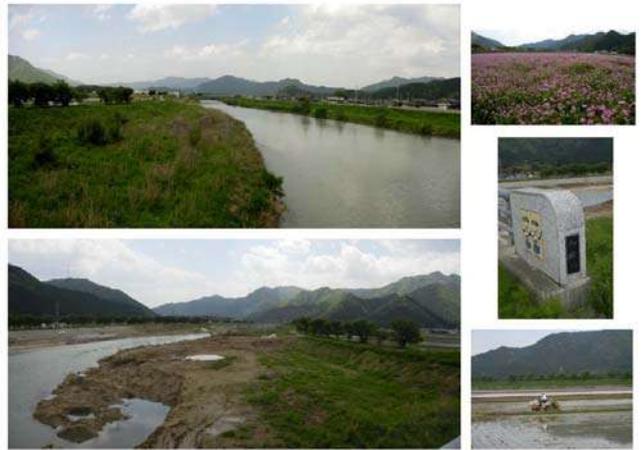
レンゲ溪原のか古川西岸 土手下の田圃 丹波・氷上町新郷の里で 2011.5.14.



レンゲ 丹波・氷上 新郷のか古川西岸で 2011.5.14.



5月の連休が明け 田植えが始まった 丹波・氷上の里で 2011.5.14.



丹波市氷上町 錦橋から眺めたか古川 上流側 下流側 2011.5.14.



か古川東岸を北の分水界 石生へ 2011.5.14.  
水別れ街道 国道175号線 氷上・稲畑周辺



か古川に合流する柏原川の合流点で東へ折れて  
柏原川に架かる稲畑橋を渡ると西日本の中央分水界石生



石生周辺 国道175号線はまっすぐ陸橋から分水界 越山トンネルへ  
日本一低い石生の分水界は陸橋の右側奥 陸橋を左から右へ滑る  
正面 越山の裏側が由良川水系 手前がか古川水系である





中央分水界に浴う谷に架かる水別れ橋 2011. 5. 14.





氷上町石生・水別れ公園 2011.5.14.



水別れ公園にある日本一低い中央分水嶺の概説案内板



日本で一番低い分水界 水別れ 氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.



日本で一番低い分水界 水別れ 氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.



水別れ公園から谷川ぞいの分水界に沿って水別れ橋まで戻り 北へ折れて由良川に合流する竹田川流域を訪ねて市島町へ 2011.5.14.



水別れ橋から 水別れ公園方面 谷川沿いの下ってきた道が分水界



水別れ橋から 分水界を越えて 北への道 275号線(旧道)



橋樑より南側  
分水嶺の北 市島町を北から南へ流れ下る由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水嶺 日本一低い分水嶺 米上町 水別れ公園



橋樑より南側  
分水嶺の南 米上を北から南へ流れ下るか古川 丹波市米上町新柳 緑橋で 2011.5.8.



分水界の山々を眺めながら、田園地帯を北へ 春日町から市島町へ 2011.5.14.



行く手に竹田川が見え、間違いない北へ流れている 2011.5.14.



竹田川は間違いない北へ流れている 2011.5.14.  
加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。  
市島町支所まで行って、橋を探して、川の流れの写真を撮って引き返そう



前方に「白毫寺」の案内標識 「九尺の藤」で有名で 今満開 白毫寺に立ち寄る



丹波市市島町 白毫寺 九尺藤 2011.5.14.



丹波市市島町 白毫寺 九尺藤 2011.5.14.



市島町を北に流れ下り、由良川に合流する竹田川 2011.5.14.

竹田川は間違いない北へ流れている  
加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。



柳橋より南側



柳橋より北側

分水嶺の北 市島町を北から南へ流れ下る由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水界 日本一低い分水嶺 氷上町 水別れ公園



錦橋より南側



錦橋より北側

分水嶺の南 氷上を北から南へ流れ下る加古川 丹波市氷上町新郷 錦橋で 2011.5.8.



市島からまた、水別れ街道を南へ 分水界を越えて 氷上 2011.5.14.



加古川の土手に戻ってきて、 まっすぐ加古川に沿って南へ 水別れ街道を下る



氷上から 加古川に沿って 篠山への分岐 山南町へ 2011.5.14.



黒田の庄 西尾周辺で 2011.5.14.



山間を抜け、広大な播磨平野をまっすぐ南へ 社町周辺 2011.5.14.

本当に氷上回廊を通れば 瀬戸内海から日本海まで、山越えの峠通らずにゆけるのか????  
 これを確認したくて、氷上回廊を走る水別れ街道を走りました

日本一低い分水界  
 中氷 若狭湾  
 由良川 河口  
 野峠 界生 水

新緑に包まれた陶芸の郷で 素晴らしい丸谷の陶芸展を見て、水別れ街道を走る山々は新緑に包まれ、街道筋の田圃には水が入り、田植えが始っていました。 また、一面ピンクのレンゲ畑も。そんな中を 日本で一番低い分水界から 北に由良川に流れ込む竹田川 南へ加古川がゆったりと流れ下っていました

今でないと見られぬ春から初夏へと移り変わる季節の素晴らしい田圃風景でした

- この氷上回廊に行く水別れ街道は 日本海まで 本当に山越え峠がありませんでした
- 加古川水系と由良川水系の分水界 日本で一番低い分水界 氷上町石生の「水別れ」 久しぶりでしたが、美しい公園に整備され、水の流れの分水には作られた分水の感じがしましたが、分水界を越える道にしゃがんで見通すとここが分水界と判る。  
(国道176号線が国道175号線にひきつがれる水別れ橋で)
- もう一つ「武庫川水系の篠山から山越えなしに水別れの分水界を直接越えられる」と思っていました、篠山盆地と氷上盆地の間の鐘ヶ坂の山越えがありました。

氷上回廊を通して、福知山に出ると由良川を下って丹後の日本海に出られる。  
 また、福知山から 西に国道9号線の道を取れば、大きな峠を越えることなく和田山から但馬の中心を日本海に流れ下る円山川に出られる。

神戸

氷上回廊は大きな山越・峠越なく、瀬戸内海と日本海側の但馬・丹後をつなぐ道であること確認。  
 太古からの動植物移動の重要路 古代 大陸と倭を結ぶ「和鉄の道」「卑弥呼の道」  
 そして 今も 国道175号線が走る地域交通の要である

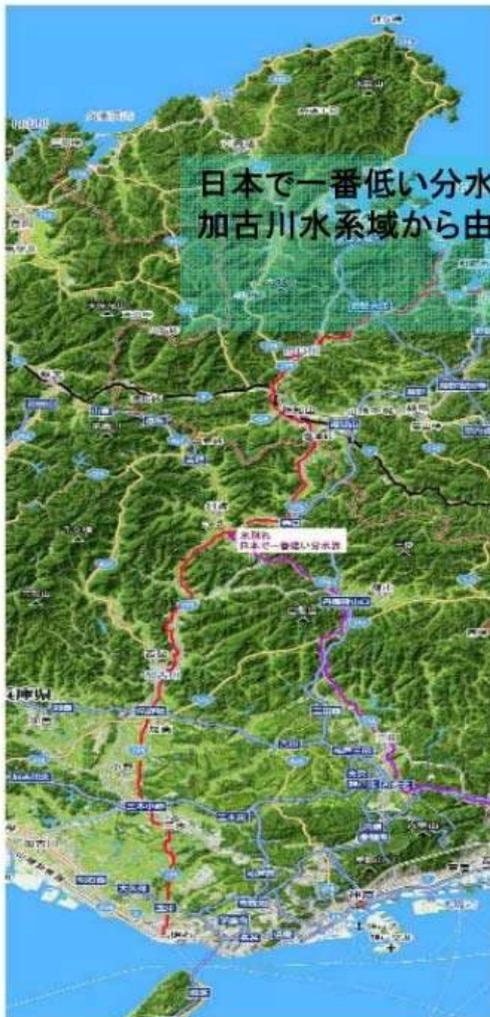


参考資料 和鉄の道 より

1. 古代鉄の王国 丹後 天女の通った道は和鉄の道 羽衣伝説
2. 丹後国 もうひとつの邪馬台国 大陸と日本を結ぶ鉄の大加工基地 遠所製鉄遺跡
3. コウノトリが大陸と日本を結ぶ古代和鉄の道 「古代 和鉄の郷但馬 出石」
4. 古代 神戸の「鉄」を訪ねて 神戸にも製鉄遺跡があった 神戸市内の「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」
6. 古代 大和への道【4】 紀ノ川水系【2】 古代「紀路」紀ノ川の流れてに沿って大和へ Country Walk

ほか

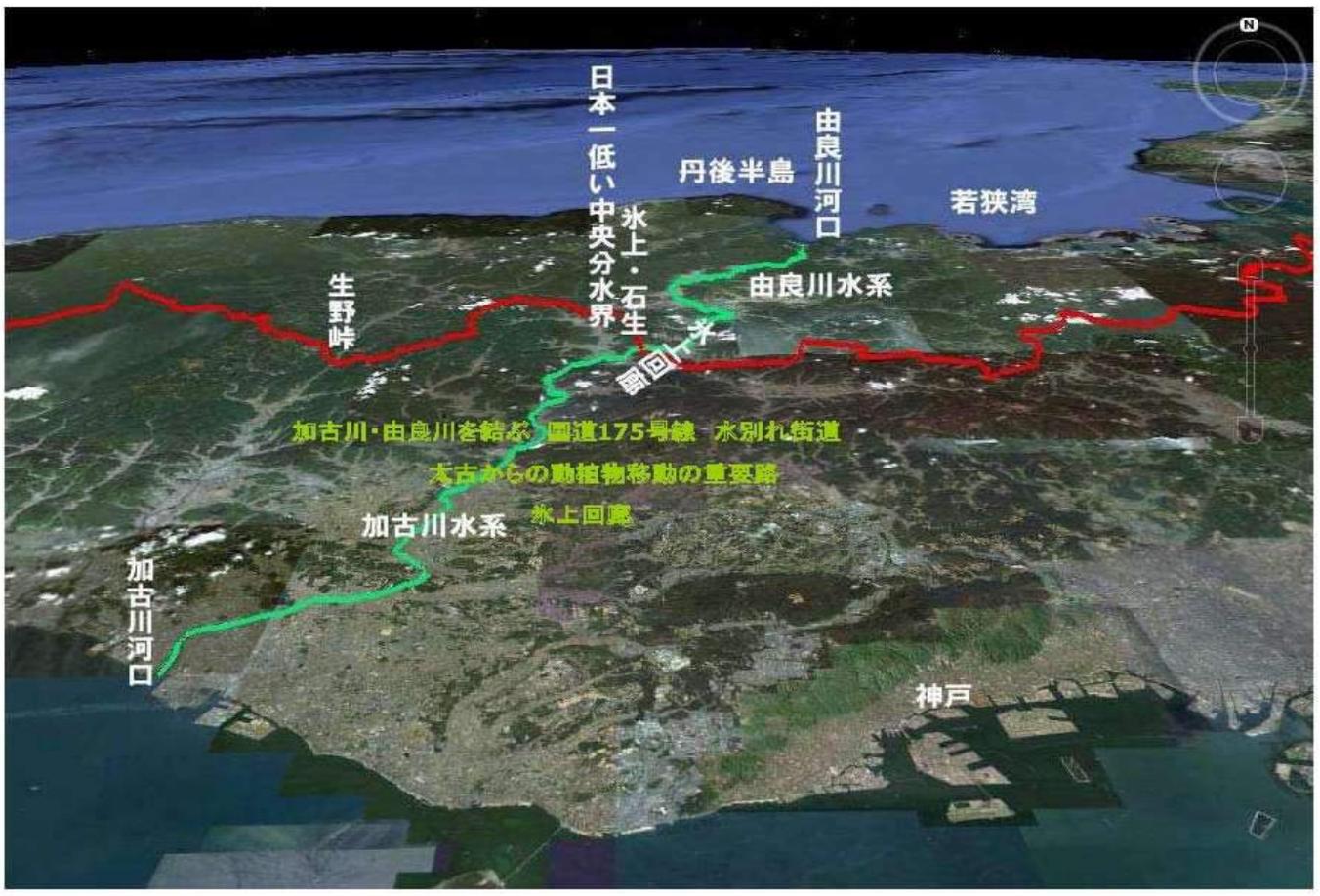




日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊  
 加古川水系域から由良川水系域へ 山越・峠越のない「水別れ街道」を行く

風が出会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会う  
 水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・

丹波市氷上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。  
 中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか95.4mの標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。  
 例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(\*)構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。南下の例としては、日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島淡路鶴羽山に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。  
 このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が出会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。  
 ひょうごの生物多様性ひろば <http://www.pref.hyogo.lg.jp/hyogo/biodiversity/index.html> より



6

神戸でも北の縄文と交流 遮光器土偶[部分]が出土した 神戸篠原遺跡

縄文後期・晩期には 関西にも日本列島をつなぐ広い縄文交流路がつながっていた

2011.5.13. by Mutsu Nakanishi



神戸市内 六甲の山裾の縄文遺跡 篠原遺跡から出土した縄文土器片と遮光器土偶

西神戸 神戸市埋蔵文化財センター企画展、「神戸古代史探検—縄文から古墳時代へ—」で 2011.5.3.

5月3日 ぶらっと次の歴史講演会の予定をチェックしようと西神戸ニュータウンにある神戸埋蔵文化財センターを覗くと、「神戸古代史探検—縄文から古墳時代へ—」を開催中でした。

思いもかけず、縄文晩期[3000年前]の篠原遺跡から遮光器土偶(部分)がほかの東北系縄文土器片と共に展示してあるのを見ました。東北津軽の亀ヶ岡文化を代表する遮光器土偶がなんで神戸で…。それも神戸六甲のすぐ下の市街地で????。

余り良く知らなかった神戸の縄文時代。急峻な六甲から流れ出る川が作る山裾の扇状地周辺の森に縄文早期から、数多くの縄文人が暮らしていた。

現在はいずれも神戸の中心市街地ですが、山裾に長田・生田・そして篠原・岡本へと数多くの縄文遺跡が点在する。

また、神戸三宮駅のすぐ東 雲井遺跡からは縄文早期の土器片が出ている。そして六甲・摩耶山のすぐ下 六甲川と杣谷川が合流して都賀川となる合流点付近 現在の阪急六甲の西側の「篠原縄文遺跡」から遮光器土偶や縄文土器片 石棒等が出土した。

いずれも 東日本系の出土品だという。

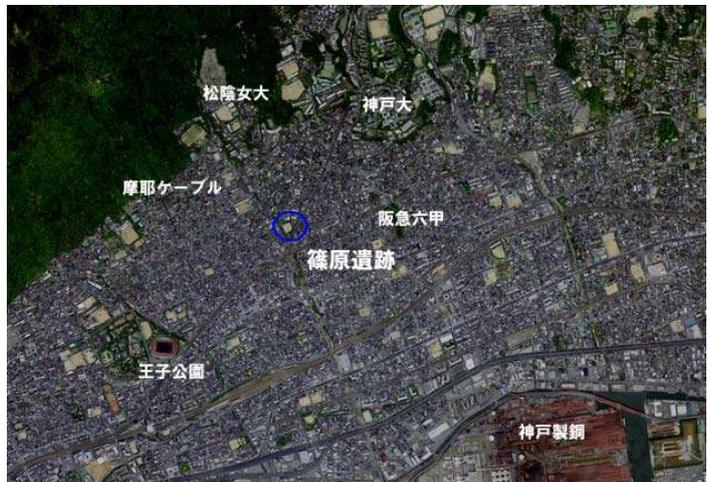
縄文の交易という翡翠・黒曜石・サヌカイトなどの流通にかかわる日本海・瀬戸内の交流路のイメージが強いのですが、津軽の遮光器土偶が神戸で出土しているとは。。。。。

学芸員の人に聞くと

「この遮光器土偶は出土の状況から、間違いなく東日本で作られた土偶で、神戸での出土は遮光器土偶の最西端だ。」



篠原遺跡 出土 縄文晩期の石棒



また、なぜ 神戸で出土したのか どんな交流があったのかはよく判らない」と聞きました。

夢にも思えない東北を代表する遮光器土偶の神戸での出土。それも 本当に身近な神戸の市街地の遺跡で・・・・・・。  
もう びっくり。 今さらですが、本当に縄文時代 日本列島全域をつなぐ広い交流があったのだと思います。



神戸市内から出土した縄文時代の遺物



縄文後期 生田遺跡出土土偶部分

西神戸 神戸市埋蔵文化財センター企画展、  
「神戸古代史探検—縄文から古墳時代へ—」で 2011.5.3.

縄文というと

「火焰土器と縄文のビーナスの中部山岳地域から新潟」「三内丸山遺跡の大集落とストーンサークルに土偶・漆の東北」がイメージされ、 関西には有名な遺跡がなく、あまりなじみがない。

でも 日本全土につながる広い交流の足跡を示す面白い縄文が神戸にもある。

まだまだ よく知られていない縄文が関西にはあるのだと。

そういえば、土偶という東日本出土のイメージが強いが、日本最古の土偶は鈴鹿山脈をはさんだ滋賀と三重で出土している。

また、前回紹介した古代伝承の地「神出」の雌岡山と雄岡山に挟まれた金棒池周辺も縄文人の地である。

でも 神戸の縄文遺跡と言っても とっさには思い浮かばず。

そもそも 縄文人が神戸周辺に住んでいたのかどうか 私にはあやふや。

そんな眼で神戸市埋蔵文化財センター企画展「神戸古代史探検-縄文から古墳時代へ-」を見ると神戸市内 六甲連山の山裾周辺には 縄文時代の初めから縄文人が住み着き 実に数多くの縄文遺跡がある。この篠原遺跡のある六甲下の篠原都賀川流域 生田神社の森 長田神社の森 等々 びっくりでした。

## 【篠原縄文遺跡 概要】



篠原遺跡の位置 阪急六甲の西 灘区篠原中町から篠原北町周辺

六甲川と杣谷川が合流し、都賀川となる付近の標高 50~85m の扇状地  
篠原遺跡は、六甲山南麓を流れる六甲川と杣谷川が合流し、都賀川となる付近を中心に灘区篠原中町から篠原北町周辺に位置し、標高 50 メートル~85 メートルの扇状地上に立地する縄文時代から平安時代までの複合遺跡。

この遺跡から出土した土偶は、縄文時代晩期に東北地方で多く出土する遮光器土偶（しゃこうきどぐう）のもっとも特徴的な目の部分（右目）であり、神戸の地においても遮光器土偶が出土した珍しいもの。

石棒は、縄文時代から弥生時代前期頃の祭祀（さいし）に使われたと考えられている棒状をした磨製石器。子孫繁栄や豊穡（ほうじょう：穀物などが豊に実ること）を祈願した呪術的な道具であると思われる。東日本に多く、西日本は比較少なく、神戸市内では、篠原遺跡の他に、縄文時代のものとしては、北青木遺跡・淡河中村遺跡、弥生時代のものとしては、大開遺跡・戎町遺跡などで出土している。



篠原遺跡から出土した縄文晩期



最西端で出土した遮光器土偶と石棒

5月21日この神戸市埋蔵文化センターで今回の展示にあわせ、「縄文時代の神戸」の講演会があるのを申し込んでいたので、これは楽しみである。

また、この遮光器土偶を出土した篠原遺跡 三宮から新神戸・王子動物園の上を通過して阪急六甲へ行くバス道の途中。良く知った場所ですが、記憶では 北に摩耶・六甲を見上げ、南に下ってゆくスロープ上に広がる市街住宅地の向こうに神戸港・大阪湾を見渡せるロケーション。完全に神戸の市街住宅地の中に埋没してしまっているなあ・・・と。地図でみると六甲ケーブルの下で六甲の山が少し奥へ引っ込んで傾斜地が少し広がったところ。それぞれの谷筋を流れ下ってきた六甲川と杣谷川が谷筋を出て合流して都賀川となり、扇状地・氾濫原を形成していた場所に見える。やっぱり 景色のいい場所である。

実際にどんなところなのか しっかり見てこよう 長いこと六甲ケーブル下から六甲山へ登る油コブシのハイキング道も長いこと歩いていないので、合わせて歩こうと5月20日の午後出かけました。

また【篠原縄文遺跡 概要】と5月21日神戸市埋蔵文化センター講演会「縄文時代の神戸」資料より、神戸市内の縄文遺跡の分布図とリストを掲載しました。

## 参考資料

西岡誠司氏「縄文時代の神戸」講演資料(平成23年5月21日 神戸市埋蔵文化財センター歴史講演会「神戸の歴史探検」)



## 篠原遺跡周辺の今



六甲ケーブルの下 六甲の山裾の傾斜地が広がる杉谷川と六甲川が合流する扇状地にあった篠原縄文集落遺跡



阪急電車の橋梁がかかる合流点 都賀川から六甲を眺める 2011. 5. 20.



六甲油コブシ登山道より篠原遺跡周辺を遠望 2011. 5. 20.



篠原遺跡が埋まる 左 杣谷川 右六甲川の合流点 篠原公園周辺 2011. 5. 20.



杣谷川・六甲川の合流点から下流側 都賀川周辺 2011. 5. 20.



杣谷川に沿って広がる住宅地 合流点の上 護国神社周辺 2011. 5. 20.



六甲川上流 鶴甲・篠原北町周辺 一番上に六甲ケーブル下駅がある 2011. 5. 20.

# 神戸の遺跡からみた縄文

神戸市埋蔵文化財センター歴史講演会「神戸の歴史探検」

平成23年5月21日 西岡誠司氏「縄文時代の神戸」講演資料より 要旨・図面抜粋

## 西日本の神戸からも 亀ヶ岡の遮光器土偶が出土した

### 1. 縄文時代とは 温暖化が進む気候激変を乗り切る知恵

- **土器の発明** 食生活の一大変革をもたらす大発明 煮炊きを可能にし、どんぐりなど食物の安定確保  
縄文人の食事 狩猟採取といわれるが、植物5 魚・貝4 獣1 でイメージがだいぶ異なる  
縄文人が土器に込めた思いが何か よく判っていない 実用から大きく変化する装飾  
縄文晩期 西日本の縄文土器にはほとんど模様がない
- **石器の著しい進歩** 狩猟具の発達 気候変動に対応した小動物の増加に対応 弓矢の使用

### 2. 縄文人の暮らしを特徴づける不思議 まつりと祈り 埋葬・技術・土偶

1. 埋葬は屈葬が主であるが、その理由は分かっていない
2. 成年のほとんどに上あごの犬歯2本を抜く 10本以上の歯を抜いている例もある
3. 土偶の変遷 草創期からあるが、中期以降東日本で急激に増加  
その表現も体部のみから顔・手足そして 様々な表現へ変化してゆく

### 3. 現代に生かすべき??? 縄文の暮らし 縄文がえりの勧め

1. 縄文人は現代人より健康的な暮らしであったが、医療の発達していなかったため短命
2. 自然と共生した暮らしと知恵 自然と共生した継続的な暮らし
3. 縄文人は平和的・友好的な暮らし 大きな争いのない暮らし

争いは水田耕作による定住が水争いを生んだのか 縄文人は定住地を持ちつつ移動の生活か・

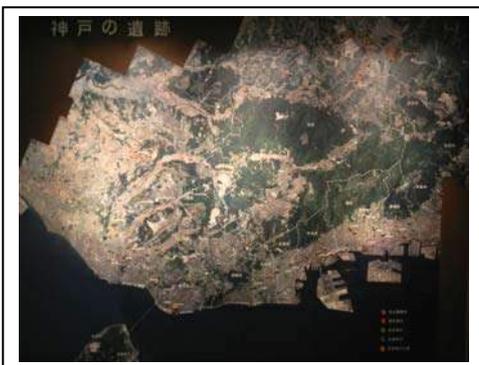
### 4. 縄文のまとめ 縄文人の暮らしは 豊かであったのか……

豊かさの指標を虫歯にとると……

現代人の虫歯	約14本
現代の狩猟未開人	ほとんど0本
縄文人 早期	0本
前期遺構	3本
弥生人	4本

#### 人骨の成長異常

江戸庶民の人骨の成長異常の方が  
縄文人の成長異常よりはるかに多いという。



神戸市内の主な縄文時代の遺跡

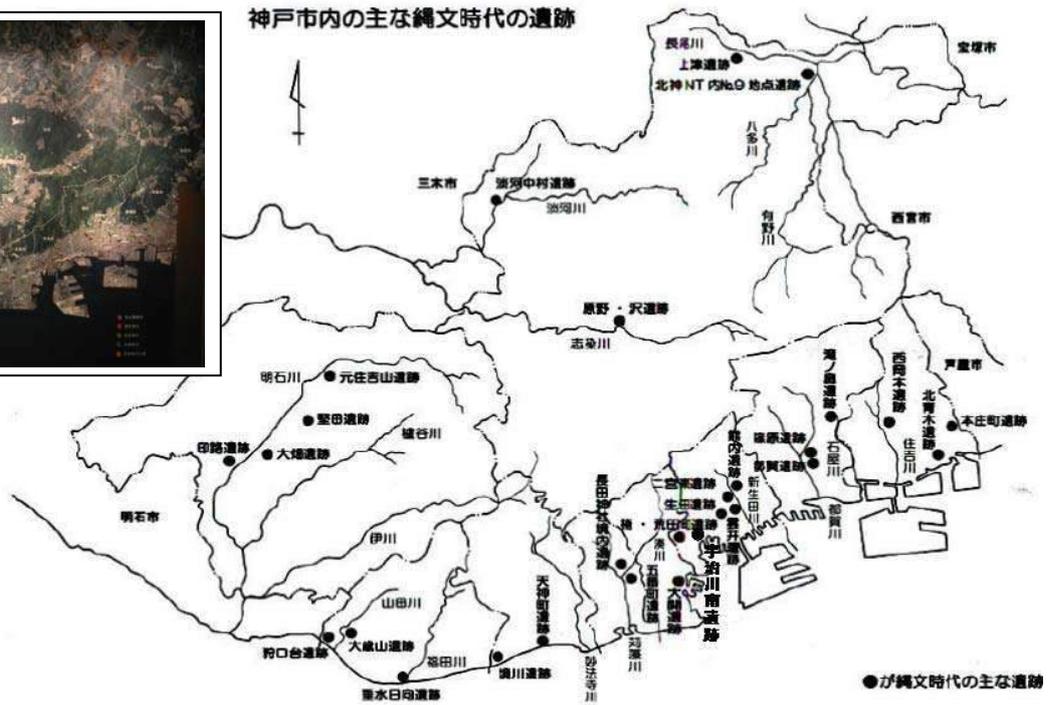


●が縄文時代の主な遺跡

- ◆ 六甲連山の麓 幾筋もの川が流れ下る扇状地には 縄文早期から縄文人の暮らしがあった  
 そんな 縄文晩期の篠原遺跡から 遮光器土偶が出土した



神戸市内の主な縄文時代の遺跡



●が縄文時代の主な遺跡

時期	主な器形	主な特徴	神戸市内の主な遺跡
草創期	深鉢のみ	丸底・尖底 出土例が少ない	滝ノ奥遺跡・天神町遺跡 有茎尖頭器のみ(土器出土例なし)
早期	深鉢のみ	尖底が多い 地域差が顕著になる 近畿・中部地方では押型文 関東地方では捺糸文	都賀遺跡・雲井遺跡・熊内遺跡 境川遺跡・狩口台遺跡 二宮東遺跡・垂水日向遺跡 西岡本遺跡(竪穴住居)
前期	深鉢・浅鉢・壺	平底が一般的になる 深鉢以外の器形が出現 波状口縁を持つものが出現	大歳山遺跡・雲井遺跡
中期	深鉢・浅鉢・壺 (火炎土器)	様々な器形が出現 竹管やへらなどの工具も使用 立体的な造形が見られる	垂水日向遺跡・雲井遺跡 淡河中村遺跡(竪穴住居) 舞子浜遺跡・上津遺跡
後期	深鉢・浅鉢・壺 注口土器	さらに器形が多様化 磨消し縄文が普及 地域差が一時的に解消 注口土器が普及する	篠原遺跡・雲井遺跡・生田遺跡 元住吉山遺跡・原野・沢遺跡 印路遺跡・本庄町遺跡・大畑遺跡 垂水日向遺跡・堅田遺跡 宇治川南遺跡
晩期	深鉢・浅鉢・壺 注口土器・皿・埴	地域差が再び顕著になる 西日本では、器種が少なくなる 研磨土器が出現 末期には突帯文土器が出現	篠原遺跡・五番町遺跡・雲井遺跡 楠・荒田町遺跡・北青木遺跡 長田神社境内遺跡・大開遺跡 宇治川南遺跡

各時期別に見た縄文土器の主な器形と特徴・市内の主な遺跡

①縄文以前～旧石器時代(先土器時代)のくらし～

旧石器時代	約 35000 年前～約 13000 年前
縄文時代	草創期 約 13000 年前～約 9500 年前
	早期 約 9500 年前～約 6000 年前
	前期 約 6000 年前～約 5000 年前
	中期 約 5000 年前～約 4000 年前
	後期 約 4000 年前～約 3000 年前
	晩期 約 3000 年前～約 2500 年前
弥生時代	約 2500 年前～

旧石器時代～弥生時代の時期区分とその主な年代



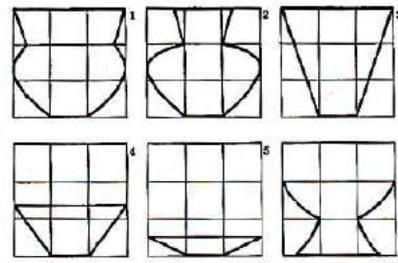
神戸市内出土のナイフ形石器



都賀遺跡出土の縄文土器(縄文早期)



原野・穴遺跡出土の縄文土器(縄文後期)

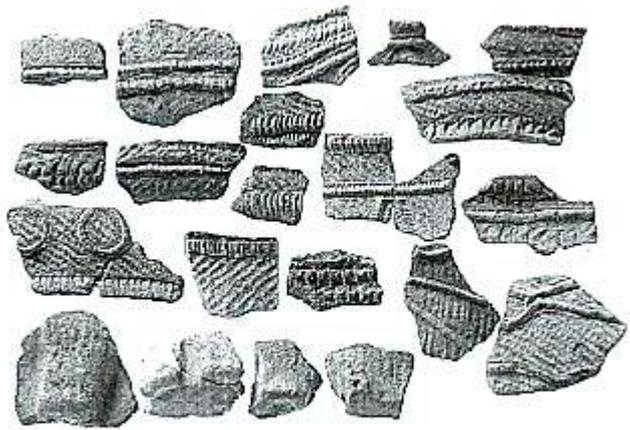


1. 壺(かめ)
2. 壺(つぼ)
3. 深鉢(ふかばち)
4. 浅鉢(あさばち)
5. 皿(さら)
6. 高杯(たかつき)

器形区分の基準 『縄文土器の知識』 中・後・後期』より転載



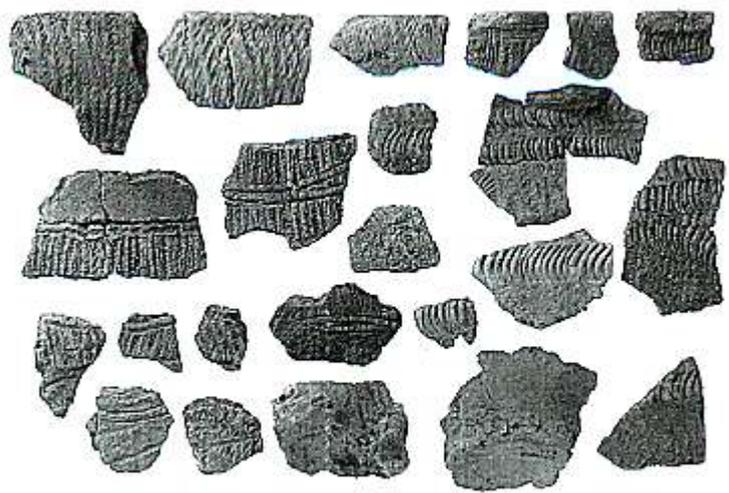
雲井遺跡出土の縄文土器(縄文早期)



大歳山遺跡出土の縄文土器(縄文前期)



垂水日向遺跡出土の縄文土器  
(縄文中期～後期)



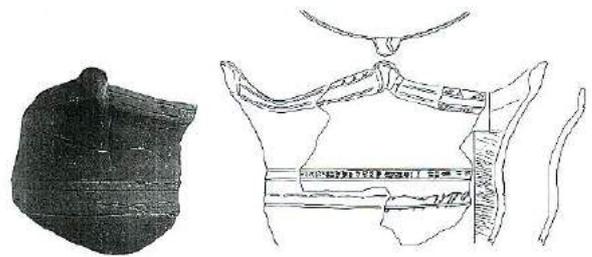
本庄町遺跡出土の縄文土器(縄文後期)



塚原遺跡出土の深鉢(縄文後期)

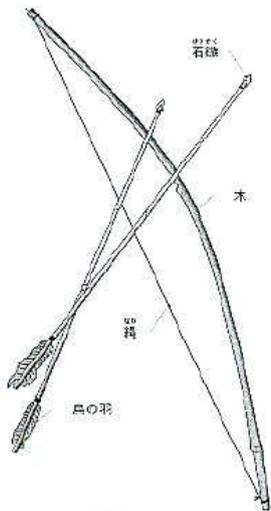
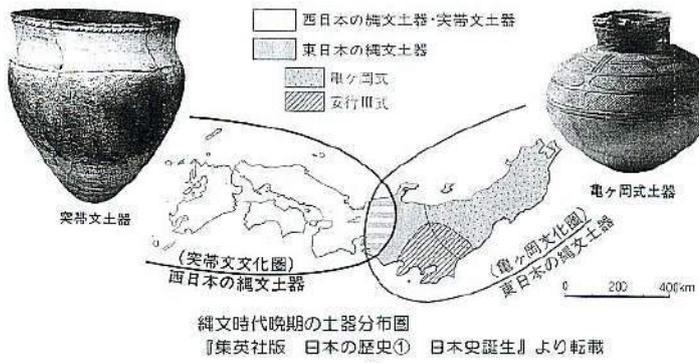


五番町遺跡出土の舟形鉢(縄文後期)



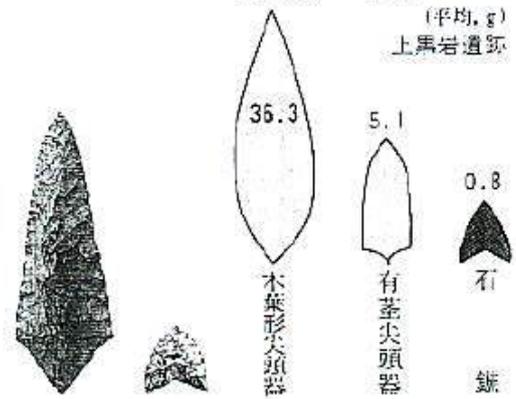
生田遺跡出土の深鉢(縄文後期)

0 10cm



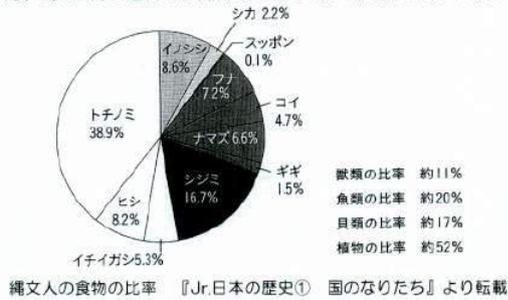
### 尖頭器と石鏃の重さ

(平均, g)  
上馬岩遺跡



⇒ 弥生時代には、2グラムを超える

・食物の内、約52%が植物で、魚介類が約37%で、動物は約11%に過ぎない。

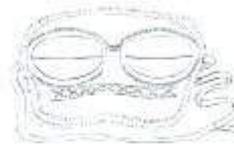


草創期				
早期				
前期				
中期				
後期				
晩期				

縄文時代の土偶変遷図

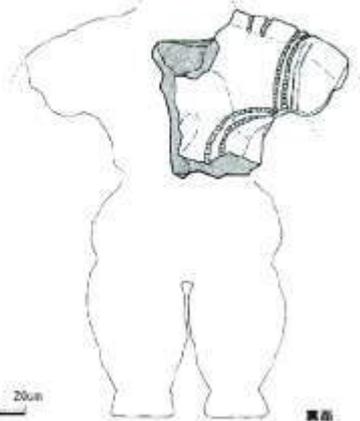
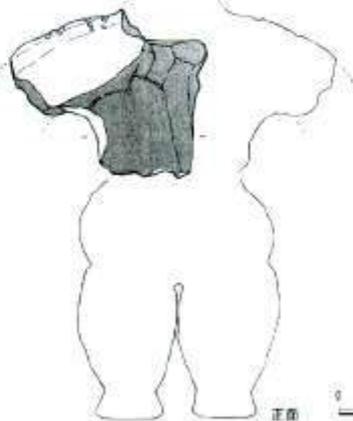
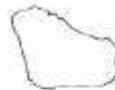
大阪府立弥生文化博物館『縄紋の祈り・弥生の心』より抜粋

・篠原遺跡(灘区)から出土した遮光器土偶は、青森県・亀ヶ岡遺跡出土品と同じタイプで、現在のところ、遮光器土偶としては、最も西端の出土例である。

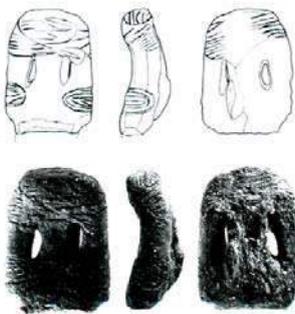


篠原遺跡から出土した遮光器土偶  
(縄文晩期)

青森県亀ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶  
東北歴史資料館編集『東北の土偶』より抜粋



生田遺跡から出土した土偶(縄文後期)



雲井遺跡から出土した土偶(縄文晩期)



高田神社境内遺跡から出土した土偶  
(縄文晩期)



篠原遺跡から出土した石棒(縄文晩期)



淡河中村遺跡から出土した石棒(縄文中期)

7. 京都の新しいパワースポット 磁石が吸い付く平野神社の「すえひろがね・餅鉄」を訪ねる

東北と関係深い清水寺にも久しぶりにゆきました 2011.5.22

東日本大震災・津波・原発事故 被災されたみなさまに 心からお見舞い申し上げます  
 困難な中で 互いに声かけあって 生き抜く力が与えられるよう  
 一日も早く 手が差し伸べられ立ち直られますよう お祈りしています



京都平野神社境内の御神木「大楠」の傍にある「すえひろがね」

夜 テレビを見ていたら 京都の北野の天神さんのすぐ北側 桜の名所平野神社の境内 御神木の楠の下に磁石が吸い付く不思議な石「すえひろがね」があり、「大楠に手を触れながら木の周りを一周し、その下にあるこの霊石に触れると新しいエネルギーが体内に入って来る」と若い人たちのパワースポットとして人気があるという。

そして、若い人が大楠の周囲をめぐり、お守り袋に入った磁石をこの不思議な石に吸い付けている姿が大写真になりました。

学生時代 花見というと平野神社 何度も訪れたことがあるのですが、「そんな話 聞いたことなかったなあ 知らないなあ・・・」と。この磁石が吸い付く石は「天然の磁石石か？ それとも鉄鉱石?? 京都でも餅鉄がとれるのだろうか??」 京都の東山から比叡山にかけては 古代の鉄鉱石の産地。そこから奉納されたものだろうか…。磁石が引っ付く石がパワースポットとして京都の町の中にあることに興味を覚えました。



平野神社の霊石「すえひろがね」

東日本大地震と原発事故で頭がもやもやしていた時で、パワースポットにされるほど強い吸い付き力があるとすると かつて釜石でもらった「三陸の川筋で採取される餅鉄??」が頭にうかんできました。

そして、長いこと東北蝦夷の族長 アテルイの顕彰碑のある「清水寺」などが かつて東北の鉄を訪ねて歩いた街々とともに

頭に浮かびました。5月22日 京都に行く機会があるので、「平野神社へこの不思議な石の奉納元を確かめに立ち寄って 前々から頭にあった清水寺にも行って 東日本大地震で大きな被害を受けた東北復興の祈願をしてこよう」と。

5月22日午後 北野天満宮を抜けて北門から西へ数分。 御土居に沿う天神川を渡るとすぐ、平野神社の赤い鳥居。

この鳥居から石畳の参道が中門を潜り抜け、境内に入る。かつて境内地は1.5km四方と广大で、ほぼ京都御苑と同じ広さであったというが、現在は200m弱四方であるが、そこに、染井吉野や枝垂桜をはじめ珍種を含め約50種・約500本が植栽されている。

花見の頃は 鳥居をくぐると一面ピンクなのですが、今は緑に包まれている。 平野神社の神紋も桜である。

最近はどうなのかよく知りませんが、かつては数多くの屋台が立ち並び、桜の下でぎっしり宴が繰り広げられる京都一の夜桜見物の名所だった。

境内に入ると広い境内の正面に舞殿が見え、その奥に社殿は春日造りを二殿連結した「平野造」（比翼春日造）とよばれる国の重要文化財の社殿がある。舞殿の南側手前の参道横にしめ縄が張られた御神木樹齢約400年楠の古木が青々と葉を茂らせ立っているのが見え、その前にもしめ縄を張った自然石が祀られている。そこに数人 人が見える。

楠に手を置きながらじっと黙想している人も見える。 ここが最近若い人が数多く訪れる平野神社のパワースポットと直ぐ判った。



舞殿の手前横の参道脇に霊石「すえひろがね」 奥に社殿が見える 2011.5.22.

### 平野神社の新しいパワースポット

大楠や舞殿があったのは覚えています、こんな風になっているのは全く知らず。

しめ縄が張られ、数個磁石が吸い付けられている霊石の前にこの霊石の由来が書いてあり、名前が「すえひろがね」・「餅鉄」と知れる。

また、社務所で教えてもらったのですが、数年前に東北から奉納されたものを祀ったものと知れる。





すえひろがね  
現在確認されている日本最大の餅鉄です。  
（重さ約60kg、長さ約1.5m、幅約0.5m）  
成分の約60%が鉄で、残り40%は炭素と酸素です。  
六ヶ所と比べ純度の非常に高い餅鉄の入りです。

すえひろがね  
幸へ那が置かれた頃から既にみちのくとの住人は磁石の存在は知られていました。三種の神器のひとつもこの石から作られていたという説もあります。村の人にとっては、不思議な力を持っていることから、物にして邪気を祓除する薬としても用いられていました。また古くは神懸が唱えられているのではないかと伝えられ、古代は神懸の石と認められていました。  
この説、纏まって「活力を与えて下さるといふ神懸を祀られる平野神社に奉納したい」とはるばるみちのくから運び込まれました。大層大きく非常に重い石で、神懸不思議なことには磁石を引きつけるのです。  
これは「餅鉄(ばいてつ)」というもので、別名「すえひろがね」といふまことにめでたい名前の石。しかも専門家にみていただいたら「日本最大のすえひろがね」ということ。  
この不思議な力を持った石を広く餅鉄の方々にもお譲りしたいと、この説お譲りするに寄りました。  
平野祭大陣（ひらのすめのおおかみ）は活力を与え幸せへと導いてくださる神懸、生命の豊穡でもある餅鉄400年をこえる大きな物の石に託附けしました。餅鉄の神懸には「すえひろがね」の名前のことごとく、未知なる力を授けて、癒しきこと癒しきこと多く幸せに導いていただきますたいと願います。 平野神社神懸

かつて たたら製鉄原料としての「餅鉄」を探しに東北・釜石へ出かけ、もらって帰ったことがある。  
餅鉄というと川に落ちた磁鉄鉱石が流れの中で丸く削られ、みんなきめの細かいつるつるの肌をしていると思っていましたが、こんな大きな自然石に近いものもあるのだと知りました。

和鉄の道 田舎なれども南部の国は 西も東も金の山

3. 釜石 鉄の歴史館に「餅鉄」を訪ねて 岩手県・南部 蝦夷の鉄 北上山系 大槌・釜石

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/kmaisai.pdf>

また、私の好きな東北と京都の清水寺が関係深いと思ってきましたが、平野神社にも東北と関係深い「餅鉄」が祀られている。

東日本大地震の東北をぼんやりと平野神社のパワースポットと重ねて 出かけてきましたが、その結びつきにもビックリ。

霊石に吸いつけられていた磁石をつかんで離れさそうと引くのですが、本当に強く吸いついていて、磁石石の自然石よりこの霊石の鉄分が多いことがわかる。

東北の復興を願って 私の持っている磁石をこの霊石に引っ付けてきました。近づけるとピタッとして吸いつけられました。



京都 平野神社にある霊石「すえひろがね」  
磁鉄鉱石・餅鉄 2011.5.21.

【 参考 】

1. 「餅鉄」の解説 和鉄の道より
2. 清水寺と古代東北とのつながり 和鉄の道より

【参考 1. 餅鉄 和鉄の道より】



釜石後背の北上山系の川から採取された餅鉄 釜石市 鉄の歴史館で 2002. 9. 23.

山中に鉄鉱石（磁鉄鉱）鉱脈として眠っていた鉄鉱石が川に流され、流れ下る過程で磨かれ丸くなったもの。従って 鉄鉱石（磁鉄鉱）の鉱脈がある山から流れ下る川流域で産出される。

鉄分は 70%を超え、非常に純度が高い。ほかの鉄鉱石

と比べ炭素量の高いのも特徴。「餅鉄」の名称は製錬した鉄の性質が粘性に富むことに由来し、形状から来たものではない。



【釜石後背の北上山地と餅鉄が出る川】

【餅鉄の出る甲子川 北上山地から流れ出て釜石を流れ下る】

釜石の後背地の北上山系には大規模な磁鉄鉱の鉄鉱脈があり、ここから流れ下る甲子川や鶴住居川・小釜川などの域で産出される。東北では北上川や秋田県米代川流域などでも産出すると聞きましたが、資源が偏するののもこれで理解。70%を超える鉄分と高純度は砂鉄では得られぬものであり、砂鉄による「たたら製鉄」に替わる近代洋式高炉が最初に釜石周辺の北上山中に建設された(陸中大橋大橋高炉)のも、後背の山中で鉄鉱脈が発見された事と共に、古くからこの餅鉄が製鉄原料として使われてきた歴史があったためであろう。



蝦夷の藤手刀の分布  
畿内政権と戦った蝦夷国アテルイの武器  
藤手刀の分布

【参考2. 清水寺と古代東北とのつながり 和鉄の道より】

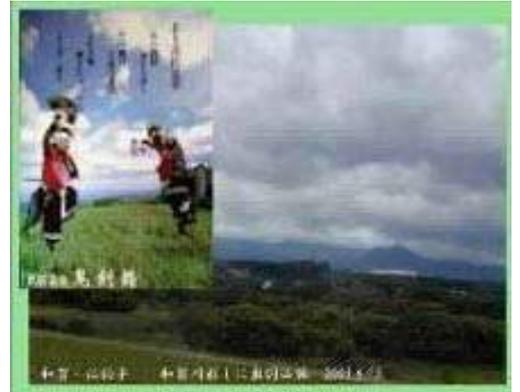
北上市の市民憲章には

「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の賛歌

この大地 燃えたついのち ここは北上」と誇らしく歌う。

東北人の心情として感激し、私の頭に強く残っている言葉です。

この鬼とは古代日高見(北上)川沿いのこの地にすんだ自分たちの祖先  
蝦夷の族長 日高見の鬼「アテルイ」とその一族 蝦夷をさす。



今から約 1200 年前 奈良時代の末から平安時代の初期にかけて 坂上田村麻呂を征夷大將軍とした蝦夷征伐があった。この蝦夷征伐のもう一つの側面は今まで輸入に頼っていた「金や鉄(くろがね)」がこの蝦夷の支配地であったことによる鉱物資源の支配。坂上田村麻呂が出るまで、大和朝廷が苦しめられ続けた蝦夷の族長が「アテルイ」  
蝦夷の心情に共感しつつも戦わねばならなかった征夷大將軍坂上田村麻呂  
長年にわたる戦争の中で、アテルイは蝦夷の和平を願い、盟友モレと約 500 人の兵と共に田村麻呂に降伏。  
坂上田村麻呂の「蝦夷支配に活用できる人材」との助命嘆願もむなしく、アテルイは河内国で斬首されたという。  
この坂上田村麻呂が建立したのが、京都 清水寺。そして清水寺の境内 清水の舞台のすぐ下に  
この田村麻呂とアテルイ・モレの心の交流を顕彰するアテルイ・モレの顕彰碑がある。

和鉄の道「蝦夷の鉄」 東北地方 和鉄の道 9 編 取りまとめ 2004.1

1. 岩手県の人達が作った長編アニメ映画「アテルイ」に今の時代を重ねて 和鉄の道Ⅲ 15.
2. 7 世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫 「行方製鉄遺跡」を訪ねる 和鉄の道Ⅰ 4.
3. 岩手県北上川流域の和鉄 一関博物館へ 和鉄の道Ⅱ 8.  
蝦夷の主要武器「葺手刀」・日本刀のルーツ「舞草刀」を訪ねて
4. 心残りだった東北 和鉄のふるさと wak 北上江釣子・砂鉄川・葺王 和鉄の道Ⅲ 8.  
「あの高嶺 鬼住む誇り・・・ 北上市市民憲章」と歌う
5. 『田舎なれども南部の国は 西も東も金の山』 和鉄の道Ⅲ 2.  
岩手県・南部「蝦夷の鉄」北上山 系大槌・釜石へ
6. 古代 出羽国 秋田 和鉄の道を訪ねて 奥羽山脈越えの和鉄の道は蝦夷の生命線 和鉄の道Ⅲ 5.  
北上川流域の陸奥から奥羽山脈越 出羽・秋田そして津軽十三湊へ
7. 奥州 蝦夷の心臓部を貫く和鉄の道-北上(和賀) 仙人峠越- 和鉄の道Ⅲ 6.  
東北 鉄の山 気にかかっていた「和鉄のさと」を歩いてー
8. 「弘前ねぶた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」 和鉄の道Ⅰ 8.  
「鬼沢・鬼神社」・「十腰内・葺鬼神社」
9. 岩木山北山麓の製鉄遺跡群と鬼伝説 和鉄の道Ⅰ 6.



京都 清水寺にある蝦夷の族長「アテルイ」の顕彰碑 2011.5.22.

【 清水寺 東北エミシの族長アテルイの顕彰碑に詣でる 2011.5.22 】

平野神社の境内から 西大路道理に出て、市バスに乗って清水寺へ。 東北の復興を祈願してこよう。

清水寺は蝦夷征伐の征夷大將軍 坂上田村麻呂が建立した寺で、清水の舞台のすぐ下の境内に東北蝦夷の族長アテルイ・モシの顕彰碑がある。

征夷大將軍として東北の蝦夷と戦火を交えた坂上田村麻呂は蝦夷の族長アテルイと副将モシこそ東北経営に最も力を発揮してくれると信じ、ふたりの助命を嘆願する。しかし、願いは聞き入れられず、二人は河内で斬首された。

共に平和を希求し、人々の血を流すことを避けようとした坂上田村麻呂とアテルイとモシ。

この精神は、現代の東北の人々にもしっかりと受けつがれているといわれる。

東北人はこの二人に強く心を惹かれ、北上市の市民憲章には

「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の賛歌

この大地 燃えたついのち ここは北上 」と誇らしく歌う。



蝦夷征伐の征夷大將軍 坂上田村麻呂が建立した清水寺と境内にある蝦夷の族長アテルイ・モシの顕彰碑 2011.5.22.



八坂の塔

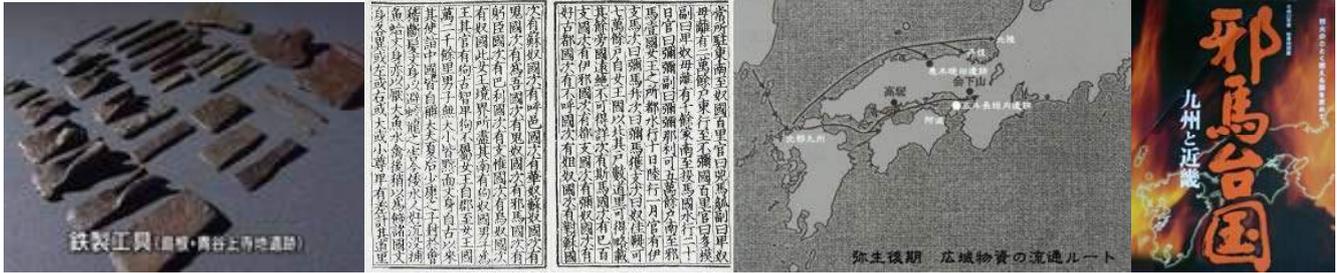


清水寺仁王門前 清水坂 2011.5.22.

# 南北市糶(してき) 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄(てつ)の道」

魏志倭人伝の時代 朝鮮半島の鉄との交易品は何か……

2011.8.25. by Mutsu Nakanishi



魏志を読むと「**国出鉄、韓、濊、倭皆從取之**」という記事と一緒に倭人伝 壹岐・対馬の記事の中に「**南北市糶**」という言葉がでてくる。「糶」を何と読むのか不思議で 読めなかった漢字。「テキ」と読み、「米を買い入れる」ということから「交易」を意味するという。弥生の末期 北部九州諸国に独占されていた鉄器の集積が、山陰日本海沿岸諸国(麦木晩田 青谷上寺地 丹後 北陸)から畿内へと広がってくる時代である。

昨今の纏向遺跡の発掘などによって 邪馬台国大和説が大きくクローズアップされ、「古代国家形成に至る黎明 邪馬台国・魏志倭人伝の時代 卑弥呼の邪馬台国連合を結びつけていたのは朝鮮半島の鉄の流通路を安定確保する支配力」として朝鮮半島と日本列島を結ぶ 和鉄(てつ)の道が大きく注目されるようになった。



紀元前3世紀 大陸や朝鮮半島から 新しい技術や人々の渡来があつて 集落から地域集団そして国へと日本の国づくりが大きく展開されてゆく時代である。豊かさを求め、群雄割拠・連合の戦乱の中で、「鉄」は農耕・国土開拓にとって必須で、朝鮮半島の鉄入手を求めた。

この和鉄の道で倭の国々は「朝鮮半島の鉄器素材と何を交換したのだろうか？」

また 遠く離れた列島諸国とこの朝鮮半島との鉄の道の交易 海の道を渡ったのは誰か??

- 翡翠・水晶などの宝石鉱物・銅・貝類などの加工品(威信財・装身具・祭祀具) 織布(麻・錦) 海産物 穀物 木材 等々 数々の説が発表され、最近読んだ本には「硫黄」や「塩」を倭側交易品と考えている人もいる。
- 今まで 数多くの研究が発表されているが、いまだ確論がない。

日本での製鉄が始まりを解く謎のひとつであり、邪馬台国から大和王権の成立へ 古代国家の成り立ちを解く謎として 多くの人たちのロマンを掻き立ててきた謎のひとつであり、私にとっても いつも不思議に思いながら解けぬ謎。

つい先日 知人から「『朝鮮半島の鉄 朝鮮半島の鉄』と言うが、その日本側の交易品はなになのか?」と問われ、自分でもややもやしていますので、よい機会 資料を調べ直し始めました。まだ、結論は出ていませんが、この朝鮮半島の鉄を巡る諸国の交易品について、まとめてみました。



韓国の鉄錠

日本の鉄錠

この時代の朝鮮半島と大和との交流を知る手掛かりは 中國の魏書に書かれた朝鮮半島並びに日本列島諸国の記事と発掘調査によって年々明らかになってきた事実をあわせ考えることである。

■ 魏書によると まだ製鉄技術のなかった倭国の諸国は朝鮮半島の鉄を求め、活発に交流し、勢力を伸ばした邪馬台国は北部九州から朝鮮半島に至る出発港である伊都国に「一大卒」を置いて、朝鮮半島と行き来する物品・人を監視していたという。

■ また、この時代 農耕が乏しい壱岐・対馬には 航海術にたけた「海人」族の勢力があり、積極的に朝鮮半島と北部九

州や日本列島諸国との間を自由に行き来し、「南北市糶」中継貿易を行っていたという。

■ そして、朝鮮半島・日本で広く現れたバチ状薄鉄板「鉄テイ」が魏書にある物品交易の貨幣の役割を担った鉄とも言われている。

朝鮮半島や日本で大量にみつかると「鉄テイ」が数多くの実用鉄器の鉄素材とは考えにくく、これが貨幣の役割を果たしていたとすると中継貿易が大いに隆盛したことがうかがえ、かつ倭諸国が直接朝鮮半島に行かずとも北部九州や壱岐・対馬で朝鮮半島の鉄が手に入れられたと考えられる。 また、この中継貿易をイメージするとその交易品も広く考えられる。

いままで、朝鮮半島の鉄について 壱岐・対馬の役割をあまりイメージしていませんでしたが、近年の発掘調査で次第に明らかになってきた壱岐・対馬の「海人」の活躍を考えねばならない。



## 1. 魏書に記載されている弥生時代末 3世紀頃の倭と朝鮮半島の交流

### 1.1. 魏書(286)に書かれた鉄関連記事

#### ■ 「魏誌 東夷伝・弁辰条」

国出鉄、韓、濊、倭皆從取之。諸市買皆用鉄、如中國用貨、又以供給二郡。

国、鉄を出す。韓、濊、倭 皆從がいて之を取る。貨幣がわりにも鉄を用いる、また以て二郡に供給す

#### ■ 「魏誌倭人伝」

自女王國以北、特置一大率、檢察諸國、諸國畏憚之。常治伊都國、於國中有如刺史。

王遣使詣京都、帶方郡、諸韓國、及郡使倭國、皆臨津搜露、傳送文書賜遺之物詣女王、不得差錯。

女王国の北方の諸国には「一大率」という官が置かれて国々を監視している。

一大率は伊都国にあり、魏の刺史のような役目を果たしている。

伊都国は外交の中心地で魏や韓の国々の使節はここに停泊して文書や贈物の点検を受けて女王に送っている。

### 1.2. 「魏志倭人伝」に描かれた倭国 壱岐・対馬・伊都国

#### < 倭国 >

「倭人在帶方東南大海之中依山島爲國邑舊百餘國 漢時有朝見者今使譯所通三十國 從郡至倭循海岸水行歷韓國乍南乍東到其北岸 狗邪韓國七千餘里」

倭人は帶方(今のソウル付近)の東南大海の中にあり、山島に依りて国邑をなす。旧(もと)百余国。

漢の時朝見する者あり、今、使訳通ずる所三十国

郡(帶方郡)より倭に至るには、海岸に循(したが)って水行し、韓國(主に馬韓)を歴(へ)て、

乍(あるい)は南し乍(あるい)は東し、その北岸狗邪韓國(くやかんこく)に到る七千余里。

## < 対馬 >

「始度一海千餘里至對海國 其大官曰卑狗副曰卑奴母離 所居絶島方可四百餘里  
土地山險多深林道路如禽鹿徑 有千餘戸無良田食海物自活乘船南北市糴」

始めて一海を渡る千余里、対海国（対馬）に至る。其の大官を卑狗といい、副を卑奴母離（ひなもり）という。居る所絶島、方四百余里ばかり。土地は山険しく、深林多く、道路は禽鹿の径の如し。千余戸あり。良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糴（してき）す。

## < 壱岐 >

「又南渡一海千餘名曰瀚海至一大國 官亦曰卑狗副曰卑奴母離 方可三百里  
多竹木叢林有三千許 家差有田地耕田猶不足食亦南北市糴」

また南一海を渡る千余里、名づけて瀚海（かんかい）という。一大国（壱岐）に至る。官をまた卑狗といい、副を卑奴母離という。方三百里ばかり。竹木・叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地あり、田を耕せどもなお食するに足らず、また南北に市糴す。

## < 伊都 >

「東南陸行五百里到伊都國官曰爾支副曰泄謨觚柄渠觚 有千餘戸 世有王皆統屬女王國郡使往來常所駐」

東南陸行五百里にして、伊都国に到る。官を爾支といい、副を泄謨觚・柄渠觚という。千余戸あり。世々王あるも、皆女王国に統属す。郡使の往来常に駐（とど）まる所なり。

## < 邪馬台国への道程 >

「東南至奴國百里官曰馬觚副曰卑奴母離有二萬餘戸  
東行至不彌國百里官曰多模副曰卑奴母離有千餘家  
南至投馬國水行二十日官曰彌彌副曰彌彌那利可五萬餘戸  
南至邪馬壹國女王之所都水行十日陸行一月 官有伊支馬  
次日彌馬升次日彌馬獲支次日奴佳可七萬餘戸」

東南奴国に至る百里。官を馬觚といい、副を卑奴母離という。二万余戸あり。

東行不弥国に至る百里。官を多模といい、副を卑奴母離という。千余家あり。

南、投馬国に至る水行二十日。官を弥弥といい、副を弥弥那利という。五万余戸ばかり。

南、邪馬壹国に至る、女王の都する所、水行十日陸行一月。官に伊支馬あり、次を弥馬升といい、

次を弥馬獲支といい、次を奴佳タイという。七万余戸ばかり。

## 2. 南北市糴（してき） 朝鮮半島との中継貿易を担った壱岐の王都 原の辻遺跡



壱岐 原の辻遺跡



原の辻遺跡から出土した外洋につながる船着き場

北部九州と朝鮮半島の間にある対馬・壱岐について、魏志倭人伝は「山ばかりで農耕ができない島で、人々は南北に「市糴」して暮らしている」と書かれている。

「良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糴（してき）」した対馬

「やや田地あり、田を耕せどもなお食するに足らず、また南北に市糴」した壱岐

「市糴（してき）」とは何か・・・ おぼろげには「交易」と思いながら、調べたことなく、魏志倭人に接するたびに気になっていた言葉である。

市糴とは「米を買うこと」これが交易を表す熟語となったもので、対馬・壱岐が市糴



した南は日本列島、北は朝鮮半島にほかならない。玄界灘に浮かぶ壹岐・対馬は古くから朝鮮半島や日本列島を行き来する「海人」の人々の本拠地であり、自給自足のできない対馬・壹岐では、南北に市糶（交易）することが当然の道。航海術にたけ、朝鮮半島の事情をよく知るこの人たちが魏志倭人伝に描かれた朝鮮半島との交流の道を握っていたと考えられる。また、弥生時代の後期から古墳時代 交易拠点・港には建ち並んだ大型穀物倉庫群遺構が出土する。

○福岡比恵遺跡倉庫群・吉野ヶ里遺跡高床式倉庫群・紀ノ川 鳴滝倉庫群・大阪法円坂倉庫群 など

これは 穀類が主要な交易品であることを示しており、交易のベース商品として朝鮮半島の鉄 日本諸国の穀類の仲介であった証拠かもしれない。また、海産物なども同じ性格をもっていたのだろう。

これら穀物や海産物の現物は見つからぬが、壹岐・対馬そして 北部九州側の拠点伊都国や、4世紀伊都国にとって代わり、大和と深い関係を持つ新たな貿易港となった博多湾の拠点(博多西新町遺跡など)には日本各地の物産や交易品を入れていたと考えられる日本各地の土器や朝鮮半島の土器類が多数見つかっている。



紀ノ川河口 鳴滝倉庫群 イメージ図



魏志倭人伝に記された一大国の王都を復元した 壹岐 原の辻遺跡

原の辻遺跡は、弥生時代を中心とする大規模な多重環濠集落であり、中国の歴史書『魏志倭人伝』記載の「一支国(いきこく)」の王都として特定された極めて重要な遺跡である。

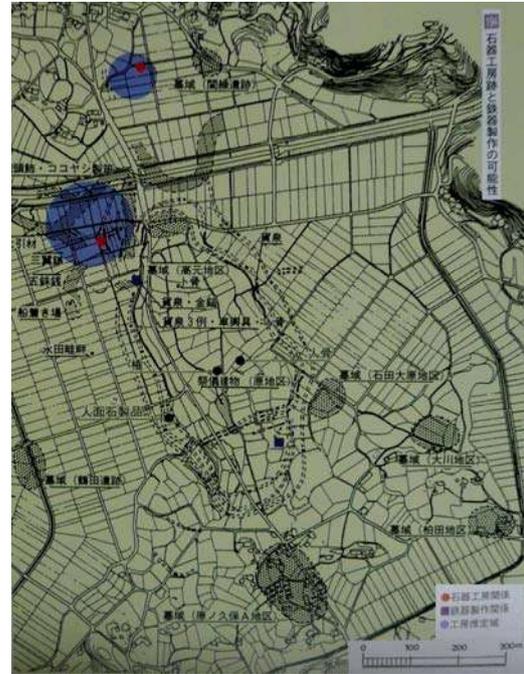
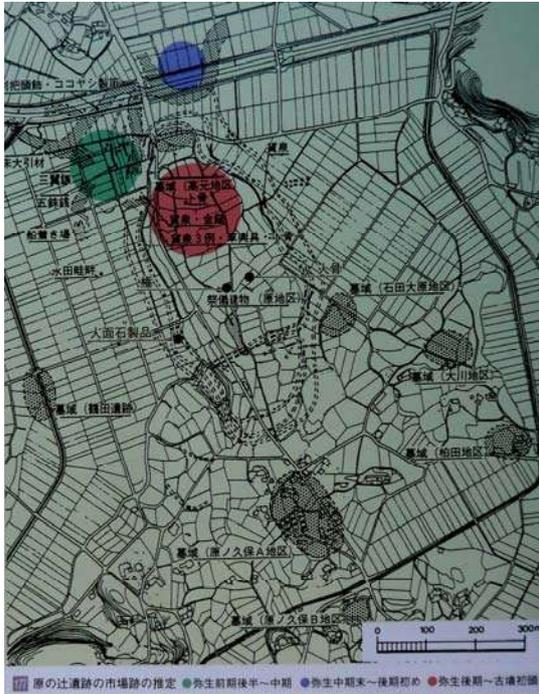
遺跡は、平野に張り出した台地と低地一帯に立地し、100haほどの範囲が推定される。環濠内と低地には居住域が拡がり、台地中央

の頂部に高床建物をもつ祭儀場跡が存在する。6箇所ある墓域では、石棺墓・土壙墓(どこうぼ)を主体として、中国鏡・銅剣・腕輪の青銅器、ガラス玉・勾玉(まがたま)などが副葬された有力者の墓も認められる。台地西側の低地では、これまでに確認されている中では東アジア最古の船着き場跡が発見され、中国や朝鮮半島へ渡り、交易をおこなっていた海洋民の姿を今に伝える。また、周辺の低地では稲作を行っていたことが確認されつつある。

遺物は、青銅製馬車具、三翼鏃(さんよくぞく)、中国貨幣(五銖銭(ごしゅせん)・貨泉(かせん)・大泉五



十(たいせんごじゅう))、鉄器、朝鮮半島系土器、床大引き材、ココヤシ製笛など、大陸との交流・交易を物語る遺物が多く出土している。指定面積は、184,400.23㎡(H21.12追加指定分1,741㎡を含む)。  
 集落形成は、弥生時代前期末に始まり、中期前半に多重の環濠を掘削して大集落となり、後期には環濠が再掘削されましたが、古墳時代前期に環濠は埋没して集落は衰退した。環濠内側では掘立柱建物群・住居域・土坑(どこう)群・墓域などが、環濠外側では墓域・船着場遺構・水田遺構・通路状遺構などが検出され、北部九州地方を中心として近畿地方、さらには、大陸・朝鮮半島にいたる地域からの多量の搬入品が出土しており、海を介した広域交流が行われた交易拠点であったと考えられている。  
 また、原の辻には海からの陸揚げ船着き場・市場とともに、石器→鉄器の工房があり、変化する国際情勢に対処して中継貿易の機能を維持が図られていた。(環濠・船着場整備・工具の製作修理など)



南北市羅(してき)原の辻遺跡 市場推定位置  
 原の辻遺跡ノ北部 外洋につながる川の船着き場に接する  
 朝鮮半島の遺物が数多く出土している

原の辻遺跡の生産工房跡  
 各種石器製作から鉄器製作へ



半島・中国・日本各地との交流を示す大量の出土品原の辻遺跡の出土品  
 朝鮮半島・日本各地の土器・石製品・銅製品・鉄製品・中国の銅貨・鏡・玉類・  
 紡錘車そして穀物類等々・

### 3. 魏志倭人伝に見る 邪馬台国から魏への貢納品 白珠・青珠・倭錦・丹など

魏志倭人伝によると 魏と倭との交流の中 倭が魏に朝貢した時の物品が記載されている。

生口、布きれ(倭錦・絳青兼・緜衣・帛布・雑錦など)、丹、弓矢、珠などが運ばれ、

倭には印綬、銅鏡、刀、金、真珠、鉛丹、黄ドウ(黄色の旗) 布きれなどを授けられたと記されている。

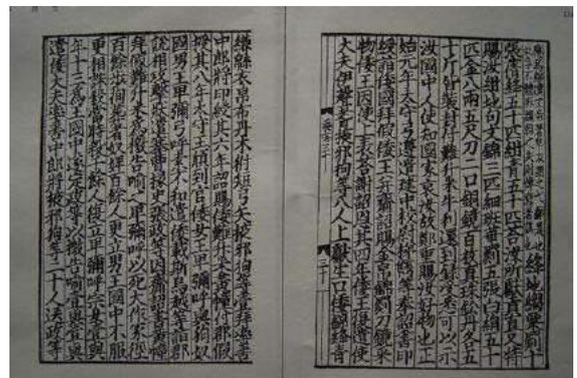
このことから 倭から運ばれた「布きれ、丹、弓矢、珠」などは貴重な日本の特産物であり、朝鮮半島との交易にも重要な産品であったに違いない。

#### ■ 其四年倭王復遣使大夫伊聲耆掖邪狗等八人 上献生口倭錦絳青兼緜衣帛布丹木付短弓矢 掖邪狗等壹拜率善中郎将印綬

正始四年(西暦二四三年)、倭王は再び大夫伊声耆(崇神天皇皇子、伊邪眞若命か)、掖邪狗等八人を派遣して、生口、倭錦、絳青兼、帛系衣、帛布、丹、木付、短弓、矢を貢献してきました。掖邪狗らには等しく率善中郎将の印綬を授けました。

#### ■ 政等以檄告諭壹与 壹与遣倭大夫率善中郎将掖邪狗等二十人送政等還因詣臺献上男女生口三十人 貢白珠五千孔青大句珠二枚異文雜錦二十匹

政等を派遣して、倭女王台与に貢献するように告げました。倭女王台与は、大夫率善中郎将の掖邪狗等二十人に命じて政等の帰還に随行させました。掖邪狗等は、皇帝のいる都にも立ち寄り、男女生口三十人を献上し、白珠五千個、青大句珠(穴の開いたヒスイの大玉)二枚、異文雜錦(錦に似た織物)二十匹を献上しました。



このうち「丹」は辰砂 「珠」は白珠が真珠 青珠が翡翠と推察され、様々な装身具・祭祀具・威信財に加工されていたろう。

これらは 山陰日本海沿岸や四国阿波などの諸国がそれら名産品の主要産地で 数多くの生産工房が営まれ、加工具として鉄が必須であった地であり、この時代に新たに鉄の集積が大きく伸びた地と重なっている。

また、布きれと記した「雑錦・倭錦・絳青兼・緜衣・帛布」は養蚕を紡いだ絹織物とみられ、中国から伝わった養蚕技術が、倭国の独自技術へと進化してゆく過程の中にあり、貴重品として中国へ逆に貢納されたと推定される。



倭錦(復元)



真珠(白珠) 表示は後世のもの



青珠(翡翠・碧玉の勾玉)



丹

### 4. 朝鮮半島の鉄入手のための倭側の交易品の検討

#### 4.1. 邪馬台国から魏への貢納品でもあった 白珠・青珠・倭錦・丹

##### ● 白珠・青珠などの玉類

朝鮮半島での玉類の出土を調べた当初 そのほとんどが翡翠を原石とする5世紀以降の勾玉で、魏志倭人伝の時代とは年代が異なるのでびっくりしました。

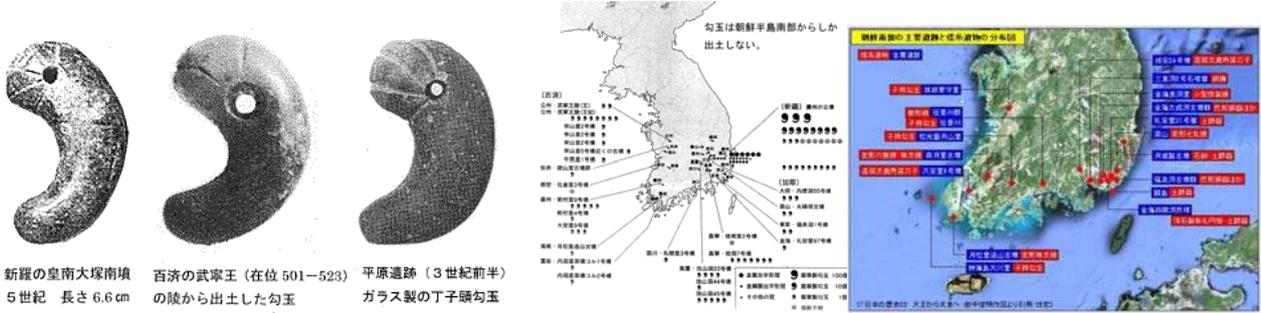
3、4世紀の朝鮮半島から出土した勾玉がないかと調べるうちに 1992年に京都国立博物館で開催された「よみがえる古代王国伽耶文化展」の図録に金海大成洞古墳群から出土した3・4世紀の玉類や琥珀製勾玉が掲載されているのをみつけました。

材質はよく判りませんが、図版から見ると碧玉と思えるものや水晶・琥珀(図番81-85)が掲載されていました。

この当時「出雲や北陸の玉造工房では翡翠のほか碧玉 丹後では水晶」の原石から玉類が製作されており、詳細確認できていませんが、朝鮮半島の南岸 鉄の集散地金海での出土であり、倭から持ち込まれた可能性があると推定しています。

勿論、山陰海岸や北陸で作られた珠が朝鮮半島に渡らずに、中継貿易の中で日本国内の各地に運ばれて消費された可能性もないとはいえませんが……。

朝鮮半島に弥生末期でも大量の鉄素材が玉造り工房に持ち込まれ、鉄製工具として加工されて実用されているにもかかわらず、その製品が逆方向に朝鮮半島までたどれないとは思わず、翡翠の勾玉がこの時代の倭側交易品であったかどうかは別として、水晶や碧玉製の玉類が朝鮮半島の鉄素材入手に対する倭側交易品であったと推定される。



朝鮮半島で出土した勾玉出土例と主要倭系遺物出土地

( 出土時期ははっきりせず、5世紀以降の大量の翡翠勾玉出土地や子持勾玉出土地をも含むと推定 )



4・5世紀 金海大成洞古墳群出土玉類

5-6世紀 朝鮮半島で出土した玉類 冠垂飾り・首飾など

【参考】

1. 高久健二氏歴博シンポ「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」資料より「韓国の倭関係遺物 4世紀～6世紀」ならびに2. 弥生末期 玉造工房の展開と同時期 鉄の集積が急伸した山陰から北陸 日本海諸国玉造工房と鉄について 資料を添付させていただきました

● 白珠「真珠」

現在対馬・壱岐がある長崎県は愛媛県に次いで全国で2位の真珠生産県で、特に対馬の中央に広がる浅茅湾では、古代より天然真珠が採取され、朝廷への献上品とされてきた真珠の名産地で、現在も、真珠養殖が盛んに行われている。3・4世紀に対馬で真珠が採取されていたかどうかはわかりませんが、日本書紀には「アワビから真珠が採取した」との記事もあり、海人族の本拠地であった壱岐・対馬で 海産物・貝類の採取とともに真珠も採取されていたと考えられ、この時代 海産物と共に真珠は壱岐・対馬の主要名産品で、鉄入手のための主要交易品と考えられる。



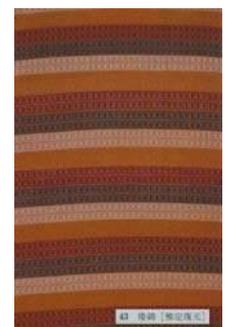
(なお、この時代の朝鮮半島遺跡から真珠が出土していたかどうかは調査できていない。)

正倉院御物 白珠・真珠

なお、白珠には「水晶」を含むことがあり、水晶は丹後の玉造り工房 奈具丘遺跡が主生産地である。

● 倭錦などの布

魏志倭人伝に「雑錦・倭錦・絳青兼・絳衣・帛布」などと記載された布切れは養蚕を紡いだ絹織物とみられ、紀元前2世紀頃中国もしくは朝鮮半島を通じて伝わった養蚕技術が倭国独自技術へと進化し、次第に日本の特産品になってゆく過程にあり、貴重品として中国へ逆に貢納されたと推定される。弥生時代の布は、多くは大麻を原料とする麻布であるが、絹織物も早くから織られていたといわれる。弥生時代前半期と後半期とでは様子が異なる。前半期の絹織物は、糸の分析よれば蚕が四眠蚕で中国



の河南系、後半期のものは、三眠蚕山河北系・楽浪系である。

絹織物の種類も多く、吉野ヶ里遺跡では一般的な目の詰まった平絹・すきめ織りの平絹・ねじり織りの薄絹や糸を茜や、貝紫で染めた錦様の織物もあり、4世紀には養蚕を含めて、広く国内産が流通するようになったといわれる。



貝紫で染色した布・糸



朱の付着がみられるすきめ織り



縫い目の残る絹織物



金海大成洞古墳群出土の紡錘車

吉野ヶ里遺跡で見つかった絹 弥生時代中期 図録「弥生時代の吉野ヶ里」より

絹などの織布は魏志倭人伝の時代においても きわめて貴重品であり、中国や周辺諸国それぞれの特産品であったろう。従って 倭錦・綾など布が邪馬台国から魏への貢納品として贈られたと同様に、朝鮮半島諸国にとっても日本の特産品であり、中継貿易を担った壹岐原の辻遺跡や対岸の金海大成洞古墳からも紡錘車が出土し、倭錦などの布が倭側の重要な交易品であったと考える。

### ● 丹・辰砂



辰砂は、不透明な赤褐色の塊状、あるいは透明感のある深紅色の鉱石として産出し、練丹術などでの水銀の精製の他に、古来より高貴な色・呪術的な意味を付与された色としての赤色（朱色）の顔料や漢方薬の原料（不老長寿の妙薬）として珍重されている。魏志倭人伝の邪馬台国にも「其山 丹有」と記述されている。

弥生時代代 古墳の内壁や石棺の彩色や壁画に使用されていた。漢方薬や漆器に施す朱塗や赤色の墨である朱墨の原料としても用いられ、古くは吉野川上流や伊勢国丹生（現在の三重県多気町）などが特産地として知られた。

弥生の末期この「丹」の生産工房があった阿波国矢野遺跡ではこの辰砂を砕き加工精製するのに鉄工具が使われるようになり、数多くの鍛冶工房や玉造り工房が同時に営まれていた。

朝鮮半島諸国もこの「丹」を珍重していたと推察すると、中国へ卑弥呼が貢納したことを考えるとやはり「玉類」と同様にこの阿波ほかの「丹」が朝鮮半島との交易の日本側の交易品となった可能性がある。



名東遺跡出土の水銀朱精製石杵



辰砂の鉱石



若杉山遺跡出土品



朱の精製・生産ジオラマ

辰砂の産地 四国阿波の朱生産工房 若杉山遺跡



四国阿波の鍛冶工房 矢野遺跡周辺で出土した鉄器・鉄素材  
弥生の末期 四国阿波の鍛冶工房・朱の生産工房の出土品例

## 4.2. そのほかの日本側交易品の候補

### ● 材木 高貴な木材 高野槇



高野槇

### ● ゴボウラ・夜光貝などの南海の貝類 装身具・宝石



吉野ヶ里遺跡出土のゴボウラやイモガイの腕輪

日本では弥生時代から古墳時代にかけて、防腐効果のあるコウヤマキが木棺材として用いられていた。

この日本特産のコウヤマキが百済 武寧王陵(6世紀)の木棺材にも使われている。

当時の百済が王族の木棺をつくるために、常時コウヤマキ材を入手・管理していた可能性が考えられ、武寧王以前にもすでにコウヤマキが交易されていた可能性があるといわれるが、その信憑性は確認できていない。

また、ゴウホラ・夜光貝など南海の貝の美しさに魅せられ、弥生時代日本では広く流通。

### ● 穀物類 海産物

壱岐・対馬には農耕ができず、南北市糶(してき)市を開き、自由に朝鮮半島 日本諸国を行き来して、交易で生計を立てていたという。この「糶」には「米を買い入れる」という意味があり、穀類や海産物がこの鉄道の重要な交易品であったとも考えられる。

朝鮮半島の南岸並びに北部九州の沿岸拠点(湊)や壱岐では、高床式の穀物倉庫群が建ち並び、日本各地の土器や半島の土器が多数出土する。そして、この時代 朝鮮半島もまた戦乱の時代である。

この大量に海峡を行き来する土器 海を渡った交易品の容器であったとも考えられ、倭・朝鮮半島両国の穀類・海産物などが、相互に海を渡った可能性は否定できないと思う。

少なくとも 壱岐・対馬には穀類・海産物が交易を通じて集まったのではないだろうか…

朝鮮半島出土弥生系土器から復元する日韓交渉

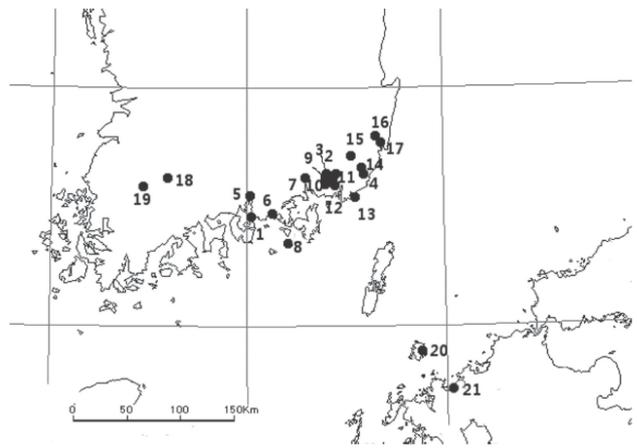


図1 朝鮮半島弥生系土器出土主要遺跡分布図

朝鮮半島出土の倭系土器



壱岐・原の辻遺跡から出土した朝鮮半島並びに日本各地の土器

## 5. 魏志倭人伝の時代 朝鮮半島の鉄と交換した日本側の交易品の整理まとめ

**穀類・海産物・絹布・白珠・青珠・勾玉・朱・木材などが 日本側交易品ではないか**

朝鮮半島への交易品の記載を示す古文書は見つかりませんが、魏志倭人伝には中国との交流に邪馬台国が貢納した品物の記載 並びに 倭国と朝鮮半島の交流の様子の記載があり、これは重要な手がかり。

これらと当時の鉄の集積や日本特産品並びに朝鮮半島・日本側の湊拠点の発掘調査レビューと照らし合わせながら日本側の交易品の可能性を調べた。

その結果 ダイレクトに日本側交易品を示すことはできなかったが、日本側の交易候補品そして朝鮮半島の鉄入手交易の様子がおぼろげながら整理できた。

**その結果をまとめると下記のとおりである。**

1. 邪馬台国から魏への貢納品でもあった 白珠・青珠・倭錦・丹などが記載され、当時これらが日本の貴重な特産品だったと考えられる。
2. 朝鮮半島と北部九州の間にある壱岐・対馬は 魏志倭人伝に記載する通り、交易・航海術にたけた海人族の国で、そこには朝鮮半島・日本各地の物産が集まる市場があり、日本各地・朝鮮半島と活発な中継貿易を行っていたことが、膨大な出土遺物からわかる。
3. この中継貿易を円滑・活性化する貨幣の役割を 鉄テイが担っていた可能性が想定できる。  
この広汎活発な中継貿易により、鉄を入手するためには必ずしも朝鮮半島に直接行って交易する必要はなく、北部九州・壱岐・対馬・朝鮮半島などの貿易拠点で交易が可能で、鉄の入手がはるかに容易になっていったと考えられ、国内向けであった各地の特産品・穀物・海産物などがそれぞれ、重要な交易品になりえたと考えられる。
4. 日本各地の特産品の生産工房の展開が鉄製工具を要求し、玉加工や朱などの生産工房の展開と鉄の集積とが密接につながって 相互展開している。
5. 朝鮮半島の南岸並びに北部九州の沿岸拠点(港)や壱岐には日本各地の土器や半島の土器が多数出土する。  
これは この土器に入れられ海を渡った交易品の容器と考えられないか  
魏志倭人伝の記事と合わせると 穀類・海産物などが、海を渡った可能性は否定できない。

これらの結果をもとに 朝鮮半島の鉄入手と交換された倭側の交易品を考えると、魏志倭人伝に記載された「絹布・白珠・青珠・勾玉・朱」や「穀類・海産物」そして、木材や南海の貝類などが日本側交易品の候補ではないかと。

また、壱岐・対馬が海人族の拠点であることは知っていましたが、半島の鉄入手にこの壱岐・対馬が中継貿易の担い手として きわめて大きな役割を演じていたと気づきました。

同時に この時期 朝鮮半島から大量に持ち込まれた薄鉄材「鉄テイ」の性格がよく判らなかつたのですが、中継貿易の繁栄の中、魏志倭人伝の記載にある「鉄が貨幣の役割」と考えるとこの鉄テイの性格が見えてきたように思っています。

これら すべて 確証はありませんが、朝鮮半島と日本をつなぐ「和鉄の道」を往来した交易品が見え、今後の検討のなかで、もっとクリアーにできればと思っています。

**【 整理に使った資料ほか 整理とともに掲載図面につかわせていただきました 】**

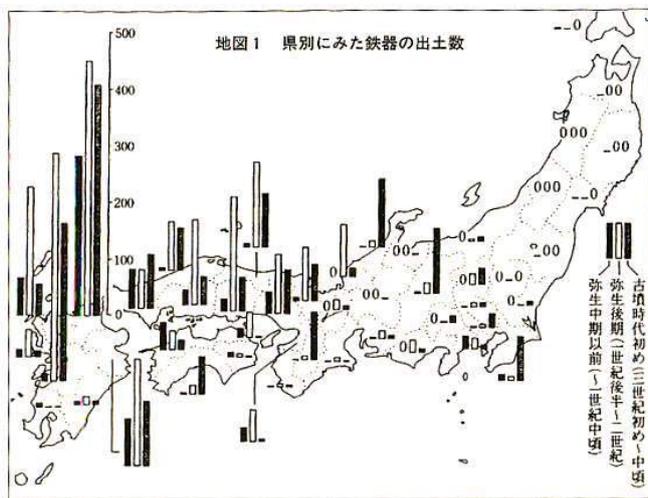
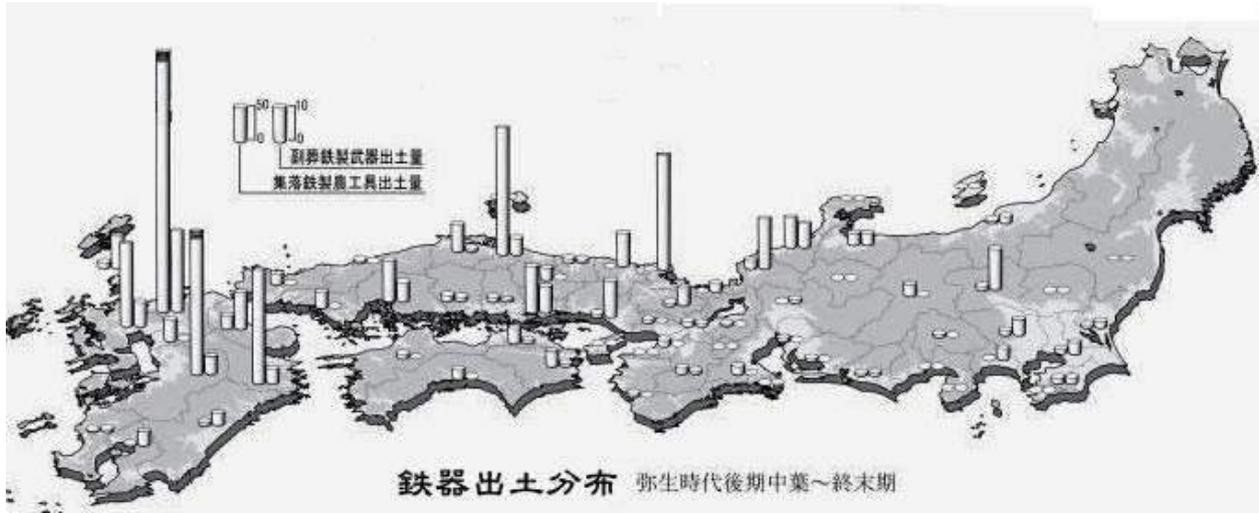
1. 第五回歴博国際シンポ 「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」論文集 2002. 3. 13. -3. 16.
  2. 大阪弥生文化博物館 発掘「倭人伝」海の王都、壱岐・原の辻遺跡展図録 2002
  3. 京都国立博物館「伽耶文化展」図録 1992
  4. 大阪弥生文化博物館 特別展「北陸の玉と鉄 弥生王権の光と影」図録 2005. 10.
  5. 大阪弥生文化博物館 渡来人登場展 図録 1999. 4.
  6. 近つ飛鳥博物館 鉄とヤマト王権展 図録 2012. 10.
  7. 京都国立博物館 倭国 邪馬台国と大和王権展 図録 1993. 3.
  8. 石田あゆみ 朝鮮半島出土弥生系土器より復元する日韓交渉
  9. 弥生時代の初期鉄器の船載時期とその流通構造の解明 (H17-19 科研費基盤研究報告書 代表 野島永
- インターネット検索 朝鮮半島の鉄 交易品 魏志倭人伝 等 検索より

参考 1. 日本海沿岸諸国(山陰から北陸へ) 玉造工房と鉄

弥生末期 玉造工房の展開と同時期に鉄の集積が急伸した山陰から北陸 日本海諸国玉造工房と鉄



第3図 島根県平所遺跡出土  
水晶燻玉破損品



● 北陸の玉造工房



北陸の玉造・鍛冶工房 (1)



北陸の玉造・鍛冶工房 (2)

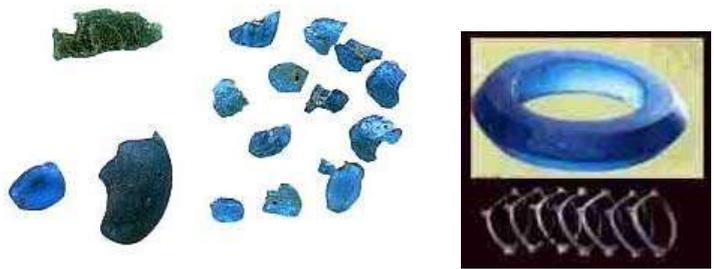
● 丹後の玉作り

水晶・ガラスを主な素材とした玉造りと鍛冶工房 丹後半島 奈具丘遺跡・遠所遺跡ほか



215 水晶製玉作りの過程と鉄・石製の穴をあける工具  
上左・長7.1cm/弥栄町 奈具岡遺跡/弥生中期後半

216 ガラス玉作りに伴うガラス破片とガラス滓  
上左・長1.1cm/弥栄町 奈具岡遺跡/弥生中期後半



青と紺色のコントラストをなすガラス小玉  
大宮町 今市墳墓群2号墳/弥生後期前半



222 鉄斧などの鉄製品と加工前の鉄素材  
上右・長5.6cm/弥栄町 奈具岡遺跡/弥生中期後半

丹後の国の玉造工房 玉類 水晶・ガラスを主な素材とした玉造り

● 出雲の玉造工房



古墳時代前期の勾玉と管玉碧玉、  
メノウで作られた玉類  
松江市上野1号古墳

出雲の玉作りは、弥生時代前期に始まり、古墳時代後期まで一貫して継続する。  
弥生時代 規格性のある朝鮮半島産の碧玉製玉類が大量に持ち込まれ、その影響により、列島の各地域に玉作りが拡散し、山陰でも管玉製作が始まる。  
そして、弥生時代から古墳時代へと移行する中、北陸で管玉製作が拡大し、腕飾類など石製品の生産が開始、全国的に流通する。山陰では玉作り集落が出雲に集約し、古墳時代前期には花仙山産の碧玉・瑪瑙・水晶を素材とした勾玉生産が開始され、古墳時代中期以降、出雲の玉はそれまでの北陸の玉と入れ替わるように列島の各地域に流通。

( 鳥根県立古代出雲歴史博物館 ホームページより)

この時期 朝鮮半島の鉄器素材を集積し、交易する麦木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡などの交易集落が現れ、山陰でも鉄器が供給されるようになり、出雲の玉造工房が展開される過程で、玉造の加工工具が硬い原石の細密加工ができる鉄器へと急速に代替されてゆく。

出雲の玉造遺跡は、松江市玉湯町を中心に現在約100遺跡が知られており、弥生時代前期から平安時代にかけて、盛んに玉造が行われた。特に青メノウ(碧玉)は出雲石と呼ばれ、出雲しか産出しないという。

特に宍道湖の南岸に位置し、旧玉湯町と松江市にまたがる花仙山の山麓には 50 力所近い玉作りの集落があり、出雲地方の玉作り遺跡の大半がここに集中。花仙山周辺の多数の玉作り遺跡のうち、「出雲玉作跡」として3ヶ所が国史跡に指定されている。

弥生時代後期 山陰の鉄

	刀剣	鎌	工具	農具	伎師	他	小計	不明	総数	備考
福 前	83	388	500	259	213	61	1603	243	1746	
鹿 本	17	377	189	155	45	37	823	1068	1891	
佐 賀	26	47	91	85	59	19	337	29	366	
高 松	3	32	56	13	17	82	203	20	223	
鳥 取	26	67	224	34	76	88	515	149	934	上寺地270
岡 山	13	120	105	18	17	18	291	144	435	うち94点は黒北部
兵庫北部	18	50	72	0	7	15	162	7	169	
兵庫南部	11	30	22	0	6	20	89	22	111	
京都北部	49	103	53	1	1	10	217	17	234	
京都南部	1	6	9	3	2	9	30	4	34	
大 阪	3	32	19	3	14	16	87	66	153	

弥生後期の鉄器出土数  
(藤田恵司「見えざる鉄器」『究証』Ⅱ 2002年9月を一部改定)



麦木晩田古墳

青谷上寺地遺跡



松江市玉湯町 花仙山の西南の麓、玉湯川右岸の緩斜面に古墳時代前期から平安時代にかかる 30 棟近い玉作り工房が発見され、その中から、玉の原石、管玉・勾玉・丸玉などの半製品、玉磨き砥石、穿孔用の鉄製ドリルなど数万点の玉作りに関する資料が見つかった。(宮垣地区)

また、宮垣地区から約 500mほど南側、玉湯川の右岸にある宮ノ上地区は花仙山周辺の玉作り遺跡では、最古弥生時代終末期の玉作り工房跡である。

松江市玉湯町 出雲玉作跡  
(宮垣地区・上宮地区・玉ノ宮地区)

参考2. 高久健二氏「韓国の倭関係遺物 4世紀～6世紀」

歴博シンポ「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」資料より

第5回歴博国際シンポ「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」2002.3.13.-3.16.  
高久健二「韓国の倭系遺物 -4世紀～6世紀-」より

表1 韓国の倭関係遺物(4～6世紀)

遺跡名	倭関係遺物	遺構種類	共伴遺物	遺構時期
忠北清州市 新鳳洞90A-32号墳	須惠器杯身1	土壙墓	瓦質平底壺	5世紀後半
忠北清州市 新鳳洞90B-1号墳	須惠器(杯身4、 杯蓋2) 土師器直口壺1	木棺墓	鉄刀、鉄鎌、短甲、櫛、鏡、鉄刀子、鉄鎌、鉄斧、金銅裝飾、硬質土器(壺、三足鉢、蓋杯、高杯、器)、軟質土器(鉢)	5世紀後半
忠南公州市 武寧王陵	高野槓製木棺	埴室墓	環頭大刀、鉄矛、鉄刀子、棺釘、銅鏡、冠飾、玉類、頸飾、釧、耳飾、笄、帯金具、腰佩、飾履、飾金具、銅鉢、銅皿、銅熨斗、銅匙、銅箸、銀盃、五銖銭、青磁、白磁、鎮墓獸、買地券	6世紀前葉
忠南扶余郡 扶余邑軍守里	滑石製子持勾玉1	不明	不明	5世紀?
忠南扶余郡 陵山里古墳群	高野槓製木棺	横穴式石室	棺金具、金銅冠金具、飾紙など	6世紀後半～ 7世紀前半
忠南扶余郡 陵山里東古墳群	高野槓製木棺	横穴式石室	棺釘、飾紙、座金具、玉類、金步搖など	6世紀後半～ 7世紀前半
全北益山郡 益山大王墓	高野槓製木棺	横穴式石室	盤	7世紀前半
全北扶安郡 竹幕洞遺跡	須惠器(蓋2、無蓋高杯1、提瓶1) 石製模造品(有孔円盤141、劍形品34、鏡2、勾玉7、刀子5、短甲1、斧1、鎌1、鐸2)	祭祀遺跡		5世紀後半～ 6世紀
全南順天市 大谷里A-1号住居跡	須惠器杯身1	住居跡		5世紀後半
全南順天市 大谷里A地区表探	須惠器杯蓋1			5世紀後半
全南順天市 大谷里C地区表探	須惠器杯身1			5世紀後半
全南羅州市 大安里9号墳 庚棺	直弧文鹿角装鉄刀子1	甕棺墓	大刀、銅釧、ガラス勾玉、硬玉勾玉、ガラス管玉、ガラス白玉、金環	5世紀後半
全南羅州市 伏岩里1号墳 周溝東区	須惠器甕1	横穴式石室	石枕、有蓋小壺、小瓶、大壺、壺、大甕、甌、緑釉有台杯、蓋杯、高杯、盤、甕、鉢、紡錘車	6世紀前半
全南羅州市 伏岩里3号墳 96号石室墓	須惠器甕2	横穴式石室 (甕棺)	環頭刀、鉄大刀、鉄矛、鉄鎌、馬具類、鉄刀子、鉄鉗、金銅飾履、棺釘、蓋杯、高杯、壺、瓶、長頸壺、短頸壺	5世紀後半～ 6世紀前半
全南潭陽郡 齊月里古墳	六獣鏡1 珠文鏡1	圀石墓	鉄刀、鉄槍、櫛、鏡、瑪瑙勾玉、ガラス小玉、金銅製指輪、平底短頸壺、蓋杯	5世紀末～6世紀前半
全南海南郡 月松里 造山古墳	珠文鏡1 ゴホウラ貝釧1	横穴式石室	環頭大刀、鉄矛、鉄石突、鉄鎌、F字形鏡板付櫛、劍蓋形杏葉、鏡、銅鈴、鉄斧、U字形鋤先、鏡、碧玉製管玉、ガラス小玉、ガラス切小玉、勾玉、短頸壺、長頸壺、台付短頸壺、甕、広口小壺、高杯、蓋杯、貝殻片	5世紀後葉
全南務安郡 三郷面麥浦里	須惠器甕1	不明	不明	5世紀後半
全南榮山江流域	須惠器甕1	不明	不明	5世紀後半
慶北慶州市 皇南大塚(南墳) (主塚)	仿製方格規矩鏡1 イモガイ飾金具7 イモガイ金銅円頭 飯38	積石木槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄鎌、鉄刀子、脛甲、馬具類、鏡、冠帽類、玉類、耳飾、指輪、鈿帶、腰佩、飾履、金属容器、ガラス容器、漆器、硬質土器(高杯、蓋杯、広口壺、長頸壺、台付短頸壺、把手付小壺)、軟質土器(有蓋壺、有蓋小壺)	5世紀中葉
慶北慶州市 金鈴塚	珠文鏡1 イモガイ辻金具7 イモガイ雲珠1	積石木槨墓	環頭大刀、鉄鎌、鉄矛、鉄石突、鉄鉞、鉄刀子、針、有刺利器、馬具類、土製紡錘車、冠帽、玉類、耳飾、釧、帯金具、指輪、飾履、櫛、鉄鏡、青銅盒、金銅盒、金銅皿、漆器(皿、鉢、盒、高杯)、ガラス椀、硬質土器(蓋杯、高杯、把手付盤、短頸壺、長頸壺、注口壺、騎馬人物形容器、船形容器)、軟質土器(小壺)	6世紀前半
慶北慶州市 金冠塚	イモガイ飾金具6	積石木槨墓	環頭大刀、鉄刀、鉄矛、鉄鎌、挂甲、馬具類(櫛、鞍、鏡、杏葉、馬鐸、蛇行鉄器)、鉄刀子、鉄斧、冠帽、玉類、釧、指輪、耳飾、飾履、鈿帶、腰佩、金属容器(釜、甌、盒、高杯、四耳壺、勺斗、角形尊、鐏斗)、漆器、ガラス容器、硬質土器(長頸壺、短頸壺、台付把手付盤、蓋杯、有蓋高杯、横瓶)、軟質有蓋盤	5世紀後半

慶北慶州市 天馬塚	イモガイ辻金具6 イモガイ雲珠4	積石木槨墓	環頭大刀、鉄刀、鉄矛、鉄鏃、馬具類(轡、鞍、障泥、鞍褙、鐙、杏葉、馬鐸、)、鉄斧、刀子、鉄鎌、鉄鋌、鍔、釘、冠帽、耳飾、釧、指輪、玉類、鈎帶、腰佩、飾履、金属容器(釜、高杯、鼎、鏝斗、熨斗、釜)、ガラス杯、漆器、硬質土器(長頸壺、短頸壺、高杯、蓋杯、把手付小壺、横瓶)、軟質小壺	6世紀前半
慶北慶州市 皇吾里33号墳 (西槨)	イモガイ辻金具4 イモガイ雲珠3	積石木槨墓	鉄刀、鉄鏃、馬具類(轡、杏葉)、鉄斧、鉄刀子、鉄鎌、鉄鋌、有刺利器、金属容器(釜、壺)、耳飾、玉類、釧、硬質土器(長頸壺、三耳壺、高杯、蓋杯)、軟質壺	6世紀前半
慶北慶州市 皇南里151号墳 (積石槨)	イモガイ辻金具5	積石木槨墓?	鉄刀、馬具、耳飾、硬質土器(高杯、短頸壺、長頸壺)	6世紀前半
慶北慶州市 皇南里古墳	振文鏡1	積石木槨墓?	不明	4世紀末~5世紀前半
慶北慶州市 味郷王陵第7地区4号墳	イモガイ辻金具4	竪穴式石槨墓	馬具類(轡、杏葉)、硬質土器(高杯、短頸壺、有台長頸壺、長胴甕)、軟質土器(把手付有蓋盤、有蓋盤、甌)	6世紀前半?
慶北慶州市 鶏林路14号墳	イモガイ辻金具1	竪穴式石槨墓	嵌玉金装短劍、環頭大刀、馬具類(鞍、鐙、杏葉)、銅盒、勾玉、耳飾、土器類	6世紀
慶北慶州市 月城路ka-29号墳	緑色凝灰岩製石釧1	木槨墓?	鉄大刀、鉄矛、鉄鏃、短甲片、小札、鑄造鉄斧、鉄鋌、鍔、水晶勾玉、管玉、瑪瑙切小玉、ガラス小玉、硬質土器(短頸壺、台付壺、大壺、炉形土器)	4世紀後半
慶北慶州市 月城路ka-31号墳	土師器?(小型甕、小型器台、高杯)	木槨墓?	硬質土器(大壺、有蓋大壺、コップ形土器)、瓦質土器(コップ形土器)、軟質土器(小型台付甕)、土製漁網錘	4世紀前半
慶北慶山市 林堂洞・造永E I-1号墳 (主槨封土)	ギンタカハマ魚形装飾品1	木槨墓	環頭大刀、鉄刀、鉄矛、鉄鏃、盛矢具、鉄斧、鉄刀子、有刺利器、金銅冠飾、金耳飾、頸飾、銀鈎帶、高杯、長頸壺、台付盤、蓋杯、短頸壺、筒形器台、把杯、軟質鉢、長卵形甕	5世紀後半
伝・慶北慶山市 林堂洞	珠文鏡1	不明	不明	5世紀
慶北高霊郡 池山洞45号墳1号石室	仿製鏡片1	竪穴式石槨墓	三葉文環頭大刀、鉄矛、鉄鏃、挂甲、馬具類(鞍、鐙、轡、杏葉)、鉄鎌、鉄刀子、鉄釘、鍔、金銅冠装飾、耳飾、瑪瑙切小玉、瑪瑙小玉、金銅空玉、土製紡錘車、織物片、硬質土器(有蓋高杯、有蓋中頸壺、有蓋短頸壺、有台把手付壺、器台)	6世紀前半
慶北高霊郡 池山洞44号墳主石室	ヤコウガイ容器1	竪穴式石槨墓	鉄刀、鉄鏃、鉄矛、馬具類(轡、鐙、鞍、杏葉)、鍛造鉄斧、鉄刀子、釘、鍔、腰佩砥石、青銅盒、天河石管玉、ガラス小玉、琥珀玉、勾玉、硬質土器(有台把手付杯、蓋杯、把手付壺、高杯、小壺、長頸壺、甌)	5世紀後半
釜山市 福泉洞10号墳(東亜大)	土師器?1(小型器台)	木槨墓?	有台短頸壺、短頸壺、筒形器台、高杯、鉢形器台	4世紀前半
釜山市 福泉洞38号墳 (主槨)	筒形銅器2	木槨墓	環頭大刀、大刀、鉄劍、鉄矛、鉄鏃、轡、冑、短甲、小札、鉄斧、鉄鎌、鉄刀子、有刺利器、鉄鋌、鍔、瓦質短頸壺、炉形土器、軟質盤	4世紀初頭
釜山市 福泉洞60号墳 (主槨)	筒形銅器3	木槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄鏃、鍛造鉄斧、鉄鎌、鉄刀子、鉄タビ、石斧、有刺利器、鉄環、鍔、硬質土器(高杯、炉形器台、筒形器台、短頸壺)、瓦質土器(高杯、短頸壺)、軟質土器(壺)	4世紀中葉
釜山市 福泉洞64号墳	筒形銅器2	木槨墓	環頭大刀、鉄刀、鉄矛、鉄石突、鉄鏃、短甲、鉄斧、鉄タビ、鉄刀子、鍔、勾玉、壺、炉形器台、高杯	4世紀
釜山市 福泉洞71号墳 (主槨)	筒形銅器2	木槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄鏃、轡、頸甲、鉄鎚、鉄刀子、鉄鎌、鉄斧、鉄鑿、有刺利器、鉄鋌、鍔、器台、大壺、壺、炉形器台、高杯、広口小壺	4世紀後葉
釜山市 東萊貝塚Fピット8・10層	土師器(甕、山陰系二重口縁壺)	貝塚		4世紀
釜山市 杜邱洞林石5号墳	イモガイ?辻金具7 イモガイ?雲珠1	横口式石室墓	馬具類(轡、杏葉)、鉄刀子、鉄鋌、鍔、耳飾、硬質土器(高杯、台付盤、台付長頸壺)、瓦質土器(高杯、把手付短頸壺、短頸壺)	6世紀前半
慶南昌原市 三東洞18号甕棺墓	内行花文鏡1	甕棺墓	鉄刀子	4世紀

慶南昌原市 三東洞2号石棺墓	銅鍍2	石棺墓	鉄鍍、鍛造鉄斧、鉄鎌、ガラス小玉、軟質平底短頸壺、瓦質短頸壺、硬質短頸壺	4世紀
慶南昌原市 加音丁洞貝塚	イモガイ1(素材)	貝塚		3~4世紀
慶南馬山市 県洞8号墳	土師器(布留式系高杯)1	土壇墓	鉄刀子、硬質土器(短頸壺)	4世紀後葉~ 5世紀前葉
慶南晋州市内古墳	獣形鏡?1	不明	不明	5世紀後半~ 6世紀前半
慶南晋州市	子持勾玉1	不明	不明	5世紀?
慶南鎮海市 龍院23号土壇	土師器1(高杯)	土壇	硬質把手付杯	4世紀?
慶南鎮海市 龍院第5ピット第2層	土師器1(高杯片)	貝塚		4世紀
慶南鎮海市 龍院第9ピット混土具層	土師器1(高杯)	貝塚		4世紀後半
伝・慶南金海市 良洞里	筒形銅器16	不明	不明	不明
慶南金海市 良洞里303号墳 (東義大)	碧玉製紡錘車形石製品1	未報告	未報告	未報告
慶南金海市 良洞里304号墳 (東義大) (主塚)	筒形銅器2	石槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄鍍、鉄斧、有刺利器、鉄釘、鍔、勾玉、小玉、硬質有蓋高杯、硬質高杯、硬質蓋、硬質短頸壺、硬質有蓋台付壺、硬質筒形器台、硬質炉形土器	4世紀
慶南金海市 良洞里304号墳 (東義大) (副塚)	筒形銅器2	木槨墓	鉄斧、鉄鎌、轡、硬質短頸壺、硬質小壺付脚杯、硬質蓋、硬質小形丸底広口壺、硬質小形器台、硬質炉形土器	
慶南金海市 良洞里331号墳 (東義大)	筒形銅器4	未報告	未報告	未報告
慶南金海市 良洞里441号墳 (東義大)(主塚)	仿製方格規矩鏡1	木槨墓	鉄劍、鉄鍍、鉄鎌、鉄斧、鉄刀子、切子玉、瓦質炉形土器、硬質短頸壺、硬質有蓋壺	4世紀前半
慶南金海市 良洞里443・447号墳 (東義大)	筒形銅器5	木槨墓	未報告	3世紀~4世紀
慶南金海市 大成洞1号墳 (主塚)	筒形銅器8	木槨墓	鉄小刀、鉄矛、鉄槍、鉄鍍、鉄斧、鉄鎌、鉄刀子、鑿形鉄斧、U字形鋤先、鉄鍔、鉸具、杏葉、鍔、馬冑、鞍橋、鍔、鉄楔、青銅環、ガラス小玉、硬質高杯、硬質有蓋高杯、硬質広口小壺、硬質小形器台、硬質有蓋台付把手付壺、硬質短頸壺、硬質鉢形器台、軟質器台、軟質甕、馬骨	5世紀前半
慶南金海市 大成洞2号墳	筒形銅器2 巴形銅器1 緑色凝灰岩製石鍍3	木槨墓	鉄矛、鉄槍、鉄石突、三枝槍、鉄鍍、鉄曲刀子、鉄斧、鉄鎌、鉄鑿、冑、短甲、頸甲、轡、鉄鍔、漢鏡片、骨鍍、瑪瑙玉、雲珠形銅器、豚骨	4世紀第4 半期
慶南金海市 大成洞11号墳	筒形銅器1 (上部攪乱層より出土)	木槨墓	鉄矛、鉄鍍、冑、挂甲、轡、馬甲、鉄刀子、鍔、楔、虎形帶鉤、鉄環、轡、ガラス小玉、硬質蓋、硬質有蓋高杯、硬質小形器台、硬質台付把手付盃、硬質鉢形器台、硬質筒形器台	5世紀前葉
慶南金海市 大成洞13号墳 (主塚)	巴形銅器6 緑色凝灰岩製鍍形石製品15	木槨墓	鉄刀、鉄劍、鉄槍、鉄鍍、鉄斧、鉄刀子、鉄曲刀子、ガラス小玉、蠟石製異形石製品、硬質短頸壺、硬質両耳付短頸壺、硬質炉形器台	4世紀第2四 半期
慶南金海市 大成洞15号墳	筒形銅器1	木槨墓	鉄鍍、鉄鑿、硬質短頸壺、硬質炉形器台	4世紀前半
慶南金海市 大成洞18号墳	筒形銅器2 緑色凝灰岩製紡錘車形石製品1	木槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄槍、鉄鍍、冑、鉄斧、鉄鎌、鉄鑿、鉄刀子、鉄鍔、翡翠製勾玉、碧玉製管玉、硬質短頸壺、硬質両耳付短頸壺、硬質四耳付壺、硬質直口壺、硬質炉形土器、硬質炉形器台	4世紀第1四 半期
慶南金海市 大成洞23号墳	巴形銅器片1	木槨墓	鉄製短劍、環頭大刀、鉄曲刀、鉄矛、鉄槍、鉄鍍、挂甲、鉄刀子、鉄鍔、鍔、方格規矩四神鏡、碧玉製管玉、硬質高杯、硬質広口小壺、硬質短頸壺、硬質大壺、硬質炉形器台	4世紀第3四 半期



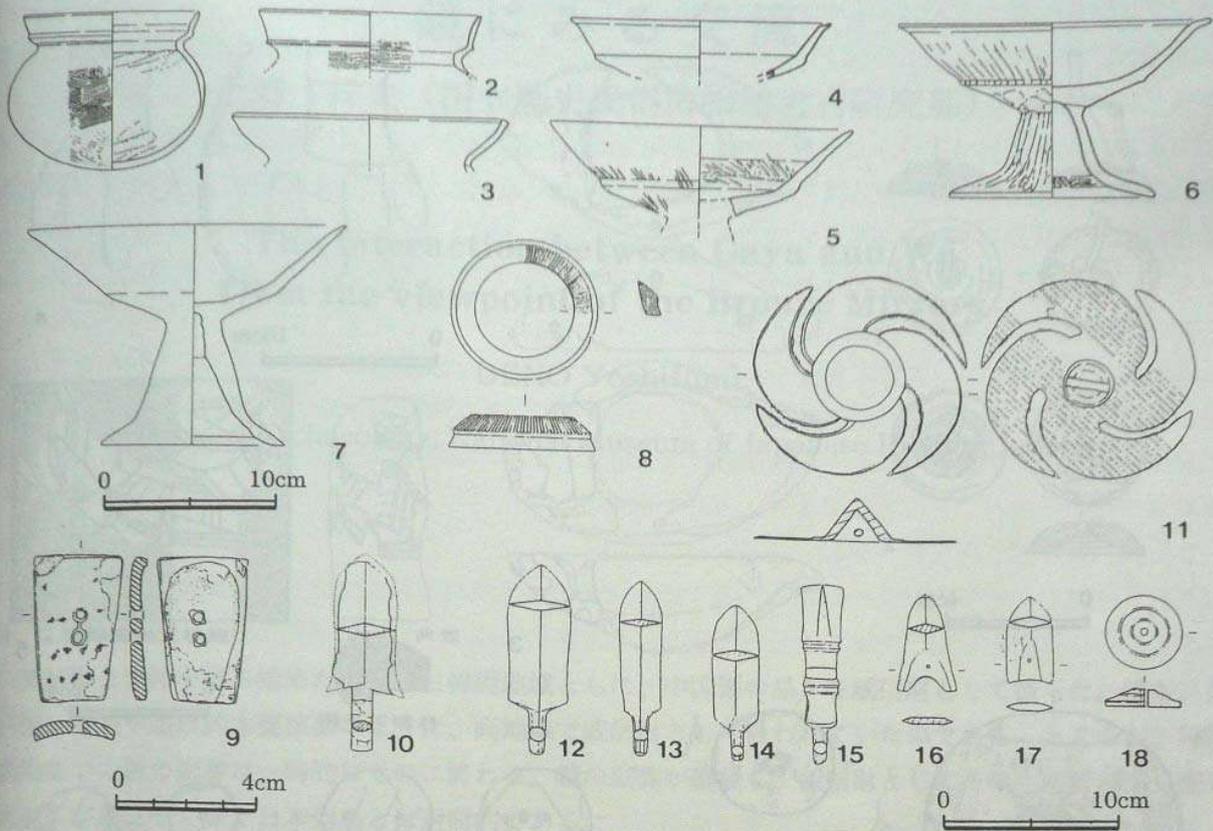


図1 4世紀～5世紀前半の韓国出土倭系遺物

1～7：土師器、8：石釧、9：イモガイ製貝符、10：銅劔、11：巴形銅器、12～17：鍔形石製品、18：紡錘車形石製品（1～3：東萊貝塚、4～6：龍院遺跡、7：渠洞 8 号墳、8：月城路 ka-29 号墳、9：礼安里 77 号墳、10：三東洞 2 号石棺墓、11～17：大成洞 13 号墳、18：大成洞 18 号墳）

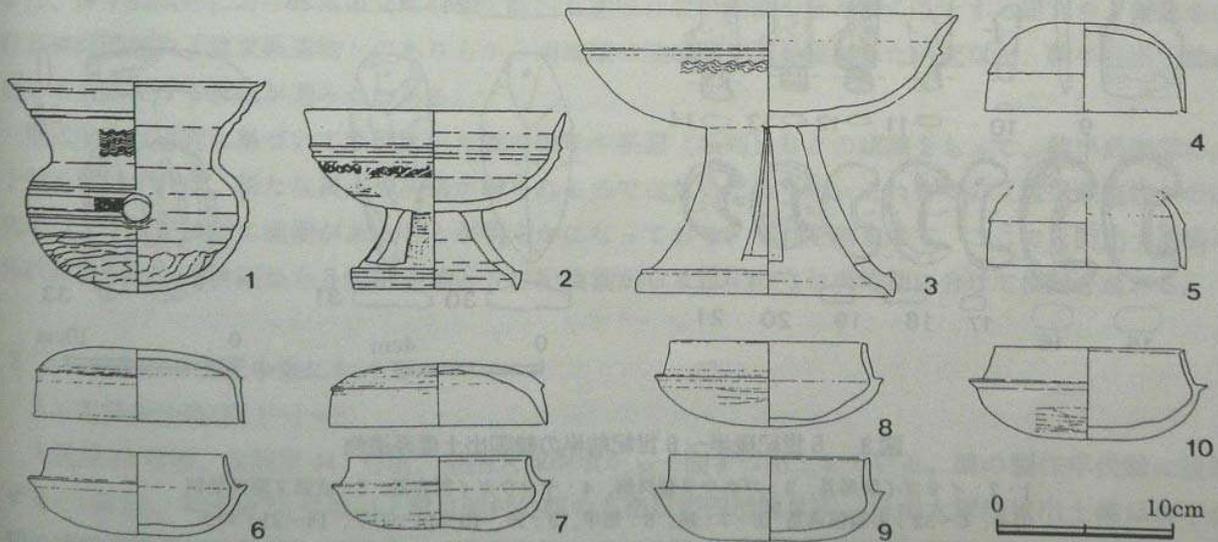


図2 韓国出土の須恵器

1：伝・宜寧出土品、2：鳳溪里 20 号墳、3～5：竹幕洞遺跡、6～9：新鳳洞 90B-1 号墳、10：新鳳洞 90A-32 号墳

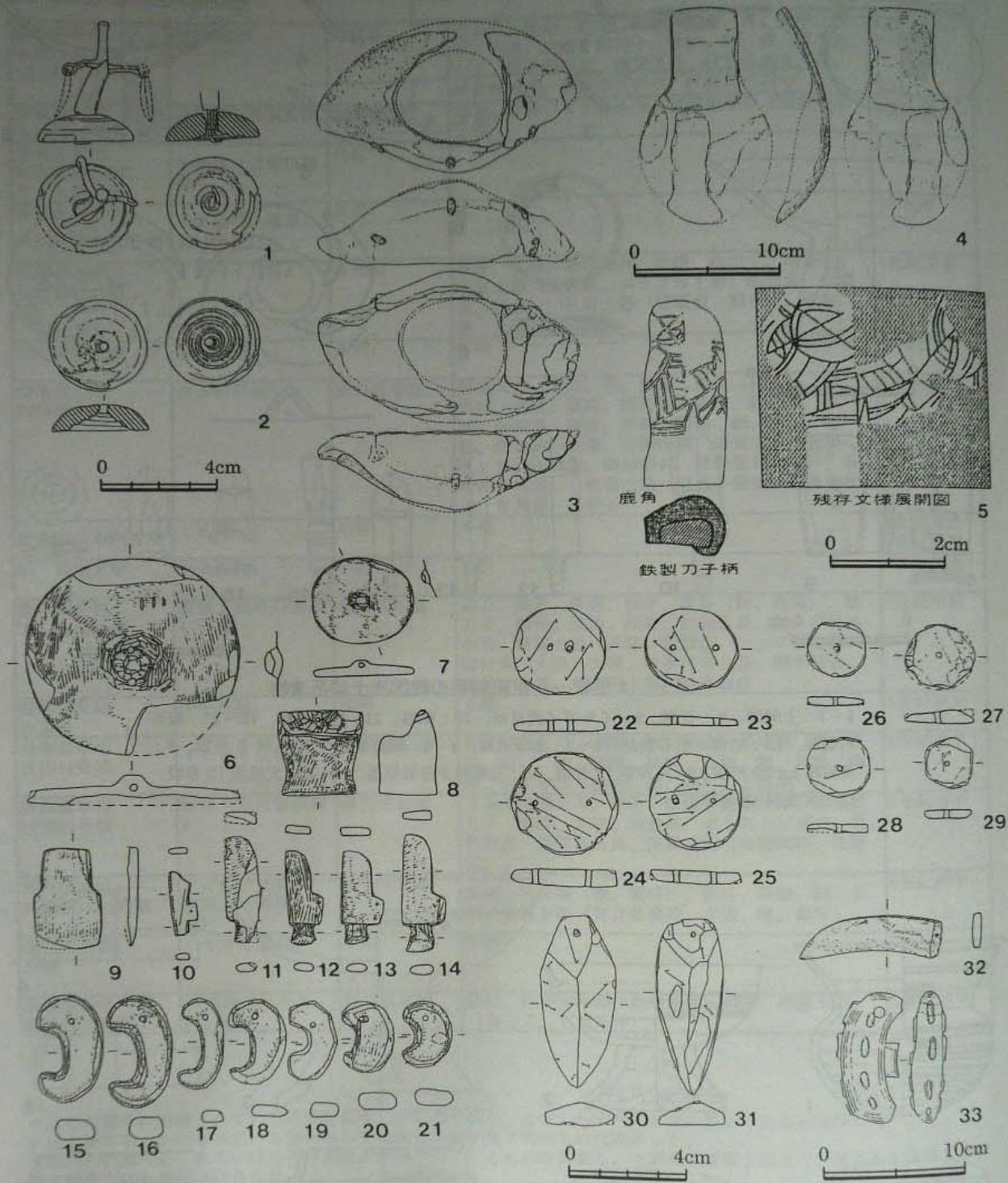


図3 5世紀後半～6世紀前半の韓国出土倭系遺物

1・2：イモガイ製馬具、3：ゴホウラ製貝釦、4：ヤコウガイ製容器、5：直弧文鹿角装鉄  
 刀子、6～32：石製模造品（6・7：鏡、8：短甲、9：斧、10～14：刀子、15～21：勾玉、  
 22～29：有孔円盤、30・31：劍、32：鎌）、33：滑石製子持勾玉（1：皇南大塚南墳、2：  
 金冠塚、3：造山古墳、4：池山洞 44 号墳、5：大安里 9 号墳庚棺、6～32：竹幕洞遺跡、  
 33：軍守里出土品）



清水坂から清水寺の山門前は日曜日と修学旅行シーズンが重なって、ぎっしりと人の波。

やっぱり 京都一番の名所。

でも、この寺が坂上の田村麻呂ゆかりの寺で、境内に蝦夷の族長アテルイの顕彰碑があることを知っている人は少ない・さすがに 東北と関係深い清水寺 清水の舞台の上 本堂の中央 御本尊の正面に大きく大書された募金箱が設置され、多くの場所で募金が呼びかけられていました。

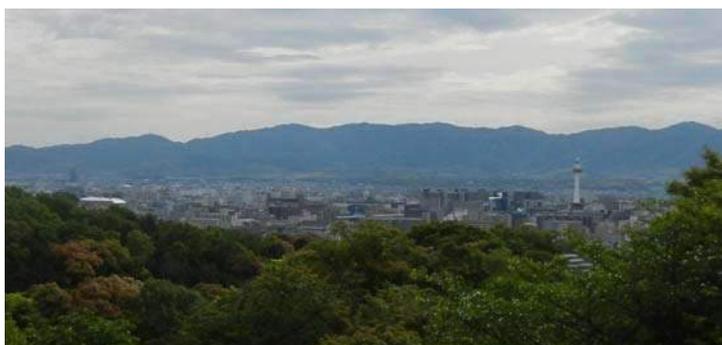
私も 東日本大震災に被災した東北の復興を祈願してきました。

清水の本堂を抜けてたところから、石段を下りて 舞台の下にまわった崖の縁の広場にアテルイ・モレの顕彰碑がある。ここへ来るのは数年ぶり。多くの人が、顕彰碑の傍を通り過ぎて行く中、何人かが足を止め、碑文を熱心に読んでゆく。ここだけは喧騒から逃れた静かな場所 新緑の中 碑文の横の崖の所に置かれたベンチに座ったり 谷をのぞきこんだり 東北を想う。



清水寺の境内にある 蝦夷の族長アテルイ・副将モレの顕彰碑 2011. 5. 22.

しばらく 碑の傍で 新緑を楽しんだ後、東山の山裾を久しぶりに清閑寺まで足を延ばし、帰ってきました。京都を歩いた一日 今日「私の東北の日」でした。



2011. 5. 22. 夕 東山大谷の墓所の中を下りながら

Mutsu Nakanishi

9.

## 鉄のモニュメント 奈良 三輪山 大神神社 鉄の大鳥居

久し振りに 奈良 巻向・三輪を歩く 2011.8.2.



巻向 三輪山の麓から 大和平野の眺め 正面に箸墓 奥左:葛城・二上山 奥右:竜田・信貴・生駒の山並 2011.8.2.



三輪山と鉄の大鳥居



箸墓



大和平野に浮かぶ大和三山

山の辺の道 巻向周辺を歩くとどこからでも見える大神神社の大鳥居・箸墓・大和平野に浮かぶ大和三山

8月2日 朝早く家を出て、奈良国立博物館で開催されている特別展「天竺へ 三蔵法師 3万キロの旅」を見にいって、その後 久しぶりに巻向・三輪を歩いてきました。

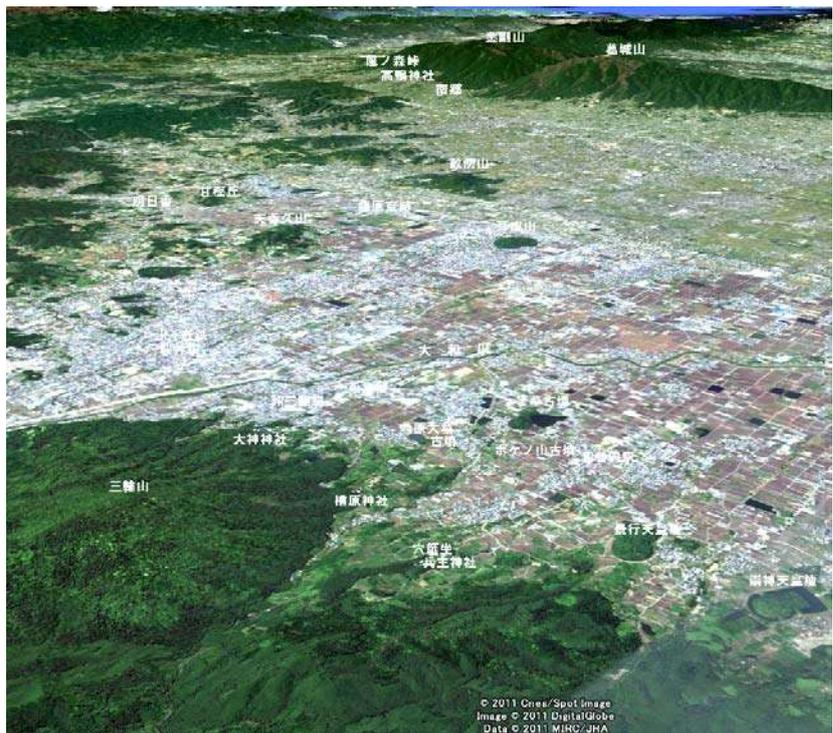
「西遊記」のモデルとなった三蔵法師のシルクロード・天竺への旅の各地場面が絵巻に描かれた藤田美術館所蔵の全12巻・全長総計190メートルを超える長大な国宝の絵巻が全巻公開。最近はややホーンを耳に憑けて、作品それぞれの前でゆっくり解説が聞けるようになり、自分の知らない時代背景や描かれた場面の解説を見れるようになって ゆったりと博物館巡りの楽しみが一つ増えました。

展覧会は出足が大事 一歩先に行くに限る。ゆっくりと見て、それからお茶して、街を歩く。久しぶりに緑に包まれた奈良の街を歩いて午後 色々発掘が進んで、クローズアップさ

れている巻向がどうなっているのか また、三輪山の鉄の大鳥居にも出会いたくて、纏向から三輪へ 三輪山の山裾をぶらぶら歩いてきました。特別展「天竺へ 三蔵法師 3万キロの旅」の話はインターネットに沢山書かれていますので、そちらをどうぞ。また、ゆっくりの奈良散策には奈良町を抜けての元興寺がおすすめ。ゆったり行ったことがなかったのですが、元興寺の鬼(がごぜ)

に出会いたくて立ち寄りました。奈良町の真ん中にある世界遺産に登録された南都7大寺の一つの大寺ですが、一般受けするような観光資源がなく 今はひっそり。もう 境内には桔梗が咲いて 現代風のちいさな鬼が数個 境内の片隅にちょこっと置かれ、京都の大文字山かと思間違う奈良の大文字山「高円山」が本堂の屋根越しにみられました。

● 元興寺と元興寺の鬼「がごぜ」



大和平野南部 巻向周辺 google 鳥瞰写真



# 1. 鉄のモニュメント 三輪山大神神社の大鳥居



山の辺の道を南に歩くとどこからでも 大和平野の山際に見える三輪山大神神社の大鳥居 奈良へ出かけるついでに、どこへゆこうか…。

ふっと 「三輪山大神神社のあの鉄の大鳥居はどないなっているやろか 錆がでてないやろか…」ゆっくり眺めてみたいと思ったのがきっかけ。鉄の山 三輪山を訪ね 山へ参拝登山した後 帰りに大鳥居を眺めたのが 2004 年。

その時は「鉄製や」とさほど気にもとめなかったのですが……。

インターネットをチェックしていて この大鳥居が無塗装でサビがでない耐候性鋼でできていることや日本各地の神社の大鳥居は鉄製でしかも無塗装で錆がでない耐候性鋼板でできているものが多数あると知ったのがきっかけ。

あの霧島神宮 熊野本宮 戸隠神社 靖国神社に北海道神宮の大鳥居そして 赤く塗られた談山神社の鳥居も。

(JFE エンジニアング 耐候性鋼板の鳥居 より)。

鉄と関係深い金山彦命を祭る岐阜県垂井の南宮神社の赤の大鳥居も鉄製である。最近は無塗装の鳥居もある

高度成長期 鋼の新分野開拓が始まった 1960 年代 無塗装で使える鋼板として脚光を浴びた耐候性鋼板でしたが、初期鋼表面の錆が中々安定化せず、流れ錆がでて、限られた構造物にしか実用の道が開けず、苦難が続いた。やがて 表面錆安定化処理技術が確立して やっと数多くの用途に実用化が進んだ鋼。高級新分野開拓の先駆けとして、苦難を克服した鋼として印象に残ってきた鋼である。

大神神社の大鳥居が建設完成したのは昭和 61 年(1986)。日本の高度成長からオイルショック(1974)を経て 鉄鋼業では 円高・鉄鋼不況が続く 1980 年代。 そんな時代に建設された無塗装の耐候性鋼を用いた大鳥居。 その後も 耐候性鋼の開発と錆安定化処理技術の開発がさらに続く。「三輪山大神神社の大鳥居は昭和の鉄の歩みを思い起こす鉄のモニュメントだ」と……。



**大神神社大鳥居 概要**

大神社は、我国最古の神社にして、大和国一の宮である。去る昭和五十九年十月十三日の昭和天皇陛下の行幸、ご参拝を記念、また、ご在位六十年を奉祝し、この大鳥居を建立した。

与像の古図七点何れにも、この付近に大鳥居が記さる。も現在地の南西二帯の地名が、大鳥居として存在する。籍ある如である。大鳥居の概要は左記の通りである。

記

- 一、高さ 三三・二メートル
- 一、柱 間 二二・〇メートル
- 一、柱の直径 三三・〇メートル
- 一、柱木の長さ 四〇・八メートル
- 一、柱体総重量 一・八〇トン

材 質 耐候性鋼板(あらゆる天候に耐えうる。表面に錆層が形成され、それが、種の塗装の剥離を防止する)

耐久性 一、三〇〇年

耐風圧力 風速八〇メートルに充分耐える

耐震力 マグニチュード一〇の地震に充分耐える

基礎構造 (片側柱について)

基礎は縦一〇メートル・横七メートル・厚さ四メートルの鉄筋コンクリートを打ち、その下に地下二次メートルまで重層一メートルの鉄筋コンクリート杭四本が打ち込まれている。片方基礎部に約六〇立方メートルのコンクリートが注入されている

三輪山 大神神社の大鳥居の概要 大鳥居の傍にある説明版より

## 2. 巻向 箸墓から 三輪山大神神社の大鳥居へ歩く

### ● 巻向 箸墓・箸中の集落から東 山の辺の道へ 三輪山の山裾に登る

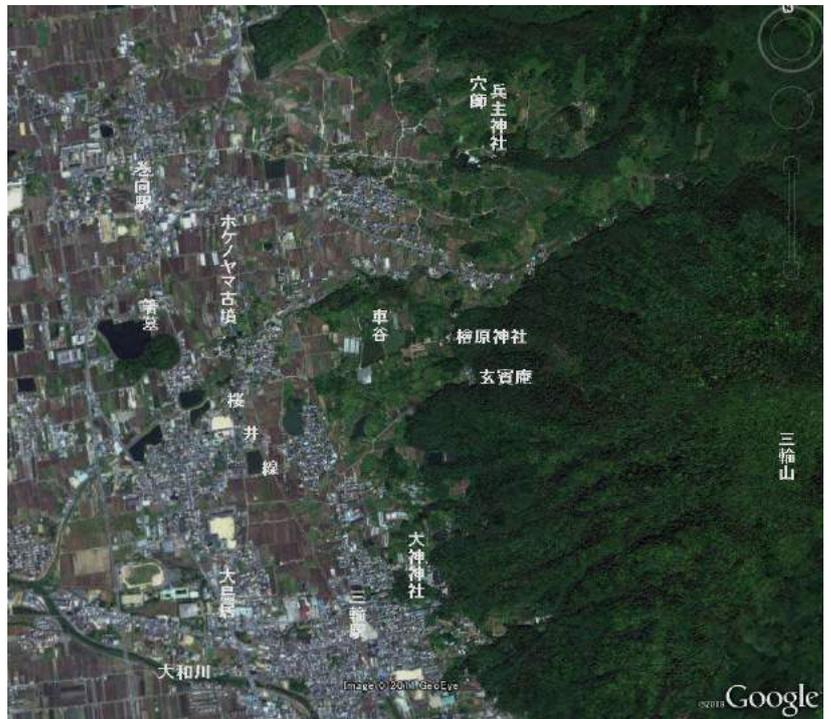
昼食を済ませた後 桜井線の巻向へ。巻向から 三輪山の山麓の山の辺の道をぶらぶら箸墓から大神神社に出て、大鳥居まで歩こうと。奈良からは何本も電車があると思っていた桜井線 平日の昼間は1時間に1本しかないのにびっくり。時間にせかれるわけもないのでのんびりと。

奈良から約 30 分ほどで、JR 桜井線巻向駅で下車。桜井線に沿って田園の中を箸中の集落を抜けてゆく古道をたどる。

東側には 南北に続く山並みの山裾がひろがるなだらかな緑傾斜地がつづき、すぐ南にゆったりした三角のスロープで樹木におおわれた三輪山が見える。何度も歩いた道 天理から三輪山山麓を飛鳥へぬれる上ツ道。

直ぐ上には山の辺の道が同じく南北に続く。

10 分ほどで 邪馬台国の卑弥呼の墓と言われる箸墓の縁の池の所に出る。緑の森に包まれて東西に横たわる巨大な前方後円墳の後円部の端で、古墳に沿って池があり、大和平野の向こうに二上山が見えている。昨年 巻向駅の直ぐ周辺の所で、弥生時代末期の宮殿跡とみられる東西軸に整然と並ぶ大きな建物跡が見つかり、この巻向の地が邪馬台国の中心部(纏向遺跡)邪馬台国大和説ブームが起こって 巻向周辺も人の波だろうと思っていたのですが、平日はいたって静かで、この箸墓の周辺もなにも変わっていないようだ。



天理から飛鳥へ伸びる古道 上ツ道(上街道)がすぐ横を通る卑弥呼の墓といわれる箸墓古墳 2011.8.2.



後円部をかすめて街道が続く箸中の集落



箸墓古墳の端から西に葛城・二上山が遠望される

古い家並みが続く箸中の集落の中を箸墓の後円部に沿南へ回り込んだ街中で整備された遊歩道と交わる。街細い十字路「山の辺の道」の案内標があり、確かこの道を東にたどれば、ホケノ山古墳の所から三輪山の山裾まで登ってゆけるはず。

JR桜井線の踏切を渡るとすぐ、国津神社」の横で、東から流れ下ってきた小さな川「巻向川」に出会う。子の直ぐ北側のところがホケノヤマ古墳で、この纏向川を東にたどれば、三輪山の山裾を北から南へ続く山の辺の道である。巻向川は東の奥にある纏向山・三輪山南山腹に沿う谷間(車谷)から流れ出し、丘陵地の田園集落の中を西に流れ下る古代から歌に詠まれた由緒ある川である。

南側の三輪山は「鉄」の山 そして 谷のすぐ北側の集落 穴師には「鉄」と関連する兵主神社があり、古代鉄の関連地で、この川に砂鉄が流れ込んでいないかと何度か辿ったことがある。

また、北の天理から山裾を縫って桜井へ続く山の辺の道がこの谷の出口周辺でクロスし、この辺りからは広大な大和平野がながめられ、すぐ下には纏向の古墳群が眺められ、南の三輪山の麓には大神神社の大鳥居が街並みの中から頭を出して浮かんでいる。

多くの人が「国のまほろば 大和」を眺めるのに推奨する場所で、私も一番好きな場所の一つである。

この川に入っている人がいて、聞くとこの川のごみ掃除。地元の人たちによって、清らかな川の環境が守られている。やっぱり 砂鉄は出ないらしい。



三輪山の谷から流れ出て箸中 国津神社の横を西に下る纏向川

国津神社の横を東に登ったすぐ北側にホケノ山古墳である。「あれ・・・ 印象が違う」前に来たときには草が生えていなくて、ホケノ山の頂上に登れたのによく整備はされているが、草で覆われている。 地元の人にマムシ注意とおどかされ、草履でこの草の中に入る勇氣はなし。何度も来たように思うのですが、草が生い茂っているのにはびっくりですが、纏向のルーツ的古墳 昔のままの静けさ。 ホケノ山のてっぺんから巻向全体を見ようと思っていたのですが断念。



ホケノ山古墳



現在の様子



こんな時もありました

南西から北東に横たわる古墳時代前期初頭の纏向古墳群に属するホタテ貝型の前方後円墳 左前方部 右後円部  
まあ、もうすこし東へ登って、ゆっくり大和・巻向を眺めよう。

集落を抜けて、ぱっと田園と果樹農園がひろがる傾斜地が三輪山の山裾に広がり、南側田園の向こうに三輪山 大神神社の大鳥居が街並の上に頭を出している。



田園と果樹園の広がる一本道 東の三輪山山麓へ登る



南には広い田園の向こうに大神神社の大鳥居 2011. 8. 2.

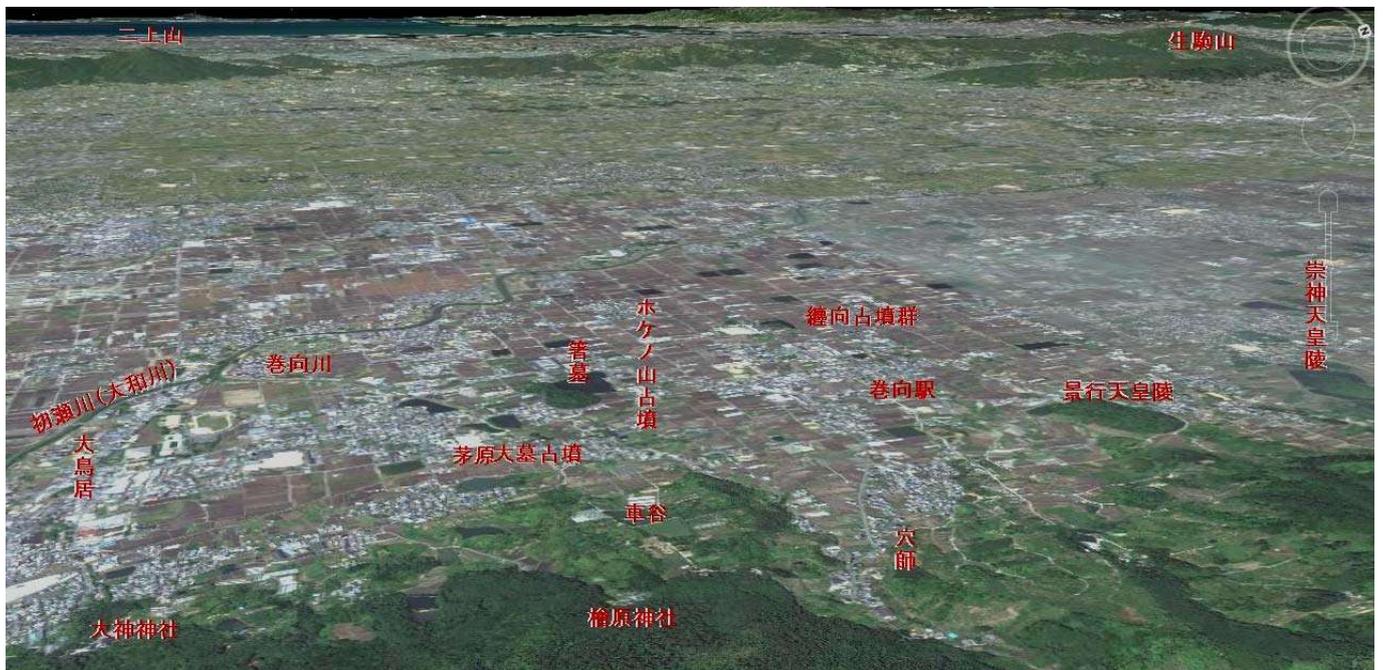
● 車谷の池の所から「国のまほろば 大和平野」を眺める

ホケノ山古墳からさらに東へ果樹農園が続く丘陵地を少し上ると上下に二つの池が並んでいる場所に出る。  
さきほど、村の人に教えてもらった場所であるが、前にも来たことがある。

ここが車谷の素晴らしい大和平野展望地で 広大な大和平野全体が見渡せる。 ふと池の畔を見ると川端康成書の「国のまほろば」の碑があったり、横の果樹園の樹木の下にもいくつか碑がある。大和を眺める一等地



三輪山西の丘陵地 車谷から見る 巻向の古墳群 左一番大きいのが箸墓 本当に大きい 2011.8.2.  
後方左手二上山から右へ竜田・信貴・生駒の山並みが大和平野を取り囲む



車谷の池之端にある碑  
碑の後ろ池の向こうに  
二上山や大和三山が顔を  
覗かしている



池の端から角度を変えて 巻向遺跡周辺を眺める  
後ろ正面は生駒山 2011.8.2.

下の池の端からは大和平野の南側がよくみえないが、場所を変えて、果樹園や池の上へあがると大和三山が平野の中にぽっかり浮んでいるのが見えました。また、南の山裾 飛鳥の方には天香久山がみえ、その手前に大神神社の大鳥居も見える。

西側の大和平野ばかりに目が行っていましたが、振り返ると池の向こうに秀麗な三輪山が池にその姿を映していました。



南西側には二上山から南へ葛城・金剛の山並みの前に ぽっかり大和三山が浮かぶ大和平野が見える 2011. 8. 2.



大和平野の南の端 明日香から 風の森・金剛山・葛城方面 大和三山が三つとも綺麗に見える  
また 左端 天香久山の手前に 大神神社の大鳥居が見える



池の東側には三輪山が池に影を移していました



● 檜原神社から 山の辺の道を三輪山の山裾を大神神社へ

三輪山の山裾 僧都之滝 河床に堆積した鉄分を見つける 人工なのか???

池の展望所からさらに東へ森の中の坂道登ると檜原神社。ここで山の辺の道に入って 南へ静かな林の中を大神神社へ



檜原神社は大神神社の摂社で、御三輪山を神体として祀っている。

本殿も拝殿もなく、3つの鳥居が連なった珍しい形の「三ツ鳥居」が玉垣に囲まれて立っている。



「鉄の山」三輪山周辺の山の辺の道に来るといつも気になるのが、砂鉄。 小さな谷川を見ると覗き込んで、磁石を引っ付けてみ見る。以前狭井川の谷川で砂鉄を見つけたことがあるのですが、他では不思議に見つからない。

今回 檜原神社から少し南へ行った三輪山の小さな谷から流れる僧都之滝の石組が真っ黒になっているのが、不思議で滝の河床を覗きこむと鉄分が集積していました。 石組が人工的で、かつ滝口が鉄パイプなので、ちょっと疑問もあるのですが、三輪山から流れ出した砂鉄かもしれません。 また、石組に使われた石が本当に真っ黒で、この岩かなあ・・・と。

今回 磁石をつけられなかったので、次回は砂鉄採取とともにこの岩にも磁石を当ててみたい。

これで、三輪山から流れ出した砂鉄の集積の可能性地が2ヶ所になった。



山の辺の道 玄賓庵 横の僧都之滝 万葉歌碑 13. の所の河床に堆積した鉄分 人工なのか???

「山吹き立ちしげみたる山清水 酌みに行かめど道の知らなく」

そのまま三輪山の山裾の森を巡る山の辺の道を行けば狭井神社から大神神社であるが、三輪の郷の中に浮かんで見える大鳥居をみたくて、山の辺の道を離れて少し西に下って西へ下って 三輪山の傾斜地にでると視界が開け、南に大鳥居が見えてくる。田園の中を三輪の街中にでて、大神神社の正面から 大神神社へ。



西へ下って 三輪山の傾斜地に出ると視界が開け 南の端に大鳥居が見える 2011. 8. 2.



三輪山 大神神社 2011.8.2.

● 鉄のモニュメント  
三輪山 大神神社 大鳥居

晴天に恵まれて 本当にすがすがしい。  
久しぶりの大神神社のお詣りを済ませて  
大鳥居に出会いに行く。

「錆が出てないだろうか 表面あれて  
ないか」とちょっと心配。

2004 年以來の大鳥居との出会いである。  
無塗装といいながら、初期の耐候性鋼は  
錆がでていたし、北海道  
百年記念塔はちょっと赤く錆が出ていた  
ので、ちょっと心配。

大神神社正面から まっすぐ西に伸びる  
参道で大鳥居に向かう。

「昭和の大鳥居でホンマものでない。一ノ鳥居は別にすぐ横にある」  
という人もあるが、鉄屋にとっては まぎれもない昭和の鉄のモニュメントである。





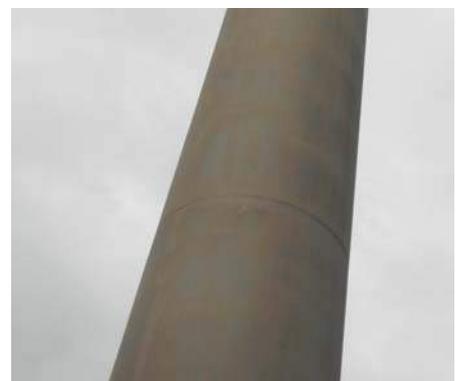
完成 昭和61年5月28日  
 高さ 32.2m 柱間 23.0m 柱径 3.0m 竝木長 40.8m  
 本体総重量 18トン  
 材質 耐候性鋼板  
 表面に錆層が形成され、無塗装で  
 塗装の役をなし腐食を防止する  
 耐久性 1300年  
 基礎 10x7x4mの鉄筋コンクリートを打ち、  
 その下24mまで1.1mφの鉄筋コンクリート杭  
 4本が打たれている。  
 大神神社 大鳥居 銘板より



大鳥居の横に立って柱に触れる。久しぶりの鉄の感触。外観も表面も綺麗だ。以前に出会った時とほとんど変化なし。

ようここまで、持ちこたえて 錆がでない無塗装の技術が進められたものだとうれしくなる。かつて 耐候性鋼板の無塗装使用は山の中の塗装ができない谷渡りの橋梁などの適用などに限られた時代があり、苦難の用途開発鋼板とのイメージが私にはつよく、いつも耐候性鋼板の構造物を見ると気になって「頑張れよ」と声をかける。

暑い夏 ここまで 足を延ばしてよかった。うれしい一日でした。



【参考資料】

1. 耐候性鋼板の鳥居 JFE エンジニアリング(株) カタログ
2. 和鉄の道 古代 初期大和政権が王城の地に求めた産鉄の地 鉄の山「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道 2004. 3.
3. 和鉄の道 元興寺の鬼「がこぜ」 四季折々 2009年2月 Iron Road より

8.

古代 初期大和政権(三輪王権)が王城の地に求めた産鉄の地  
鉄のやま「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道



大和盆地を大阪に流れ下る大和川(初瀬川)が青垣・吉野の峰々が連なる東の壁から大和盆地に流れ出る所に秀麗なピラミッド型の三輪山がそびえている。この奈良県桜井市「三輪山」の麓は古代日本誕生の黎明の時代「やまと」の枕詞「しきしま」と呼ばれた王城の地。4世紀三輪王権と呼ばれる初期大和政権成立の舞台。ここで大和朝廷の基礎が養われたという。

また、北に伸びる三輪山山麓には3世紀に遡れる巻向地区には纏向古墳群があり、邪馬台国畿内説を唱える人はこのこの三輪山北山麓の地が卑弥呼 邪馬台国の地という。

この山裾を縫って明日香から北へ古代の道 山辺の道が王城の地を貫き、麓にはこの三輪山をご神体とし、出雲の神「大物主命」を祭神とする日本最古の神社大神神社がある。

鉄との深い関連が考えられる神社で、産鉄地・産鉄の民と関係の深い地と見られ、今もその山麓には金屋・穴師・金刺などの産鉄地名が残り、南麓の金屋からは鉄滓が出るとの文献もある。



そう考えるとこの三輪山山麓は古代の重要な産鉄地で三輪山は鉄の山ではなかったか……。この地を得た人たちが、この三輪山の鉄および鉄の技術を背景にこの地を本拠として、日本誕生がなすとげられたのではないか……。おぼろげに三輪山は古代の産鉄地とと思っていましたが、もっと強く 三輪山の鉄が直接に日本誕生に重要な役割を演じたのではないかと考えてくる。



ちょうど 畿内の製鉄遺跡を歩こうと思っていた矢先である。また、大神神社の神域 三輪山へは届を出せば登拝出来るという。

三輪山へ行けば、何か鉄の痕跡が見つかるかも・・・そんな期待をもって出かけました。

期待にたがわず 三輪山は今も砂鉄が見られる鉄の山

また、この王城の地は時代を越えて脈々と鉄の系譜と共に続いていると思えてくる。

また、大神神社の巨大な大鳥居は現代の鉄のモニュメント。これから1300年も三輪山の前に立って王城の地 やまとを見据え続けるという。もうビックリ・・・・・・・・。

古代 畿内には三輪山・石上と同時に河内にも大きな鍛冶工房。それが三輪王朝に続く河内の王権へ・・・そして北近江・越の鉄をバックに畿内へ入った継体天皇の誕生へ。

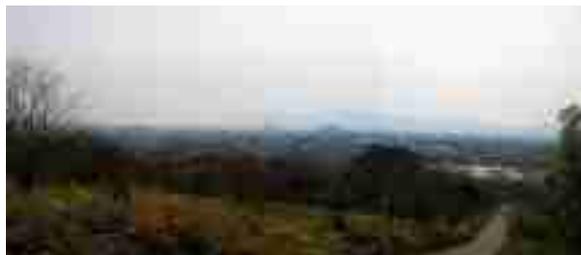
畿内の「鉄」が面白くなってきた一日でした。

## 内 容

### 古代 初期大和政権(三輪王権)が王城の地に求めた産鉄の地 産鉄の地「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道



1. 産鉄の地「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道 Walk
  1. 産鉄地名の桜井市金屋集落 そこは古代王城の地「しきしま」
  2. 三輪山をご神体とする日本最古の神社 大神神社
  3. 三輪山 登拝 三輪山に鉄の痕跡を探して
  4. 卑弥呼の地 箸墓界限 三輪山麓の丘より夕日の大和盆地を眺め
2. 『古代の鉄の山「三輪山」と初期大和政権』 思いつくままに
  1. 三輪山は古代鉄支配のシンボルでなかったか・・・
  2. 三輪山 大神神社 三輪山山麓は産鉄の地
  3. 鉄をめぐる朝鮮半島諸国と日本の関係
  4. 邪馬台国大和説と三輪山山麓 山辺の道



三輪山山麓山辺の道からの大和眺望

【 (左) 大和三山 (右) 箸墓古墳を中心とした纏向古墳群 】

# 1. 産鉄の地「三輪山」と山麓を縫う山辺の道 Walk



3月23日の朝 難波から近鉄に飛び乗り、桜井へ久しぶりの大和である。古代産鉄のシンボル三輪山とその周辺に鉄の痕跡を訪ねるのが今日の目的。知らなかったのですが、三輪山へも神社で届を出せば登拝出来ると聞き、飛び出してきました。気楽な風来坊のWalkである。

大和盆地を経て大阪に流れ下る大和川(初瀬川)が青垣・吉野の峰々の連なる東の壁から大和盆地に流れでる所に秀麗なピラミッド型の三輪山がそびえる。この三輪山山麓の地が桜井 古代初期大和政権の中心地である。



三輪山から流れ出る狭井川で見つけた砂鉄の堆積ときらきら光る雲母

三輪山山麓には産鉄と関係する大國主命を祭る日本最古

の神社 大神神社 そして地図には金屋・穴師の地名が残り、其処は初期大和政権の遺跡が残る初期大和政権の中心地。また、大和川の岸は都の外港で難波津から大和川を遡る舟運の最終地として栄えた「海拓榴市」。和鉄・鍛冶の技術をも含め、大陸からの新しい文化が渡来人と共に真っ先に伝来する地でもある。確証はないが、和鉄と深いかわりを持つと考える。

生駒山山麓を通過して 二上山が見え出すと西に葛城・金剛山 東から南へ青垣・吉野の山に隔てられた広大な大和平野。大和三山を眺めながらその中をまっすぐ東に突ききり、東の山々が近づくと桜井。大阪難波から約45分足らずである。

駅前広場に歴史街道「山辺の道」の標識。今日は一日三輪山山麓の山辺の道を歩く。

東の方向に市街地の家並みの直ぐ向こうに三輪山に連なる山々が見え、そっちへ歩き出す。



桜井駅周辺 桜井は吉野杉の集散地

まず、初瀬川を探して、その北岸三輪山山麓の産鉄地名のある金屋集落へ行って、そのまま山裾を北へ大神神社へ。そして三輪山へ登拝して 山辺の道をそのまま北へ卑弥呼の墓といわれる箸墓へ ぼかぼかの春の日差しにゆっくりと東へ山の方向へ歩き出す。

さすが 桜井は吉野杉の集散地。

桜井の駅の直ぐ近くに最近ではほとんど見られなくなった大きな貯木場がある。この横を抜けるともう市街地を外れ、菜の花の向こうに傾斜の緩やかなピラミッド型の三輪山が見え、田舎ののどかな風景がひろがっている。



桜井市市街を抜けたところから 三輪山

ている。

三輪山を眺めながら田圃のあぜを横切っていくと三輪山の山裾を流れる川岸に着き、歴史街道「金屋」の標識。

「やまと」の枕詞「しきしま(磯城嶋)」 初期大和政権の王城の地である。

この川が大和盆地を縦断して大阪湾にそぐ大和川の中流 初瀬川。

運の終着地。都の外港しとしても大いにさかえたところ。また、ここからは陸路となり、長谷・伊勢詣の宿場としても栄えた。

古代には大阪難波からこの三輪山麓まで遡る舟

この東西に流れる初瀬川とクロスして 三輪山の山麓を通過して石上へ古代王城の地を貫く山辺の道がつづく。橋からは東の山々の間からまっすぐ流れ下る大和川が良く見え今も交通の要衝である。



初瀬川 三輪山南麓 金屋付近



初瀬川から東の長谷溪谷への街道筋

### 1.1. 産鉄地名の桜井市金屋集落 そこは古代王城の地「しきしま」

6世紀 欽明天皇磯城嶋金刺宮 仏教伝来の地ならびに7世紀栄えた都の外港「海拓榴市」

この一帯は「やまと」の「まくらことば」である「しきしま」(磯城嶋)の地。

川の南側に6世紀欽明天皇の磯城嶋金刺宮が造営され、欽明天皇の十三年(552)に百済の聖明王から釈迦仏の金銅像一軀と経論若干巻とがもたらされ、仏教が公式に日本に伝来した仏教伝来の地でもある。



金屋集落へ入る橋のたもとに仏教伝来の地の碑が建っている。

また この川岸周辺は「海拓榴市」と呼ばれ、交易の中心で7世紀には「藤原京」の外港として遣隋使もここから旅立ったという。また さらにその後 平安時代には「伊勢詣」「長谷詣」の宿場町として随分栄えたという。



今は全く静かな山裾の集落。ここで初瀬川に沿った東西の街道筋と北へ三輪山に沿って続く山辺の道が交わり、道の両側に落ち着いた家並みが続いている。

この古い家並みに沿って金屋の集落を三輪山の山裾を北へ細い山辺の道が続き、金屋の石仏や崇神天皇の磯城瑞離宮跡が山裾の林の中にひっそりと残っている。



金屋の石仏 2004.3.23.



崇神天皇の磯城瑞離宮跡 2004.3.23.

鉄滓が出たと文献のある金屋遺跡を探して、ひっそりと静まりかえった山裾の金屋集落を北へ向う。幾度となく集落の人に聞くが、全くわからぬ。

金屋の名が示すとおり鉄の痕跡がないかちよろちよろ流れる小川を見たり、山間の細い谷筋を覗いたりであるが、まったく判らず、30分ほどで金屋の集落を抜け、大神神社のある三輪の集落に入った。午後 桜井市の埋蔵文化財センターを訪ね金屋遺跡について尋ねると

「 古老の話として、集落のあちこちで鉄滓が出たとの話がある。また中世鋳物師があり、その滓もあり、古代の鉄滓・鍛冶滓の真偽はよくわからない。 」

との事であった。

この三輪山の周辺で本当に古代の史実どうりに鉄の痕跡が見つかるだろうか・・・不安になってくる。

## 1.2. 三輪山をご神体とする日本最古の神社 大神神社



日本最古の神社 三輪山をご神体 大物主命を祭神とする大神神社(三輪明神)

三輪山の山裾を縫って北へたどると山裾の林の中から不意に大神神社の鳥居の前になる。西の街の中心部に

ある大鳥居からまっすぐ三輪山へ続く参道と直角にここで出会う。

ここでは、もう三輪山に近すぎるほど近づいているので、ご神体の三輪山の全貌はもう見えない。

鳥居からまっすぐ大樹の林の中を拝殿に向って参道が続き、階段をあがったところに立派な拝殿がある。

三輪山が神体山であるので、社殿はない。



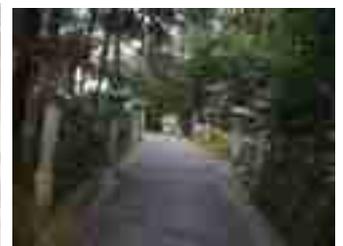
大神神社の有名な三ツ鳥居は拝殿の後ろにあり、ここからは見えない。この三ツ鳥居は三輪山山中にあるみっの磐座を現し、大神神社が祭る3柱の神を示すという。



檜原神社 三ツ鳥居

大神神社より、北側へ山裾を回ったところにある大神神社の摂社檜原神社も三輪山がご神体で社殿はなく、三ツ鳥居が正面にあり、この三ツ鳥居を通して三輪山に参拝する。

この三ツ鳥居は三輪を代表する三輪そうめんの商標にもなっている。



大神神社から摂社狭井神社への道

大神神社からさらに北へ林の中の参道を 10 分ちょっと歩くと森の中に大神神社の摂社狭井神社がある。三輪山への登拝の為にはこの狭井神社で許可願いをせねばならない。



大神神社の摂社 狭井神社

### 1.3. 三輪山 登拝 三輪山に鉄の痕跡を探して



正午少し前に狭井神社で白いたすき

授け、神域なので飲食・写真撮影禁止 途中にある磐座でお参りすることなどの注意を受けて、拝殿の直ぐ横の登拝口より、三輪山へ登り出す。

三輪山にはそれぞれが大神神社の神々と同一視され、化身と言われる三つの磐座がある。

麓の辺津磐座・少彦名命 中腹の中津磐座・大己貴命 頂上の奥津磐座・大物主命の三つである。大神神社の三つ鳥居もこの三輪山の三磐座に起因すると言われる。麓の辺津磐座・少彦名命 中腹の中津磐座・大己貴命 頂上の奥津磐座・大物主命である。



大神神社大鳥居

ゆっくり歩いて登り約 1.5 時間弱 帰り 1 時間弱の道のり。

よく整備された登拝路が原生林の中についている。平日でもあり、全く人影なし。狭い小さな谷がまっすぐ上に向っている。小さなせせらぎがチョロチョロと音を立て心地よい。

神域の原生林の中、視界は開けないが、気持ちよい小道が続いている。

横の小さなせせらぎを見ると階段状の溜まりの中にきらきら光る小さな小片が散らばっていて、底には多くはないが、黒い堆積がある。きらきら光るのは雲母 黒い堆積は砂鉄である。

上部へ続くせせらぎの中にずっとある。

以前東北岩手の砂鉄川で見た雲母と砂鉄の組み合わせがこの三輪山にも存在する。



狭井神社からの三輪山登拝口

30 分ちょっとで 中腹の滝のところきて、ここから細い谷と別れ、山腹をまっすぐ上に登ってゆく。

視界は開けず、林の中。急斜面と言うわけではないが、上へ上へと良く整備された道が続いている。

道がひだまりに出るときらきら雲母が輝いて美しい。また この道の上にも階段状になった所々に黒い砂鉄が堆積している。雨水の通り道として、この登拝路に流れ出て、堆積しているのだろう。

幾度となく砂鉄を産する山に入った事があるが、注意してこなかった精もあるが、これほど砂鉄が山道にあるところはない。やっぱり 鉄の山である。 神域で写真が取れないのが残念。

注連飾りの付けられた磐座の横を歩いてさらに上へ登っていく。

所々木々の間から大和盆地が垣間見え、金剛・葛城の山をバックに平坦地の中に大和三山が見える。

低い山とはいえ随分登ってきた事が判る。相変わらずつづら折れでない登りの道が続き、「もう空も近いのに頂上の尾根に出ないなあ」と思っていて、ふっと気がついた。この山は稜線のないピラミッド型 上り詰めた所が頂上。

約1.5時間ほどでまわりの樹木で視界は開けないが平坦な広場状の社のある頂上部に到達。三輪山頂に鎮座する大神神社摂社高宮神社で大物主神の子・日向御子神を祀る。後ろ両側には1本ずつ天に向かってまっすぐ伸び、神聖な場所を演出している。視界は開けないが、気持ちのよい場所である。

さらに少し奥に進むと磐座がありここで道は行き止まりとなっている。大物主命の化身と言われる奥津磐座である。磐座の前に立ち手を合わせる。

200年も昔 幾多の産鉄の人達がここに立ち、鉄の自立を願って儀式をしたに違いない。

この山の下で繰り広げられてきた日本誕生の歴史をあれこれひとり思い浮かべてました。

神域であるので、もっと宗教臭いと思っていましたが、たすきをかけていること以外特にそれもなし。

平日でお参りする信者に出会わなかったからかもしれないが・・・・・・

20分ほど頂上にもときた道を引き返す。

登拝路は神域の中にあり、写真を取れませんでした。狭井神社の直ぐ北、三輪山の谷筋から流れ下る狭井川でも川底に光る雲母と砂鉄の堆積を見つけました。



三輪山から流れ出る狭井川の川底に堆積する砂鉄 2004.3.23. 狭井神社の直ぐ北で

どこに鉄の鉱脈があるのか判らないが、黒い砂鉄が散らばり、差鉄の有る所にきらきらと雲母が光る。三輪山は鉄の山であることに納得した登拝でした。

また、三輪の街中に立つチャコール色の落ち着いた大鳥居 その下に立ってビックリ。耐候性鋼板を使った無塗装の鋼鉄製。

建設後約20年を経て素晴らしい色でそびえ、鉄の神 三輪山の前景を作っている。

意図されたのではないだろうが、古代からの鉄の神に現代の鉄のモニュメントである。



完成 昭和61年5月28日  
高さ32.2m 柱間23.0m 柱径3.0m 笠木長40.8m  
本体総重量 18トン  
材質 耐候性鋼板  
表面に錆層が形成され、無塗装で  
塗装の役をなし腐食を防止する  
耐久性 1300年  
基礎 10x7x4mの鉄筋コンクリートを打ち、  
その下24mまで1.1mの鉄筋コンクリート杭  
4本が打たれている。  
大神神社 大鳥居 銘板より

耐用年数 1300年の銘板のある現代の鉄のモニュメント 大神神社 大鳥居

30分ちょっとで麓に下りて、三輪の特産 三輪そうめんと柿葉すしで遅い昼食。

再度 大鳥居の前から三輪山の山麓を北の箸墓古墳への道をたどる。

#### 1.4. 卑弥呼の地 箸墓界限 三輪山麓の丘より夕日の大和盆地を眺める

三輪山の北に位置する巻向地区には3世紀に遡れるといわれる纏向古墳群がある。卑弥呼の時代まで遡れるといわれ、ここが畿内説の邪馬台国の地であり、箸墓古墳などの纏向古墳群のいずれかが卑弥呼の墓という人もいる。またこの巻向地区の山側 三輪山に隣接した山麓穴師には初期大和政権(三輪王朝)の創始者崇神天皇陵や景行天皇陵がある。この三輪山に隣接する穴師も産鉄地名であり、またさらに北の石上には、古代5世紀には物部氏の大きな鍛冶工房があった。

三輪山山麓から北に続く山裾の一带は卑弥呼の時代から続く産鉄の地。

卑弥呼も初期大和政権(三輪王朝)も鉄を求めてこの地を支配し、鉄の力をバックに巨大化していったと考えるのも嘘ではなく思えてくる。確証はないが・・・。



箸墓古墳の傍にある纏向古墳群の標識

そんなロマンを考えながら、三輪山を眺めながら 大鳥居から北の森へ向って歩き出した。

三輪山をながめながらののどかな田園風景が広がる。

20分程で大きな森に隣接した箸中の集落に入る。

大きな森でこれが箸墓とは気付かなかったが、この森の端に沿って集落をぬけると大きな池がこの森を取り囲み、ここが箸墓と知る。本当に馬鹿でかい。

ここから東へ箸中の集落を直角に曲がって北へ向う。桜井線を北に渡ったところで丸い頂を見せるよく整備されたホケノ山古墳に行き着いた。



箸墓古墳の東端 箸中集落



箸墓古墳



箸墓古墳から東へ 山裾へ



ホケノヤマ古墳



箸墓古墳 ホケノヤマ古墳頂上より

ホケヤマ古墳は良く整備された公園になっていて、その頂上からは 直ぐ傍の箸墓古墳の大きな森が見え、その向こうには大和盆地が遠望される。

北側に眼をやると平野部には巻向古墳群の古墳と思われる森が点々と散らばっている。

また 東北の三輪山麓 穴師と思われるあたりにも幾つかの森がまじかにあり、三輪王朝の崇神天皇陵や景行天皇陵などであろう。

本当にまじかに日本誕生にかかわった古代の歴史が足下に広がっている。

しかも、あまり気にとめていなかった古代産鉄の地がその本拠である。



卑弥呼の時代からの「鉄の重要性」にビックリする。「卑弥呼の邪馬台国が鉄をバックに大きくなってきたのでないか。。。。」と考えるなど今まで思いも寄らぬ事 鉄の山三輪山のロマンにしたりながら 陰影を増す大和盆地を眺めていました。

ホケヤマ古墳から桜井に戻る事にし、一番三輪山山裾に沿って続く山辺の道へ戻り、眼下に広がる夕暮れの大和盆地の景色や山裾の田園風景を楽しみながら三輪へ戻ってきました。



三輪山山麓 山辺の道 箸中付近より 大和盆地 2004.3.23.夕

遠く大和盆地の西の端には二上山から葛城・金剛の峰のシルエットが浮かび、その前には大和三山が優美な姿を見せている大和盆地がひろがり、直ぐ前には箸墓古墳の森。この大和平野の南東の端には三輪山の大鳥居が慄然と大和平野を見据えている。

「やまとはくにのまほろば」「しきしまのやまと」がゆったりと広がっている。

三輪山に行こうと思った当初は「古代産鉄の地に鉄の痕跡を訪ねよう」との軽い気分でしたが、「この地が卑弥呼の時代から日本誕生にかかわる初期大和政権の本拠地　そして古代を通じて難波津へ通ずる都の外港で遣隋使もこの地から出発した」など思いも寄らぬ事。

しかもそれがすべて三輪山を中心とした古代の産鉄の地で・・・。

本当に卑弥呼の邪馬台国が鉄とかかわるこの地なのだろうか・・・卑弥呼の国と鉄とがかかわりをもっていると考えなど本当にゾクゾクしてきます。

また、古代　畿内には三輪山・石上と同時に河内に大きな鍛冶工房。それが三輪王朝に続く河内の王権を・・・

そして北近江・越の鉄をバツクに畿内へ入った継体天皇の誕生へ。



三輪山の登拝路には今もきらきら光る雲母の片と共に砂鉄が散らばる鉄の山。

「古代日本誕生はこの三輪山の鉄を求めてこの地を本拠にしたのではないか・・・」

現代も古代もやっぱり「産業・文化の米」鉄の持つエネルギーにただ感激。



そんな思いでみる眼下の大和平野の端に1300年の耐用年数を持つという三輪山の鉄の大鳥居がリンと大和平野を見据えているのが、印象的。

三輪山へ登拝した満足感と思わぬ三輪山の鉄のロマンに浸りながら、桜井への道を急ぎました。

夕暮れの大和盆地をながめながら　桜井への山辺の道で

2004.3.23.　by M. Nakanishi



## 2. 『古代の鉄の山「三輪山」と初期大和政権』 思いつくままに



1. は古代鉄支配のシンボルでなかったか・・・
2. 三輪山 大神神社 三輪山山麓は産鉄の地
3. 鉄をめぐる朝鮮半島諸国と日本の関係
4. 邪馬台国大和説と三輪山山麓 山辺の道

### 1. 三輪山は古代鉄支配のシンボルでなかったか・・・

青垣山に囲まれ、巻向川と初瀬川の水垣に区切られた奈良県桜井市「三輪山」の麓は日本誕生の黎明の時代古代大和の中心であり、4世紀初期大和政権成立の舞台であった。「やまと」の枕詞「しきしま」もこの地である。

この地の東の後背にピラミッド型の均整の取れた美しい姿でそそり立つのが三輪山。

麓にはこの三輪山をご神体とし、出雲の神「大物主命」を祭神とする日本最古の神社大神神社がある。産鉄と関係深い出雲の神を祭る事で判るごとく、鉄を産する神秘の山でこの周辺は産鉄の地と考えられる。



大和朝廷の成立期 3世紀～6世紀 国内で

は自立製造できず、伽耶などの朝鮮半島からの輸入に頼ってきた「鉄」。この時代 朝鮮半島諸国も戦乱の中にあり、鉄の覇権をめぐる日本国内はもとより、朝鮮半島でも揺れ動く。

日本には数多くの産鉄の民が渡来し、力の源泉「鉄の自立」・鉄の覇権を求めた和鉄黎明の時代でもある。大和政権をも含め日本各地の諸国・豪族が輸入鉄原料による鉄鍛冶による武器・工具製作を勤める一方、産鉄地を手に入れ、品質は輸入品には劣るものの和鉄製造に乗り出し巨大化してゆく。



畿内では 大和政権の各氏族がこの大和・三輪山山麓そして河内などで そして吉備・美作・丹後・北近江・越の諸国が産鉄を背景に大和政権と連合・対抗してゆく。三輪山はそんな鉄支配のシンボル 大和政権にとっても放せぬ産鉄の地でなかったか・・・

卑弥呼の邪馬台国は三輪山の北 箸墓古墳などの纏向古墳群の一帯との説が大和存在説で有力であり、

4世紀三輪王権と呼ばれる前飛鳥初期大和政権(崇神・垂任・景行・成務・仲哀)の中心地である。

5世紀には王城の地は河内の産鉄地に移るものの近江・



越の産鉄地をバックに王権に付いた継体天皇が大和に入り、6世紀半ば欽明天皇はこの三輪山南麓の金屋に都磯城嶋金刺宮を造営。仏教がこの地に伝来すると共に次の聖徳太子の時代 大和朝廷の安定成長時代へとつながってゆく。



営まれた。また初瀬川が長谷溪遡ってきた舟運の終着地として欽明天皇の十三年（552）に論若干巻とが我が国にもたらされ、仏教が公式に日本に伝来した仏教伝来の地でもある。

日本誕生の黎明の時期 大和政権の黎明を支えたこれら三輪山の麓には北から南に古代の道 山辺の道が山麓を縫って走り、今も金屋や穴師



出雲などの産鉄地名が産鉄の痕跡をとどめ、数々の古代遺跡が横たわっている。「やまと」の枕詞「しきしま」の地であり、三世紀後半から四世紀初頭の崇神天皇の都磯城端離宮や6世紀半には欽明天皇の磯城嶋金刺宮などが谷から流れ出るこの地は難波津から大和川を長く都の外港の役割を果たす。

は百済の聖明王から釈迦仏の金銅像一軀と経

## 2. 三輪山 大神神社 三輪山山麓 は 産鉄の地

三輪山をご神体とし、大物主命を祭神とする大神神社は産鉄と関係深い出雲氏の神社であり、いまも山麓に出雲の地名をとどめている。この出雲氏の居地に割り込む形で営まれるのが崇神天皇の磯城瑞離宮である。また、三輪山の北 石上には崇神天皇に重用され、次第に勢力を伸ばし朝廷の軍事・武器を支配した物部氏の本拠がある。当時 有数の鍛冶工房があり、鉄支配の本拠地だったのだろう。



弥生後期 倭と朝鮮半島の鉄を巡る交流

三輪山と物部氏の関係についてはよく知らないが、物部氏と大物主神との関係からすれば、物部氏も出雲氏の系譜と考えられなくもない。

当時 鉄は朝鮮半島の輸入に頼っており、力の根源として 鉄の支配(鉄加工原材料の輸入・鍛冶加工)と共に、国内での自立製造に必死になっていた時代であり、製鉄原料が探され、製鉄技術者である渡来人を中心に幾多の製鉄が試みられたに違いない。

そんな中で 鉄を産する三輪山はそれら産鉄に携わる人達 鉄支配のシンボルとしてさん然と輝いていたのではないだろうか・・・

## 3. 鉄をめぐる朝鮮半島諸国と日本の関係

この4世紀～7世紀半ばまで、朝鮮半島の三国時代 日本の古墳・前飛鳥の時代 朝鮮半島は戦乱の時代であった。

北には漢・魏の植民地があり、半島には高句麗が南への進出を狙い、百済・新羅そして小国の連合 伽耶が相互に競い合う激動の時代であった。特に伽耶は鉄の生産輸出で日本はもとより周辺諸国もこの伽耶の鉄の輸入に頼っていた。この伽耶では 国力の小さな小国が群立しており、鉄資源・製鉄技術をめぐって常

に近隣諸国の侵略にさらされていた。そして、660年に新羅が半島を統一する。大和政権および日本各地の豪族も文化・技術の先進国であるこれら朝鮮半島の諸国と友好・同盟関係を結ぶと共に半島に派兵するなど深く朝鮮半島諸国とかかわり、活発な交流があった。

当時 朝鮮半島・日本地域での外交の中心はなんと言っても「鉄・鉄の技術」の入手と唐や隣国からの侵略への対処であったと考えられる。朝鮮派兵・任那など日本からの半島移住者・逆に日本各地への朝鮮半島からの渡来や朝鮮にルーツを持つ氏族の存在そして、百済・新羅・高句麗諸国との密接な関係はこんな情勢の中で生まれた。

562年に製鉄国「伽耶」が強大化した新羅に滅ぼされると、武器などの原材料「鉄」を伽耶からの輸入に頼っていた日本にとっては、鉄の入手経路の厳しい現実にはさらされることになった。

つまり、この世紀 年々大陸からの鉄の入手は困難になり、鉄の大陸からの自立が大和朝廷にとっては最大の課題であり、伽耶の滅亡により、より一層の緊急課題となった。

日本には、朝鮮半島の混乱を逃れ、多くの渡来人が大陸からやって来て鉄の技術を日本に伝えたという。



日本・韓国の鉄テイ分布 (4世紀後半)

供給源: 伽耶・新羅・百済

大陸から輸入された鉄を原材料に、兵器や工具に加工する鉄鍛冶が専門職化して、軍事と結びつき、また、鉄の自立に向けた製鉄も始まっていたと考えられる。その起源は6世紀半ばと見られているが、まだ良く判っていない。

そんな製鉄にかかわる渡来人の系譜が豪族・氏族として大和朝廷にも多数かかわっていたと考えられ、

現在においても各地に残る産鉄地名・氏名の中にはこの頃の産鉄に起源を持っているものもある。

出雲・息長・鴨・葛城・物部などの諸族 三輪山周辺に残る金屋・穴師・出雲・石上などの地名がこれにあたるのではないかと・・・



#### 4. 邪馬台国大和説と三輪山山麓 山辺の道

邪馬台国大和説では、天理市から桜井市にかけて広がる纏向遺跡や大和（オオヤマト）古墳群が、邪馬台国の中心だったと考えられています。

最近、ホケノ山古墳が、築造年代3世紀前半にさかのぼることが発表され、箸墓古墳と並んで邪馬台国大和説との関係がいられています。

##### 纏向古墳群

三輪山の麓にある桜井市の巻向地区には、卑弥呼の墓ではないかといわれている箸墓古墳を中心に多くの古墳や遺跡があり、近くの山辺の道には大和朝廷の実質的な創始者とも言われる、崇神天皇陵（行燈山古墳）や景行天皇陵（渋谷向山古墳）等もあり、ここが大和朝廷の発祥の地という人もいます。

纏向遺跡には20数基の古墳が存在する。

このうち現状から前方後円墳と判別できるものとして、箸墓古墳、纏向石塚古墳・矢塚古墳・勝山古墳・東田大塚古墳・ホケノ山古墳がある。これらの古墳を総称して「纏向古墳群」という。

これら前方後円墳群は3世紀に現れ、4世紀後半には消滅してゆく。

近年の檀原考古学研究所や桜井市教育委員会等々の発表によれば、纏向古墳群のなかの、勝山古墳、矢塚古墳、ホケノ山古墳、マバカ古墳などは出土物の調査等から、建造時期が3世紀半ばまで遡るとされ、これで卑弥呼活躍の時期と一致するという。

卑弥呼から大和朝廷へ 日本誕生にかかわる大和の連合王権の連合のシンボルがこの前方後円墳と唱える人もいる。

三輪山に行こうと思った当初は「古代産鉄の地に鉄の痕跡を訪ねよう」との軽い気分でしたが、

「この地が卑弥呼の時代から日本誕生にかかわる初期大和政権の本拠地

そして古代を通じて難波津へ通ずる都の外港で遣隋使もこの地から出発した」

など思いも寄らぬ事。しかもそれがすべて三輪山を中心とした古代の産鉄の地で・・・。

古代 畿内には三輪山・石上と同時に河内にも大きな鍛冶工房。それが三輪王朝に続く河内の王権へ・・・

そして北近江・越の鉄をバックに畿内へ入った継体天皇の誕生へ。



三輪山は今も砂鉄が見られる鉄の山

この王城の地は時代を越えて脈々と鉄の系譜と共に続いている。

大神神社の巨大な大鳥居は耐用年数1300年の現代の鉄のモニュメント。これからもずっと三輪山の前に立って王城の地 やまを見据え続けるという。

もうビックリ・・・。畿内の「鉄」が面白くなってきた一日でした。

2004.3.31. by M. Nakanishi

## 古代 初期大和政権(三輪王権)が王城の地に求めた産鉄の地 産鉄の地「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道

1. 産鉄の地「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道 Walk
  1. 産鉄地名の桜井市金屋集落 そこは古代王城の地「しきしま」
  2. 三輪山をご神体とする日本最古の神社 大神神社
  3. 三輪山 登拝 三輪山に鉄の痕跡を探して
  4. 卑弥呼の地 箸墓界限 三輪山麓の丘より夕日の大和盆地を眺める
2. 『古代の鉄の山「三輪山」と初期大和政権』 思いつくままに
  1. 三輪山は古代鉄支配のシンボルでなかったか・・・
  2. 三輪山 大神神社 三輪山山麓は産鉄の地
  3. 鉄をめぐる朝鮮半島諸国と日本の関係
  4. 邪馬台国大和説と三輪山山麓 山辺の道

【完】

参考 1.

奈良 元興寺と 元興寺の鬼「がこぜ」

2011.8月 by Mutsu Nakanishi



蘇我馬子が飛鳥に建立した法興寺が平安遷都と共に平城京に移建、寺名を元興寺に改めた南都七大寺の一つ。  
 今の奈良町全体が寺域という大きな寺だったが、今 寺域は狭くなってしまったが、天平の僧房の様式を伝える禅室(国宝)、  
 元興寺大塔のヒナ型といわれる五重小塔(国宝)、本尊阿弥陀如来坐像(重文)ほか寺宝は多い。



飛鳥の瓦が今も載る元興寺 極楽院僧房・禅堂 境内に桔梗の花 遠くに奈良の大文字山「高円山」



奈良元興寺の厄除鬼 「鬼は内 福は内」

### 元興寺の鬼「がこぜ」

2009年2月 Iron Road より

この季節になると毎度ながら、「鬼」が気になる。  
 最近「福は内 鬼は外」から「鬼も内 福は内 鬼も内」と教えるところが多くなっている。  
 「地球上に生きとし生けるもの みな共生する仲間」だからと・・・。  
 昔話の現代版書き換えと同じで、ちょっと行き過ぎの感じがするのですが・・・。  
 久しぶりに 街に 人を助ける良い鬼 厄除け「鬼」の飾 が売られているのを見つけて 思わず買いました。  
 かわいらしい顔で振ると「からころ」と澄んだ音がする。

昔 奈良元興寺に「がこぜ・元興神」という鬼がいて 悪者を退治したことから、  
 奈良元興寺の節分祭では「鬼は内、福は内」というそうです。  
 あの怖いごい形相の蔵王権現三体が祭られている吉野の蔵王堂も、  
 追われた鬼をあつめて、改心させて 「鬼は内 福は内」という。

「鬼」は自分たちとは異なる集団を「鬼」として排除してきた遠い昔の名残り。  
 そんな中に製鉄の集団もいたという。



「いつも 一生懸命働きながら 騙されて 退治される」そんな鬼が日本各地で語り継がれてきた。  
 「鬼は外 福は内」と言いながら うちでは鬼に感謝し、憎めない。  
 そんな構図が「鬼は内 福は内」の言葉として民衆の中で語り継がれてきたのではないかと思っている。  
 最近の世相を思いつつ、また、 いろいろな困難に直面している人たちの思いつつ、  
 「共に生きる」との姿勢を願って「 福は内 鬼も内 」と

2009.2.1. 神戸にて Mutsu Nakanishi





# 耐候性鋼板の鳥居



熊野本宮大社「大鳥居」

静寂の中に ひっそりと佇む

古え切 人々の心に残れ 親しまれた 鳥居

人が生まれ 成長し 大人になり

祈りに込め 若い若さ 男は女も 通った 鳥居

社業で活躍 社大で活躍

気候 風土に耐え 時を越えて 永遠なる 鳥居

昔は木 今は鉄 万世不朽

錆を防ぐことから生かすことへ、  
そこから鳥居にふさわしい色調が生まれました。

新しい時代の鳥居の素材は、木材不足や安全性の問題などを考慮し、あらゆる気候に耐える耐候性鋼板へと代替されるようになってきました。  
当社では、すでに「熊野本宮大社」「大神神社」「霧島神宮」「靖国神社」「北海道神宮」など、由緒ある大鳥居を総合力を発揮し、建設してまいりました。  
新技術、新工法の開発、実用化には総合メーカーとしての力をいかに発揮し、常に業界のバイオニアとして積極的な活動を続けております。

### 鳥居の特長

コンピュータグラフィックスを駆使し、あらゆる角度から検討を加え、造形美、遠近感、環境との調和など、最も理想的な設計を生みだします。

耐候性鋼板は、鳥居に最もふさわしい色調を発揮します。

当社では昭和50年、わが国で初めて耐候性鋼板を開発して以来、その実体を生かし強度を高めたCUPTEEN(カプテン)を開発しました。橋梁、建築、大規模構造物などにも大量に採用されています。これらの耐候性鋼板の最大の特長は、

鋼の表面に強固な錆層を形成することにあります。

この錆層が、一種の塗装と同じ効果を発揮し、鋼の腐食を防ぎ、そして次第に美しい黒褐色の外観を呈するようになります。

当社の鳥居は、優れた技術と高い精度をいかんなく発揮し製作されます。



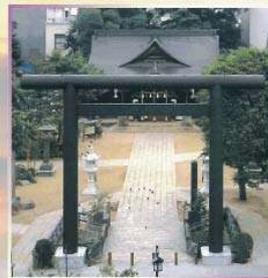
### 耐候性錆安定化処理仕様実績



北海道大神宮(大鳥居) 昭和43年/北海道札幌市  
高さ 18.1m/幅 25.4m/柱径 1.9m/柱間隔 14.8m



伊弉乃神社(鳥居) 平成元年/愛媛県西条市  
高さ 9.5m/幅 13.2m/柱径 0.67m/柱間隔 7.9m



四柱神社(鳥居) 平成12年/長野県松本市  
高さ 10.8m/幅 13.3m/柱径 0.8m/柱間隔 9.0m



霧島神宮(外参道大鳥居) 昭和53年/鹿児島県霧島市  
高さ 22.4m/幅 28.0m/柱径 1.78m/柱間隔 16.0m



靖国神社(大鳥居) 昭和49年/東京都千代田区  
高さ 25.0m/幅 34.1m/柱径 2.5m/柱間隔 19.5m



住吉神社(鳥居) 平成8年/大阪府豊中市  
高さ 5.78m/幅 8.01m/柱径 0.45m/柱間隔 4.5m



戸澤神社(鳥居) 平成10年/山形県新庄市  
高さ 7.3m/幅 9.8m/柱径 0.6m/柱間隔 5.5m



熊野本宮大社(大鳥居) 平成12年/和歌山県本宮町  
高さ 33.8m/幅 42.0m/柱径 2.7m/柱間隔 24.5m



大神神社(第一鳥居) 昭和16年/奈良県桜井市  
高さ 32.2m/幅 40.2m/柱径 3.0m/柱間隔 23.5m



女神神社(鳥居) 平成9年/神奈川県川崎市  
高さ 6.7m/幅 8.5m/柱径 0.6m/柱間隔 5.0m



桜木神社(大鳥居) 平成5年/千葉県野田市  
高さ 12.85m/幅 18.0m/柱径 1.15m/柱間隔 10.8m

## 耐候性塗装仕様実績



石籠神社(鳥居) 平成6年/愛知県西海市  
高さ 14.6m/幅 20.0m/柱径 1.22m/柱間隔 11.5m



筑作神社(鳥居) 平成10年/奈良県磯城郡  
高さ 9.0m/幅 10.6m/柱径 0.8m/柱間隔 6.0m



箱根神社(鳥居) 平成5年/神奈川県箱根町  
高さ 16.0m/幅 24.1m/柱径 1.7m/柱間隔 13.0m



花園神社(鳥居) 平成8年/東京都新宿区  
高さ 9.28m/幅 12.9m/柱径 0.81m/柱間隔 7.0m

## 特殊形状仕様実績



山王島居(柱木の上に鉄道の合掌を設置) 平成7年/東京都千代田区  
高さ 10.92m/幅 15.73m/柱径 1.0m/柱間隔 6.3m



西野島居(本柱の前後に小柱を設けてこれに貫を通す) 平成9年/山梨県奥山梨郡  
高さ 7.2m/幅 8.6m/柱径 0.55m/柱間隔 5.4m



稲荷島居(柱の上端に台輪を設置) 平成10年/奈良県御井市  
高さ 6.0m/幅 8.0m/柱径 0.5m/柱間隔 4.5m

## 契約から竣工までの流れ



## 耐候性鋼のさび安定化処理剤

「カプテンコート」は、安定さびをじっくり熟成します。  
 その間、安定化を阻害する成分は過ぎず、必要な成分だけ通す設計にしています。  
 安定さびに置き換わるまでの間は、塗装が耐熱性鋼の腐食を必要最小限に押さえます。  
 腐食で生じたイオンは、無害なく安定さび形成に利用します。  
 塗膜から安定さびへのノンタッチ塗布で、耐熱性鋼のメンテナンスを達成します。  
 「カプテンコート」は安定さびにノンタッチするまで、外観をしっかりと守ります。



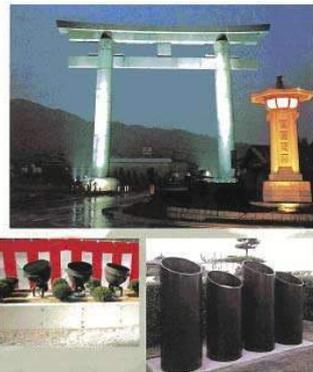
## 耐候性鋼の塗装仕様

当社の島居の塗装仕上げは、建築工事等による多数の劣損を有する重防食塗装仕様です。耐候性鋼材の使用により、一般の鋼材に比べ、長期間の防錆効果が期待できます。



## 照明設備

昼間では見られない夜間照明によるオブジェクト。  
 色彩計画による新しい発見をお約束いたします。



## かざり(額、紋章、銘板)

日本古来の伝統工芸による手作りの一品です。  
 計画段階より当社管理の元に製作いたします。

### ■紋章：青銅鑄鋼品(焼付塗装後本金箔押し仕上げ)



### ■銘板(銅製エッチング仕上げ)



### ■額：青銅鑄鋼品(文字、額縁は本金箔押し仕上げ)



## JFE エンジニアリング 株式会社

本社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目1番2号

<http://www.jfe-eng.co.jp>

鋼構造事業部 建築営業部 TEL 03-3217-2774ダイヤルイン FAX 03-3217-2185

清水製作所 〒424-8803 静岡県静岡市清水区三保387番の1 TEL:0543-34-2961 FAX:0543-34-2781

大阪支社 〒541-0046 大阪市中央区平野町四丁目1番2号(大阪ガスビル7階) TEL:06-6223-7500 FAX:06-6223-7592

和歌山支店 〒640-8213 和歌山市舟大工町9番地(市駅前ビル4内) TEL:073-423-1957 FAX:073-423-1957

名古屋支社 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目29番12号(大名古屋ビル10階) TEL:052-561-8611 FAX:052-561-8620

岐阜支店 〒500-8381 岐阜市市橋三丁目8番3号(江崎ビル3階) TEL:058-268-2031 FAX:058-275-9122

北海道支社 〒060-0005 札幌市中央区北五条西二丁目5番地(JRタワー17階) TEL:011-271-2211 FAX:011-271-2218

東北支社 〒980-0803 仙台市青葉区国分町三丁目4番33号(仙台定禅寺ビル5階) TEL:022-264-2411 FAX:022-221-4780

千葉支社 〒260-0025 千葉市中央区同里町1番35号(千葉ポートサイドタワー23階) TEL:043-245-2251 FAX:043-245-2254

神奈川支社 〒220-8144 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号(横浜ランドマークタワー44階) TEL:045-212-3311 FAX:045-212-3127

新潟支社 〒950-0087 新潟市東大通一丁目3番1号(新潟幸石ビル4階) TEL:025-245-5341 FAX:025-244-2566

静岡支社 〒422-8081 静岡市駿河区森下町1番35号(静岡MYタワー13階) TEL:054-288-0151 FAX:054-288-0158

中国支社 〒730-0036 広島市中区袋町4番21号(広島富国生命ビル6階) TEL:082-543-2600 FAX:082-543-2424

山口支店 〒754-0022 山口市小瀬花隈町1番12号(小瀬第三ビル2階) TEL:083-974-5888 FAX:083-974-5889

九州支社 〒812-0044 福岡市博多区千代一丁目17番1号(ギバシオン24.5階) TEL:092-632-1511 FAX:092-632-1519

沖縄支店 〒900-0015 那覇市久茂地三丁目21番1号(國瑞ビル9階) TEL:098-868-9426 FAX:098-868-1703

海外事務所 香港、台北、ヤンゴン

鹿児島事業所 〒230-8611 神奈川県横浜市鶴見区末広町二丁目1番地 TEL:045-505-7435 FAX:045-505-7432

津製作所 〒514-0393 三重県津市雲出町菅町1番地 TEL:059-246-2010 FAX:059-246-2781

(2005年9月30日現在)

## 〈10〉 古墳時代 朝鮮半島との交流の玄関口「若狭」を再度訪ねる 2011.8.30.

脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学 & 若狭小浜港・遠敷(おにゅう)の里 Walk



古代 大陸・朝鮮半島への窓口だった若狭



若狭 天然の良港 小浜港 2011.8.30.

まだ日本で鉄が生産できない時代 朝鮮半島の鉄を求めて、朝鮮半島に近い北部九州諸国や、玉加工など特産品の生産に使われる鉄工具などの鉄器需要の大きかった山陰・丹後や北陸などが、朝鮮半島や北部九州と交易を行い、古墳時代当初 それらの諸国が畿内・大和への日本海側交易の窓口でもあった。

その後 5世紀 鉄の需要拡大と共に天然の良港であり、国内交通の利便性の面でも良好な「若狭」が流通拠点として畿内・大和への日本海側交易の窓口の役割を果たして行く。

最近 読んだ本に文言は正確ではないが、

「朝鮮半島の鉄を求める畿内・大和の日本海側交易の窓口は当初 丹後や山陰・北陸など。そして その後 若狭に移る。

丹後などは、流通拠点というより、鉄の消費地。その後 鉄の需要拡大と共に 国内交通の利便性の良い若狭に移った」と。

日本黎明期の古墳時代 大陸・朝鮮半島と大和を結ぶ「和鉄の道」の日本海側の玄関口「若狭」の実像のイメージを膨らませたくて、再度 若狭を訪ねてみようとして 8月30日 再度若狭を訪ねました。

「若狭」は古代 大和・畿内から北部九州・大陸・朝鮮半島を結ぶ交易ルート「和鉄の道」の玄関口。

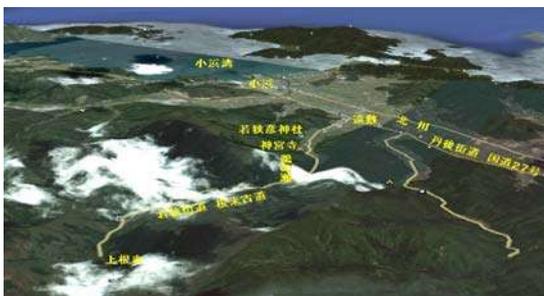
3世紀 邪馬台国の時代から朝鮮半島の鉄を求めて「和鉄の道」が通っていたに違なく、数々の朝鮮半島との交流を示す遺物や鉄製品遺物が残されている。この「若狭」の国の中心が若狭町上中地域(旧上中町)で、若狭の王墓とみられる数多くの古墳が築かれ、大和との結びつきを示す前方後円墳も数多く残されている。

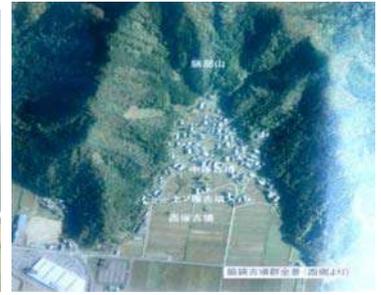
以前にもこの地を訪れたことが、あるのですが、今回この上中地域の古墳群から出土した遺物特に朝鮮半島との交流の歴史を示す遺物を見たくて、若狭町歴史文化館を訪ねました。

また、奈良東大寺2月堂のお水取りで汲まれる「若狭井」の水は若狭からの湧水とする伝承の里「遠敷(おにゅう)の里」そして、大陸・朝鮮半島の日本海側の玄関口「若狭の湊」のイメージをはっきりしたくて、若狭・小浜の港を訪ねました。

今回の若狭再訪で、1500年前 東アジア交流の真ただ中、国際的な海の玄関口として「若狭」がもっとも輝いた時代鏡のような穏やかな広い内海を持つ巾着型の小浜の港の良さ・若狭の王墓 前方後円墳から出てきた鉄ならびに朝鮮系の遺物の数々。そして、数々の文物・技術を持つ渡来人がこの若狭から大和へ登って行ったことを示す遠敷川 鵜の瀬の伝承等々大陸・朝鮮半島から大和へつながる交流路「若狭」の姿を知ることができました。

もやもやしていた若狭の実像が浮かび上がってきて 我ながらびっくりです。



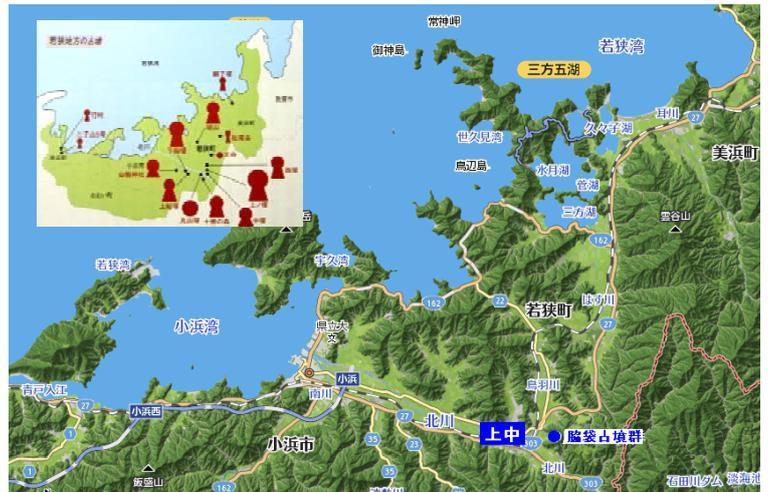


若狭町上中の膳部山麓 脇袋にある 日本の黎明 古墳時代 若狭の王墓 脇袋古墳群

5世紀初 若狭で初めて造られた前方後円墳 上ノ塚古墳ほかかつて七つの塚が存在したという。

現在では、その内、主軸をほぼ南北にした3基の前方後円墳、円墳と思われる糠塚古墳、埴輪と葺石を備えた上下の森古墳などが残っている。古墳群の背後に、標高約200mの膳部山がひかえ、若狭の国造膳臣（かしわでのおみ）との縁を今に伝えているといわれている

弥生時代後期末から古墳時代への移行期（2-3世紀）日本黎明の時代、日本各地には邪馬台国はじめとする地域王権・国が興り、この時代の先進地であった大陸・朝鮮との交流が進む。この時代 若狭をはじめ日本海沿岸でも共同体の規模が大きくなり、王が台頭し、その指標となる墓制の変化が見られ、丹後半島では、方形台状墓から大型前方後円墳の造営が見られた。また、北陸・越前では、四隅突出型墳丘墓から前方後方または前方後円墳の造営があった。



そんな日本黎明の弥生後期から古墳時代 大和・畿内から大陸・朝鮮半島や北部九州への交流路として、瀬戸内海と日本海沿岸を北部九州へたどる2つの道があったといわれ、「丹後」そして 少し下って、「若狭」が日本海側交流路の窓口となって活発な交流が行われたと言われる。この若狭の国の湊の中心「遠敷(おにゅう)の里」には 奈良東大寺二月堂の「お水取り」に先立って「水送り」の神事が行われる遠敷川鵜の瀬の伝承がある。

若狭・遠敷に行くまで 知らなかったのですが、インドの高僧と大寺建立 そして 大仏建立に力を尽くした良弁が登場し、ひょとして 和鉄の道が絡んでいるのではないかと頭にあったイメージが大きく膨らみました。

海と川と森の自然に包まれた若狭がもっとも華やかだった時代のイメージWalk。

前回の若狭walk と一つにして まとめました。

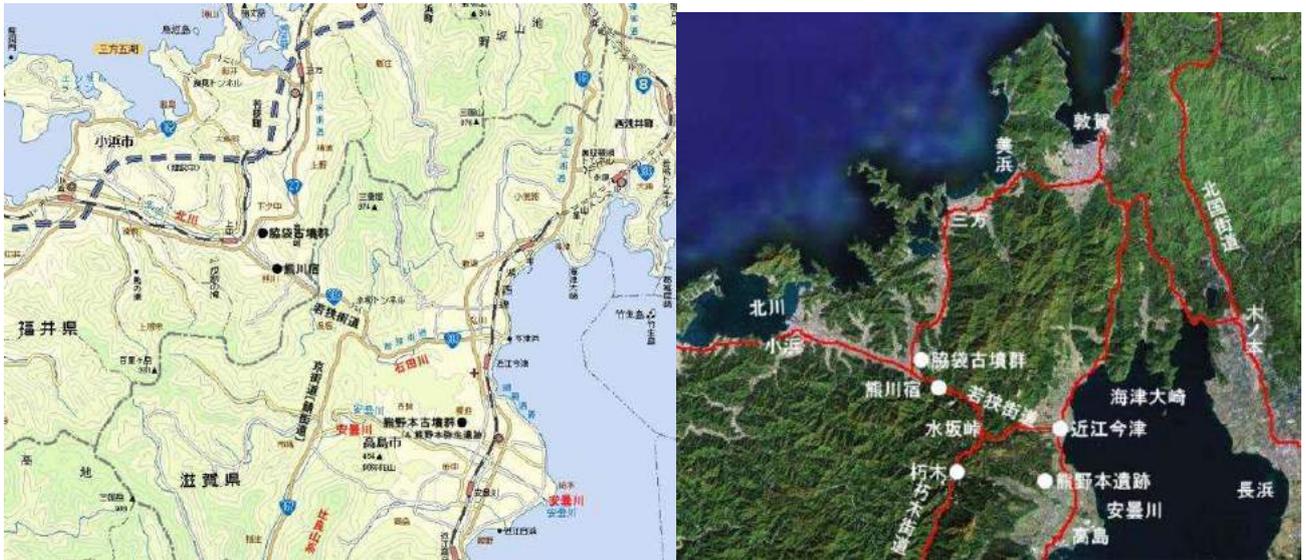


鵜の瀬 「水送り」の神事  
奈良東大寺2月堂お水取りに先立ち  
若狭の水を 川に注ぎ 奈良 若狭井に送る  
この瀬の中央の所に深い穴があり、  
奈良若狭井につながっているとの伝承

# 1. 2008.9.1.Walk の記録 若狭「上中 熊川宿 & 脇袋」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/iron4/0810wksa00.htm> より抜き出し整理

5世紀 大和と結ぶこの地を治める王の墓群「脇袋古墳群」 若狭ではじめて築かれた前方後方墳・前方後円墳



卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」

## 9. 大陸・朝鮮半島の鉄をもとめて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねる 2008.9.1.

分水嶺「水坂峠」の両側にある北近江「高島 熊野本」と若狭「上中 熊川宿 & 脇袋」

0810wksa00.htm 2008.10.1. By Mutsu Nakanishi

### 「2. 若狭「上中 熊川宿 & 脇袋」の項 抜き出し

日本海に面する「若狭」は大陸・朝鮮半島と畿内・大和を結ぶ「古代 大和の和鉄の道」の北の玄関口  
この道を通して 多くの渡来人そして「鉄」や文物が行き来した。この琵琶湖北岸から若狭へ山越えする「若狭街道」周辺には 数々の渡来人の痕跡や大陸・朝鮮半島の鉄の遺物が点在する

また、大和王権はいち早くこの鉄の供給路・大陸との交流路を確保のため、この地の「王」と結び、そんな証として、古墳時代初期のこの地の「王」たちの王墓 である前方後方墳・前方後円墳が数多く築かれた。

日本で製鉄が始まる前夜 そんな大陸からの鉄の流入路の夢を頭に描いて「若狭街道」を訪ねました。

<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/iron4/0810wksa00.htm> より

若狭 若狭町 上中町 脇袋「脇袋古墳群」 5世紀

若狭から北近江へ遡る北川右岸の丘陵地に大和との密接な連携を示す初期前方後円墳 若狭の王墓古墳群が築かれている。

大陸への「鉄の道」の北の玄関 若狭にあるこの地に築かれた前方後円墳の王墓群。

大和がこの若狭を大陸と大和を結ぶ交易拠点として、強く意識していたことが見て取れる。



ずっと 頭にあった日本海沿岸から若狭そして琵琶湖へと続く畿内・東国への鉄の流入路。朝鮮半島の鉄を求める古代大和王権の重要な「鉄の道」である。

北近江の琵琶湖へ西の比良山塊から流れ下る安曇川の北岸 饗庭野丘陵の南端にある弥生の高地性集落「熊野本」に鉄素材や加工の痕跡のある鉄が出土しているという。そして、その後この地に地域の首長が存在し、前方後方墳など大型の墳墓群を築いたという。

電話やインターネットで調べても 詳細は良くわからない。

大陸・朝鮮半島への玄関口 若狭街道の要衝の地にあるこの熊野本遺跡・熊野本古墳群はどんなところだろうか・・・  
出土した鉄素材はどんなかたちなのだろうか・・・。

現地にも電話して、照会するのですが、雑木林に覆われた丘陵地を別荘地として開発した場所で、遺跡は残っているが、草に覆われ、行っても何もなく、整理された資料も現地にはないという。情報は滋賀県埋蔵文化財センターの簡単な学習シートとみ。場所は新旭駅のすぐ近く 西側の丘陵地の上の弥生の高地性集落。この集落が消えた後、この地域を治める首長が小さな谷を隔てた隣接地に次々とこの地の首長が大和との密接なつながりを示す前方後円墳や大型墳墓を築いたという。

この琵琶湖北岸から西岸にかけ、比良山系の山中には鉄鉱石があり、数々の渡来人の痕跡とともに「鉄」関連遺物が数々出土している。また、対岸には日本で一番先に製鉄を始めた先進地のひとつ 牧野や古橋に古い製鉄遺跡群が残るこの北近江。弥生時代にも きっと重要な鉄の痕跡があり、日本での製鉄の始まりにも大きな役割を演じたのではないか・・・  
「鉄」の流れを紐解く上で、欠くことのできぬ所だろう。

とにかく どんなところか 見に行こう。

本当にどんな鉄素材が出土したのかも知りたいと。

今年の夏 若狭の縄文時代の貝塚「鳥浜貝塚」を訪ね、この地の縄文人が丸木船を駆使して、日本海沿岸の集落と広く交流していたことを知りました。また、この若狭の地は 古代大和の時代には 瀬戸内海と並ぶ日本海沿岸から若狭を玄関口。

琵琶湖から大和へ結ぶ大陸・朝鮮半島との重要な交流路。まだ鉄素材を作れなかった日本への朝鮮半島の鉄の流入路。「鉄の道」である。

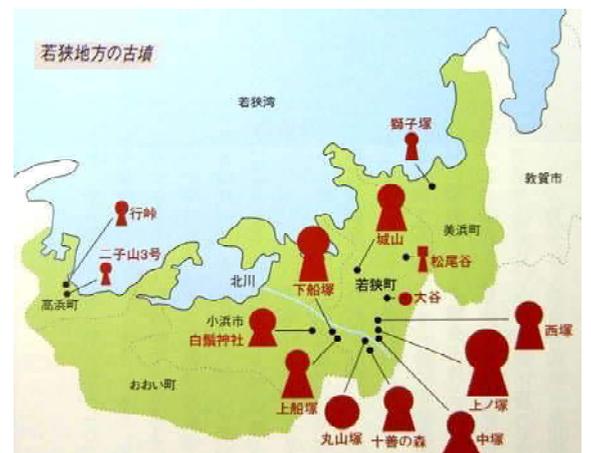
瀬戸内海経由と並ぶ最重要路「大和の鉄の道」今も「若狭街道」の名で若狭と近江・京都を結ぶ重要路。

この街道を近江から山越して日本海側の若狭平野の出た処 若狭上中町脇袋に古墳時代初期の前方後円墳や前方後方墳が築かれ、大和と密接な関係が残されていることも知りました。(脇袋古墳群)

古代大和に先立つ卑弥呼の時代 北九州諸国に独占されていた朝鮮半島・大陸の「鉄」の独占支配が崩れ、山陰諸国 鳥取の妻木晩田遺跡 青谷上寺地遺跡や丹後にも大量の鉄が蓄積され、畿内にも鉄が流入する。

もう 一度 北近江の鉄を調べたいなあ 北近江牧野や古橋の古い製鉄遺跡群ばかりでなく、きっと この「近江・若狭を結ぶ若狭街道」にもそんな時代の「鉄」の痕跡があるだろうと・・・。

以前、朝日新聞関西版に「鉄器登場」や「日本の原像」にこの北近江若狭街道に近い拠点での前方後方墳など古墳時代の初期の大型墳墓群(熊野本古墳群)が紹介されていた。また確かその時に調べた、読売新聞の連載資料にも鉄と若狭街道地域に何か書かれていたと。再度 朝日新聞関西版「鉄器登場」や「日本の原像」の記事を引っ張り出すと、「北近江の琵琶湖へ西の比良山塊から流れ下る安曇川の北岸饗庭野丘陵の南端「熊野本」にある 弥生の高地性集落「熊野本遺跡」と古墳時代初期 前方後方墳墓など大型墳墓群のスタートを示す「熊野本古墳群」。大量の鉄素材が出土し、この地で鉄器加工をやっていた可能性がある。」と紹介されている。



「北近江高島 熊野本遺跡と熊野本古墳群」については 下記の元の掲載記事をご参照ください。

9. 大陸・朝鮮半島の鉄をもとめて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねる 2008.9.1.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/iron4/0810wksa00.htm> より

1.1. 近江今津駅から JR バスで 若狭街道 水坂峠を越えて 若狭熊川宿・上中町へ  
日本海沿岸 若狭側の入口にある古代大和と結ぶ首長級の古墳群 脇袋古墳群を訪ねる



古代 大陸・朝鮮半島と畿内・大和との重要な交通路 若狭・北近江・琵琶湖を結ぶ若狭街道



西近江 新旭駅背後の饗庭野丘陵と

鉄器・鉄素材を出土した 3 世紀の高地性集落熊野本遺跡



5 世紀若狭の王墓群 脇袋遺跡のある上中脇袋の郷

京・琵琶湖から水坂峠から若狭へ越えた 北川流域

若狭町上中は古墳時代若狭の中心地

大和との密接な関係を示す王墓 前方後円墳が数多く残る

新旭駅から約 5 分で近江今津。古くから西近江 琵琶湖交通の要で、この港と若狭街道を經由して 日本海と近江・大和・  
が結ばれる。湖西線近江今津駅から新快速電車で接続して 1 時間に 1 本の若狭街道を通して若狭小浜線の上中駅から小浜駅へ  
約 1 時間で結ぶ路線バスがある。今は湖西線を新快速電車が敦賀まで走っているの、敦賀から小浜線で若狭へ行くことも  
できるが、若狭へはこの路線バスを利用する方が、はるかに早く便利である。若狭街道は近江今津からまっすぐ若狭と近江の  
分水嶺水坂峠へ石田川を遡り、峠を越えて若狭側の北川水系を真っ直ぐ、上中町・小浜へと下ってゆく。

航空写真で見るとこの若狭街道の道筋は中央構造線が走る四国吉野川水系や紀伊紀ノ川水系と同じく直線的に切れ落ちた断  
層地溝帯の中なのだろう、海岸まで直線的な地溝。距離的にもストレートの短い最短距離。

縄文・弥生の時代から日本海側から近江・琵琶湖へ抜けるこの地溝帯の道を知っていて、多くの人たちがこの道を往来した。  
大陸・朝鮮半島の「鉄」もこの道を通して近江へもたらされたに違いない。若狭街道は「鉄の道」である。

当時日本では鉄素材を造ることは出来ず、朝鮮半島にその供給を求めた。当初 北九州の諸国に独り占めされていた「鉄」が、  
弥生の中期・後期には日本海側の山陰・北陸で急増し、そして 大和にも数多くの鉄器が持ち込まれ、この鉄器の力を背景に  
大和王権が支配を強めてゆく。この鉄の供給ルートが北九州諸国の手から離れ、日本海ルート・瀬戸内ルートが確立されて  
ゆくとともに大和王権が形作られてゆく。若狭街道は日本海側から大和への「鉄の道」の北の玄関口である。

水坂峠を挟んで、近江側には弥生時代 鉄器とともに多数の鉄素材が出土した熊野本遺跡があり、そして、その後、古墳時

代になると同じ地に大和と結ぶ地域の有力皇族が前方後方墳・前方後円墳をつくり、この地を固める。(熊野本古墳群)  
 一方、近江から北川沿いに下ってくる若狭街道が山並みを抜け海岸沿いの平地に出たところに位置する上中町にもそんな遺跡が残されている。この北川流域を支配した地域豪族が現れ、この地に次々と古墳を築いた。  
 中でも、5世紀 上中町北川の北岸の山裾「脇袋」に築かれた脇袋古墳群はこの地に築かれた前方後円墳の最も古いものであり、大和と密接につながっていたことをこの前方後円墳が示している。  
 背景に大陸から持ち込まれてくる「鉄」があったに違いない。



若狭国の王墓 脇袋古墳群が膳部山の山裾に見える脇袋の郷 若狭街道の若狭側の出入口 若狭上中



若狭地方の主要古墳位置図



若狭で一番古い前方後円墳が築かれた上中町脇袋

近江からの出口上中町に古墳が集中

若狭街道の若狭側と近江側の出入口に大和と結ぶそれぞれの地域首長がどっしりと勢力を伸ばし、この交易路を行き来する文物を管理する。大和がこの「鉄の道」を非常に重要視していた証だろう。そして この道は古代ばかりでなく、現在に至るまで、その後も日本海側と近江や畿内・大和 そして京都を結ぶ重要路でありつづける。

また、近世の若狭街道・京街道のなごりとして、峠下に熊川宿の家並みが歴史的家並保存地区として残っている。琵琶湖岸の近江今津駅からバス に揺られて 若狭と近江の分水嶺水坂峠を越えて約40分ほどで熊川宿。



若狭街道を若狭湾へ流れ下る「北川」



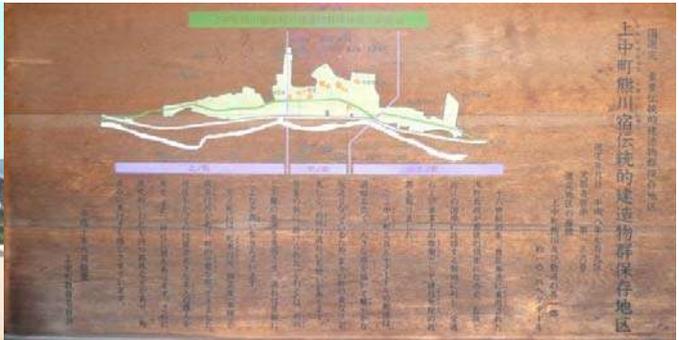
水坂峠から若狭に入ったところが熊川宿

蛇足ながら 近江と若狭の分水嶺は「水坂峠」であるが、県境は少し西へ下った「熊川」の入口にある。分水界が県境になっているのに、水坂峠周辺のみだけが、峠を越えて若狭側に食い込んでいる。これも 近江・畿内側の勢力が強く水坂峠周辺を近江側に位置づけておきたかったのかもしれない。街道筋が重要な地であった証拠でもあろう。

1. 2. 歴史的な家並保存地区 若狭街道 熊川宿 2008. 9. 1.



若狭街道が水坂峠を越えて若狭に入ると熊川宿 街道に沿って 北川が海岸へ向かって流れる 2008. 9. 1.



水坂峠から北川に沿って若狭街道が日本海へまっすぐ下ってゆく  
山間部を抜け平地に出るところに熊川宿が昔の家並みのまま残っている 2008. 9. 1



重要伝統的建物群保存地区  
熊川宿 2008. 9. 1.

### 1.3. 5世紀 大和と結ぶこの地を治める王の墓群「脇袋古墳群」 若狭ではじめて築かれた前方後方墳・前方後円墳群



若狭で最初の前方後方墳・前方後円墳群築かれた若狭の王城の地 脇袋の郷 膳部山遠望



熊川宿をゆっくり歩いた後、午後2時過ぎの小浜行のJRバスで小浜線上中駅へ。  
バスは日本海沿岸に向かって田園地帯が広がる中をまっすぐ走る。

15分ほど北川沿いに下って、山裾を抜けて平地に出た北川の中流で、右手 東から敦賀から走ってきた JR 小浜線や国道を合流する。この合流点から1km弱 下ったところが上中駅でここでバスを下車。

若狭街道・小浜線はそのままさらに北川沿いを日本海への出口小浜へ向かう。

5世紀この若狭北川流域を支配した首長たちが築いた前方後方墳・前方後円墳を築いた往生の地「脇袋」は 先ほどの合流点から反対に敦賀の方へ1kmほどいった北川右岸の山裾である。



熊川宿からまっすぐ北西へ北川沿いを走る  
北川の対岸 右手の山々の山裾が脇袋



上中駅近く敦賀からの道との合流点  
右手から敦賀からの道を合流すると JR 上中駅

JR 上中駅で脇袋古墳群のある「脇袋」への道を確認して歩き出す。

脇袋の郷は駅から約5km 敦賀よりの北川対岸の山裾。先ほどバスで通過した敦賀との道との合流点を敦賀の方へ進み、北川を渡って山裾の中へ回り込んだところが脇袋の郷である。

国道沿いに脇袋の郷のお寺への石塔が立っているからすぐわかると聞く。

車がひっきりなしに通る国道を避けて、小浜線を渡って反対側にでると「脇袋」のある山の山裾まで黄金色の田圃が延々と続いている。交通の便がないので、歩くより仕方なし。

JR 上中駅の北側に出ると流れ下る北側沿いに 西の小浜側から東の三方・敦賀側へ広大な秋の実りをつけた田圃が広がる田圃の中を 30分ほど歩いて、小浜線鉄橋・国道橋のそば 北川の土手に登ると 上流側に先ほどバスでできてきた若狭街道の田園地帯が若狭・近江国境の山々を背に広がっている。そして、近江／若狭 国境の山々を背にとうとうと緑の中を流れ下る北川。この景色が若狭街道の出入口の昔から変わらぬ光景なのだろう。



西小浜側に広がる田園地帯



東三方側に広がる田園地帯 遠くの山裾が脇袋



北若狭街道熊川宿方面遠望 2008. 9. 1.

土手から国道の橋に出て 橋を渡って北川の右岸にでる。

右手に随分近くになった膳部山をながめながら、ゆるいカーブを描きながら橋から下ってゆく国道をお寺の石塔を見落とさないように注意して歩く。

橋から 15 分ほどで、石塔のある T 字路。石塔の横に「脇袋古墳群」の案内板も立っていて、凹字にくぼんだ膳部山の中央部へ田園の中をまっすぐな道が続き、

その懐に脇袋の集落がみえる。集落の家並みと古墳がかさなっているようで、ここからは古墳がどれか良くわからないが、集落の手前に見える森が古墳かも知れぬ。



国道から脇袋の郷へ入る入口で 田園地帯の奥 膳部山の凹字型の山裾に脇袋の集落がある 2008. 9. 1.

国道の T 字路から、田園の中を山に向かって まっすぐの道を進むと脇袋の集落。

集落は膳部山の山腹で凹字型に囲まれた山裾の傾斜地にへばりついて家々が密集してあり、その前面に広く田園が広がっている。

古墳群はこの集落の中や集落に近い田園部に点在。

また、集落の一番奥に国道に石塔があったお寺があった。



いずれも民有地なのだろうか、古墳の上が畑になっていたり、一部が取り崩されて形が大きく変化している古墳や集落の中の民家の庭にあるものなど色々である。

でも この集落は裕福なのだろう。一つ一つの家が大きく、古墳も形が崩されてはいるもののきれいに整備されて残されている。また、静かで落ち着いた集落 これが 5 世紀の若狭の王墓群とともに暮らしてきた証のように感じた。



5 世紀の若狭の王墓群とともに暮らす脇袋の集落 2008. 9. 1.

**[若狭で築かれた最初の方後円墳古墳群 脇袋古墳群]**

北川の北岸 古代大和の鉄の道をおさえる若狭首長墓群 脇袋古墳群 5 世紀

若狭町 上中町 脇袋 2008.9.1.





西塚古墳 5世紀後半の前方後円墳 古墳 脇袋の郷より 開けた北側を眺める 2008.9.1.  
脇袋の郷より 西の日本海側を望む



西塚古墳 5世紀後半の前方後円墳  
全長74m 後円部径23m 前方部幅41m 横穴式石室を持つ前方後円墳であるが、  
前方部がほとんど削り取られている。  
【主要出土品】 須恵器 中四国系土器 伊賀瓦葺瓦 武部(鉄剣 鉄輪 鉄鏃)  
鉄瓦 唐瓦 瀬江瓦(鉄釘) 須賀瓦(金網製銅土瓦 網輪 網鏃)  
金製金輪付銅刀 玉鋼  
※ 写真は、鉄器調査ならびに朝鮮半島からの金製瓦葺瓦群



上ノ塚古墳 5世紀の前方後円墳 奇抜地方最大の前方後円墳  
全長 約90m 後円部径51m 高さ3m 前方部幅41m 高さ7m



上ノ塚古墳は、奇抜における最初の大首長墳で、麻溝・墓石・埴輪を備え、3段築成である。



中塚古墳 5世紀の前方後円墳 全長 約60m 高さ6m ほどといわれるが影が隠れている  
脇袋の集落の家並の中に囲まれていて、家の間を抜けてゆく必要がある。ここも私有地で金網に囲まれていて全体が見えない



この脇袋は近江・福井の分水嶺から流れ出した北川が山間部から平地部へ流れて出たところの北岸の山裾にあり、この地から北川を下れば、朝鮮半島・山陰・九州への航海の玄関口若狭湾 また、北川沿いを南へたどれば、近江から琵琶湖そして大和・東海である。大大陸への大和の北の玄関口。



膳部山の凹字型の山裾にある脇袋の郷の中にかつて7つの塚 脇袋古墳群 2008.9.1.

その玄関口を守ったのが、脇袋の古墳群に眠るこの地域の首長たち。若狭の国造 膳臣(かしわでのおみ)一族といわれる。

今回 この地の首長たちと鉄との直接的なつながりを調べられなかったが、当時の最大の交易品は朝鮮半島の「鉄」であり、朝鮮半島諸国ともっとも交流の盛んだった時代である。大和の最も重要な地点のひとつであったに違いない。確かにそんな重要路を守る位置に大和と密接に関係を持った首長がいた。朝鮮半島の「鉄」と大和の関係を浮かび上がらせる鉄の道が若狭街道だとより鮮明に感じている。ずっとあたまにあった若狭街道と鉄の関係 やつとやつと歩けたこと、そこに確かな鉄の痕跡が残っていることに満足。夕日で真っ赤になった西の空 海は見えないが西に開けた若狭の王城の地を強く感じながら、上中駅へ急ぐ。



上中町からバスで約15分 家裏みか行く園道を西へ行くとき  
日本海・若狭湾が広がる 小浜市

帰りは さらにバスに乗って若狭街道を走るバスの終点小浜駅へ。そして、小浜線で敦賀へ出て敦賀から米原経由の新快速電車姫路行に乗り継いで神戸へ。神戸に帰り着いたのは夜10時過ぎ。若狭街道から近江今津経由で神戸に帰るのとは1.5時間近く時間がかかった。やっぱり、近江・若狭をつなぐ道は今も地域をつなぐ重要路とつくづく感じます。

2008.9.1.夜 神戸に帰りついて Mutsu Nakanishi

【和鉄の道】 9. 大陸・朝鮮半島の鉄をもとめて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねる 2008.9.1.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/iron4/0810wksa00.htm> より 抜き出し整理

## 2. 古墳時代 朝鮮半島との交流の玄関口「若狭」を再度訪ねる 2011. 8. 30.

若狭町歴史館に 若狭国の王墓「脇袋古墳群」より出土した鉄製品を訪ねる



古墳時代 まだ 日本で鉄が生産できない時代 朝鮮半島の鉄を求めて、朝鮮半島に近い北部九州諸国と共に国の特産品である玉加工などに使われる鉄工具など鉄器需要の大きかった山陰・丹後や北陸などが、畿内・大和への日本海側交易の窓口でもあった。そして、その後 鉄の需要拡大と共に 天然の良港であり、国内交通の利便性の面でも良好な「若狭」が流通拠点として 畿内・大和への日本海側交易の窓口の役割を果たして行く。[5世紀]

この時期 若狭の王墓には大和との密接な関係を示す前方後円墳が築かれる。

2008. 9月 に この「若狭国」の中心が若狭町上中地域(旧上中町)にある若狭国の王墓 脇袋古墳群を訪ね、大和との強い結びつきを示す前方後円墳群に、朝鮮半島と大和を結ぶ「和鉄の道」の日本海側窓口としての役割を強く印象付けられました。

しかし、実際に若狭の古墳群から出土した遺物 特に 鉄製品や朝鮮半島との交流を示す遺物などを見られなかったのと、かつての若狭の中心 若狭町上中地域は小浜へ北川が流れ下る山郷のイメージが強く、港とつながっているイメージがあまりはっきりしなませんでした。今回 この「和鉄の道 古墳時代の朝鮮半島交易の窓口・鉄の玄関口「若狭」 朝鮮半島の鉄を求める大和の日本側窓口」のイメージをもう少し、はっきりしたものにしたいと、8月30日早朝神戸を出て、若狭・小浜を再度訪ねました。

いつも「若狭」へは京都へ立ち寄ってから行くのですが、今回は神戸からダイレクトに舞鶴自動車道を通って神戸から約2時間 西側から若狭小浜に直接入る。

入り組んだ入江が続く若狭湾のその中にある小浜の港に行き、それから かつての若狭の中心若狭町上中地域へ若狭の国の王墓 脇袋古墳群から出土した朝鮮半島交易遺物を見る。鉄遺物はみられるだろうか……

朝鮮半島から持ち込まれた鉄がどんなものなのか…… 5世紀後半と言われる日本での製鉄の始まりを考えるヒントが見つかるかもしれない。大和王権と結びついた「若狭国」が朝鮮半島交易の窓口として果たした役割のイメージを膨らませて帰りたい。

また、奈良東大寺二月堂の「お水取り 若狭井」に湧き出しているとの伝承がある「遠敷川 鶴の瀬」にも興味がある。



舞鶴自動車道 綾部 私市古墳を潜り抜ける



由良川を渡り 海岸には出ずに山中 舞鶴を抜ける 2011.8.30

## 1. 若狭 小浜の港



若狭湾は海岸部まで山が連なる典型的なリアス式海岸で 海岸部まで東西に延びた山地が迫るが、入江は天然の良港となり、海岸や山あいを流れ下る川の流域にできた河岸段丘などに縄文時代から人が住み着いてきた場所。そして、小浜は若狭湾の中央部の小浜湾に東南部から山間を流れ下ってきた北川、南川、多田川の三つの川が並んで注ぐ かつては深い入江だった海岸部とそれらの川の流域に開けた平地でできた町で、東の舞鶴 西の敦賀と共に若狭の中心的な港である。

舞鶴自動車道が由良川を渡ると自動車道の終点 若狭小浜は近い。 若狭湾に並行して山間を東へ走るので、海岸部がほとんど見えない中 幾つか トンネルをくぐると ぱっと 街並みが広がり、終点の小浜 IC である。いつもは京都から若狭街道を遡って 東から小浜に来るので、町の位置関係がよく判らない。 案内標識を見ながら海岸方向へ市街地に行く。

途中の案内標識でやっとイメージが判る。いつものことながら、まず小浜駅に行って 案内図をもらって それから港へ。

狭い街なのでどこへ行くのもすぐなのですが、山が迫って街中に入り組んでいるので、道がややこしい。

記憶にある魚の卸売市場の横に出てほっとする。 まず、一目散に岸壁へ 小浜の港を見に行く。



若狭湾の奥 さらに小浜湾の中小浜港 波ひとつたため静かな海が眼前一杯に広がっている。

岸壁からぐるりと北側に開ける小浜湾を眺める 2011. 8. 30.

若狭湾の内海 小浜湾の中にある小浜の港 両側を突き出た半島が湾を絞り込むように取り囲み、正面の出入り口にまで西側の半島の先が横たわり、日本海の荒波と風から小浜の港を守っている。これは もう湖の延長。 小浜の港が深い入江の奥 天然の良港で しかも 湾全体が広い港と言えることがよく判る。この安全な港で風を待ち、潮を待って 日本海へ漕ぎ出し、また帰ってきたであろう。 海外からも多くの人がこの地を目指してやってきたに違いない。

日本海沿岸や陸路琵琶湖・畿内・大和などから多くの人や物が集まり、交易し、また 日本各地 そして当時の先進地 北部九州・朝鮮半島や大陸を結ぶ通商路が成立していたに違いない。その中心は諸国の特産・物産と朝鮮半島の鉄 和鉄の道の中心であったに違いない。



港に続く西の砂浜海岸 白鳥海岸にある白鳥のモニュメント 2011. 8. 30.

港に続く西の砂浜海岸 白鳥海岸の公園には この港から大陸へ大きく羽ばたく白鳥のモニュメントもありました。

岸壁ではそんな歴史とはうらはら のどかな港 数多くの人たちが岸壁で釣りを楽しんでいました。

港の海岸通りから一筋街中に入ると古い家並みが残っていました。 この間古い街並みの通りには丹後街道の標識があり、往時を思い浮かべる古い街道筋の家並でした。

何度か訪れたことがある小浜ですが、じっくり港や街並を見たのは初めてでした。



小浜西組 伝統的建造物群保存地区界限

昔から栄えた小浜の港のイメージが自分なりに出来たので、若狭町上中地域へ向かう。若狭町上中地域は小浜とは地続きで幹線の広い国道・小浜線が並んで走っていて、すぐなのですが、小浜の海岸部が見たくて、遠回りなのですが、国道27号へ出ずに小浜の東側海岸に沿って 国道162号を通り、山が連なる海岸側から上中地域に行くことにする。道は少し走ると道はやっぱり、上に上がって海岸沿いの山腹を縫って走る。幾つもの入江がちらちら見え、そこへ降りる道を分岐しながら道で、小浜の海岸沿いにはやっぱり広い平地はなく、リアス式海岸の典型だなあ…と。



田島の海岸で国道から分かれ、右へ狭い山間のトンネルを抜けて上中地域への県道に行く。山を下るにつれ、田園地が視界に入り、まもなく左手から三方から小浜へ行く小浜線と並行して南へ。両側を山並みに挟まれてはいるが、広い田園地帯を南にくだる。

三方から小浜へ抜ける国道27号線に合流すると左手に見覚えのある脇袋の集落のある膳部山。そして、そのまま国道27号線の北川の橋を渡ると南側から北川沿いを琵琶湖・朽木から北へ下ってきた若狭街道国道303号線との合流点で、間もなく上中地域の中心地 小浜線上中駅。 そのすぐ前の所が、若狭町歴史文化館でした。



## 2. 若狭町歴史文化館で上中地域古墳群出土遺物展示を見る



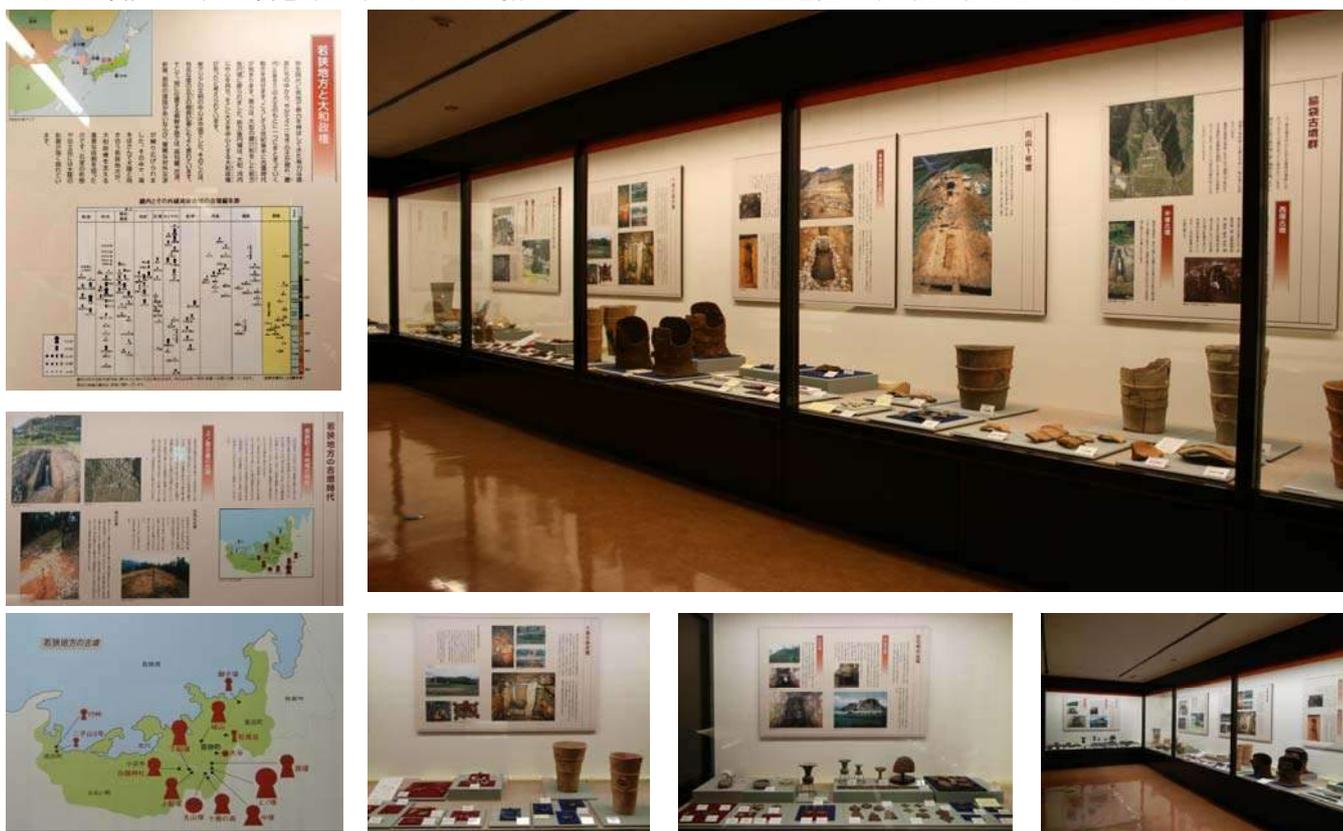
若狭町歴史文化館は若狭町の歴史、文化をまとめて展示した資料館でその中心は 古墳時代 朝鮮半島の鉄を求めた大和が日本海側の窓口として密接に連携した若狭の国の王墓 脇袋古墳群ほか上中地域の古墳群から出土した朝鮮半島との交流を示す遺物や若狭の国の繁栄を示す遺物が数多く展示されていると聞く。

古墳時代 若狭が朝鮮半島の鉄入手とかかわる展示があるだろうか・・・是非見たかった資料館である。

この若狭町歴史文化館は小浜船上中駅と国道27号線を挟んで反対側の南側に一筋入った駅からも見える大きな3階建 若狭町役場上中庁舎の建物の東半分を使って作られている。2008年に脇袋古墳群を訪ねた時は時間切れで、見残した場所である。庁舎玄関脇の駐車場に車を止めて中に入ると1階が広い展示場で、上中地域にある古墳群から出土した展示品がこれら古墳群の解説と共に展示され、若狭の国がもっとも輝いた1500年前の古墳時代 若狭の国と大陸との結びつきについて常設展示している。(その内容は若狭町歴史文化館の常設展示図録にまとめられていました。)

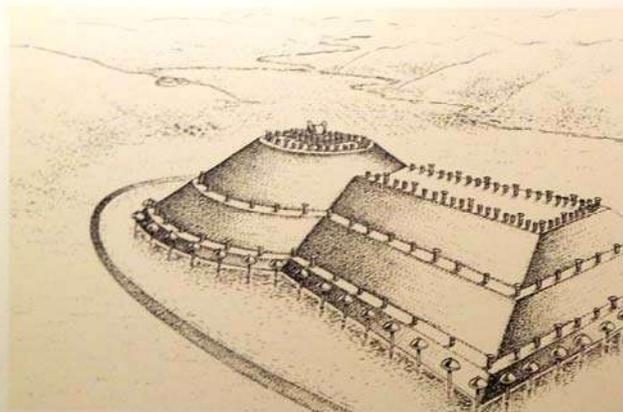
「鉄関係の展示など一部デジカメ写真撮らせてほしい」と声をかけて、展示室に入ってゆく。

「若狭地方と大和政権」の解説パネルにはじまり、若狭で一番古い前方後円墳が築かれた5世紀の脇袋古墳群ほかこの上中地域にある古墳群の主要古墳をそれぞれ年代別に解説パネルが作られ、出土遺物がその前に展示されていました。





# 若狭湾岸の大型古墳と豪族の居館



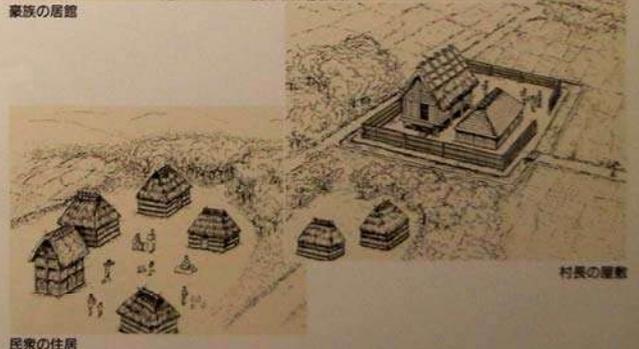
上之塚古墳



豪族の居館



若狭・丹後には合計50基余の前方後円(方)墳が散在しています。それらは全長約20～50mとやや小型で、各地域の歴代の首長墳です。ただ、規模が100mを前後する大型古墳は、墳丘を2～3段に構成する段築・斜面に石を敷いた墓石・埴輪(さらに一部では周濠も)など、他の古墳には例の少ない諸設備を完備するので、地方の大首長墳と思われる。この種の大型古墳は、前・中期には丹後にも、その逆の中・後期には若狭・丹波・但馬にもみ分布することから、丹後に統合されていた若狭・丹波・但馬が中期に分れたとみなす説があります。



村民の屋敷

民衆の住居

古墳時代の一般民衆が竪穴住居に住んでいたことは従来から知られていましたが、近年漆をめぐらした居館や浅い小溝をめぐらした小型の屋敷地の発掘例が、各地で相次いでいます。すなわち、居館は大型前方後円墳を造営した豪族が、小型の屋敷地は小型の円墳や

方墳を造営した、民衆と豪族との中間層にあたる村長クラスが、それぞれが構えた住居と推定されます。つまり、墳丘の有無・規模の大小など墓に現れた格差と同様に、住居にも力の差が歴然としていることが明らかになりました。



福井県立歴史民俗資料館で「若狭沿岸の大型古墳と豪族の居館」パネル展示より 2011. 8. 30.

「丹後・若狭 どちらが 朝鮮半島交易のメインだったのだろうか」と考えていたが、この前方後円墳築造の変遷図を見ると4世紀の丹後から5世紀若狭に移って行ったと見て取れる。

なお、若狭の特産品「めのう細工」があり、若狭の鉄と玉造が関係するかと思いましたが、このめのう加工技術が若狭に伝わったのは奈良時代に玉を信仰する鰐族(王仁・わにぞく)が渡来し、遠敷(おにゅう)の郷に伝えたのがはじまり。若狭の隆盛期からは時代が下り、やはり天然の良港であり、また大和・国内交通の利便性を有する日本海側の天然の良港であったことが、古墳時代の若狭の隆盛の基であろう。ただし、この若狭隆盛と時を同じくして「御食国・若狭」として海産物そして製塩が若狭の特産として大和などへ送られたという。



若狭 食満遺跡出土の土器片と若狭の古墳築造と製塩土器の変遷 若狭町歴史文化館展示より

【若狭町歴史文化館 上中地域の古墳群から出土した遺物】



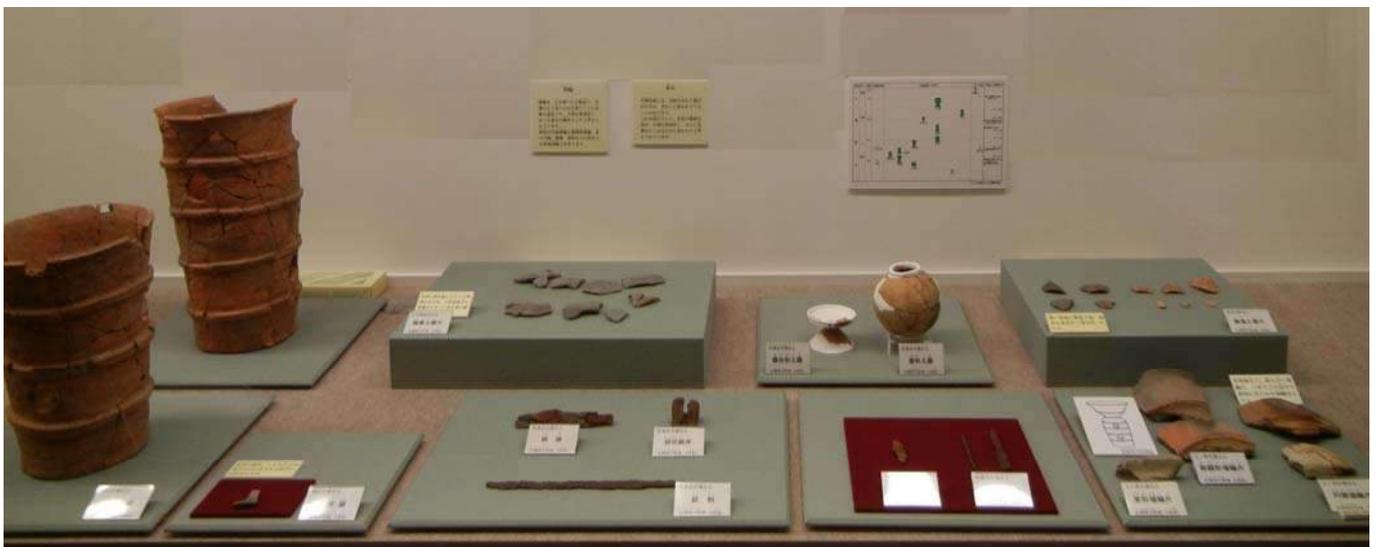
弥生時代後期末から古墳時代への移行期（2－3世紀）日本黎明の時代、日本各地には邪馬台国はじめとする地域王権・国が興り、この時代の先進地であった大陸・朝鮮との交流が進む。大和・畿内から文化・技術の先進地 大陸・朝鮮半島や北部九州への交流路として、瀬戸内海と日本海沿岸を北部九州へたどる2つの道があり、日本海沿岸では「丹後」そして少し下って、「若狭」が日本海側交流路の窓口となったと言われる。

このような国や首長・王の台頭は墓制の変化として現れ、丹後では、方形台状墓から大型前方後円墳の造営があり、北陸・越前では、四隅突出型墳丘墓から前方後方または前方後円墳の造営があった。

若狭地方の弥生時代後期末の墓制は、土壇墓または方形周溝墓が主流であったが、4世紀前半に松尾谷に前方後方墳が現れる。継続的な前方後円墳の築造は、5世紀初の上ノ塚古墳(脇袋古墳群)に始まり、5世紀半 城山古墳・向山1号墳そして西塚古墳(脇袋古墳群)から6世紀初の十善の森古墳群を経て 上船津古墳 6世紀半ばの下船塚古墳まで、上中地域を中心に前方後円墳が築かれてゆく。若狭の国が大和と結びついて日本海交流路の窓口として栄える時期と符合する。

そして、6世紀中頃から従来の大型前方後円墳に変わり、丸山塚古墳や大谷古墳のような円墳が作られるようになり、大和政権の支配が強くなり及んだ結果と理解され、その後7世紀 国家としての体制を整えた大和の「国造」などの律令体制の中にくみこまれていったのだろう。この間 若狭は日本海沿岸・大陸・朝鮮半島への大和の玄関口であり続け、若狭は「御食国」として繁栄し、数多くの渡来人・文物そして「鉄」が若狭を経由して 大和・日本各地に広がっていった。

(若狭町歴史文化館の常設展示図録より拾い読み整理)



若狭の古墳出土品展示 [前] 左 城山古墳出土円筒埴輪 中央 松尾谷古墳出土鉄器 右 上ノ塚古墳出土埴輪片  
4世紀～5世紀半 [後] 左 三生野遺跡から当時の朝鮮半島の陶質土器 中央 松尾谷古墳出土土器 右 製塩土器片



5世紀半 向山1号墳の多彩な出土品

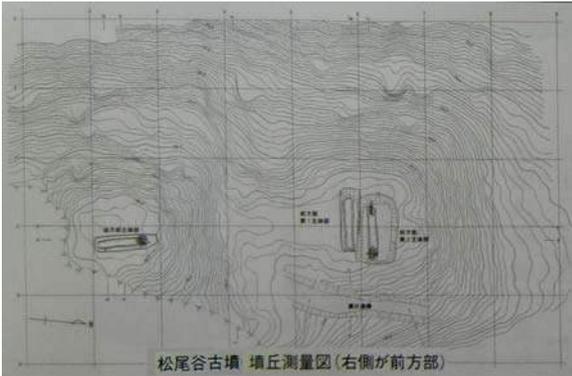


6世紀初 十善の森古墳出土遺物 多彩な出土品

● 4世紀前半の前方後方墳 松尾谷古墳



松尾谷古墳・前方後方墳（手前が前方部） 4世紀前半



古墳時代前期 4世紀 松尾谷古墳出土品  
若狭町歴史文化館で

若狭で前方後円墳に先立ち4世紀前半に造られた前方後方墳 松尾谷古墳。

若狭町南前川字松尾谷の尾根にあり、若狭における最初の地域首長墳である。前方後円墳は初期大和政権との結びつきが少し弱いか 下位に位置づけられる場合の古墳形式であるが、大和政権と若狭との連携の始まりを示している。

主体部は3つ。それぞれ木棺が直葬され、出土したものとしてヤリガンナ・碧玉製管玉鉄剣、鉄槍、鉄鏃などが知られている。しかし、すでに水源地建設の為、消滅しているという。

● 5世紀初めの前方後円墳 上ノ塚古墳 脇袋古墳群 若狭で最初に造られた前方後円墳



上ノ塚古墳は、若狭における最初の大きな首長墳で、周濠・墓石・埴輪を備え、3段築成である。



古墳時代前期 5世紀 上ノ塚古墳出土埴輪片  
古墳主体部は未発掘なので副葬品など詳細不明

5世紀初 若狭で最初に造られた前方後円墳で、かつ 全長100m、後円部径64m(高さ9m)、前方部幅60m(高さ7m)で、若狭地方最大の前方後円墳である。

古墳の主要部である主体部が発掘調査されていないので、副葬された遺物は未調査である。この上ノ塚古墳からは家形埴輪片・円筒埴輪片・朝顔型埴輪片が出土している。

● **日本最古の横穴式石室 5世紀半の前方後円墳 向山1号墳**

脇袋古墳群の西 1.5km の尾根上に造られた前方後円墳で、中規模ながら2段に造られ、葺石・埴輪を備え、日本最古の横穴式石室を持ち、韓国あるいは九州から伝わったと考えられている。  
数多くの鉄器など多彩の副葬品が出土した。



古墳時代中期 5世紀 向山1号墳からの出土鉄製品 若狭町歴史文化館で



● **5世紀後半の前方後円墳 西塚古墳 脇袋古墳群**



西塚古墳 5世紀後半の前方後円墳 古墳 脇袋の舞より 開けた北側を眺める 2008.9.1.



脇袋古墳群にある5世紀後半の前方後円墳で、竪穴系横口式石室を持ち、大陸の影響を受けた形態をしているという。前方後円墳の中央部の土が剥ぎ取られ、現在は後円部と前方部を残すのみとなっているが、金製耳飾り・鏡・金銅製帯金具 銀鈴・銅鈴・馬具・青など多彩な副葬品が出土。

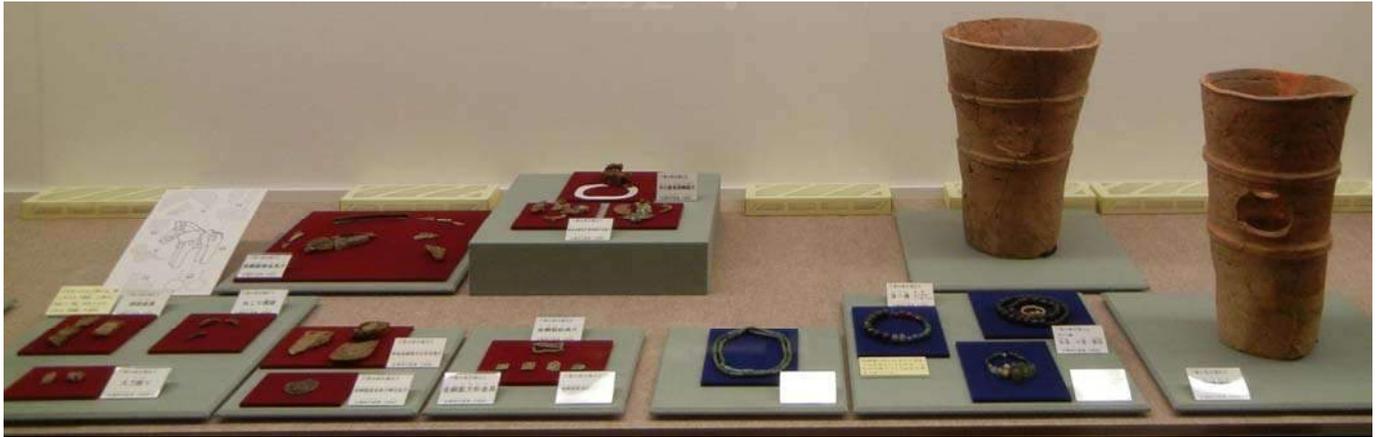
● 数々の朝鮮半島系遺物が出土した6世紀初 前方後円墳 十善の森古墳



6世紀初の方前後円墳。後円部と前方部に形態が異なる横穴式石室が二基あり、両石室ともに壁面に赤色顔料塗布。墳丘から円筒埴輪が出土し、周濠をもつ。

後円部石室から流雲文縁方格規矩四神鏡、金銅製冠・履、玉類（水晶・ガラス製勾玉、金銅製帯金具、碧玉製管玉、ガラス製小玉・なつめ玉など）、武器、武具、馬具（鉄地金銅張双龍文鈴付鏡板、鉄地金銅張剣菱形鈴付杏葉、木心鉄板張輪鍔片など）などが出土。

伽耶産の金銅製轡とともに百済系の金銅製冠・履やとんぼ玉の出土が注目されている。



十善の森古墳出土遺物 多彩な出土品



百済系の冠・履の破片(十善の森古墳出土)

伽耶系とされる龍文鏡板(十善の森古墳出土)

● 6世紀前半 新たな日韓交流の始まりを示す十善の森古墳 (若狭町歴史文化館の常設展示図録より整理)

近年 朝鮮半島南西部の栄山江流域を中心に6世紀前半頃の方前後円墳群が発見され、若狭や北部九州同じ墳丘や石室を持つものがあり、高句麗の南下や伽耶(をめぐるとの新羅との)攻防などに対し、百済・倭双方が緊密な関係を結んだ結果の表れ。それまで、倭の五王は伽耶との関係を重要視してきましたが、6世紀になると百済地域の重要性が増し、若狭の王たちも北部九州・越前の勢力とともに積極的に対百済外交を展開。この動きが継体大王擁立の原動力になってゆく。

十善の森古墳では伽耶産の金銅製轡もでていますが、百済との交流開始を直接裏付ける百済系の金銅製冠・履やとんぼ玉が出土し注目されます。



( 金銅製冠 復元 )

(若狭町歴史文化館の常設展示図録より整理)

### 3. 若狭と大和の深い関係を示す 若狭 遠敷川 鵜の瀬の水送り 2011.8.30.



若狭でもう一か所湧きたいところがある。

大陸・朝鮮半島の玄関口若狭の水が奈良・東大寺二月堂の「若狭井」に噴き出している。

若狭国をそのままあらかわすロマンに満ちた伝承である。

東大寺二月堂「奈良のお水取り」の「若狭井」とつながっているとされる若狭 遠敷川「鵜の瀬」。毎年 東大寺二月堂の「お水取り」に先立って 若狭では「水送り」の神事が行われるという。

遠敷川「鵜の瀬」を地図で確かめて、若狭歴史文化館での若狭上中地域の前方後円墳群の展示を見学した後、国道24号線を少し小浜の方へ戻って、小浜市遠敷の里へ向かう。

「小浜市遠敷(おにゅう)」は南から遠敷(おにゅう)川が北川に注ぎ込む合流点に開けた街で、この遠敷川を南へ遡ると目的地の遠敷川「鵜の瀬」。この遠敷川を遡る道も古い若狭街道根来道 京・近江を結ぶ古道である。

「遠敷」と書いて「おにゅう」と読む難解な地名であるが、

古くから開けた地で、和銅5年(712)までは「小丹生」と書かれていたという。「遠敷」の言葉自体には朝鮮語の「ウォンフー」に由来するとの説もあり、また、古くは小浜市の大部分上中

地域を合わせて「遠敷」といい、「若狭国遠敷郡遠敷郷」などの文字が記された木簡が平城京跡などから出土。

古代若狭の中心地で国分寺 遠敷川に沿って 若狭一ノ宮 若狭彦・姫神社などがあり、特定はされていないが、国府があったと推定されている。

「若狭井」の伝承はしていましたが、遠敷川 お水送りの鵜の瀬 については全く予備知識なし。



【 若狭と大和の深い関係を示す 若狭 遠敷川 鶺の瀬の水送り 】



● 奈良東大寺二月堂で行われる「お水取り」

3月12日に奈良東大寺二月堂で行われる「お水取り」は1250年の長きに渡って守り続けられている神事で、「若狭遠敷川の鶺の瀬」から繋がっているとされる2月堂「若狭井」より「関伽水」を汲み上げ本尊にお供えする儀式で、大和路に春を告げるのである。

また、若狭小浜の神宮寺では、「お水取り」に先立つ3月2日、奈良東大寺二月堂へ水を送る神事「お水送り」が行われる。

● 史蹟「鶺の瀬」由緒記 鶺の瀬にある案内記板より

天平の昔、若狭の神願寺(神宮寺)から奈良の東大寺にゆかれた印度僧実忠和尚が大仏開眼供養を指導の後天平勝宝四年(753)に二月堂を創建し修二会を始められ、その二月初日に全国の神々を招待され、すべての神々が参列されたのに、若狭の遠敷明神(彦姫神)のみは見えず、ようやく二月十二日(旧暦)夜中一時過ぎに参列された。それは川漁に時を忘れて遅参されたので、そのお詫びもかねて若狭より二月堂の本尊へお香水の関伽水を送る約束をされ、そのとき二月堂の下の地中から白と黒の鶺がとび出てその穴から泉が湧き出たのを若狭井と名付け、その水を汲む行事が始まり、それが有名な「お水取り」である。

その若狭井の水源がこの鶺の瀬の水中洞穴で、その穴から鶺が奈良までもぐっていったと伝える。

この伝説信仰から 毎年3月2日夜 この淵へ根来八幡宮の神人と神宮寺僧が神仏混淆の「お水送り」行事を行う習いがある。

神宮寺で汲んだ「関伽水」を鶺の瀬まで夜中に運び、川にこの「香水」を流して 二月堂の「若狭井」に送る。

神宮寺境内の大護摩から松明に移した火を貰い受け、鶺の瀬まで約2キロ、三千人を超える松明行列が続くという。

奈良と若狭が昔から深い関係にあったことを物語る歴史的な行事である。

若狭の遠敷明神とは同じ遠敷川筋の下流にある若狭一ノ宮 若狭彦神社・若狭姫神社に祭られている

若狭の開拓神 若狭姫(豊玉姫)の神(& 若狭彦(山幸彦)という。

鶺の瀬には若狭一ノ宮 若狭彦神社・若狭姫神社の境外社 白石神社があり、

祭神は若狭彦神、若狭姫神を『白石大神』または『鶺の瀬大神』とたたえて奉祀し、若狭彦神社創祀の社と伝える。

また、神宮寺は奈良時代の初め、若狭一ノ宮の遠敷明神(若狭姫)の神願寺として創建されたことに始まるといわれ、さらに、若狭彦姫神を根来白石より迎え神仏両道の寺とした。

鎌倉時代に神願寺は遠敷明神上社(若狭彦)と遠敷明神下社(若狭姫)の別当寺となり、

神宮寺と改称したとされている。

これらを遡るといずれもそのルーツは鶺の瀬「白石神社」で、この「白石」は「新羅」が転化したものとの説があり、この遠敷の里は大和・京との結びつきばかりでなく 朝鮮半島諸国とも強い結びつきがあったことがうかがえる。

上中の街並を抜け小浜へ国道24号線を少し戻る。

道の右手には中央に北川が流れる田園地 左手は小さな枝尾根が幾つも張り出す山裾を小浜へ向いて走る。枝尾根と枝尾根の奥に小さな集落と田園が見える。

そんな山裾を10分ほど走り、道の左手に家並みが見えだすと市場の集落。そして、右手国分寺の標識を過ぎるとすぐに遠敷川の橋。土手には「右県道35号」の道路標識があり、遠敷の里に入る。左手から流れ込む遠敷川にそって、街並みとその後ろに枝尾根の橋が見えている。

国道を左手の南に折れ、この川筋を山裾に沿って遡る県道35号線を遡れば、6km15分ほどで鵜の瀬である。



遠敷川に架かる橋より南 鵜の瀬方面



鵜の瀬に向かう県道35号の交差点 東小浜駅口

Googole Map による 国道27号線 遠敷の里

国道27号線 東小浜口の信号から南へ折れて、正面に見える山裾に沿って南へ県道35号線 若狭街道根来道に入る。500m 走って山裾の傍に行ったところが遠敷神(若狭姫)を祭る若狭一ノ宮 若狭姫神社で、道から柱に包まれた社殿が見える。若狭姫神社の前の街並みの中を通りぬけて少し行くと ぱっと視界がひろがり、尾根筋の間を流れ下って来る遠敷川に沿う田園地帯がひろがり、正面にみえる山並みの入り口へ向かって、街道がまっすぐ伸びている。もう10分も進めば鵜の瀬である。若狭彦神社・神宮寺の標識が街道筋を 左手山裾の森にある若狭彦神社への標識があるが帰りに寄ることにして さらに奥へ。



遠敷の里案内板



若狭姫神社



神宮寺の標識と奥の山並み 遠敷川の流れだし口

鵜の瀬への道 県道35号線 若狭街道 根来道

だんだん 道の両側の尾根筋が狭まり、右へ神宮寺の標識を過ぎると遠敷川がすぐそばを流れる谷間のゆるやかな登り道。杉木立の中を山腹に沿ってぐるりと山裾をまいたすぐの道脇に沿って小さな公園が整備され、川岸に案内板が建ち、木の小さな鳥居から鵜の瀬の河原へ降りる入口 そして、南の上流側から 数m下を瀬になって清らかな水が流れ下って来る。時折通る車以外誰もいない静寂に包まれた山間の川筋の景色。風がすう〜と通り抜けて心地よい。ここが東大寺二月堂お水取りの若狭井とつながっているとのロマンの地「鵜の瀬」。



鵜の瀬の上流側



遠敷川 鵜の瀬 道路側 河原への降り口 2011. 8. 30.



鵜の瀬 上流側より 2011. 8. 30.



鶺鴒の瀬 この河原で 神宮寺の「閼伽井」で汲んだ水を 川に注ぎ 奈良 若狭井に送る「水送り」の神事が行われる  
この瀬の中央の所に深い穴があり、奈良若狭井に続いているとの伝説



3月12日 鶺鴒の瀬で行われる水送り神事 鶺鴒の瀬公園資料館パネルより

道路側では車が止められないので、鶺鴒の瀬の直ぐ南の鶺鴒の瀬橋を渡って、白石神社がある向こう側に渡る。橋を渡ったすぐのところから奥 林の中が、若狭一ノ宮 若狭彦神社・若狭姫神社の元宮である白石神社で、林の奥に小さな社が見えました。境内への入口すぐ横に東大寺建立に尽力した良弁和尚 生誕地の碑があり、その横の川岸には水送り神事の解説や写真パネルなどの展示されている鶺鴒の瀬公園資料館があり、川岸一帯が公園として整備され、駐車場もありました。そして、川岸の一角には この遠敷川に沿って遡るこの道がいくつかある若狭街道の最短ルートで一番古い古道根来道の古道であるとの案内板がありました。



鶺鴒の瀬公園 2011. 8. 30. (一部写真はインターネットより)

【 鵜の瀬で目にした関係案内板の記 】



**鯖街道根来道**  
 江戸から明治にかけて、若狭湾で捕れた魚介類は大急ぎで京都まで運ばれていた。  
 その代表的産物が「鯖」。  
 ひと塩した鯖は、京都に着くころになると、丁度食へ頃の味になったという。今も小浜、京都間に残る幾筋もの「鯖街道」の誕生である。  
 ここ根来は、「京は遠ても十八里（現在でいう約72km）」と親しまれた針畑越のルートの一部。  
 ここから滋賀県朽木村へ抜ける京の都までの最短路であった。

**お水送りとお水取り**

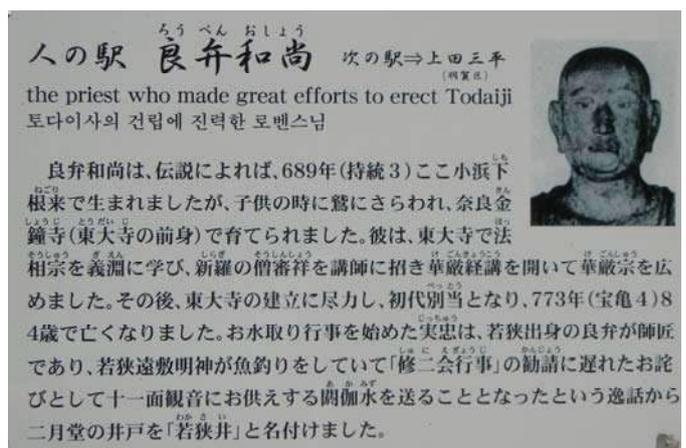
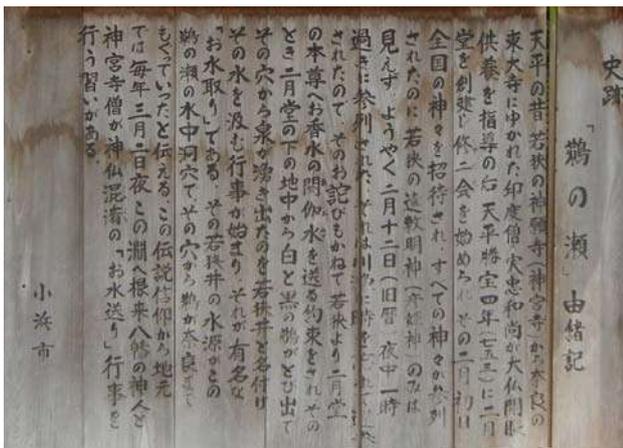
西暦七一〇年、奈良に平城京が造られ、聖武天皇が在位の七、五二年春に、東大寺において国家を奉げての盛大な大仏開眼供養が行われました。若狭ゆかりの「良弁僧正」が、その初代別当（開祖）と言われていきます。

若狭神宮寺に渡ってきたインド僧「実忠」は、その後東大寺に二月堂を建立し、大仏開眼の二ヶ月前から（旧暦二月）天下世界の安穩を願い、一四日間の「祈りの行法」を始められました。「修二会」と呼ばれるこの行の初日に、実忠和尚は「神名帳」を読み上げられ、日本国中の神々を招かれ行の加護と成就を請われたのですが、若狭の「遠敷明神」だけが漁に夢中になって遅れ、三月二日、修二会もあと二日で終わるといふ日の夜中に現れました。遠敷明神はお詫びとして、二月堂のご本尊にお供えする「閻伽水」（清浄聖水）を献じられる約束をされ神通力を発揮されると地面をうがわり、白と黒の二羽の鵜が飛び出て穴から清水が湧き出しました。若狭の根来白石の川淵より地下を潜って水を導かせたと伝えられます。

この湧水の場所は「若狭井」と名付けられ、川淵は「鵜の瀬」と呼ばれるようになり、古来より若狭と奈良は地下で結ばれていると信じられてきました。その若狭井から「閻伽水」を汲み上げ本尊にお供えする儀式が、大和路に春を告げる神事「東大寺二月堂のお水取り」であり、その神約を護り伝える行事が若狭小浜の「お水送り」なのです。



鵜の瀬 鵜の瀬公園資料館にあった奈良東大寺お水取りと若狭 鵜の瀬 の関係を解説したパネル



遠敷神とは若狭一ノ宮 若狭彦・姫神社に祭られている若狭の開拓神のことで、また、鵜の瀬にある白石神社は若狭一ノ宮 若狭彦・姫神社の元宮と言われ、「白石」には新羅の転化との説もあり、対岸の水送り神事の行われる河原に若狭彦・姫神社の境外地がある若狭一ノ宮若狭彦・姫神社の聖地。 また、今回 東大寺を建立した良弁の生誕地であり、しかも、この遠敷にやってきたインド僧実忠が東大寺大仏開眼法要を指導したということも知りました。

この地が遠い昔 1500年前 東アジア交流の真ただ中、多くの文物ばかりでなく、渡来的人也多く往来した国際的な海の玄関口。大陸・朝鮮半島から大和へつながる交流路「和鉄の道」の重要拠点でいたであったことを物語る伝承と思われる。

再度 道路側に戻って 水送り神事の行われる河原に降りる。  
とうとう瀬を清らかな水が流れ下ってゆく。 やっぱり 暑い時には水辺がいい。  
何とはなしに晴れ晴れ 気持ちのいい鶺の瀬Walkでした。



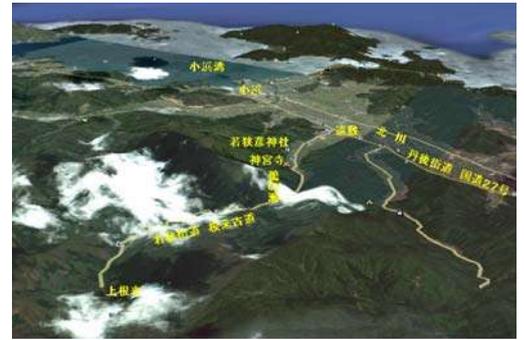
神事が行われる鶺の瀬の河原



橋までもどつてくると浮き輪をつけて楽しそうにこの清流に身を任せて清流下りを遊んでいる親子がいる。ここは格好の川遊びの場所だなあ・・・と。

声をかけて、さらに奥へ 峠から朽木へ 車で越えられるか 聞いたのですが、 どうも難しそう。地図では奥の根来まで道が整備されているのですが、峠は どうも怪しそう。 峠が越えられると 昔 芦生の演習林から久多・梅ノ木へ出て、現在の若狭街道・水坂峠越えの道に合流できそうなのですが、難しそうなのでちゃんと調べてからにして、元来た道を引き返し、若狭彦神社に立ち寄って、国道に出て、水坂峠越えの若狭街道を京都へ戻りました。

久しぶりに出かけた若狭 walk 気持ちすっきりの楽しい walk でした。



人っ子一人いない若狭彦神社のの境内 杉の巨木が立ち並ぶ

若狭一ノ宮のお祭りが 遠敷の街中にある 若狭姫神社移ってしまいなお一層静か

遠く1500年前 若狭がもっとも輝いた時代のロマンを思い浮かべながら歩くにはもってこいの場所でした。



若狭の名瀑 若狭上中 瓜割の滝 2011. 8. 30.

### 3. 若狭Walk まとめ

大陸・朝鮮半島から大和へと続く東アジアの文物交流路・和鉄の道

その日本海側窓口 若狭 その実像が見えてきた



古墳時代 朝鮮半島の鉄そして先進文化を求めて、大陸・朝鮮半島との交流が活発に行われていった時代 「大和・畿内の日本海側 玄関口が若狭」と言われながら、日本海側の大陸への玄関口と言えば、北部九州 そして山陰日本海沿岸で鉄を集積した麦木晩田・青谷上寺地遺跡 そして 玉造の出雲・丹後・北陸もある。

地理的には琵琶湖を越えれば大和や畿内の諸国へのルートが確保され、大きな前方後円墳の若狭王の王墓群があるが、特別凄い製鉄関連遺跡もなく、どうも 自分では 日本海側玄関口若狭の実像がはっきりしない。

「若狭が大和の大陸への玄関口。若狭街道で生まれた伝承ではないか。ひょっとして 和鉄の道 鉄との関係があるかも・・・ 」と軽く再度若狭を訪れたのですが、小浜の古い家並み 小浜港と北川・遠賀川・鳥羽川などの川筋が作る狭い台地をめぐり、遺跡をめぐりながら、遠い昔 古墳時代半ばから奈良時代にかけて 若狭がもっとも輝いた時代の姿が、具体的に見えてきました。



朝鮮半島の鉄 上中地域の前方後円墳もそうですが、遠敷の地や遠敷川 鵜の瀬の若狭井伝承が生まれた大和との関係 渡来人の足跡を見聞して、この伝承を生んだ若狭の地形 土着の流れが、大和の大陸への玄関口「若狭」を生んだと・・・

そして この道を朝鮮半島の鉄・大陸の先進文化を携えた渡来人そして日本各地の国の人たちがここで出会い、往来。若狭街道の古道 和鉄の道が形成された。

- 季節風が吹きつける波の荒い日本海にあって まるで湖面のような静かな大きな海が広がる巾着型の若狭の湊そして そこから日本各地・大和へは安全な海路・街道が通じている。この地形が若狭繁栄の背骨となった。
- 玉造など特産品製作工具への実用鉄器の必要性から北部九州に全面依存せず、大陸・朝鮮半島と独自接触を進めた出雲・伯耆・丹後・越の山陰諸国  
こ日本海交易に着目し、 出雲・丹後・若狭・北陸と山陰の諸国と日本海の交流を続けながら、さらに大きく日本海交易を展開していった大和。  
5世紀には 日本海側窓口として「若狭」を一大貿易拠点としてさらに大きく展開した大和と若狭  
それが垣間見える上中地域古墳群周辺諸国と大和の古墳築造の変遷
- 大和との強い結びつきを示す前方後円墳 若狭の王墓 上中地域の古墳群とそれらから出土遺物の数々 朝鮮半島系の遺物 鉄製品の数々 横穴石室に見る先進築造技術の取り込み
- 鵜の瀬伝承で知った国際性  
この若狭には文化・技術を担った数多くの渡来人が居たのだろう。そして 日本の文化・技術の展開を担って 大和へ登って行った。 その象徴が鵜の瀬かもしれない・・・

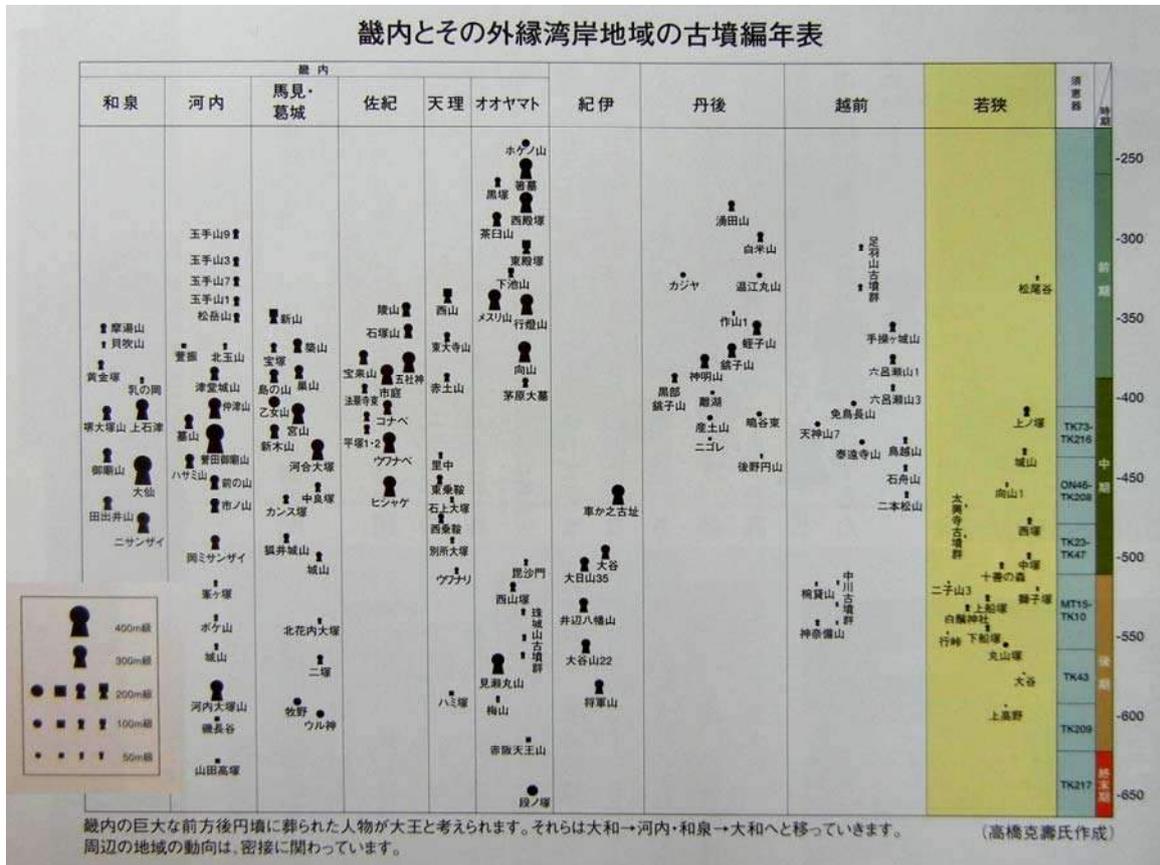
今回の若狭再訪で、1500年前 東アジア交流の真ただ中、多くの文物ばかりでなく、渡来の人も多く往来した国際的な海の玄関口「若狭」と遠敷川 鵜の瀬の伝承がむすびついて、「若狭」の実像が見えてきた。

大陸・朝鮮半島から大和へつながる交流路「若狭」の象徴が鵜の瀬。それはとりもなおさず、古墳時代の「和鉄の道」でもあった。もやもやしていた若狭の実像が浮かび上がってきて 我ながらびっくりです。

今回の若狭 walk で見聞したことや遠敷川流域・鵜の瀬 walk で 解説案内板や見聞したことを再度整理して示してそのまとめとしたい。

1. 古墳時代の和若狭ほか周辺諸国の古墳築造年代と形態の変化推移比較図。

若狭ならびに周辺諸国の古墳の大きさや形態の変化から大和との距離感が大きく変化してくる様子がよくわかる。特に 4世紀の丹後から5世紀若狭への大和との結びつき変化に着目。大和の動きのち密さにびっくり。



2. 鵜の瀬 水送り神事の舞台となった遠敷川流域と その開拓神を祭る若狭一ノ宮 若狭彦神社・若狭姫神社

● 「遠敷・おにゅう」の地名

遠敷は 「おにゅう」と読む。非常に難解な地名であるが、古代からある由緒ある地名である。

かつて「小丹生」と書いていたともいい、この地が水銀朱との関係があるのかもしれない。

また、「遠敷」の言葉自体には朝鮮語の「ウォンフー」に由来するとの説もある。 ]

● 若狭一ノ宮 若狭彦神社・若狭姫神社の由来 [1] 小浜市のホームページより

若狭一の宮は神社の記録によると、奈良時代初期にあたる養老5年(721)に創建されたといわれています。若狭一の宮は上社と下社の総称ですが、ふつう上社を「若狭彦神社」、下社を「若狭姫神社」と呼んでいます。

彦神社は和銅7年(714)遠敷郡下根来村白石に創られましたが、霊亀元年(715)現在の地に遷社したとされています。祭神は、彦神社は彦火火出見尊(山彦彦)、姫神社は豊玉姫命(乙姫)です。共に、海上安全、海幸大漁の守護神として信仰されています。 — 小浜市のホームページより抜き書き整理

また、若狭の遠敷明神とは この若狭の開拓神 若狭姫(豊玉姫)の神(& 若狭彦(山彦彦)と言われている。

遠敷の里は大和・京との結びつきばかりでなく朝鮮半島諸国とも強い結びつきがあったことがうかがえる。

● 若狭一ノ宮 若狭彦神社・若狭姫神社の由来 [2] 神奈備 <http://kamnavi.jp/ny/wakasa.htm> より

祭神 若狭彦神社 彦火火出見尊、若狭姫神社 豊玉姫尊

由緒 若狭国遠敷郡の式内名神大社で若狭比古神社二座に該当し、元正天皇の勅願により715年に創建されたとい、通称若狭彦神社を上社、若狭姫神社を下社としている。両神は小浜市下根来の白石の里に降臨したと伝わり、白石神社が鎮座している。降臨の姿としては、唐人のいでたちで、白馬・白雲に居て、白石の上への垂迹であった

と云う。

「白」が並んでいるのは「新羅」との関連を思わせ、また「白石」は「新羅」の転化との見方もある。

降臨地より少し下った清流の屈曲する深淵を鵜ノ瀬といい、東大寺二月堂の若狭井の水源とされるお水送り神事が行われている。二月堂の修二会では神名帳を読んで諸神を勧請したが、当社の遠敷明神は漁を行って、はせ参じるのが遅れ、遠敷明神はお詫びとして、二月堂十一面観音にお供の鬩伽水を送ると約束したと云う。

東大寺の大仏建立には金が必要で、それを得る為には水銀に金を溶解して大仏に塗布し、熱で水銀を蒸発して金メッキを施すが、その水銀が当地でとれたのかもしれない。若狭国には丹生郡があり、その一宮として遠敷明神と称えられたのかもしれない。

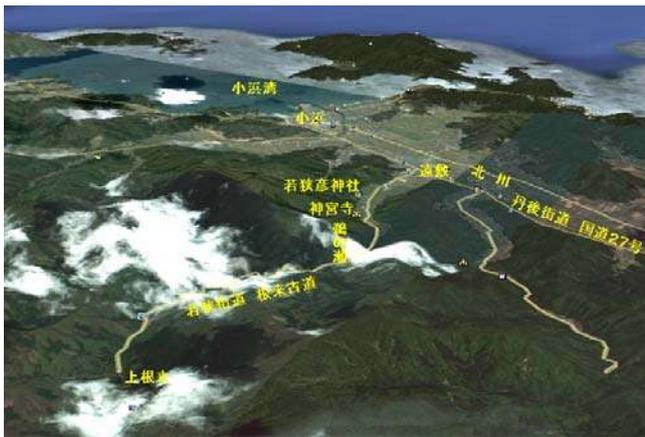
神奈備 <http://kamnavi.jp/ny/wakasa.htm> より、一部抜出

### ● 神宮寺

神宮寺は奈良時代の初め、若狭一ノ宮の遠敷明神（若狭姫）の神願寺として創建されたことに始まるといわれ、さらに、若狭彦姫神を根来白石より迎え、神仏両道の寺とした。鎌倉時代に神願寺は遠敷明神上社（若狭彦）と遠敷明神下社（若狭姫）の別当寺となり、神宮寺と改称したとされている。

これら鵜の瀬の伝承に登場する若狭彦神社・若狭姫神社・神宮寺は遡るといずれもそのルーツは鵜の瀬「白石神社」であり、若狭土着の開拓神 遠敷(おにゅう)神の聖地「鵜の瀬」である。

そして、この鵜の瀬は大和・近江と大陸・朝鮮半島への玄関口若狭を結ぶ最短の若狭古道が通り、若狭への入口に当たる位置にあり、この遠敷の里は大和・京との結びつきばかりでなく朝鮮半島諸国とも強く結びついていたことが強く認識される。



**鯖街道根来道**  
江戸から明治にかけて、若狭湾で捕れた魚介類は大急ぎで京都まで運ばれていた。  
その代表的産物が「鯖」。  
ひと塩した鯖は、京都に着くころになると、丁度食へ頃の味になったという。今も、小浜、京都間に残る幾筋もの「鯖街道」の誕生である。  
この根来は、「京は遠ても十八里（現在でいう約72km）」と親しまれた針畑越のルートの一部。  
ここから滋賀県朽木村へ抜ける京の都までの最短路であった。

### 3. 遠敷川 鵜の瀬 お水送りの由来

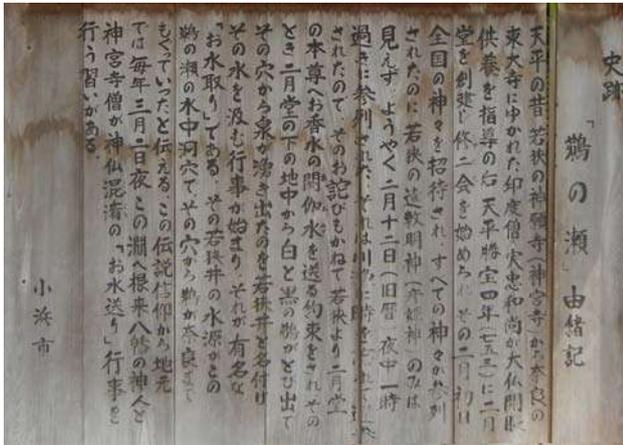
**お水送りとお水取り**

西暦七一〇年、奈良に平城京が造られ、聖武天皇、在位の七五二年春に、東大寺において国家を奉げての盛大な大仏開眼供養が行われました。若狭ゆかりの「良弁僧正」が、その初代別当（開祖）と言われています。

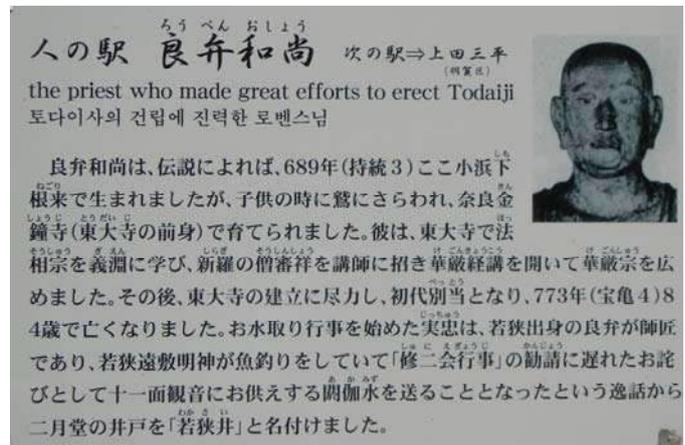
若狭神宮寺に渡ってきたインド僧「実忠」は、その後東大寺に二月堂を建立し、大仏開眼の二ヶ月前から（旧暦二月）天下世界の安穩を願い、一四日間の「祈りの行法」を始められました。「修二会」と呼ばれるこの行の初日に、実忠和尚は「神名帳」を読み上げられ、日本国中の神々を招かれ行の加護と成就を請われたのですが、若狭の「遠敷明神」だけが漁に夢中になつて遅れ、三月二日、修二会もあと二日で終わるという日の夜中に現れました。遠敷明神はお詫びとして、二月堂のご本尊にお供えする「鬩伽水」（清浄聖水）を献じられる約束をされ神通力を発揮されると地面をうがらわり、白と黒の二羽の鵜が飛び出て穴から清水が湧き出しました。若狭の根来白石の川淵より地下を潜って水を導かせたと伝えられます。

この湧水の場所は「若狭井」と名付けられ、川淵は「鵜の瀬」と呼ばれるようになり、古来より若狭と奈良は地下で結ばれていると信じられてきました。その若狭井から「鬩伽水」を汲み上げ本尊にお供えする儀式が、大和路に春を告げる神事「東大寺二月堂のお水取り」であり、その神約を護り伝える行事が若狭小浜の「お水送り」なのです。

鵜の瀬 鵜の瀬公園資料館にあった奈良東大寺お水取りと若狭 鵜の瀬 の関係を解説したパネル



鵜の瀬の川岸に立つ鵜の瀬由来記案内板



鵜の瀬公園に立つ良弁和尚生誕地の碑 案内板



【参考資料】

1. 若狭町歴史文化館 常設展示図録
2. インターネット google 検索 ● 若狭 一の宮 若狭彦神社 ● 若狭上中地域 古墳群 ほか
3. 【和鉄の道】 9. 大陸・朝鮮半島の鉄をもとめて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねる 2008.9.1.  
分水嶺「水坂峠」の両側にある北近江「高島 熊野本」と若狭「上中 熊川宿 & 脇袋」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/iron4/0810wksa00.htm>

<11> 鉄のモニュメント「浮きドック」・神戸兵庫の港界限 walk 2011.9.15



兵庫港 兵庫埠頭 神戸中央卸売市場より 北側 六甲連山を背に神戸の街を眺める 2011.9.15.



兵庫港 岸壁 & 浮きドック



卸売市場・本場 セリ場 & 仲卸店



やっと空の雲は秋らしくなってきましたが、まだまだ暑い9月。 google earth で 神戸の港の衛星写真を眺めていて「今年の夏は 山から海を眺めてばっかりで 神戸のウォーターフロントへは行かなかったなあ」と。そして、神戸の中央卸売市場とその東側川重神戸造船所に隣接している兵庫港の中に小さな浮きドック群を見つけました。

「造船業界再編の波を潜り抜けて、まだ 元気に浮きドックが浮かんでいる」とちょっと感激。

かつて 仕事をしている時にはよく通った界限ですが、もう随分長いこと行ったことなし。

「中央市場も新しくなったし、カンカンと音がし、クレーンの走行音 溶接の火花が飛び散る造船所の現場。久しぶりに現場の活気を眺めたい」と9月15日 晴天の空と風にひきつけられて JR 神戸駅の南 若い人で賑わうウォーターフロント ハーバーランド・モザイクと南隣の川重神戸造船所の1ブロックを挟んで南側 「兵庫港・中央卸売市場界限Walk」に出かけました。

地下鉄海岸線中央市場前で降りればすぐ直ぐ目の前が中央市場。また、JR 兵庫駅から海岸側東へ 街中を1キロロキども歩けば、中央市場。

また、JR 神戸駅から海岸側 ハーバーランドの中を抜けて、海岸沿いの広い通りを川重の塀沿いを南に新しいビル群とちょっとレトロになった港町の街並を眺めながら散歩すれば 30分ほど 兵庫港・中央市場の前に出る。

この界限は神戸港発祥の地 大輪田の泊・兵庫の津で、幕末近代的な港を歩み始めた神戸港の前身「兵庫港」



西出町の小さな浮きドック群と川重の浮きドック

また、高度成長期には この港を取り囲んで 北に川崎造船(川重神戸)西に三菱神戸造船の大造船所を中心に関連工場・中小造船所が立ち並び神戸を代表する活気あふれる工業の街で、中央卸売市場もそんな神戸の港の中心に置かれた。兵庫の街歩きの案内標識が整備されているので、ぶらぶら歩いて 港町神戸の歴史に触れながら歩く街。観光客もおらず、造船不況と先端・合理化の波を乗り越えて、立ち並ぶ工場街。生の神戸がみられる界隈でもある。

**1. 概要 神戸港の西部 兵庫港にある浮きドックと神戸市中央卸売市場**

◀ 造船所の浮きドック 写真は神戸ドックのホームページより ▶



鋼鉄製の大きな箱の形をしている箱舟の一種。内部に水を入れて自らを半水没させ、船を中に入れたのち、排水して再び浮き上がらせ、船の修理・改装などを行なう。



浮きドックへの入渠 → ドック内海水の排出 → 船底の清掃

◀ 神戸市兵庫区中之島 神戸市中央卸売市場 ▶



現在の中央卸売市場・本場

神戸市中央市場本場は昭和 7 年全国で 5 番目の中央卸売市場として開場。現在 別の場所にある東部・西部と3つの卸売市場を合わせ、神戸卸売市場と言い、水産物、塩乾卸売り、青果物を扱い、早朝にはせりが行われる神戸市の台所。

ここは神戸市中央市場本場という。この場所にあった旧中央市場本場は幹線道路が走り抜ける両側に市場があり、利便性を欠くうえ、部分整備がされてきたとはいえ、老朽化が進んでいることから、順次道路の東側へ移転・集約化されることになり 2009 年 4 月に新建物へ移行完了しました。西側の地は今金網に囲まれた更地になり、新しい建物の 2 階からは 北側に広がる更地越しに神戸の市街地やその背後の山並みが望めます。



西側 旧卸売市場は更地 2011.9.15.  
背後に神戸の街・六甲連山  
南北に延びる道を挟んで 東側の  
兵庫埠頭側に卸売市場が移って  
旧卸売市場は 現在は更地にな  
っている



昭和 62 年に建てられた旧中央卸売市場

## 2. 神戸中央卸売市場を歩く 2011.9.15.



神戸市の背後 菊水山から眺めた港町「神戸」



兵庫港界隈



神戸卸売市場前 2011.9.15.

久しぶりに神戸中央卸売市場周辺を歩きたくなって、9月15日昼前地下鉄中央市場前で降りる。卸売市場の活気を見るのは好きで、単身赴任地の近く銚子漁港・下関唐戸市場・柏卸売市場などには空気を吸いによく出かけ、今も出かけた先で市場を見つけると足を止めることが多い。車がひっきりなしに出入りし、ごちゃごちゃした神戸旧中央卸売市場の横を何度か通った記憶はあるのですが、綺麗に整備された神戸の中央卸売市場へ行くのは初めて。市場の「せり」を見学するには時間が遅すぎ、仕事は終わっている時刻。店はみんなしまっているだろうが、場外で昼飯は食べられるだろうと。



「扇港」と呼ばれる神戸の港の西端部 東西に延びていた海岸線が逆L(「)」字状に変わり和田岬へ続くコーナーの位置 最初に開かれた兵庫港の岸壁に接して 新しく整備された中央卸売市場がある。

地下鉄をおりて、地上に出るとすぐ前が中央卸売市場である。

海岸沿いを南の和田岬へ通る広い幹線道路の海岸側に面して 4階建ての建物の端に「中央卸売市場・本場」と書かれた南北に長く延びる大きな建物 中央卸売市場の事務棟ビルがあり、二階飲食店街と書かれている。

道路の反対側には かつての卸売市場があった場所が更地になっていました。 昔の雑然とした風景は全くなく、建物に中央卸売市場と書かれていないとスウーと通り過ぎてしまいそう。また、阪神間に住む我々には 海岸が南 山側北と頭にこびりついているのですが、ここは海岸側の港は「東」 山側は西で、どうもピンとこないし、広い通りに新しい建物そして地下鉄新しい街の感じがする。

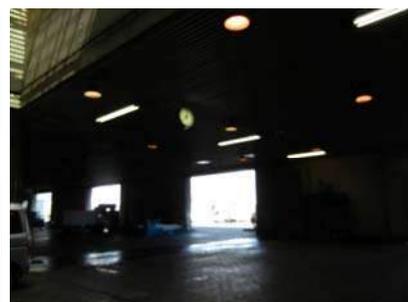
中央卸売市場の市場はこの建物の海岸側にあり、建物の南・北端が市場への入口で、ひっきりなしに車が入り出している。市場の昼飯は魅力なのですが、まず 市場の中に行こうと建物横の門を入ると、この大きな建物に沿って 屋根の架かった広い駐車スペースに車がぎっしり。この中に仲卸の店が建ち並んでいて、さらにその奥がセリ場となっていました。そして、忙しく働く市場の人に「北側 岸壁に沿うところが 魚のセリ場。南側が青果のセリ場」と教えてもらいました。市場の中はもうセリも仲卸の作業もほとんど終わっていて 仲卸の店が並ぶ通路は電気が消えて薄暗く、ひっそり。まだ作業整理をしている幾人かの人たちが忙しく動きまわっているのに出会う程度である。「魚のせり早朝 4 時・5 時」・「青果のせりはちょっとゆっくり」 でも 10 時までに来ないと店はどこも閉まってしまうと教えてもらいました。



神戸 中央卸売市場 左手側が鮮魚右側が青果の卸売市場で 駐車スペースの奥に仲卸の店が建ち並び、セリ場がある



中央卸売市場の内部 [1] 2011. 9. 15.



中央卸売市場の内部 [2] 左&中 鮮魚側の岸壁 右 青果セリ場



セリが終わった仲卸の店 仕分け作業に忙しく働く店が見られました

神戸の中央卸売市場では小売りが全くないので、セリが終わって 小売りの仕分けが終わってしまうと店が早くにしまってしまう。 市場の活気を見るには 朝早く出てこないダメでした。

もっと中がごたごたしていると想像していたのですが、本当に広いのと整然と店が並んで綺麗なのにびっくりでした。

また、後ろに写真がありますが、市場の中を抜けて、岸壁に出ると素晴らしい神戸の港風景がありました。

山側から神戸の港を見る機会が多いのですが、海側から 六甲連山を背にした神戸の港の素晴らしい景色。

正面 真っ青な海面の向こう遠くに六甲連山の山並みをバックに神戸のビル群が立ち並び、その前に兵庫の港が広がる。

山並みの山裾には 兵庫の港を開いた平清盛の福原京である。



中央卸売市場校内の岸壁から眺めた兵庫港全景 2011. 9. 15.

古くは大輪田泊とよばれ、平清盛が人工島「経ヶ島」を作って、現在の神戸港の基礎をきずき、その後、「兵庫の津」と呼ばれるなど、古い歴史を持つ兵庫の港。

幕末「兵庫港」として開港して、近代的な港としての一步をふみ出し、「扇港」と呼ばれる神戸港の前身。

左手に卸売市場の岸壁 中央には舳や小さな船が係留している兵庫の港 そして右手には Google earth で見つけた小さな浮きドック群。その右にはクレーンが立ち並ぶ川重神戸の巨大浮きドックがみえる。そして、神戸港の内海にでる海路を挟んで、兵庫埠頭の倉庫群。 神戸の港の初めてのアングルに岸壁に座り込んでしばし見とれました。

六甲連山を背に山から海岸へ立ち並ぶビル群をバックに中突堤のような観光岸壁でもなく、また 工場・機械と車で人が立ち入れない新しい港でもなく、ちょっとレトロ感も漂う身近で、歴史ある港の風景です。



中央卸売市場事務棟 2F の食堂街

昼飯 2F 市場の食堂で

店構えは綺麗なビルの食堂街なのですが、ここは様子が違う。まさに市場の食堂。

市場で働く人が次々やってきて、急いで食べて 仕事に戻ってゆく・・・・・・・・。

時間が遅く 海鮮丼は売り切れ。 焼きそば定食が日替わり定食だったようで、焼きそばがおかずで白飯 サラダ 味噌汁。

久しぶりに見た大盛り白飯の焼きそば定食でボリュームも市場サイズ。それでワンコインで腹一杯でした。

工場食を思い出しました。卸売市場の食堂というと、最近は見学客など外の客を意識した店が並ぶのですが、おもしろかった。

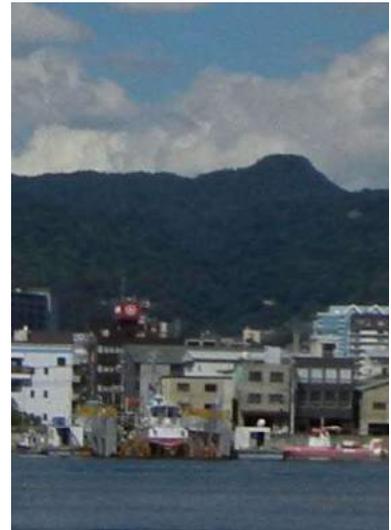
<< 中央卸売市場から眺めた兵庫港 2011.9.15. >>



卸売市場の岸壁から 六甲連山を背に兵庫港の全景が眺められました 2011.9.15.



兵庫港 左奥 菊水山 右奥 鍋蓋山を背に港の背は平清盛の福原京



浮きドックに船が入っているの見える





兵庫港の東側部 西出町の岸壁に 小さな浮きドックがならぶ さして 右端に川重の大きな浮きドック  
 浮きドックには 船が入っていて 現役なのうれしい 2011. 9. 15.

### 3. 兵庫港岸壁から西出町の浮きドック

中央卸売市場を出て 広い通りを北へ。

先ほど卸売市場から見た兵庫港の岸壁から浮きドックの並び西出町へ歩く。

すぐに 新川運河にかかる築島橋を渡り、右に折れて、新川沿いの護岸壁沿いを歩くと兵庫港の岸壁に出る。

新川の運河を挟んで、卸売市場の直ぐ北側で 小さな船が何隻も接岸して、排油か何かドラム缶の積みこみをしていました。

久しぶりの漁港ではない産業港の景色。

船をながめながら、種類や船籍を考えるのも楽しい。

係留された船と船の間の海の向こうに 卸売市場からは端しか見えなかった巨大な川重の浮きドック[ 白いのが No. 2 Dock その後ろ黒いのが No. 3Dock] が見えています。この

位置からだ白いNo. 2Dock と No. 3Dock の比較ができないが、No. 3Dock は No2 の倍以上の大きさである。



築島橋 橋の左側に新川に設けられた水門に「清盛ゆかりのまち兵庫」 右側 新川すぐ兵庫の港



卸売場の直ぐ北 兵庫港の岸壁 小さな船が何隻も接岸していました 久しぶりの産業港の景色です 2011. 9. 15.



兵庫港岸壁に接岸している小型船 色々 2011. 9. 15.



兵庫港の向こうには 起重機を林立している川重No2. とNo.3の大きな浮きドックが見える 2011. 9. 15.



川重の大きな浮きドック No2. Dock と No. 3Dock

また、岸壁の北の端に出ると 小さな浮きドックが岸壁から突き出して浮いているのも見える。

「カン カン カン」と響く金属音やクレーンや車の走行音など色々な音が聞こえ、溶接の火花も…。 それらに吸い寄せられるようにドックの並ぶ東出町の岸壁側に回り込み、浮きドックの中を覗きこみながら、岸壁を歩きました。

小さな造船所が岸壁に沿って立ち並ぶ街 東出町。 造船ブームが去り、造船はどうなっているのか 心配でしたが、ドックには船が入り、作業音が響いて、久しぶりに聞く音・匂いが心地よい。



兵庫港の北側岸壁には小さな造船所が並び、その前の海に浮きドックが並んで見える 2011.9.15.



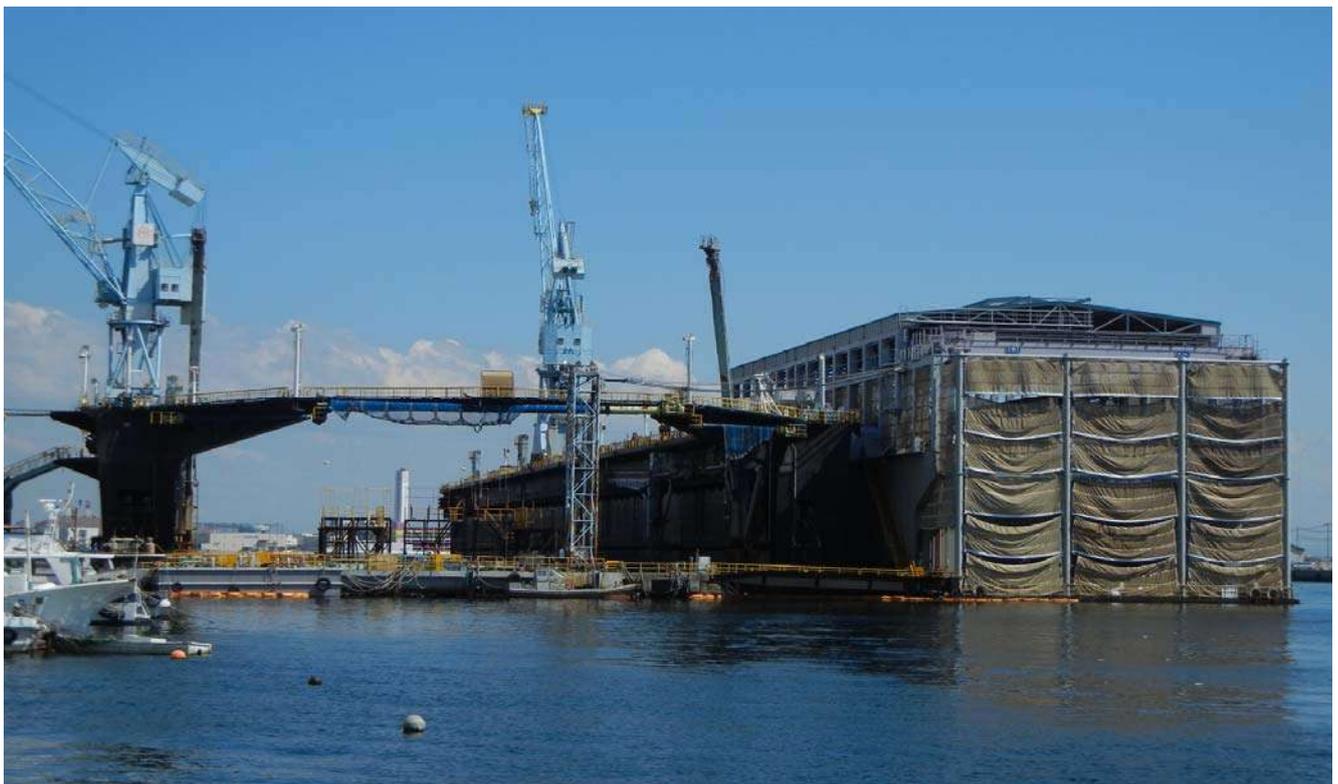
兵庫港 東出町の岸壁にある浮きドック ドックの一つにはアルミ船が入り 作業が行われていました



浮きドックに入ったアルミの小型船 2011. 9. 15.

完璧の東の端からは 川重の構内にある No2. と No3. Dock が正面から眺められました。

No. 2 はドックの入口が布でふさがれ、外からは見えない。また、No3. も入口の水門が閉じられ、海に深く沈んで見えない。いずれも 潜水艦など艦艇の修繕が行われるドックで、船体が外から見えぬようにされているのだろう



川崎重工の巨大な浮きドックの正面 左 No.3 Dock 右 No.2 Dock

岸壁の端から工場の間を抜けて北へ回り込みましたが、川重のドックへは行けませんでした。

久しぶりの工場街歩き 造船業がまた怪しいといわれる昨今 何とか新しい道が開け、活気ある町にこの界隈が復活することを願いながら、工場の扉を覗きこみながら 表通りに抜けました。

広い道に出たところに「兵庫港・浮きドック」などこの界隈の歴史的な場所を示した案内板があり、歩道には船の埋め込みタイル。

あまり 意識していませんでしたが、この地域は神戸の歴史を語る場所。そして、兵庫港にある浮きドック群は 直に造船所がみられる数少ない場所。まだ、現役で活躍しているのを見て、うれしくなりました。こじつけ的ではありますが、Google earth の衛星写真からもくっきり見える神戸の港の象徴神戸の街が造船の街であり、日本を支えた造船の鉄のモニュメント。かつて 造船用鋼板 そして その溶接を手掛けた私にとっては、若き日を思い出させてくれる場所でもありました。



久しぶりに神戸のウォーターフロント。

一度行きたかった神戸の中央市場。今度はセリを見に行こう。

また、海側から見る神戸の港 初めて見る兵庫港からのアングル。

観光やファッションの華やかさとは無縁ですが、エンジニアの私にはうれしいWalk 道の発見でした。

川重の工場の塀沿いを北に少し歩くと神戸の新しい観光ゾーン モザイク・中突堤・メリケンパーク 気持ちの良い神戸の港Walk でした。

2011. 9. 15. by Mutsu Nakanishi



**【 鉄のモニュメント 】**  
神戸兵庫の港  
浮きドック群  
2011. 9. 15.



神戸の新しいウォーターフロントの観光ゾーン モザイク・中突堤・メリケンパーク



鎮魂から創生へ  
国生み神楽の初舞台。  
古事記編纂 1300年 第四回 神々のふるさと  
三大神話  
神楽祭  
伊弉諾神宮  
出雲大社  
高千穂神社  
かぐらまつ  
http://izanagi-jin.jp

### 第四回 神楽祭

古事記や日本書紀などの古記録にある「神代」の伝承を「神話」と呼ぶようになったのは、明治時代以後のことです。全国各地には神代から伝わっている古伝承や逸話がたくさんありますが、淡路島を舞台とする「国生み神話」、高千穂への天尊降臨を伝える「日向神話」、素戔嗚尊の八岐大蛇退治などの「出雲神話」はその中核にあたる三大神話といえます。

国生み伝承の淡路島が誇る最古の神社「伊弉諾神宮」に、高千穂神社と出雲大社から神楽を招いて競演奉納する「神々のふるさと」三大神話「神楽祭」も第四回目を迎えることができました。

「三大神話のふるさと」  
国生み神話の淡路島  
天尊降臨を伝える高千穂  
大蛇退治・国譲り伝承の出雲  
この「神々のふるさと」をそれぞれと守ってきた三つの古社があり、それぞれの神話をもとに里人たちが舞い、神々に奉納される神楽が脈々と受け継がれてきた。

- 淡路 巫女神楽と  
国生み神楽の創生
- 高千穂 神楽
- 出雲 大土地神楽

淡路・出雲・高千穂  
三大神話の郷に伝わる  
神楽の競演  
淡路 伊弉諾神宮  
神楽祭



日本神話の残る「神々のふるさと」の神楽

- |           |       |
|-----------|-------|
| 国生み神話の淡路島 | 淡路神楽  |
| 出雲神話の出雲   | 大土地神楽 |
| 日向神話の高千穂  | 高千穂神楽 |

薄暗くなった淡路伊弉諾神宮の森の中、篝火に照らし出された舞台に  
素朴なリズムをゆったり奏でる笛・太鼓 その音に合わせて神楽舞が浮び上る  
心やすらぐ 気持ちの良い空間です どこかで体験した。  
三内丸山遺跡の縄文祭りとおなじリズムだと・・・  
日本人が縄文から受けついできたリズムとしぐさ  
それが神楽舞にも受け継がれていると・・・



一度是非とも見たかった神話の里で夜を徹して舞われる夜神楽 神代神楽(岩戸神楽)

「岩戸隠れ」「大蛇退治」など日本神話に題材をとり、仮面をつけて舞う神楽で、日本神話の故郷 高千穂・出雲・石見・戸隠などで舞われるほか、日本各地に伝承されている。特にスサノウの八岐大蛇伝承を舞う演目「大蛇退治」は奥出雲の斐伊川流域のたたらと結びついているとの説もあり、その勇壮華麗な舞(石見神楽)は是非一度見に行こうと思ひながら、果たせずにいる。そんな神代神楽を奉納する祭「伊弉諾神宮 神楽祭」が数年前から毎年秋に、国生み神話伝承地 淡路島伊弉諾神宮で行われている。昨年見に行った息子が、今年は9月23日だとパンフレットを持ってきてくれ、車だと家から明石大橋を渡って30分ほど行けるので 楽しみに待ちかねて出掛けました。

今年は第4回目「第4回神々のふるさと 三大神話神楽祭」として、9月23日午後4時半から午後8時半まで、神話の里 出雲・高千穂から招かれた神楽に淡路神楽 それに淡路の新しい創作神楽の4つの神楽が伊弉諾神宮本殿前憎まれた特設舞台上で奉納され、約900人が鑑賞した。



出雲大土地神楽 「八千矛」



高千穂神楽 「細女の舞」



淡路神楽 「鉦の舞」



淡路創生 「国生み神楽」



「出雲の「大蛇退治」や高千穂の「天岩戸」

は是非見たいが、神楽とは古臭くて、退屈なものなのかもしれないなあ・・・」と思っていましたが、以外にも素朴な舞と素朴なリズム 心地よく、引き込まれてゆく。 淡路・出雲・高千穂と神楽が舞われる場所は変わっても みんな同じリズムですうっと体に入って来るのにびっくり。

これは 縄文・古代からずっと受けつがれてきた日本人のリズム。最近のTV・映画でみるデコレーションの行き届いたうそっぽさとは程遠い。単純素朴な仕草・舞が分かりやすくおもしろい。

これもまた、ついつい 引き込まれる心地よさの秘密かも。

また、淡路の「国生み神話」をテーマに創作された創生『国生み神楽』は神楽というより、ミュージカルリズムも全く異なっていて、なじめる淡路神楽になるには、これから磨かれねば・・・と

夕間に浮び上がった舞台上で 単純でゆったりしたリズムの太鼓・笛の音に合わせて神話の場面が大きく舞われる。実にわかりやすい神秘的な野外劇。ほっとす



る気持ちの良い空間 癒しのリズム 縄文から日本人の奥底にいつもあるリズムだと。

残念ながら「大蛇伝説」「国譲り」の場面は舞われませんでした、「岩戸開き」や「大国主命の出雲荒ぶる神退治」そして「イザナギ・イザナミの国生み」の場面など実に楽しい時間で、あっという間に夜八時半過ぎに終わりました。

神話や神楽の部分映像などは知っていましたが、夜神楽全体を楽しんだのははじめて。酔いしれた満足感いっぱい 来年も・・・と。

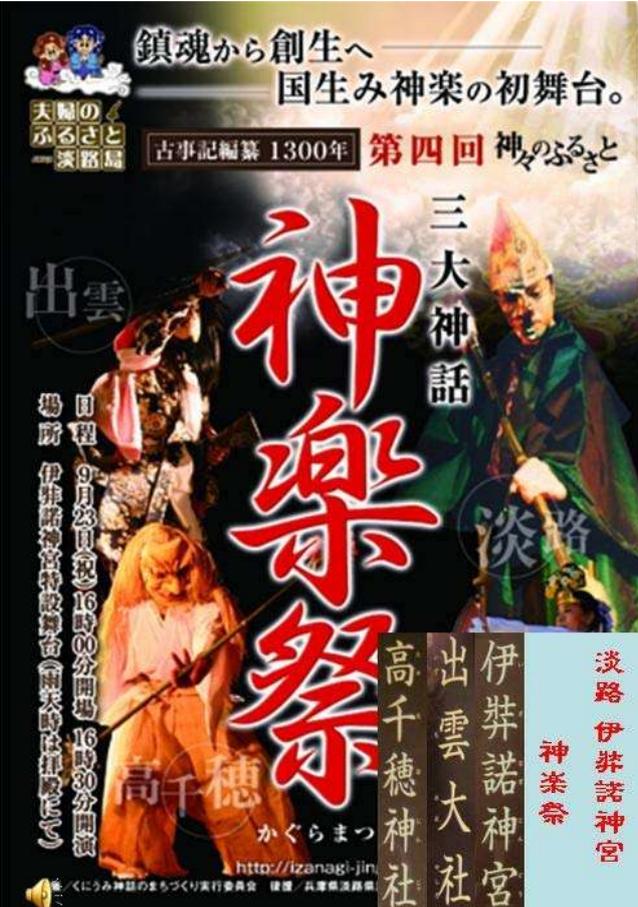
デジカメや断片的な動画で神楽の良さ 伝えられそうにないし、ファイルの容量も膨大になるのですが、とにかく映像記録を作っておこうと。どれだけ、神楽のイメージが伝わるでしょうか???

2011.10.5. 淡路島 伊弉諾神宮 神楽祭の編集を始めて

by Mutsu Nakanishi

[解説] 淡路島 伊弉諾神宮で開催された第四回神楽祭 2011. 9. 23.

淡路 国生み神話・高千穂 天孫降臨・天岩戸の日向神話・出雲 大蛇退治・国譲りの出雲神話  
 「三大神話・神々のふるさと」淡路島・高千穂・出雲の神楽舞の競演



鎮魂から創生へ  
 国生み神楽の初舞台。  
 古事記編纂 1300年 第四回 神々のふるさと  
**神楽祭**  
 三大神話  
 出雲 高千穂 淡路  
 伊弉諾神宮 出雲大社 高千穂神社  
 かぐらまつ  
 http://izanagi-jin.  
 淡路島 伊弉諾神宮 神楽祭 2011.9.23

### 第四回 神楽祭

古事記や日本書紀などの古記録にある「神代」の伝承を「神話」と呼ぶようになったのは、明治時代以後のことです。全国各地には神代から伝わっている古伝承や逸話がたくさんありますが、淡路島を舞台とする「国生み神話、高千穂への天孫降臨を伝える、日向神話、素戔嗚尊の八岐大蛇退治などの、出雲神話はその中核にあたる三大神話といえます。国生み伝承の淡路島が誇る最古の神社「伊弉諾神宮」に、高千穂神社と出雲大社から神楽を招いて競演奉納する「神々のふるさと」三大神話「神楽祭」も第四回目を迎えることができました。

「三大神話神々のふるさと」  
 国生み神話の淡路島  
 天孫降臨を伝える高千穂  
 大蛇退治・国譲り伝承の出雲  
 この「神々のふるさと」をそれぞれと守ってきた三つの古社があり、それぞれの神話をもとに里人たちが舞い、神々に奉納される神楽が脈々と受け継がれてきた。

- 淡路 巫女神楽と 国生み神楽の創生
- 高千穂神楽
- 出雲 大土地神楽

淡路・出雲・高千穂  
 三大神話の郷に伝わる  
 神楽の競演  
**淡路 伊弉諾神宮 神楽祭**



淡路島 伊弉諾神宮 神楽祭 2011.9.23.



## 1. 淡路神楽 解説



### 伊弉諾神宮



「伊弉諾（イザナギ）大神、伊弉冉（イザナミ）大神が日本列島の最初に生んだのが淡路島」という国生み神話で知られている最古の神社。淡路國一宮、延喜式名神大社、旧官幣大社。

古事記、日本書紀には、国生みに始まるすべての神功を果たされた伊弉諾大神が、御子神なる天照大御神に国家の統治の大業を委譲され、最初にお生みになられた淡路島の多賀の地に「幽宮」を構えて余生を過ごされたと記されています。その御住居跡に御陵（みささぎ）が営まれ、至貴の聖地として最古の神社が創始されたのが、当神宮の起源です。

地元では「いっくさん」と別称され日少宮・淡路島神・多賀明神・津名明神と崇められています。  
淡路市ホームページより抜粋

### 淡路神楽

国生みの地に伝わる「淡路神楽」。

国生み神話の郷 淡路島では島内の神社の祭礼には、小学生の女の子たちが巫女として「神楽」を舞います。

伊弉諾神宮には 現在九曲が伝えられている。 太鼓・締太鼓に龍笛が曲を奏し、巫女が二人ないしは四人で舞う。

現在は「扇鈴の舞」や「御幣の舞」が主で、伊弉諾尊が沼矛で海をかき混ぜて国生みをした神話を基にした「鉾の舞」

などが伝承されている。舞台を「田」の字を描くように歩を進め、同じ所作を繰り返す、非常にシンプルなもの。

古い神楽の素朴な形式を残しているとも言われている。

また、今回の伊弉諾神宮神楽祭にむけ、創生「国生み神楽」が新たに創生され、この神楽祭で 伊弉諾神宮に奉納された。

### 淡路神楽 鉾の舞

いざなぎ神宮の特別の祭礼の時にのみ舞われる舞。

四人の本職の巫女がそれぞれ鉾を手にして舞う。

イザナギ・イザナミの国生み神話を伝承する場面、鉾で泥海をかき回す所作がみられる。



## 2. 出雲神楽・大土地神楽 解説



出雲神楽とは民間に伝承される神楽の分類名称。前段の採物舞(とりものまい)と後段の神能(しんのう)の二部分より成る神楽の総称。全国的に広く分布するが、出雲地方に典型がみられるのでこの称がある

大土地(おおどち)神楽は、出雲大社のお膝元・大社町に伝承されている神楽。現在では同保存会神楽方によって10月下旬の大土地荒神社例大祭時を中心に、出雲大社や近郷諸社の祭礼において神楽奉納が行われています。その構成は、基本的には出雲神楽の形式に則り、「七座(しちざ)」と総称される七番の神事的な舞から始まります。そして後段では神が降臨したとして、「荒神(こうじん・国譲り)」や「野見宿禰(のみのすくね)」などの神話劇「神能」が演じられます。(神能 大土地神楽12座ともいわれる)

島根映像ライブラリー「島根の文化・神楽」より (このサイトに説明動画があります)

<http://movie.pref.shimane.jp/culture/kagura.html>



### 八千矛

この神楽は、大国主大神が、出雲の国を平和にするため活躍された若いころの物語で、その時の名前を八千矛神と言います。また、出雲の国が平和でなく、戦争を繰り返していること、悪事を働いていたのが、八千矛神の兄神である八十神とその子達(子鬼)でした。そこで、この兄神達をこらしめ、人々が安心して暮らせるようにと、八千矛神は弓矢や刀を持って戦われ、ついに八十神は降参して、出雲の国が平和になるまでを描いたものです。



八千矛神の一人舞



八十神(小鬼)の一人舞



八千矛神 VS 小鬼 1)



八千矛神 VS 小鬼 2)



八千矛神 VS 八十神 1)



八千矛神 VS 八十神 2)

インターネット 荒神神楽研究部 淡路島第4回神楽祭 大土地神楽「八千矛」取材記事より 2011.9.23.

<http://blog.zige.jp/orothi/date/2011-09-25.html>

### 3. 高千穂神楽 解説



#### ◆ 高千穂神社

日本の創世記の様子を物語った。日本神話は「古事記」(712年)、「日本書紀」(720年)、各地の「風土記」などにまとめられています。高千穂町は「日本神話」その伝承地として知られ、天孫降臨の伝承地を古くから守ってきた高千穂神社で、平安時代以来1200年以上の歴史を持つ古社です。この地に数多くある神社の中でも格の高い88の神社を「高千穂八十八社」と言い、その「高千穂八十八社」の総社として信仰を集めてきたのが高千穂神社である。



#### ◆ 高千穂の夜神楽

日本神話(日向神話)伝承の地、高千穂には「天照大神が天岩戸にお隠れになったおり、岩戸の前で、あめのうずめの命が舞ったのが始まり」と伝えられる33番で構成された神楽舞が古くから伝承され、「高千穂の夜神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定されている。古くからこの地方の秋の実りへの感謝と翌年の豊穡を祈願し、11月の末から2月上旬にかけて三十三番の夜神楽があちこちの神楽宿で奉納されます。

高千穂神社では 街を訪れる観光客などのため、毎夜 通常 33 番ある高千穂の夜神楽の中から、代表的な天岩戸開きにまつわる 手力雄(タチカラオ)の舞、鈿女(ウズメ)の舞、戸取(とどり)の舞の3番とイザナギノミコトとイザナミノミコトが酒作りをユーモラスに演じる御神躰の舞、以上4番にまとめたコンパクトな観光夜神楽が公演されている

高千穂の夜神楽詳細はインターネット <http://www.pmiyazaki.com/takachiho/kagura.htm>

宮崎観光写真「国指定 高千穂神楽(高千穂の夜神楽) Takachiho no Yokagura」をごらんください。

今回の淡路伊弉諾神宮での神楽祭りでも そんな中から

「手力雄(たちからお)の舞」「鈿女の舞」「戸取(とどり)の舞」「御神躰(ごしんたい)の舞」の4番の舞が奉納されました。

#### ◆ 今回舞われた高千穂夜神楽 4番の概説

インターネット <http://www.pmiyazaki.com/takachiho/kagura.htm> より



「手力雄の舞」



「鈿女の舞」



「戸取の舞」



「御神躰の舞」

インターネット <http://www.pmiyazaki.com/takachiho/kagura.htm> より

#### ◎ 手力雄(たちからお)の舞

手力雄の舞は、手力雄命が天照大神が隠れている天岩戸を探し当てるところをあらわした舞。

鈴と紅白の岩戸幣を持ったこの舞は、静と動の折り合いが見事に調和した神楽舞いです。

手力雄命が持つ岩戸幣には冠がついています。

青幣の山冠は天と水とを、赤幣の横冠は地と土を表し、分け幣の手では青幣を立て赤幣を肩に当て或いは鈴と一緒に横にして舞われる。ここでは青幣が山、赤幣は畑の象徴と説明される。

しかし、ここでは鎮魂と復活という日神信仰を基調とする岩戸五番のなかの一つとして舞われることから「鈿女（うずめ）」のタマフリに対して幣を用いての天地の祓い神楽として解するのがよりふさわしいように思える。

「柴引」「戸取」「舞い開き」を普通岩戸三番と称し、これに「伊勢」と「鈿女（うずめ）」を加えて岩戸五番という。

「手力雄の舞」は本来伊勢神楽と同一の舞であり、三十三番の数に合わせて後に創案されたものである。

同じ手力雄の舞でも「手力雄」で用いる神面は白面であるのに対して「戸取」で用いる神面は赤面である。

### ◎ 鈿女（うずめ）の舞

天鈿女命（あめのうずめのみこと）は 天の岩戸の所在がはっきりしたので、岩戸も前で面白おかしく舞い、天照大神を岩戸より誘い出そうとす舞う。この天鈿女命の、天岩戸の前での舞いが、神楽の起源ともいわれます。

微笑みをたたえた女面に三段切りの御幣と日の丸の扇子（おうぎ）を持ち、素襖（すおう）の袖を巻き上げて優雅に舞われるこの舞は男神の力強さを象徴した手力雄命の戸取りとは対象をなす神楽である。

### ◎ 戸取（ととり）の舞

戸取明神（手力雄命） 天岩戸を開き、天照大神に再び出て頂く。これで又世の中に光が戻る事となる。

赤面に裁着袴、たすきを腰にはさみ杖を持った力強い手力雄の舞い。

「ああら来たり大神殿、なんとて出でさせ給わぬものならば、われ八百万神の神の力を出し一方の戸を取りて投げ捨つれば、伊勢の国は山田ヶ原に着きにけり。また一方の戸を投げ捨つれば、日向国橘の小戸の阿波木原にぞ着きにけり。その時日月さやかに拝まれ給うものなりやあー」と・唱教しながら赤面の汗をはらい黒髪をふり乱し、渾身の力をこめて戸をはらう手力雄の舞は「鈿女（うずめ）」の女性らしい優雅な舞とは対照的な荒々しい力に満ちた男性的な神楽です。

同じ手力雄の舞でも「手力雄」で用いる神面は白面であるのに対して「戸取」で用いる神面は赤面。

これは戸取りという神楽の性格上、渾身の力をこめられるため面（おもて）が紅潮した状態を表しているそうです。

### ◎ 御神躰（ごしんたい）の舞

伊邪那岐命（イザナギノミコト）と伊邪那美命（イザナミノミコト）二神による国産みの舞といわれるが、本来は新穀感謝祭（新嘗祭）を祝うために男女の神が新穀で酒をつくり、神前に捧げのお神楽で「酒おこしの舞」ともいわれる。神道祭祀では、新穀、神酒を神前に供えて同じものを直会（なおらい）として人々が一緒に戴き、その行為を通して“神人一体”化すると信じられており、それが神楽御神躰のもつ本来の意味であり、男女二神の抱擁として表現されているものである。

男神は裁着袴に面をつけ餅を入れた藁苞（わらづと）を棒にさして担ぎ、右手の扇で棒をリズムカルにたたきながら出て来る。

男神が神庭を一回りすると頬がふくれておちよぼ口の愛敬のある女神が桶とザルをかついて男神に続く。

二人そろって濁酒をこすことになるが、浮気心を出した男神は神楽見物の若い女性のところへ飛び込んで行き大騒ぎとなる。女神につれ戻され再び酒をこす作業がはじまる。

太鼓の調子に合わせてドブコクをしぼり酒を飲み合ううちに酔った二人は抱き合って夫婦となる。



「手力雄の舞」



「鈿女の舞」



「戸取の舞」



「御神躰の舞」

インターネット <http://www.pmiyazaki.com/takachiho/kagura.htm> より

### 【整理・引用資料】

1. 淡路島 伊弉諾神宮 第四回神々のふるさと 三大神話 神楽祭 パンフレット
2. インターネット 島根映像ライブラリー「島根の文化・神楽」 <http://movie.pref.shimane.jp/culture/kagura.html>
3. インターネット 宮崎観光写真「国指定高千穂神楽」 Takachiho no Yokagura <http://www.pmiyazaki.com/takachiho/kagura.htm>



神楽祭 スナップ

淡路神楽 鉾の舞	出雲神楽 手力雄の舞(1)
出雲神楽 手力雄の舞(2)	出雲神楽 手力雄の舞(3)
高千穂神楽 鉦女の舞	高千穂神楽 戸取の舞
高千穂神楽 御神躰の舞	

日本神話の張る「神々のあるまじき」神楽

園生み神話の横路巻 横路神楽  
スサノオ・大國主の出雲神話の出雲 出雲 大國主神楽  
天孫降臨を伝える日内神話の鹿千穂 鹿千穂神楽

横路・出雲・鹿千穂 三六神話の間に控わる 神楽の連続

横路 伊弉諾神宮 神楽舞 2017.9.23.

園生み神話の初舞台へ  
園生み神楽の初舞台。

大正13年 1300年 第四回 神楽祭

三人合駱

神楽祭

伊弉諾神宮 神楽舞



淡路神楽

園生み神話の地に控わる「淡路神楽」は、横路巻が伝えられている舞は、大鼓・神太鼓に籠舞が舞を奏し、巫女が二人ないは四人で行われる。

また、今期 劇法「園生み神楽」がこの神楽祭で初の開演された

淡路神楽について

淡路神楽は、園生み神話の地に控わる「淡路神楽」は、横路巻が伝えられている舞は、大鼓・神太鼓に籠舞が舞を奏し、巫女が二人ないは四人で行われる。



初公開された 伊弉諾神宮 劇法「園生み神楽」

園生み神話の地に控わる「淡路神楽」は、横路巻が伝えられている舞は、大鼓・神太鼓に籠舞が舞を奏し、巫女が二人ないは四人で行われる。



出雲神楽

スサノオ「大蛇退治」や大國主の「國譲り」伝承など 日本神話の巻 出雲 神話を主題とした神楽舞が数多く伝承されている

出雲大社

出雲神楽とは民間に伝承される神楽の分類名。宍粟の熊野舞(ヒノコノマイ)と横路の熊野舞(ヒノコノマイ)の二部より成る神楽の総称。全国的に広く分布するが、出雲地方に再興がみられるのでこの物がある

園生み神話の地に控わる「淡路神楽」は、横路巻が伝えられている舞は、大鼓・神太鼓に籠舞が舞を奏し、巫女が二人ないは四人で行われる。

大土地神楽

大土地(おどろ)神楽は、出雲大社のお隣元・大社前に伝承されている出雲神楽。

その構成は、基本的には出雲神楽の形式に則し、「七座(しちざ)」と総称される七番の神事的な舞から始まります。そして最後には、神が降臨したとして「降神(かみり)」の舞(降神舞)や「野見宿禰(のみのすくね)」の舞(八千矛)などの神楽劇「神楽」が演じられます。

大土地神楽 大土地神楽12巻ともいわれる



出雲大土地神楽「八千矛」あらすじ

この神楽は、大國主大神が、出雲の国を平和にするため活躍された若いころの物語です。その時の名前を八千矛神と言います。

出雲大社

また、出雲の国が平和になり、神楽を踊り進んでいる時、悪事を働いていたのが、八千矛神の足神である八千矛(やぶこぶ)の神(八千矛)でした。

そこで、この足神退治をこぼし、人々が安心して暮らせるようにと、八千矛神はちたやぶを踏んで殺され、ついに八十神は降参して、出雲の国が平和になるまでを描いたものです。







観客にちょっかいを出しに行くイザナギ



長って また 小たりに潜ぐり



焼った酒を なかよく 飲みかわす



焼った酒を飲みかわす 種やかな交際



脚っ払って 寝てしまふイザナギ イザナミは寝具を片付ける



平々凡々 踊りながら 二人は退場する



高千穂

高千穂の夜神楽について

高千穂の夜神楽は、高千穂地方の伝統的な祭りで、毎年10月1日から10月15日まで行われます。この祭りは、高千穂地方の歴史と文化を伝える重要な役割を果たしています。高千穂の夜神楽は、高千穂地方の歴史と文化を伝える重要な役割を果たしています。

高千穂神楽

- 「手力屋の舞」 「御仕の舞」
- 「戸船の舞」 「御神樂の舞」

[end]



高千穂 伊勢屋神楽 伊勢屋 2017.7.23



## 13. 最近の鉄の話題から BSフジ 10月9日「ガリレオX 電気抵抗ゼロがひらく未来」 より

### 鉄系高温超電導体に注目 そして高温超電導体の実用化実験がすでに始まっている

10月9日(日) 朝 BSフジ「ガリレオX 電気抵抗ゼロがひらく未来」で、以前にも紹介した鉄系の高温超電導体の進歩が目覚ましく、磁場に強く、安価な材料として高温超伝導体の期待を一身に集め、研究が急ピッチで進んでいることが紹介された。

また、セラミックスである高温超電導体の加工は難しく、実用化はまだまだ先だと思っておりましたが、すでに線材化技術が確立され、最も期待される高温超伝導ケーブルによる送電の実用化実証実験が始まっていると。

たまたま、横にあったデジカメで写真をパチリパチリ取りましたのでその概要紹介します。

また、このBSフジの放送紹介の記事がインターネットの公式ページに掲載されていて、内容が簡単に掲載されていたので、合わせて整理紹介します。

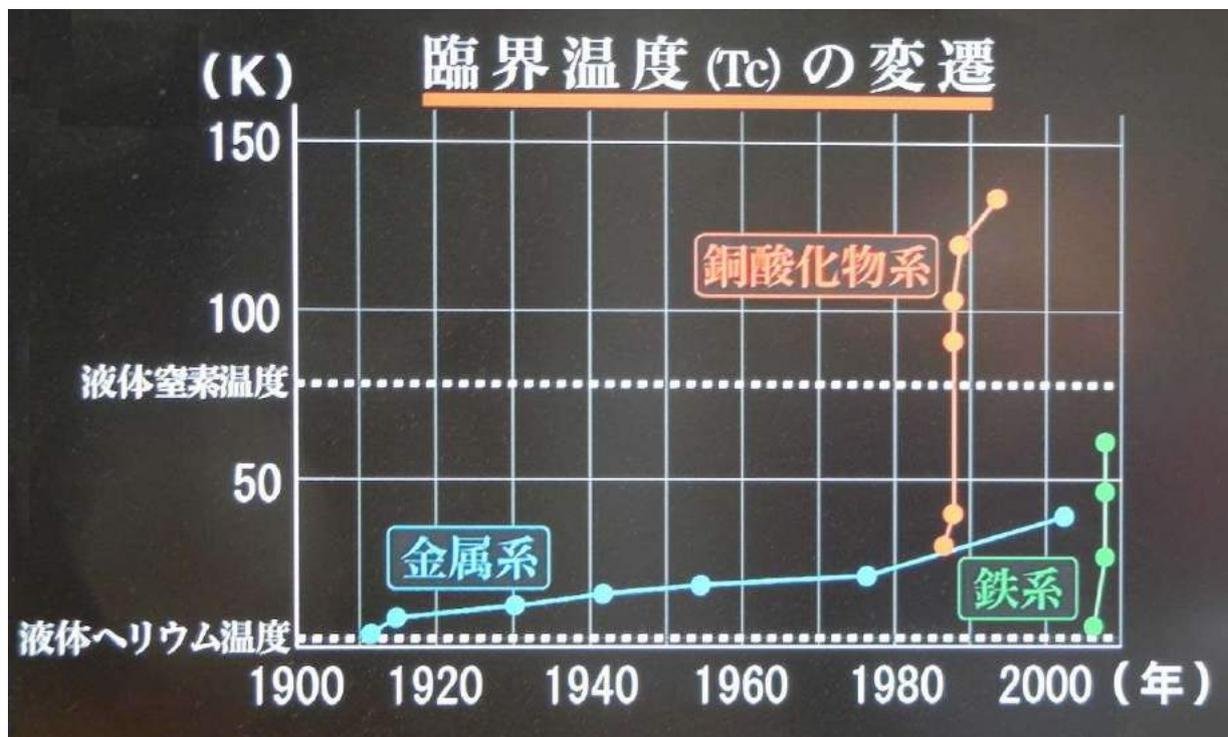
この超電導送電が実用化すれば、現在の発電所からの送電ロスだけをとっても、原子力発電所3基分にも相当するという。知らぬ間に着々と技術者たちは技術を進歩させている。

科学技術への信頼が揺らぐ昨今ですが、マネーゲームや野次馬的政治家たちに踊らされることなく、真摯に科学技術に向き合うことが山積する地球課題クリアの糸口と思っています。

2011.10.9. by Mutsu Nakanishi

#### 1. 高温超電導体の最近の進歩 鉄系超電導材料の急速な進歩に期待が集まっている

2008年にはこれまで原理的に超伝導にならないと思われていた鉄を含んだ超伝導体が日本で発見され、世界を驚かせ、鉄系高温超電導体の研究が急速に伸びている。安価な材料で高温超電導が得られ、磁場にも強いことが明らかになり、その期待が益々高まっている。



Cu 超伝導体原子配列



高温超電導体磁気浮上



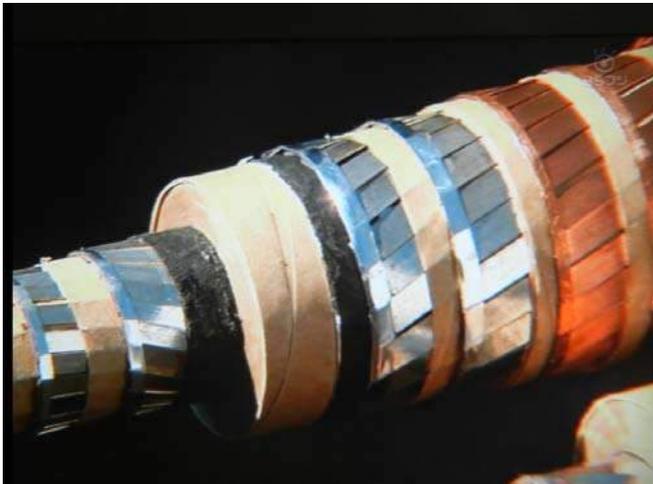
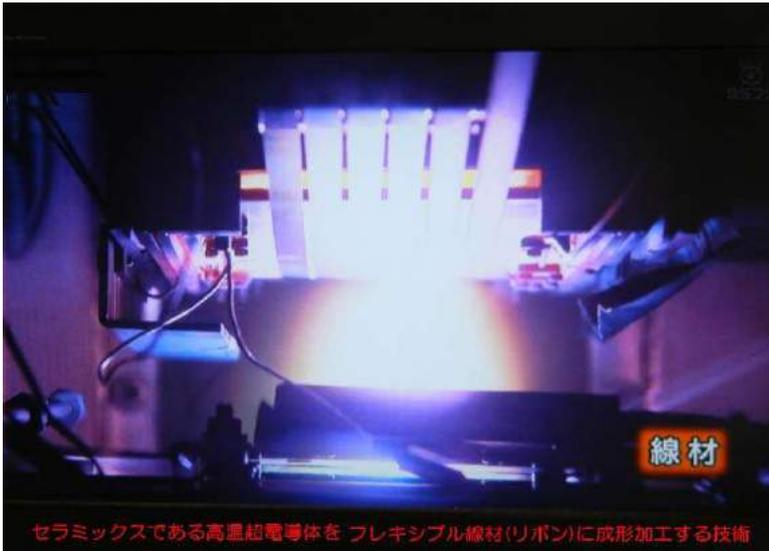
リニア新幹線



高温超電導ケーブル

## 2. 高温超電導体の実用化技術の展開

### 2.1. セラミックスである高温超電導体のフレキシブル超伝導体ケーブルの実用開発



### 2.2. 高温超伝導体ケーブルでの送電実証化テスト



### 2.3. 2027年 リニア—新幹線構想への対応



<http://www.istec.or.jp/web21/web21.html>

## 超伝導100年 電気抵抗ゼロがひらく未来

- 本放送 10月9日(日)朝 8:00~8:30
- 再放送 10月16日(日)朝 8:00~8:30

ある物質を一定の温度以下に冷やすと、突然電気抵抗がゼロになる超伝導。今年、この不思議な現象が発見されて100周年にあたる。超伝導はこれまでになかった技術革新を生み出しているが、実用化されるまでには超えなければならない大きな壁があった。研究者は、より高い温度で超伝導が起こす物質を追い求め、最近鉄を主成分とする第3の超伝導体も発見された。超伝導100年を振り返り、電気抵抗ゼロが生み出す驚くべき可能性を探っていく。

### 偶然発見された超伝導

金属の温度を下げたとき電気抵抗はどうなるのか？ 20世紀初頭、物理学者の間にあったこの論争は、絶対零度では電子が凍り電気は流れないという説と電気抵抗が小さくなっていくという説に二分していた。1908年に世界で初めてヘリウムを $-269^{\circ}\text{C}$ に冷却し液化することに成功したオランダの物理学者カメルリング・オネスは、純度の高い水銀をつくり、この問題に挑む。そして1911年、電気抵抗がゼロになるという予想もしなかった異常な現象を偶然発見する。なぜオネスは世紀の大発見に至ったのか？

### 超伝導の応用に立ちはたかった壁

オネスは超伝導現象を応用して、強力な電磁石を作ろうとした。しかし、そこには大きな壁があった。超伝導は磁場に弱いという性質があり、自身が作り出す磁場によって超伝導状態が壊れてしまうことがわかったのだ。この問題を解決する超伝導体が発見されたのは1960年代。強い磁場の中でも電気抵抗ゼロの超伝導状態を保てるようになり、応用への道が開けたのだ。



### 半永久的に流れる電気

超伝導の応用によって実現した夢の技術が2027年に開通予定のJR東海の「超電導リニア」。車両を電磁石の作用によって浮上・推進させ、時速500km以上で走行する性能は、一度流した大きな電流が半永久的にコイルに流れ続ける「超電導磁石」がなければ実現しなかった。また、医療機関に普及している人体の内部を画像化するMRIや、物質の構造を解析するNMRと呼ばれる装置も、超伝導が可能にする強力な磁場がなければ世の中に存在しない装置だという。

### 臨界温度の壁を破る高温超伝導

現在実用化されている超伝導は、高価で希少な液体ヘリウム( $-269^{\circ}\text{C}$ )によって超伝導体を冷やさなければならないという難点がある。だが、1986年に発見された高温超伝導体は、安価でありふれた液体窒素( $-196^{\circ}\text{C}$ )の温度で超伝導が作り出せるため、実用化に向けた新たな可能性が広がった。高温超伝導体の探求は今も続き、2008年にはこれまで原理的に超伝導にならないと思われていた鉄を含んだ超伝導体が日本で発見され、世界を驚かせた。さらに、送電線の電気抵抗で生じる発電所からの送電ロスを大幅に低減させるため、液体窒素で冷却した「超電導ケーブル」を実際の送電網につなげる実証実験が横浜市で始まろうとしていた。



#### <主な取材先>

- 下山淳一さん(東京大学)
- 白國紀行さん(JR東海)
- 山下裕市さん(東芝メディカルシステムズ)
- 清水 禎さん(物質・材料研究機構)
- 北口 仁さん(物質・材料研究機構)
- 木本浩司さん(物質・材料研究機構)
- 細野秀雄さん(東京工業大学)
- 塩原融さん(国際超伝導産業技術研究センター)
- 林 和彦さん(住友電気工業)

## 鉄のモニュメント 鉄のアーティスト 榎忠(1944-)の作品群

兵庫県立美術館「榎忠展 — 美術館を野生化する—」より



11月23日 神戸の兵庫県立美術館「榎忠展」へ行きました。

榎忠という人を全く知らなかったのですが、兵庫県立美術館で「鉄で美術館を野生化する」とのキャッチフレーズに惹かれて……。

「鉄のオブジェというスクラップをつなぎ合わせたわけのわからんアートを作品と称するのだろうなあ……」と思いながら、出かけたのですが、あにはからんや、美術館の展示場一杯に繰り広げられる鉄のモニュメントにびっくり。

「本当にモノづくり・鉄に愛着がある人や」と思える作品ばかりで……おもしろかったですよ。また、若い人が数多く詰めかけていて、うれしくなりました。おもしろかったですよ。

また、若い人が数多く詰めかけていて、うれしくなりました。



11月13日 榎忠展 兵庫県立美術館 会場

榎忠氏(1944-)を私はよく知らなかったのですが、案内のように紹介されていました。

榎忠氏(1944-)は神戸を拠点に活躍する芸術家で、型破りなパフォーマンスをはじめ、銃や大砲など現代社会における刺激的な題材を扱ったり、今日多量に生み出される金属の廃材に新しい生命を吹き込んだりと、ユニークな活動を行ってきました。

芸術と社会の境界に生きるアーティストといえます。

本展は、回顧展も兼ねた、榎の最大規模の個展です。

美術館の地はかつて製鉄所でした。その地霊に惹かれた榎は、鉄を初めとする金属の野生で美術館を満たします。

本物の葉莢、溶けた鉛、機械部品の山、変形・切断された鉄材などが展開される、超弩級の榎忠の世界をお楽しみ下さい。

鉄廃材から生まれる美 榎忠展、県立美術館 神戸新聞記事より



まさに、神戸に榎忠(えのき・ちゅう)あり。鉄を主たる素材に、神出鬼没の制作活動で人々を驚かせてきた芸術家の最大規模の個展が、兵庫県立美術館(神戸市中央区)で開かれている。その名も「榎忠展 美術館を野生化する」。これまでの作品を新たに構成し直し、展覧する。(神谷千晶)

長く伸びる通路に、ずらりと並ぶライフル銃。旧ソ連製の「AK-47」と米国製の「AR-15」をモデルに、自作の型で鉄を鍛造した作品だ。展覧会の導入部、無言の儀兵に出迎えられるような緊張感が漂う。

角を曲がった遠端、眼前に大小6台の大砲型作品が現れる。複雑な構造、鈍く光る砲身。大部分に鉄廃材を用いる。爆竹の祝砲パフォーマンスで知られ、1972年の第1号機は、神戸・三宮などでビルの新築時にしばしば登場した。

榎は「別に兵器が好きなんじゃない。人が作り出した、命懸けの精密さにひかれる」と言う。最初は安価だからと用いていた廃材。時に、その形状の恰好良さに作品の着想を得た。だが廃材はなぜ廃材になったのか、と疑問を持つように。展覧を支えた機械、戦争の遺物。「時代の表舞台に見捨てられた負の部分、廃材は映している。すごい、と思った」

オブジェ作品というより、大量の鉄を持ち込んで それぞれの場を演出するといった風の作品群ばかりで、銃を砂型鑄型で鑄込んで並べた作品など銃・葉莢の作品群もあったのですが、私の興味はモノづくりの現場で集めた大量の鉄材や旋盤 機械部品で作った作品群。私の本業 サブマージ溶接で多層盛溶接された極厚鋼管のタブがきれいに清掃され2列に並べて作品が作られているのには 感動でした。久しぶりに見る溶接のモニュメントです。

溶接タブがこんなに丁寧に扱われているとは・・・でうれしくなりました。



厚板サブマージ多層盛り溶接タブを並べた作品



極厚ロールバンド溶接管 テストサンプル切出し後の作品

また、鉄のスラブの端部を並べたアイアン サークル。 高炉湯道をほとぼした銑鉄そして この榎忠の代表作の一つ スピンドルを大量に並べてまるで城郭やビルが立ち並ぶ街のようにした機械部品モニュメント等々



スラブの端部を並べたアイアン サークル



高炉湯道をほとぼした銑鉄の初花



構造体継手試験後のサンプル



機械部品で構成されたモニュメント



旋盤と計測具



鋳込みで作られた銃モデル と鋳込み砂型



作品群の写真撮影がOKの展覧会だったので、榎忠氏の意図が伝わるかどうかわかりませんが、いくつか作品群を展示会場とともにデジカメで撮ってきました。

鉄を扱う作業場・溶接場 凄い鉄への愛着 光の当たらぬモノづくりをじっと見るまなざしにうれしくなりました。

「ようまあ こんなに大量の鉄を美術館に持ち込んだなあ・・・」と

製作者の意図は別にして、鉄の好きな人 鉄の作業現場にいた人には嬉しい作品群ばかり。

鉄の現場をイメージしながらの美術展

この作品群 どれもこれもが 鉄の現場を思い起こさせてくれる鉄のモニュメントだと。

ちなみに 兵庫県立美術館は 元の神戸製鋼所脇浜の後に造られた美術館でした。

なお どの作品にも榎忠氏の作品名がついているのですが、作者の意図とは別に私が勝手に写真の下に作品材料のモノづくり来歴名を付けました。お許しください。



2011. 11. 24. by Mutsu Nakanishi

## 奈良時代前半の鍛冶工房跡 平城京建設に鉄製品供給か??

3つの工房に52基の炉跡 平城京 朱雀門前から大規模な鍛冶工房が出土した 2011.11.25.



朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した平城京の鍛冶工房跡 写真はインターネットより  
 炉の跡や金床石（中央の出っ張った岩）などが見つかったことから、工房のような建築物の跡とみられる

奈良市の平城京跡の朱雀門前で、奈良時代前半（8世紀前半）の鉄鍛冶（かじ）工房跡とみられる3つの建物跡が見つかり、奈良文化財研究所（奈文研）が17日、発表した。平城京エリアでは最大規模の工房群という。

鉄鍛冶工房としては平城宮・京で最大で 調査区を超えてさらに北の朱雀門側まで広がっているという。

平城宮の正門・朱雀門の周辺は当時の一等地で、奈文研は「平城京の造営期に朱雀門や宮内に鉄製品を供給していた可能性が高く、遷都直後の京の様子を知る貴重な資料」と言う。

工房群跡は朱雀門の南東約100メートルで見つかり、今年3月に出土した六角形の大型井戸跡に隣接。

周辺から大量の炭を含む、焼け焦げた炉跡が約50基出土し、土管のようなふいごの羽口も約80点出土している。

最も大きい掘立て柱建物跡は東西19.5メートル、南北6メートルで、7基ほどの炉が2列に並び、炉の中で炭を燃やし、輪で風を送る構造。炉跡は地面を掘った直径30～40センチの円形で、鉄くぎや、鍛冶や金属加工に使う金床石や砥石、製錬などで生じる鉄滓も確認された。さらに、工房は早期に埋め戻して整地され、更地は広場として利用された可能性が高いという。

宮域の玄関口が、平城京遷都(710年)の時期には工房として利用されたことが明らかになり、

また、井戸からは「天平二年」（730年）と書かれた木簡や「右相撲（みぎのすまい）」と記された墨書土器も出土し、井戸は工房が役目を終えた後に掘られたことも判明した。

2011.11.18. インターネット MSN 産経ニュース・奈良新聞より 整理

現地説明会に参加しなかったのですが、所用でゆけず。

11月25日(金)にちょうど同じ頃に新聞報道された「2000枚を超える弥生時代前期の水田跡が整然と並んで出土した御所市條の中西遺跡」と合わせて、見学に出かけました。

「早く行かないと埋め戻される。開いていてもブルーシートでおおわれているだろうなあ・・・」と思いながら、

11月25日 快晴の昼 近鉄奈良駅前からバスで、まっすぐ西へ緩やかな坂の大通り大宮通を下る。

平城京に一番近い平城京庭園前(近鉄新大宮駅・奈良市役所のすぐ西)で下車して、そのまま西へ坂を下り、奈良バイパスの高架をくぐると右手奥に広がる平城京跡の一角が見え、中央部に復元された真っ赤な朱雀門が見えてくる。

右に道を折れ、朱雀門を目印に池の端を回り込むと 朱雀門の右手手前に黄色い金網に囲まれた発掘調査現場がありました。

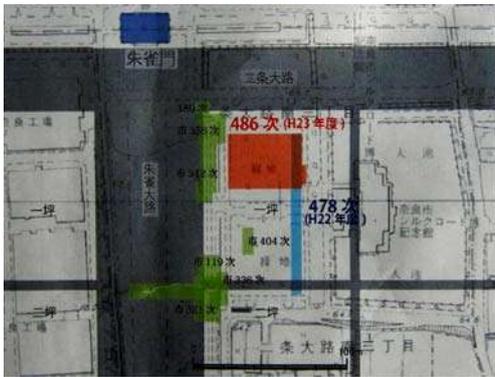
ラッキーなことにちょうどレッカー車の上から 調査現場の全体写真の撮影中で、ブルーシートが全部取られ、発掘調査現場全体を見ることができました。

また 調査に携わった奈良文研の学芸員の人にも出会えて、発掘調査で出土した鍛冶炉のパネル写真をみせていただき、遺跡地図が掲載された現地説明会の資料をもらいました。

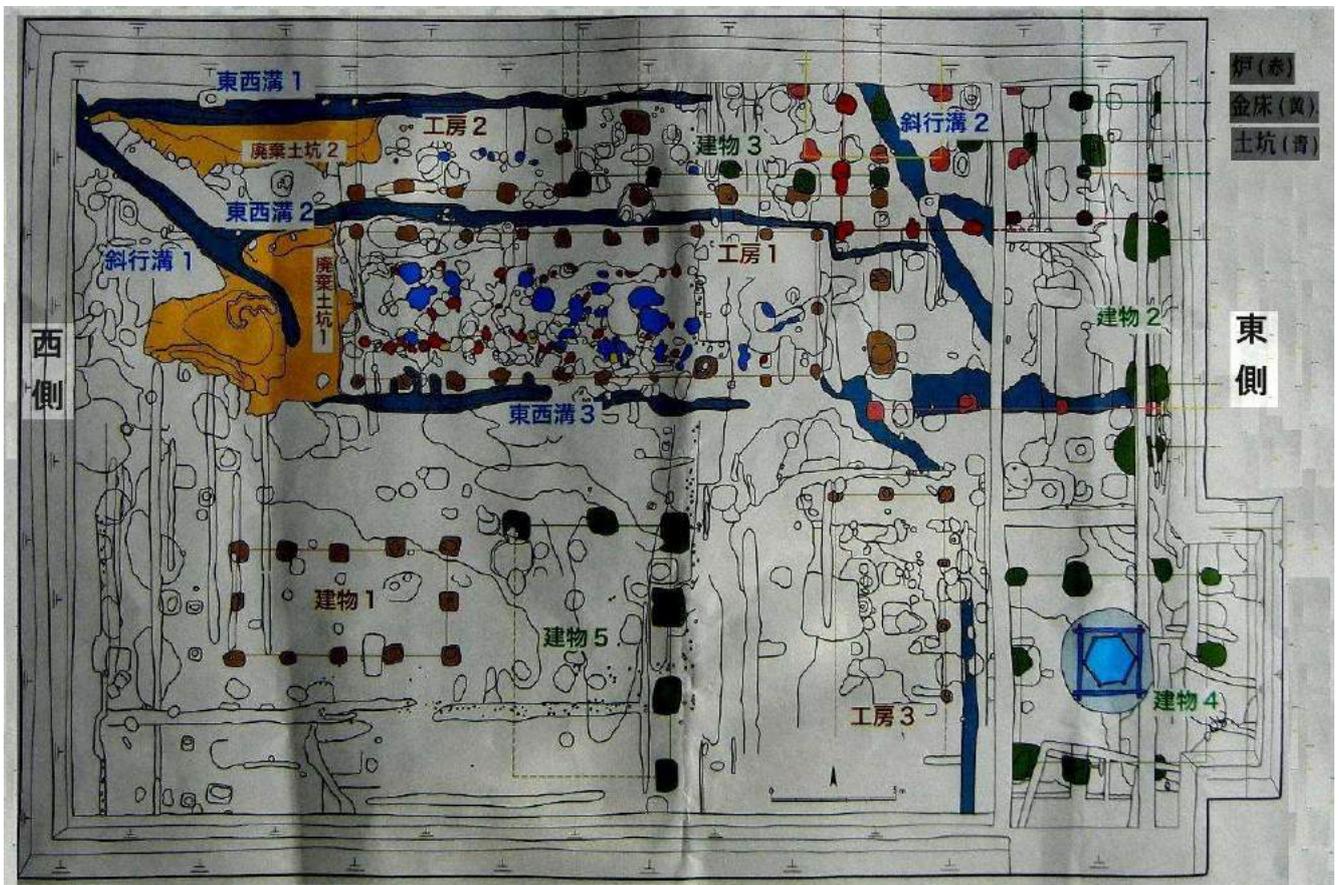
久しぶりに見る鍛冶遺跡 それも 平城京から出たと 興味津々。

現地で遺跡地図と見比べながら、奈良時代前半 平城京建設当時頃と推察される鍛冶工房跡を見学できました。

( この遺跡は平城遷都時代の遺跡に間違いのないようですが、  
まだ 直接平城京建設のために造られた鍛冶工房であるとの結論は出せないと聞きました。)



南東角よりみた平城京の鍛冶工房遺跡 (写真奥が西側 手前が東側) 2011. 11. 25.



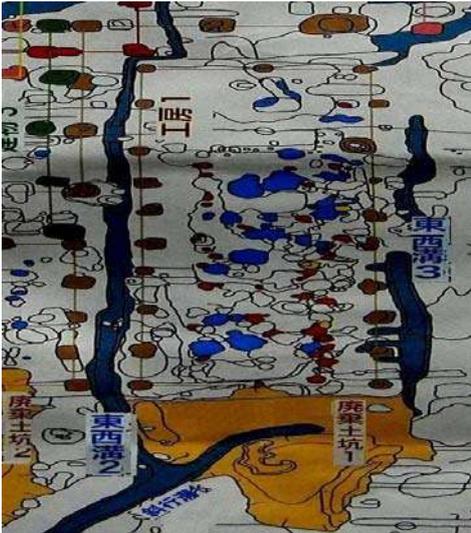
平城京の鍛冶工房遺跡の遺構図 現地説明会資料より 上方が北で 平城京の正面 朱雀門側である

今回 発掘調査現場では 3つの鍛冶工房が発掘され、水分を嫌う工房の周囲は東西溝と南北斜行溝で区切られている。一番はっきりとした鍛冶工房遺構である発掘現場中央部の工房1は9間X2間の東西の棟で、内部に鍛冶炉・金床・土坑が6~7単位ほどで2列に並んでいるのが判る。

これらの鍛冶工房跡からは鉄製品(鉄釘1点)のほか 多数の鉄滓・約80点の鞆の羽口・大量の木炭 そして 金床石10数点・砥石1点などの鍛冶関連遺物が出土している。

また、発掘現場の南側部分には工房と関係する建物が建っている。そして、東側現場の東側部分は鍛冶工房が廃絶した後、整地されて建物が建てられ、南東角の部分に墨書が見つかった井戸のある建物が建っている。

工房の東西の区画はほぼ全体が出土したが、また、まだ北の朱雀門側へは遺構がつづいており、今後さらに発掘が進められるという。



最も大きい掘立て柱建物 鍛冶工房跡 工房1 2011.11.25.

発掘現場の中央部の工房1は9間X2間の東西19.5メートル、南北6メートルの棟で、一番はっきりとした鍛冶工房遺構で、内部には鍛冶炉・金床・土坑が6~7単位ほどで2列に並び、鍛冶炉は炉の中で炭を燃やし、鞆で風を送る構造となっている。



出土した鍛冶炉の一例 奈良文研の学芸員の方に 鍛冶炉の写真パネルを見せていただいた 2011.11.25.

炉は少し掘り込まれ、周囲に粘土が貼られていた  
炉の大きさなどから小さな鉄製品加工の鍛冶炉と思われ、  
鞆の羽口が刺さったものも出土したと

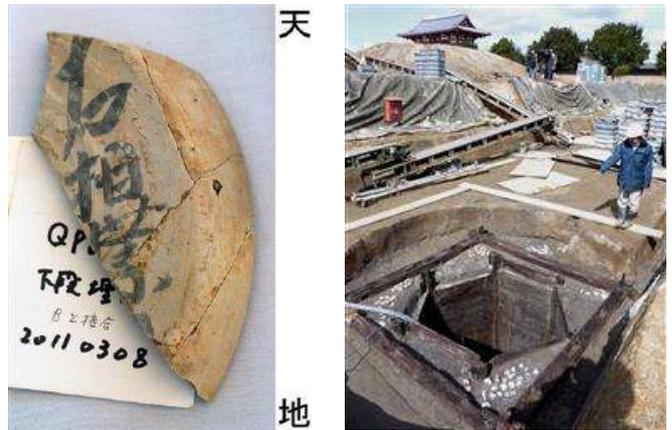


工房から出土した鉄滓・羽口・金床石

工房跡から出土した鉄滓・羽口・金床石鍛冶



写真下側左が木簡・墨書土器が出た工房廃絶後の建物跡



天

地

工房廃絶後に建てられた建物井戸から出土した墨書土器片  
この井戸から 730年と書かれた木簡も出土しているという



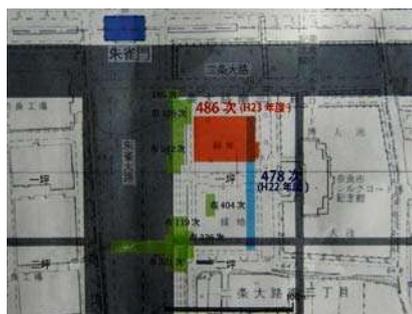
発掘現場の東側から、遺跡全体を撮影中のクレーン車が見える 2011.11.25



発掘現場の西側から



発掘現場の南東角から



## 【参考資料】

1. 「平城第486次 平城京左京三条一坊一坪の調査」  
奈良文化財研究所 都城発掘調査部 11月19日 現地説明会資料
2. 11月17日「平城京 朱雀門前から鍛冶工房出土」を伝える新聞記事

# 奈良時代前期(8世紀前半)の鍛冶工房が 平城京 朱雀門のすぐ横から出土した



インターネットより採取

## 平城京で最大規模の鉄鍛冶工房跡 朱雀門や宮に鉄製品供給か 2011.11.17

朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した遺跡。炉の跡や金床石（中央の出っ張った岩）などが見つかったことから、工房のような建築物の跡とみられる。

奈良市の平城京跡の朱雀門前で、奈良時代前半（8世紀前半）の鉄鍛冶（かじ）工房跡とみられる3つの建物跡が見つかり、奈良文化財研究所（奈文研）が17日、発表した。平城京エリアでは最大規模の工房群という。

平城宮の正門・朱雀門の周辺は当時の一等地で、奈文研は「平城京の造営期に朱雀門や宮内に鉄製品を供給していた可能性が高く、遷都直後の京の様子を知る貴重な資料」としている。

工房群跡は、朱雀門の南東約100メートルで見つかり、今年3月に出土した六角形の大型井戸跡に隣接。周辺から大量の炭を含む、焼け焦げた炉跡が約50基出土した。炉跡は地面を掘った直径30～40センチの円形で、鉄くぎや、鍛冶や金属加工に使う金床石（かなとこいし）や砥石（といし）、製錬などで生じる鉄滓（てっさい）と呼ばれる不純物も確認された。

さらに、工房は早期に埋め戻して整地され、更地は広場として利用された可能性が高いという。また、井戸からは「天平二年」（730年）と書かれた木簡や「右相撲（みぎのすまい）」と記された墨書土器も出土し、井戸は工房が役目を終えた後に掘られたことも判明した。

奈良大の酒井龍一教授（考古学）は「資材供給の合理性を考えればこれ以上適した場所はなく、工房自体が公共的なものだったと考えられる」と話している。



朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した遺跡。

炉の跡や金床石（中央の出っ張った岩）などが見つかったことから、工房のような建築物の跡とみられる

＝17日午前、奈良県奈良市（渡守麻衣撮影）

国内最大級の耕地面積をもつ弥生時代、前期の水田遺構が出土

## 御所市 中西遺跡：弥生前期最大の水田跡2千枚 高い計画性と技術

大和の国力の源泉「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」



金剛山・葛城山を背に御所道路の建設が進む御所市條 弥生前期の大水田跡 中西遺跡 2011. 11. 25.

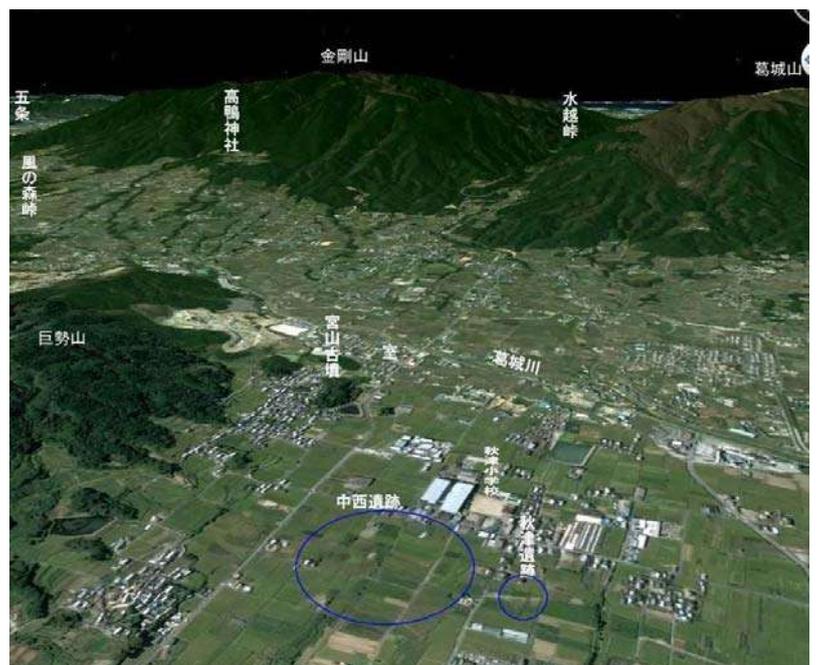


大和が大穀倉地帯であったことを示す弥生前期の広大な水田跡 御所市條 中西遺跡 2011. 11. 25.

2011年11月 新聞各紙に「奈良県立橿原考古学研究所は11月8日、同県御所市條の中西遺跡で、弥生時代前期（約2400年前）としては国内最大の水田跡（約2万平方メートル）を発見した」と発表し、広大な土地に網目のように整然と区画された水田跡が並んだ航空写真が掲載され、びっくりした。水田耕作が日本に伝わって間もなく、弥生前期おそらく鉄の農耕具のない時代に 発見されているだけで、約2万㎡に及ぶ広大な土地に整然と並んだ水田跡が出土するとは・・・と。

場所はすぐ南の丘に葛城葛城襲津彦（そつひこ）の墓と言われる宮山古墳がある古代初期の大豪族 葛城氏の本拠地で、今 奈良盆地を南北に縦貫する京奈和自動車道の建設が急ピッチにすすめられ、この地は御所 IC の建設地で、

この道路沿いの発掘調査が進められ、 続々と重要な古代遺跡が出土し、このすぐ北の縄文から古墳時代の複合集落遺跡の



御所市條 弥生前期の大規模水田跡 中西遺跡の位置

秋津跡からは縄文の翡翠が出土している。

自然地形に合わせて、全体を大規模に水田を造るのは弥生中期や後期と言われるが、この地ではすでに弥生前期に金剛山・葛城山の山裾を西に見晴らし、南東側を巨勢の丘陵地に隔てられた広大な平坦地形全体に水田が作られている。

凄い技術に驚くと同時に「この地が弥生時代の初期から豊饒な土地で大穀倉地帯であったのではないか」との思いが浮かぶ。

「この実りが葛城氏の実力を育んだばかりでなく、この大和盆地全体が大穀倉地帯であり、

それが鉄を持たぬ大和を鉄の北部九州に対抗する盟主にしたのではないかと・・・」と。

長年抱いてきた大和の謎をときあかしてくれるかも・・・。



弥生前期の水田跡 御所市條 中西遺跡 インターネット 中西遺跡報道写真より

写真を引き伸ばしたので ちょっとピンぼけですが、作業中の人と水田とを比較すると、

広大な土地に整然と並ぶ水田跡の様子がよく判る。 鉄のない時代によくもこれだけ整然と水田を開けたものである

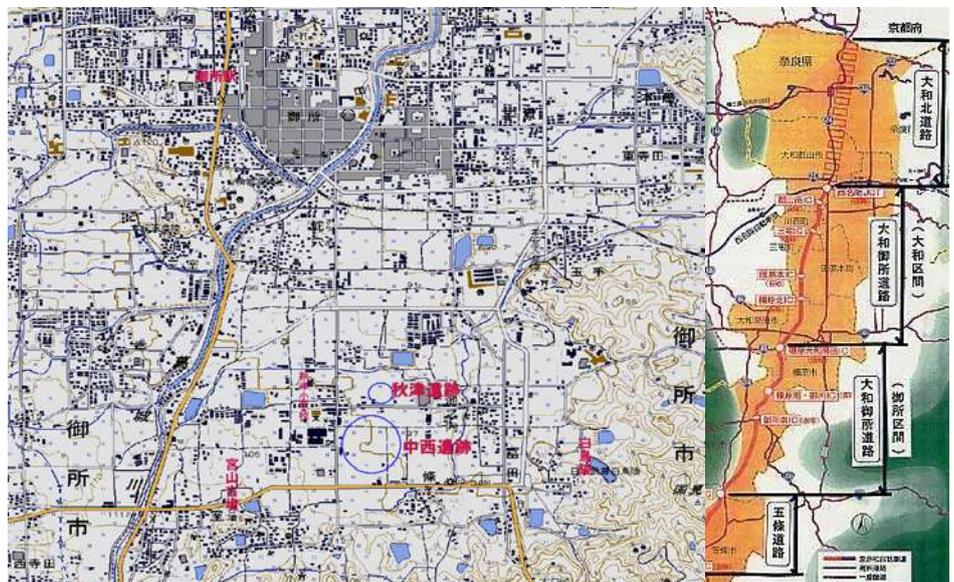
その計画性と技術ともに生産される実りの大きさに驚嘆 大穀倉地帯の出土である。

是非 見に行こう。 早く行かないと道路の基盤工事に埋められてしまう。

何度も歩いたことのある JR 御所駅の東側 秋津集落の東に広がる田園地帯の中である。

平城京の鍛冶工房跡を見に行き、ちょっと遅くなりましたが、JR 御所の駅に午後3時到着。

駅で遺跡への近道を教えてもらって急いで歩き出す。現地説明会には多くの人が詰めかけたというが、静かなもの。川の土手から真直ぐ南へ室の集落への道をたどると約30分ほどで、秋津集落へ入って秋津小学校の横にでる。



御所市條中西遺跡周辺図と工事が進む御所道路 中西遺跡周辺が御所ICとなる

学校の南端の所で、反対側の東へまっすぐ伸びる道を一步はいると集落を抜け、田園地帯。  
道の両側とも金網で囲まれた広い工事現場があり、現場の北奥には何本もの橋脚が見える。



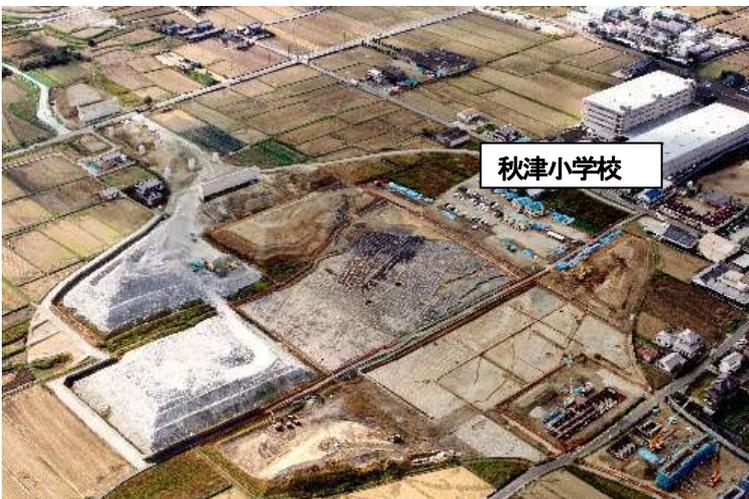
金剛・葛城の山並みを眺めながら 南の室集落へ田園地帯をまっすぐ伸びる道を途中の秋津集落へ 2011. 11. 25.



秋津集落に入り、秋津小学校の横で東に道を折れると両側一杯に道路工事現場がひろがり、そこが中西遺跡の発掘現場 2011. 11. 25.



東側へまっすぐ伸びる一本道の両側に高速道路の工事現場 中西遺跡発掘調査現場がありました 2011. 11. 25.



弥生前期の水田跡 御所市條 中西遺跡発掘現場  
インターネット Asahi.com 2011年11月9日より

中西遺跡発掘現場 google 写真  
遺跡をまっすぐ高速道路が貫通し、御所 IC が出る

金網の中を覗くと平坦に削り取られた広い面一面に四角に縁どられた区画がその平面一杯に広がっている。道の両側どちらの金網もそうなっていて、幾人もの作業者がしゃがみこんでその面を欠いて作業しているのが見え、また ブルドーザーが集めた砂を端の山へ積み上げている。橋梁の工事現場と思いましたが、これが中西遺跡の発掘現場である。とにかく広い。

西側には秋津の集落越しに風の森峠に至る金剛・葛城の山並みが遠望され、東側から南へ巨勢の丘陵地がづき、その南の端に室の宮山古墳が見え、その中全体が掘り返され、そして、そこの土の下全体に弥生前期の水田跡が広がっている感じである。とにかくすごい。



西側から 中西遺跡 南側の区画

西側から 中西遺跡 北側の区画



中西遺跡 南側の区画

2011. 11. 25.



西側より 中西遺跡 南側の区画 バックに金剛山・葛城山が見える

2011. 11. 25.



東側から 中西遺跡 南側の区画



東側から 中西遺跡 北側の区画



南側より 中西遺跡 北側の区画 田圃一枚ごとに白線で畔が記されている 2011. 11. 25.



発掘調査現場のすぐ北側には 高速道路の橋脚が建ちならぶ  
西側より 中西遺跡 北側の区画 田圃一枚ごとに白線で畔が記されている 2011. 11. 25.  
奥に見える橋脚の周辺が縄文の翡翠が出土した秋津遺跡の位置である



南側の区画　きれいに一枚一枚の区画の畔が白線で描かれている

周囲一面が 弥生時代前期の田圃である。

一枚の大きさは3mX4mほどで現在の田圃に比べるとはるかに小さく、それがいくつも連ねることで耕地を造成するという「小区画水田」とよばれる水田で、人力で、しかも木製農耕具に頼らねばならぬ時代に、少ない同労力で、水田に水を張るために必要な平坦面を造成するための工夫だそうである。(現地説明資料より)。

この広大な土地一面の水田をどう評価すればよいのか　かんがえるのですが、お手上げ。

金網越しに発掘調査をしている榎原考古学研究所の学芸員の方に声をかけると、

「いい時にやってきましたね。今ちょうど南北どちらの区画もほぼ同じ弥生前期の地層まで掘り下げ、一面全部弥生前期の水田跡です。弥生の前期にこれだけ計画的な水田遺構があることが、大和を考える上で極めて重要。じっくりとみていってください。

また、この下には縄文の遺構が残っている可能性があり、それも掘り下げてゆくの楽しみです」と。

また「現地説明会の資料はもう数部しか残っていないが、すぐそばの事務所にあると思うので取ってきてあげる」と。行けなかった現地説明会の資料もいただけて本当にラッキー。

もらった現地説明会資料には　この広大な中西遺跡の水田遺構の評価が下記のように記されていました。

**【中西遺跡 第18次調査 -弥生時代前期水田の調査- 現地説明資料より まとめ整理】**



1. 今回の調査で確認した水田遺構は弥生前期(約2400年前)へ遡ると考えられる。
2. 遺構には大畦畔・小畦畔・水路・縞状高まりがあり、水田は高さ5cmほどの小畦畔で3X4mほどの方形区画にし、

それを幾つも連ねて耕地を造成。 今回の調査地では 850 枚に及ぶ。

### 3. 水田の造成法

まず、小畦畔を南西-北東方向を基本ラインとして削りだし、次いで、これに直交する小畦畔でさらに区画する。そして後者の方が前者の方より畦の高さが低くなっている。小畦畔の所々に途切れたところがあり、水口になっている。このように基本的な配水方は畔越しによる掛け流しだったといえる。

### 4. 調査区のほぼ中央には水路と思われる溝があり、このような水路も併用しながら配水することを意図している。

### ◎ 総合まとめ

今回の調査では 調査区のほぼ全生き約 10000 m<sup>2</sup>に及ぶ水田遺構を確認。

第 14・16 次調査でも弥生前期の水田遺構が確認されており、周辺調査を合計すると耕地面積は約 20000 m<sup>2</sup>以上の広がりを持つ。ことがあきらかになった。

これはこの調査区周辺が有数の穀倉地帯であったことを示すと考えられるが、現時点では集落が確認されておらず、解明すべき課題も多く残されている。しかし、大和のはのちの古代国家成立の地であり、その成立の背景のひとつに、早くから稲作中心の安定的な経済基盤を構築することができたという社会的・経済的環境が寄与した可能性が高い。



中西遺跡 北側では京奈和道路の橋脚工事がすく横まで迫っていました 2011. 11. 255.



中西遺跡周辺 Map



夕闇せまる御所市條 中西遺跡周辺  
遺跡の奥に室の宮山古墳 その後ろに金剛山麓 風の森峠

【参考資料】 中西遺跡第 18 次調査 -弥生時代前期水田の調査- 現地説明資料 奈良県立橿原考古学研究所

<http://www.kashikoken.jp/from-site/2011/nakaniishi18.pdf>

【参考 1.】 インターネット・新聞が伝えた弥生前期の大規模水田跡出土 御所市中西遺  
国内最大級の耕地面積をもつ弥生時代前期の水田遺構が出土

奈良・中西遺跡：弥生前期最大の水田跡 2千枚 高い計画性と技術  
2011年11月9日 1時31分 インターネット 毎日 JP・Asahi.com より整理

奈良県立橿原考古学研究所は11月8日、同県御所市條の中西遺跡で、弥生時代前期（約2400年前）としては国内最大の水田跡（約2万平方メートル）を発見したと発表した。

水田が河川の氾濫による土砂で埋まった後、大規模開発などが行われなかったため地中に残っていたとみられ、橿原研は「当時の水田開発の仕方が非常によく分かる発見」と評価している。

発掘調査は京奈和道のインターチェンジ工事に伴い今年4月から約1万3500平方メートルで行われている。

同遺跡は緩やかな傾斜地。水田跡は約850枚あって、いずれもあぜ道で細かく区切られ、1枚あたり東西4メートル、南北3メートルほどの小さなものが多かった。

水田に水をためるためには、地面を水平にする土木工事が必要で、橿原研は「1枚あたりの面積が小さいのは、土木工事の労力を抑えるためでは」とみている。今回の調査では、水田跡が約9000平方メートル見つかり、過去の調査で確認された約7000平方メートルに加え、隣接地で継続中の発掘調査でも現時点で約4000平方メートルを検出。合わせると約2万平方メートルになるという。これまで弥生時代前期の大規模な水田跡としては、服部遺跡（滋賀県守山市）が約1万8700平方メートルで最も大きく、次いで池島・福万寺遺跡（大阪府八尾市・東大阪市）の1万8000平方メートルだった。「自然地形に合わせて大規模に水田を造るのは弥生中期や後期のパターンと同じ。前期の段階から大規模な水稻農耕が行われていたことが裏付けられた」という



弥生時代前期 国内最大の水田跡  
奈良県御所市の中西遺跡



弥生前期の水田跡 御所市條 中西遺跡 Asahi.com 2011年11月9日より

「自然地形に合わせて大規模に水田を造る水稻農耕が弥生前期の段階から行われていた」ことの裏付け  
大和は早くから 大規模水田が広がる穀倉地帯 ???



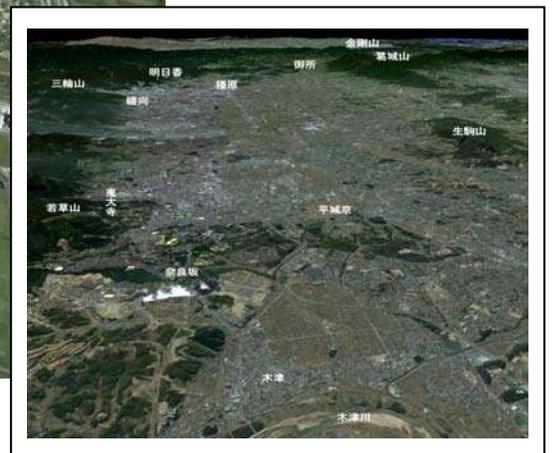
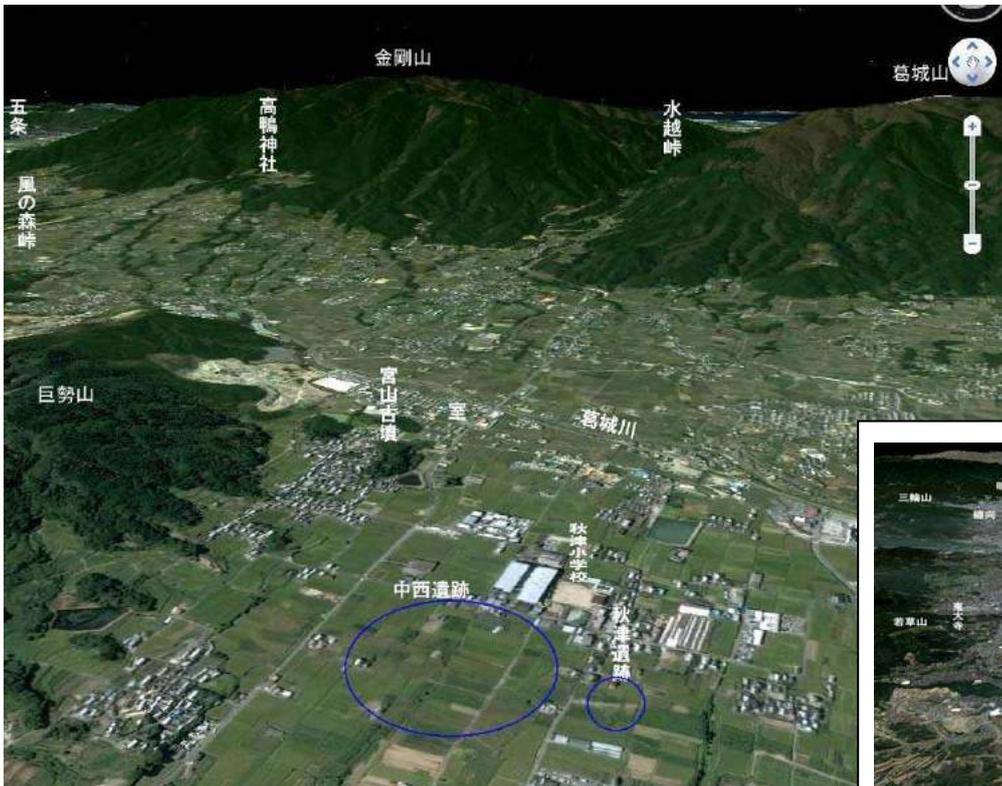
見つかった弥生時代前期の水田跡。あぜに沿って白線が引かれている  
= 8日、奈良県御所市、朝日新聞社へりから、小林裕幸撮影

中西遺跡の水田跡。あぜに沿って白線が引かれている  
= 8日、奈良県御所市、中里友紀撮影

Asahi.com 2011年11月9日より



中西遺跡 京奈和道の御所南ICインターチェンジ工事が進む御所市條周辺



## 【参考 2.】 中西遺跡の直ぐ北から縄文の翡翠 秋津遺跡

長大な塀で囲われた4世紀前半の方形区画群・その下層から縄文晩期の翡翠が出土  
また、ここを本拠とする葛城氏の中核をおもわせる方形区画と独立棟持ち柱の建物の遺構が出土  
この周辺には縄文時代からずっと 各地との交流路があった開けた肥沃の地

榎考研は2011年8月 御所市の秋津遺跡で確認されていた古墳時代前期（4世紀）の建物のうち8棟が、建物の外に屋根を支える柱のある「独立棟持（むなも）ち柱建物」だったと発表。

独立棟持ち柱建物は「神殿」との見方があり、8棟の場所は塀に囲まれた国内最大規模の区画施設内（最大南北50メートル、東西48メートル以上）であることから、「祭儀を執り行った特別な空間の可能性ある」としている。

榎考研によると、8棟は50～100年の間に建て替えられ、すべてが同時に存在したわけではないが、古墳時代の遺跡で8棟も独立棟持ち柱建物が確認された例はないという。

また、区画施設の南側に竪穴住居20棟が新たに見つかった。竪穴住居跡と方形区画群の間には幅2メートルの溝があり、榎考研は「居住と祭儀の空間が機能的かつ明確に分けられていた」としている。5世紀に大和政権の中核を担ったとされる古代氏族・葛城氏との関連が指摘されている。

また、古墳時代の遺構が出土した土面の下層から、縄文時代晩期後半（2800～2500年前）の首飾りの一部とみられる糸魚川産と推測される翡翠の管玉（長さ約4センチ、太さ約2センチ）が見つかった。

この地に縄文人が居て、新潟県糸魚川につながる交流路がこの地にあった論拠になるかもしれない。



中西遺跡の北側 橋脚の建つ周辺が秋津遺跡



秋津遺跡で見つかった翡翠の管玉



長大な塀で囲われた4世紀前半の方形区画群遺構が見つかった秋津遺跡

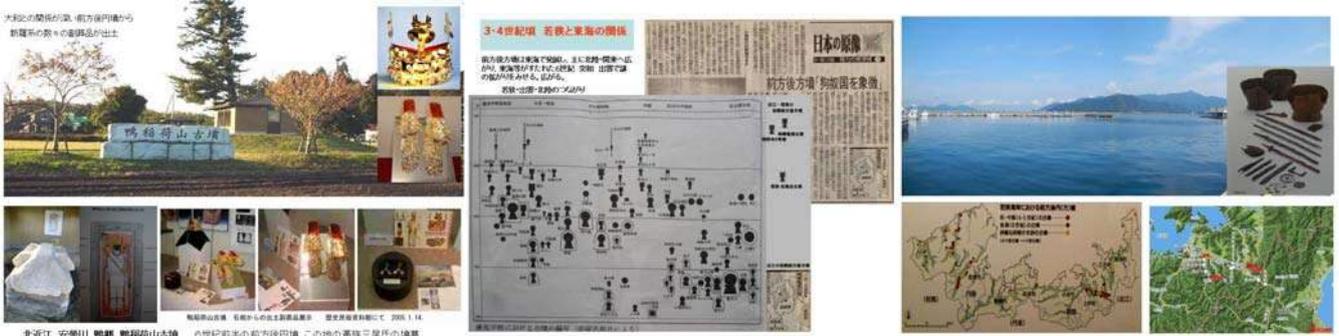


日本の黎明期 日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ海人族の人たちがいた

# <17> 「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭

大陸・朝鮮半島の玄関口として 北近江・若狭が輝いた古代

2011. 12. 1. by Mutsu Nakanishi



日本黎明の時代 北部九州沿岸を根拠地とし、航海術に秀で、日本と大陸・朝鮮半島の交流の役割を果たした「海人」の集団「安曇族」。「滋賀県高島市安曇川」や「長野県松本市 安曇野」「福岡市志賀島」など この「安曇族」が日本各地に展開したと考えられている関連地の人たちが連携して交流しようとする「安曇ネットワーク」が結成され、地域交流活動が行われている。

このネットワークの推進にかかわっている仲間から

「この安曇族の交易・歩いた道を知るうえで「朝鮮半島の鉄」の理解が重要と思うので、一度話を聞かせてほしい」との話があり、滋賀県高島市安曇川の「安曇あずみの会」の勉強会でプレゼンの機会をいただきました。

北近江 高島は鉄と関連の深い継体天皇の故郷であり、また、大陸・朝鮮半島と大和とを結ぶ交流路の日本海側の窓口として初期大和王権と連動した前方後円墳がいち早く築かれた「若狭」と一体の地、朝鮮半島の鉄素材の流入路としても重要な地であり、また、この近江は数多くの渡来人が住み、製鉄技術初め、数々の渡来技術がみあきあげられた地でもあり、私の言う「和鉄の道」の重要点。いまだに謎が解けぬ 製鉄技術伝来の謎がこの若狭・近江の痕跡から解けないものかとも考えていた矢先で、『和鉄の道・Iron Road』から見た日本誕生前夜の北近江・若狭 -大陸・朝鮮半島の玄関口として 北近江・若狭が輝いた古代」と題して 12月1日 午後 滋賀県高島市 安曇川で鉄にかかわった北近江・若狭に残る製鉄関連遺跡と関連地について紹介させてもらった。

本資料は 安曇あずみの会でのプレゼンスライドなどを再整理して集めたものです。

3世紀の後半 卑弥呼の時代 中国の史書「魏志 東夷伝」には「**国出鉄、韓、濊、倭皆従取之。諸市買皆用鉄、如中國用貨、又以供給二郡**(国、鉄を出す。韓、濊、倭 皆従がいて之を取る。貨幣がわりにも鉄を用いる、また以て二郡に供給す)」と記され、また、「魏志倭人伝の対馬や壹岐」の記事には「**南北市糶**(朝鮮半島や日本各地と交易する)」と記されている。

<p>弥生時代末期から古代へ 大和王権・国家が成立する過程</p> <p>大陸・朝鮮半島との活発な交流があった</p> <p>活発な交流の中で 数多くの文物が日本に伝来したが、中心だったのは 朝鮮半島の「鉄素材」</p> <p>製鉄がまだできない倭では 鉄素材の供給を朝鮮半島に頼っていた</p> <p>邪馬台国連合の絆は 北部九州に握られていた</p> <p>この朝鮮半島の鉄の安定供給路の獲得であったという</p> <p>魏書に記載されている弥生時代末 3世紀初頃の倭と朝鮮半島の交流</p> <p>1.1. 魏書(286)に書かれた鉄関連記事</p> <p>■「魏志 東夷伝 弁辰条」</p> <p>国出鉄、韓、濊、倭皆従取之。諸市買皆用鉄、如中國用貨、又以供給二郡。国、鉄を出す。韓、濊、倭 皆従がいて之を取る。貨幣がわりにも鉄を用いる、また以て二郡に供給す</p> <p>■「魏志倭人伝」</p> <p>自女王國以北、特置一大率、檢察諸國、諸國畏怖之、常治伊都國、於國中有加刺史、王遣使詣京都、帶方郡、諸韓國、及郡使倭國、皆臨津搜露、傳送文書賜遺之物詣女王、不得差錯。女王國の北方の諸國には「一大率」という官が置かれて國々を監視している。</p> <p>一大率は伊都國にあり、韓の刺史のような役目を果たしている。</p> <p>伊都國は外交の中心地で韓や韓の國々の使節はここに停泊して文書や贈物の点検を受けて女王に送っている。</p>	<p>この朝鮮半島・大陸と日本各地との交流を担ったのは誰か???</p> <p>航海術にたけ、大陸・半島と日本各地を自由に行き来した海人族の存在</p> <p>「<b>南北市糶</b>」 交易を生業とする人たちが玄海灘・北部九州にいた</p> <p><b>安曇族・宗像族</b>とよばれる海人族</p> <p>大陸・半島への水先案内人であり、日本各地に大陸・朝鮮の文物を日本に持ち込んだ</p> <p>また、渡来人やこの海人族が日本各地に進出し、新しい技術・文化を伝えていった</p> <p>倭人伝 壹岐・対馬の記事の中に「<b>南北市糶</b>」という言葉がでてる。</p> <p>「糶」を何と読むのか不思議で 読めなかった漢字。「字キ」と読み「米を買い入れる」ということから「交易」を意味するといふ。</p> <p>&lt; 対馬 &gt;</p> <p>「始度一海千餘里至對海國 其大官曰卑狗副曰卑奴母羅 所居絶島方四百餘里 土地山險多深林道路如鳥庭徑 有千餘戸無良田食海物自活粟船南北市糶」</p> <p>始めて一海を渡る千余里、對海國(對馬)に至る。其の大官を卑狗といひ、副を卑奴母羅(ひなもり)といふ。居る所絶島、方四百余里ばかり。土地は山険く、深林多く、道路は鳥庭の徑の如し。千余戸あり。良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糶してきてす。</p> <p>&lt; 壹岐 &gt;</p> <p>「又南渡一海千餘名曰瀛海至一大國 官亦曰卑狗副曰卑奴母羅 方可三百里 多竹木叢林有三千許 家差有田地耕田薄不足食亦南北市糶」</p> <p>また南一海を渡る千余里、各づつて瀛海(かんがい)といふ。一大國(壹岐)に至る。官をまた卑狗といひ、副を卑奴母羅といふ。方三百里ばかり。竹木・叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地あり、田を耕せどもは食するに足らず。また南北に市糶す。</p>
--	--



弥生の終り 日本の国づくりが始まる頃 朝鮮半島と北部九州・日本各地との交流が盛んになる頃 北部九州の玄界灘周辺には航海術に秀でた「海人」の集団がいて、朝鮮半島・大陸と日本各地を結ぶ交易を生業とする人たちがいて、その人たちが担う交易によって、数々の文物・技術・渡来人が日本にやってきて、その後の日本の国づくりの原動力になったという。

この時代 大陸や朝鮮半島は戦乱の時代であり、日本列島でも北部九州や日本各地に興った国がそれぞれ、力を増し、そして大和王権に集約されていく過程 言い換えれば、弥生の戦のあと日本統一へ「日本誕生」前夜の混乱の時代と言える。

この時代 大陸・朝鮮半島と日本との交流の中心には「朝鮮半島の鉄素材」があったといわれ、北部九州に握られていた朝鮮半島の鉄素材の交易支配から脱し、このルート支配を目指した連合が邪馬台国連合(初期大和王権連合)だったとも言われている。

周囲を海に囲まれた日本では、このような日本列島を巡る交易ネットワークは縄時代からすでに形成されていたといわれ、数多くの集団が文物・技術を伝え、交流してきたといわれるが、この時代九州北部沿岸を本拠地として、これら朝鮮半島・大陸との交易・交渉に大きな役割を演じた「海人」の集団として「安曇族」や「宗像族」があり、日本黎明期から古代 日本各地で活躍したといわれ、そんな人たちの痕跡が日本各地に残っている。

「安曇族」の集団の本拠地「志賀島」の「志賀」「安曇」をキーワードとして地名を検索し、日本各地に残る関連地を探ったインターネット掲載例を下記に記した。

**日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ海人族**  
**安曇族の関連地**

筑前国糟屋郡安曇郷(福岡県)、伯耆国会見郡安曇郷(鳥取県)、美濃国厚見郡厚見郷(岐阜県)、三河国渥美郡渥美郷(愛知県)・・・

「アヅミ」は、阿曇・安曇・厚見・厚海・渥美・阿積などと表記され、足跡は瀬戸内海を經由し阿波・淡路・播磨・摂津・河内・近江などに及び、琵琶湖西側には安曇川の地名を残している。

安曇川

**各地で住み着いた安曇族の謎?**  
 安曇族を追うロマン  
 日本各地で 何のために? 何をしたのだったか?

**鉄をキーワードに古代の若狭・近江を眺める**

北近江・若狭の話をする前に 私の視点 安曇

**「アヅミ」「シガ」の音で調べられた安曇族関連地** アヅミ地類は青色字 シガ地類は茶色字  
<http://www2.odn.ne.jp/~nov.hechima/suiri.html> より

○01 森県南津軽郡平賀町志賀坊	★12 長野県南・北安曇郡	★23 滋賀県安曇川
●02 宮城県遠田郡小牛田町志賀町	★13 富山市安住町	●24 滋賀県志賀町
★03 宮城県岩沼市志賀	★14 石川県志賀町安津見	●25 京都府越前市志賀郷
★04 山形県飽海郡	★15 石川県志賀町	●26 奈良県吉野町志賀
★05 山形県湯川村安角	★16 岐阜市厚見	●27 和歌山県かつらぎ町志賀
★06 新潟県川村安角	●17 愛知県豊田町志賀	●28 和歌山県上町志賀野小学校
●07 長野県志賀高原	★18 愛知県渥美町	●29 和歌山県日高町志賀
●08 長野県佐久市志賀	●19 名古屋市志賀地域	★30 兵庫県六甲郡一宮町安積
●09 埼玉県嵐山町志賀	★20 滋賀県高月町東阿曇	★31 米子市上・下安曇
★10 山梨県富士吉田市大・小見	●21 滋賀県山東町志賀谷	●32 大分県緒方町志賀
★11 長野県白馬村～茶臼川市(遊川)	●22 大津市志賀里・南志賀	●33 福岡市東区志賀島

注: ★は 訪問済のアンシガ地  
 ●は 未訪問済のアンシガ地  
 ○は 未訪問のアンシガ地

「アヅミ」「シガ」の音で調べられた安曇族関連地 検索例

日本の黎明期 日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ海人族の人たちがいた

## 「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭

大陸・朝鮮半島の玄関口として 北近江・若狭が輝いた古代

2011.12.1. 北近江安曇川にて by Mutsu Nakanishi

### 《 プレゼンの内容 》

1. 大和王権の成立前夜 大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族  
近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」
  2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる
    - 2.1. 安曇川の左岸 琵琶湖を見晴らす饗庭野丘陵  
多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群
    - 2.2. 丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江  
5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 脇袋古墳群
    - 2.3. 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す若狭  
遠敷川(おにゆうがわ) 「鵜の瀬の水送り」
  3. 近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄  
鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った
- ◎ わたしの life work スライド「和鉄の道・Iron Road たたら製鉄遺跡探訪」 約15分

弥生末期から古代奈良時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「朝鮮半島の鉄素材」  
その鉄を日本に持ち込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たちがいた。  
古墳時代から古代 大陸・朝鮮半島への大和の日本海側玄関口として「輝いた北近江・若狭」の時代でもある。

文物ばかりでなく、数多くの人たちが行き来し、新しい文化・技術が息づき、交易を生業として 大陸・日本各地をめぐる担航海術にたけた人たち海人族と呼ばれる人たちが活躍し、この海人族や渡来人が朝鮮半島・大陸と日本の交流を支え、日本各地に文化・技術を伝え、日本の国づくりに大きな役割を演じつつ、日本各地に定住していった。  
北近江・若狭にもそんな人たちが数多くおり、大和との連携しつつ、大きな役割をしたと考えられている。  
北近江 安曇川はそんな海人族の人たちがいた痕跡が、安曇川の地名に残っている。

この時代の交易の中心は朝鮮半島の鉄素材。その鉄が若狭・北近江を通して、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作っていた。自分たちの町の祖先たちがその過程に大きな役割を果たしていたと考えてみてください。  
そんな「鉄」の景色のスライド集を最後に見ていただき、まとめとします。

### 【 プレゼン ベース資料 】

和鉄の道・Iron Road 製鉄関連遺跡探訪 Data Base 全リスト

◎ <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/ironalllist.htm>

1. 「和鉄の道・Iron Road」 北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk 5iron01.pdf
2. 「和鉄の道・Iron Road」 南北市糺(してき) 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」 11iron08.pdf
3. 「和鉄の道・Iron Road」 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」  
大陸・朝鮮半島の鉄をむ求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて 8iron09.pdf
4. 「和鉄の道・Iron Road」 古墳時代朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる 11iron10.pdf
5. 「和鉄の道・Iron Road」 愛媛大・今治市共同シンポジウム  
「鉄 と古代国家 今治に刻まれた鉄の歴史」 6iron15.pdf
6. 「和鉄の道・Iron Road」 古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術 7iron03.pdf
7. 「和鉄の道・Iron Road」 北近江 古橋製鉄遺跡(2005夏 青春18きっぷ 普通電車日帰りWalk) 5iron13.pdf
8. 「和鉄の道・Iron Road」 無手勝流で 鉄をキーワードに 弥生から邪馬台国・大和王権への変遷を整理  
2010年秋 関西各地の博物館特別展とシンポジウム & 連続講演会 聴講まとめ 10iron13.pdf



何処へ行っても だれとでも すぐ話ができる「鉄」  
 「たたら」を訪ねると 素晴らしい日本の景色 山・川・海 そして文化に出会えます  
 日本各地の製鉄遺跡・製鉄関連遺跡や「鉄」の伝承を訪ねてCountry Walkを楽しんでいます



弥生時代の終末期 卑弥呼の時代 また、大陸・朝鮮半島では戦乱の時代に  
 朝鮮半島の鉄が日本海交流の中心に 戦乱を逃れた多数の渡来人が文化・技術を伝える  
 大和の大陸・朝鮮半島への玄関口として 丹後・若狭が重要拠点

この大陸・朝鮮半島との交流を支えたのは誰か??  
 ⇨ 航海術に秀でた玄海灘の「海人」の集団の存在

航海術にすぐれ、朝鮮半島・日本各地を自由に行き来する集団  
 安曇族・宗像族

この人たちが 若狭・北近江へもやってきていた痕跡がある

- ◎ 若狭・近江に残る朝鮮系遺物や地名
- 鉄素材・新羅系遺物・地名など
- ・ 若狭の古地名「漢敷」
- ・ 地名 安曇川・和歌山・百濟・新羅 等々

ユーラシア大陸の西の端で生まれた人工鉄の製造法がユーラシア大陸を横断して 日本に伝わった。  
 ユーラシア大陸を横断する「絹の道 シルクロード」の前に「鉄の道 Iron Road」があり、そこでは 数々のドラマが繰り広げられ、東へ伝わってきた。  
 この鉄の道は 日本国内にはいっても 同じく 数々のドラマを展開してきた。  
 「ユーラシア大陸の西端から日本へ  
 『鉄の道』で繰り広げられた数々のドラマ」「日本誕生に関連しなかつた鉄を紐解いてみたい。」

「鉄の道」を持ち出すだけで、必ずと言っていいほど 話が弾むのが 面白くて もう かれこれ 10数年続いています。  
 ただ 日本に数回訪ねる製鉄遺跡を訪ね、其処にたずむるだけ「風景場のCountry Walk」ですが、素晴らしい日本の原風景・四季に出会える素晴らしい日本の原風景・四季に出会えるとともに、「たたら」製鉄・「鉄の道」が見せる顔には、現代の知恵に通ずるものが数多くあると、鉄の見える表情 まがしい「閃光とどろがぬの」閃光」 いまも こんな美しいものは無いと思っています。  
 2008.4.23 Mitsu/Mikanishi

北近江・若狭にも そんな鉄の痕跡 和鉄の道を訪ねて 何度が訪ねました  
 鉄の作った風景の話はあとで スライドでお見せして、 本題の話に……

### 日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ「海人」の集団

#### 安曇族の関連地

この「安曇川」も関連地と言われる

筑前国糟粕郡安曇郷(福岡県) 伯耆国余見郡安曇郷(鳥取県) 美濃国厚見郡厚見郷(岐阜県) 三河国渚美郡渚美郷(愛知県)……

「アヅミ」は、阿曇・安曇・厚見・厚海・渚美・阿種などと表記され、足跡は瀬戸内海を經由し阿波 淡路 播磨 摂津 河内 近江などに及び、琵琶湖西側には安曇川の地名を残している。

#### 各地で住み着いた安曇族の謎?

安曇族を遡るロマン  
 日本各地で、何のために? 何をしたのだろうか?

「アヅミ」の分布  
 阿曇(阿波) 阿曇(淡路) 阿曇(播磨) 阿曇(摂津) 阿曇(河内) 阿曇(近江) 阿曇(美濃) 阿曇(伯耆) 阿曇(筑前)

熊野本弥生遺跡・熊野本古墳群  
 鉄素材出土の東海遺跡  
 初期の前方後方墳 東海とゆづりあが  
 3世紀の前方後円墳群

田中古墳群 56世紀  
 熊野本弥生遺跡  
 「意匠入」(口・脇・柄)の意

三尾里 安曇川駅

鴨稻荷山古墳

北近江・若狭の話をする前に 私の視点 安曇川

遺跡の概要

鴨稲荷山古墳群の最高部即興の円形土壇に位置し、遺跡の中心には、幅約10m、長さ約20mの石室が埋蔵されています。

鴨稲荷山古墳群の最高部即興の円形土壇に位置し、遺跡の中心には、幅約10m、長さ約20mの石室が埋蔵されています。

遺跡の概要

鴨稲荷山古墳群の最高部即興の円形土壇に位置し、遺跡の中心には、幅約10m、長さ約20mの石室が埋蔵されています。

遺跡の概要

鴨稲荷山古墳群の最高部即興の円形土壇に位置し、遺跡の中心には、幅約10m、長さ約20mの石室が埋蔵されています。

大和との関係が深、前方後円墳から  
 新羅系の数々の副葬品が出土

鴨稻荷山古墳

北近江 安曇川 鴨稲 鴨稻荷山古墳

6世紀前半の前方後円墳 この地の豪族三尾氏の墳墓

北近江・若狭の話をする前に 私の視点 安曇川

### 北近江・若狭の話をする前に 私の視点 安曇川

琵琶湖北の湖畔 安曇川の北側に広がる新羅鴨稲野本古墳群 2008.9.1.  
 丘陵地中央下段(C06)の丘が熊野本弥生遺跡と熊野本古墳群

BC1~AC1世紀 鉄線工原があったと推定される弥生の集落があり、  
 大量の鉄遺物と また製鉄が始まって、V.III.時期 朝鮮半島から持ち込まれた鉄素材が出土  
 3世紀 卑弥呼の時代 東海に先立つ初期の前方後方墳が出土(熊野本6号墳)  
 また数多くの古墳前期~中期の前方後方墳があり、弥生末に引続きこの地の首長とみられる

北近江・若狭の話をする前に 私の視点 安曇川

**古代 近江には数多くの渡来人がやってきた**  
 大和の日本海側河口部数の河川が存在  
 小浜  
 この渡来人たちは 近江で何をしたのだろうか・・・  
 また この多数の渡来人を運んだ人たちがいた  
**安曇川●**

大和

北近江・若狭の話をする前に 私の視点 安曇川

近江の渡来民族分布図

近江の製鉄の経路

**鉄をキーワードに古代の若狭・近江を眺める**  
**日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ海人族**  
**安曇族の関連地**  
 筑前国糟屋郡安曇郷(福岡県)、伯耆国会見郡安曇郷(鳥取県)、美濃国厚見郡厚見郷(岐阜県)、三河国渚美郡渚美郷(愛知県)・・・  
 『アツミ』は、阿曇・安曇・厚見・厚志・渚美・阿積などと表記される安曇(阿比)・阿比内郷を經由、阿波、淡路、播磨、摂津、河内、近江などに及び、琵琶湖西側には安曇川(おこづがわ)の地名を類している。

**各地で住み着いた安曇族の謎?**  
 安曇族を遡ろマン  
 日本各地で 何のために? 何をしたのだろうか?

北近江・若狭の話をする前に 私の視点 安曇川

**「和鉄の道・Iron Road」から見た日本製生煎夜の北近江・若狭**

- 北近江・若狭が輝いた時代
- 大和王権の成立前夜 大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族  
 近江安曇川(おこづがわ)の地名の元となった海人族「安曇族」
  - 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる
    - 安曇川の古岸 琵琶湖を見開くす壁野丘丘陵の麓 BC1世紀～古墳時代 北近江の中心地 多量の鉄素材を出した 熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群
    - 5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 総穴古墳群  
 丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江
    - 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す 若狭 遠敷川(おこづがわ)「鉄の瀬の水送り」
  - 近江は鉄の国 7-8世紀 古代の近江で育てられた量産型たたら製鉄  
 東北九州・新潟(越)など 古代の重要拠点での古代製鉄コノナートのベースを作った
- わたしのLife work 「和鉄の道・Iron Road たたら製鉄遺跡探訪 スラッパ」 約5分
- 弥生末期から古代魚貝時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品「鉄」その歴史を日本に持ち込んだ航海船に上陸した海人族・渡来人たち。その歴史が若狭・北近江を流れて、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作った。自分たちの誇りの地だから それに誇りを抱き継ぎたいと決意を固めてみてほしい。そんな「鉄」の歴史のスラッパ集をお見せしたい。

**日本黎明時代の日本海交流**

周囲を海に囲まれた日本 安曇・宗像など「海人」の集団の前 縄文時代から琉球から北海道まで日本の沿岸交流は盛んに行われた

- ◎ 縄文時代から 日本海沿岸では相互に活発な交流・交易がおこなわれた 翡翠・漆・黒曜石・漆ほか
  - ◎ 弥生時代から古墳時代には北部九州・朝鮮半島・大陸を含む一つの交易圏 数多くの文物が伝来し、日本各地に伝播して行った 鉄・穀物・勾玉・織物ほか
  - ◎ 弥生末期から古墳時代、朝鮮半島・中国は戦乱の時代 数多くの渡来人が何度も海を渡って日本にやってきた
- これら大陸・朝鮮半島と日本各地を結ぶ航海術にたけた人々 北部九州を拠点とする「海人」集団の存在



**日本黎明時代の日本海交流**

縄文～弥生時代そして古代へ 日本海交流

**日本黎明時代の日本海交流**

日本海沿岸の交流を語る数々の伝承・説話が残っている



**若狭 鳥浜貝塚遺跡から出土した丸木舟**

若狭町内では 鳥浜貝塚から2艘、ユリ遺跡から4艘、合計6艘の縄文時代の丸木舟がみつかっています。これらが見つかったのは縄文時代前期(約6300年前)から晩期(約2800年前)にわたっています。



**黒曜石とサヌカイト**

鳥浜の縄文人達の生活にも、鋭利な石の刃は欠かせないものだったでしょう。彼らもまた、良質の石材を求めて、遠方まで陸路、時には丸木舟に乗って三方湖から氷月湖、菅湖から久々子湖に抜け若狭の海へ漕ぎ出したのではないのでしょうか。我々の想像以上に縄文の人々は移動と交易を繰り返していたのでしょう。





活発な交流の中で 数多くの文物が日本に伝来したが、中心だったのは 朝鮮半島の「鉄素材」  
製鉄がまだできない倭では 鉄素材の供給を朝鮮半島に頼っていた

邪馬台国連合の鉄は 北部九州に廻らされていた  
この朝鮮半島の鉄の安定供給路の獲得であったという

魏書に記載されている弥生時代末 3世紀頃の倭と朝鮮半島の交流

魏書(286)に書かれた魏国通記事

■「魏志 東夷伝 弁辰条」

国出鉄、韓、濠、倭皆從取之、諸市皆用鉄、如中國用貨、又以供給二郡、

国、鉄を出す。韓、濠、倭 皆従がいて之を取る、貨幣がわりに鉄を用いる、また以て二郡に供給す

■「魏志倭人伝」

自女王國以北、特置一大率、檢察諸國、諸國畏懼之、常治伊都郡、於國中有利刺史、  
王遣使詣京都、帶方郡、諸韓國、及郡使後國、皆臨津樓、傳送文書、賜遺之物、詔女王、不得差錯、  
女王國の北方の諸國には「一大率」という官が置かれて国々を監視している、  
一大率は伊都郡にあり、魏の刺史のような役目を果たしている、  
伊都郡は外交の中心地で魏や韓の国々の使節はここに停泊して文書や贈物の点検を受けて女王に送っている、

この朝鮮半島・大陸と日本各地との交流を担った

航海術にたけ、大陸・半島と日本各地を自由に行き来した「海人」集団

「南北市糶」交易を生業とする人たちが玄海灘・北部九州にいた

安曇族・宗像族とよばれる海人の集団

大陸・半島への水先案内人であり、日本各地に大陸・朝鮮の文物を日本に持ち込んだ  
また、渡来人やこの海人族が日本各地に進出し、新しい技術・文化を伝えていった

倭人伝 奄岐・対馬の記事の中に「南北市糶」という言葉が出てくる、

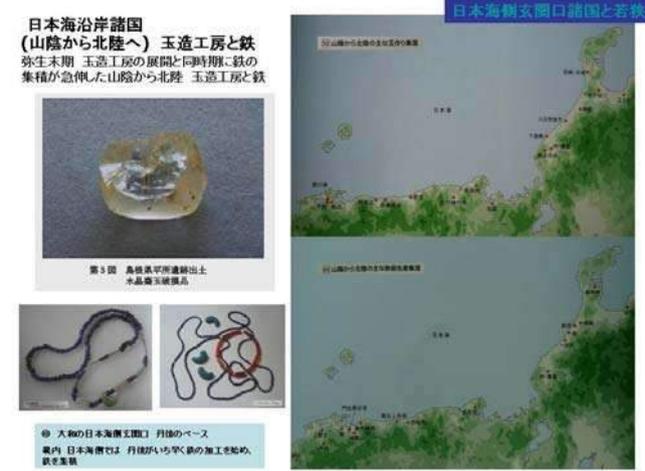
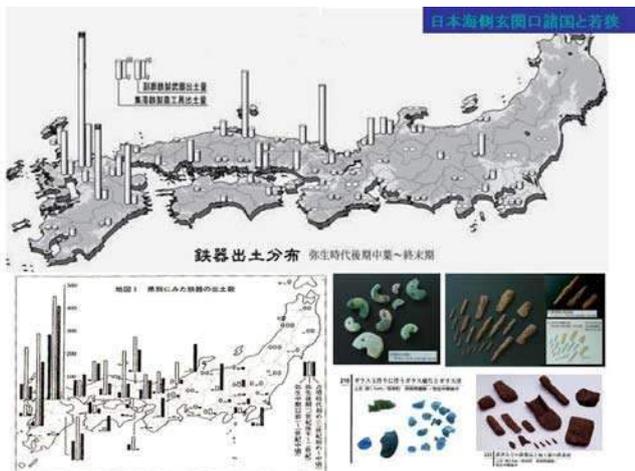
「糶」とは何と読むのか不思議で 読めなかった漢字、「市」は読み、「糶」を置き入れる」ということから「交易」を意味するといふ、

< 対馬 >

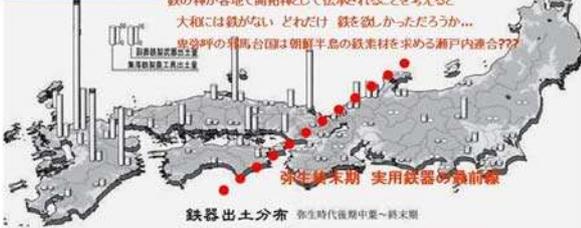
「始度一海千餘里至對馬國 其大官曰卑彌日卑奴母羅 所居絶島方可四百餘里  
土地山險多深林道路如鳥道 有千餘戶無良田食物自活粟船南北市糶」  
始度一海を渡る千余里、対馬国(対馬)に至る、其の地を絶島といふ、島を絶島母羅(ひなもり)といふ、  
島を所絶島、方可百余里ばかり、土地山険く、深林多く、道路は鳥道の如し、  
千余戸あり、良田なく、食物を獲て自活し、船に乗りて南北に市糶して居す、

< 奄岐 >

「又南渡一海千餘名日瀧海至一大國 官亦曰卑彌日卑奴母羅 方可三百里  
多竹木叢林有三千 家差有田地耕田猶不足食亦南北市糶」  
また南一海を渡る千余里、名づけて瀧海(ひなかい)といふ、一大国(奄岐)に至る、官また卑弥日  
といひ、島を卑弥日國といふ、方可三百里ばかり、竹木叢林多く、三千(ばかり)の家あり、やや田地あり、  
田を耕せどもお食するに足らず、また南に市糶す、



日本海側玄関口諸国と若狭



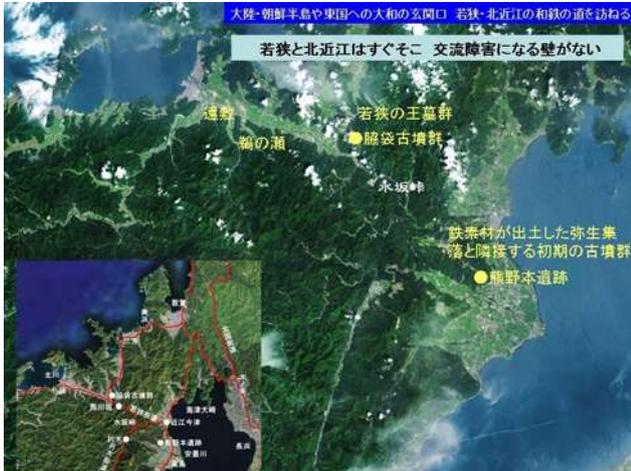
2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる
- 2.1. 安曇川の沿岸 琵琶湖を遡る可斐野行跡  
多量の鉄素材を出土し、熊野本弥生集落跡と古墳時代前期の古墳群や野中古墳群
  - 2.2. 5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 脇袋古墳群  
丹波にどってつづった大和の玄関口 若狭/北近江
  - 2.3. 若狭と大和でして 朝鮮半島交流の道、開港を示す
- 4世紀の丹波から 5世紀 東国への交通路が重要になり、玄関口が若狭へ



大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる

卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」  
大陸・朝鮮半島の鉄をもとめて続く若狭・北近江の「和鉄の道」

- 北近江 高島市 新旭町「熊野本遺跡」 BC1～1世紀  
北近江安曇川の北岸に連なる琵琶野丘陵の南端 熊野本にある弥生の高地性集落 大量の鉄素材を大陸から持ち込んでいたといわれる。琵琶湖の北岸北近江から日本海沿岸・大陸への玄関口「若狭」へ向かう山越えの入り口に当たり、眼下に広がる高島平野と琵琶湖を一瞥できる。  
鉄の畿内流入の重要路で、早くから開かれた地であろう。この地に弥生の大きな集落があり、入手した鉄を鉄器に加工していた。  
そして、この弥生の集落が消える時期を同じくして、この地の王たちの墳墓が築かれる。
- 北近江 高島市 新旭町「熊野本古墳群」(熊野本遺跡の隣接地)  
3世紀 古墳時代安曇川の地を支配した王が、琵琶湖を見下ろす熊野本遺跡の跡地に築いた王墓群  
初期前方後円墳、後方墳など大和との密接な関係・鉄製品や朝鮮系遺物の副葬など大和「鉄の道」北の玄関口の守りの王の色彩が濃く、この地が重要拠点だった証拠だろう。
- 若狭 若狭町 上中町 脇袋「脇袋古墳群」 5世紀  
若狭から北近江へ通る北川右岸の丘陵地に初期前方後円墳など大和との密接な関係を示す古墳群が築かれ手いる大和「鉄の道」北の玄関口 若狭の出入口であるこの地の王墓群、大陸と大和を結ぶ重要路を守る地域首長の色彩が濃く、大和がこの地、この道を重要視していた痕跡だろう。



北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀





熊野本遺跡東南の端は崖になっていて、そこからは眼下に広がる新地の家並み・高島平野が越境が見渡せる

出土した「鉄山」は 板状鉄素材や鉄屑など30.6以上、鉄素材は長さ23cm 幅約3cm厚さ約3mmのもの96で、加工した鉄の多いものも認め、この地で天竺から来た鉄素材を使っての鉄器の加工・製作が行われていた可能性があると教えてもらったが、鉄素材・鉄屑の真物を見ていないので、実用品がつかわれていたかどうか...は定かではありません。  
でも、天竺から日本海沿岸まで運んで若狭の地に届けられた鉄が、すぐ近くのこの場所でも鉄器に加工。この鉄器の運れが、天竺への鉄の道の始まりと考えると楽になる。  
天竺の南のほうに1人1人に集った時代から、大陸・朝鮮半島から日本海沿岸・若狭まで運んで日本の中央・畿内へ入る鉄の道があり、それが北九州に付いて天竺と連絡の道を行き交ったのかもしれない。  
天竺・北近江という2つに古代・漢人・倭人天竺の高層が持ち出されるが、そのもとと前からの地は中央を流れる重要な道だったのだらう。

古代の和鉄の道 近江から若狭へ

北近江に前方後円墳が築かれた5世紀 同じ時代に日本海側へ山を越えた若狭にも数多くの古墳が築かれ、多数の人・文物が行き交う隆く時代があった



小浜から水坂峠越 琵琶湖へ続く道

大陸・朝鮮半島への玄関口 若狭 遠敷の湊(現在の小浜港) と若狭国の繁栄 5世紀

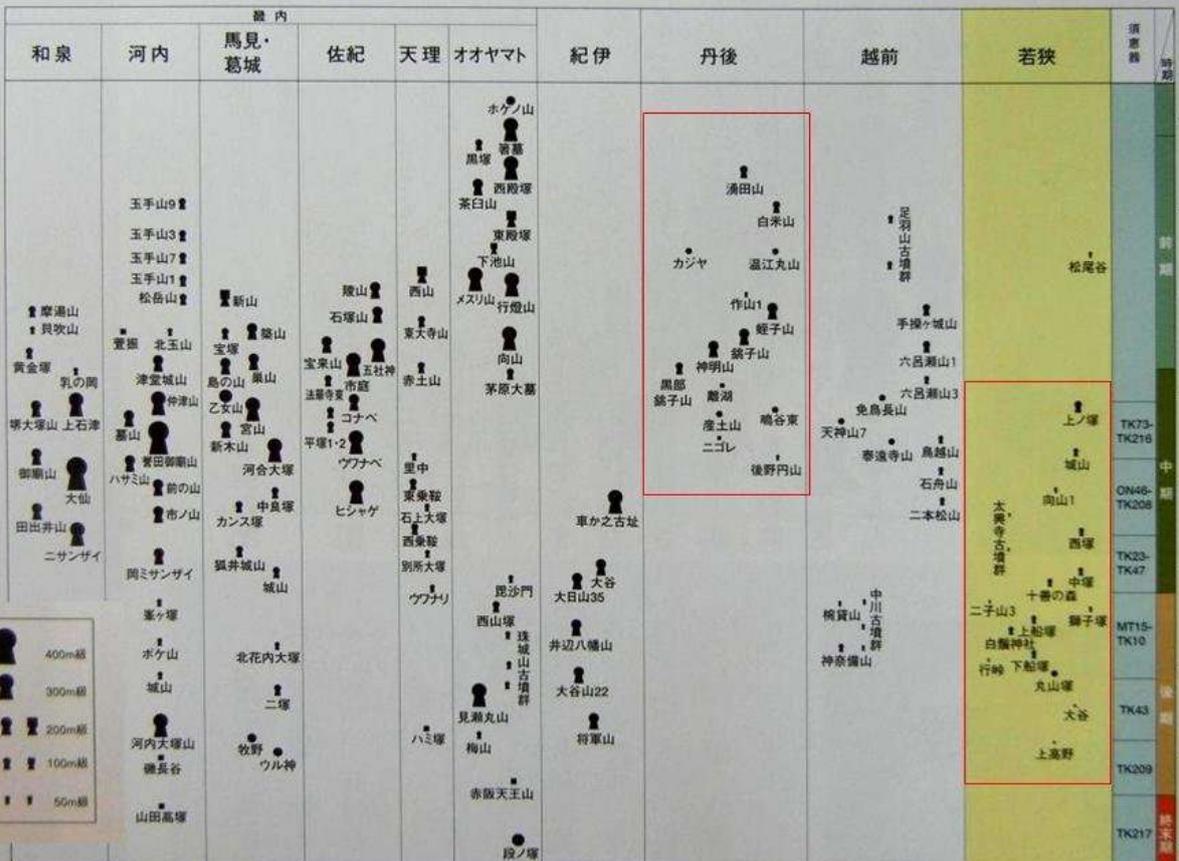


若狭地方の主要古墳位置図

若狭地方の主要古墳位置図 5世紀頃 近江からの出口上中町に古墳が集中



畿内とその外縁湾岸地域の古墳編年表



畿内の巨大な前方後円墳に葬られた人物が大王と考えられます。それらは大和→河内→和泉→大和へと移っていきます。周辺の地域の動向は、密接に関わっています。

(高橋克壽氏作成)

北川の北岸 古代大和の鉄の道をとおさる若狭首長墓群 脇袋古墳群 5世紀

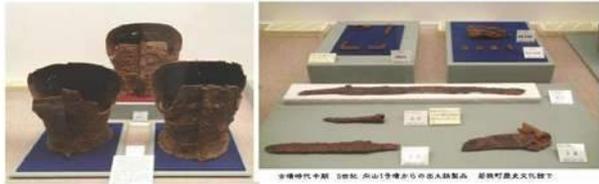
若狭町 上中町 脇袋 2008.7.1.



若狭 脇袋古墳群 5世紀

若狭 脇袋古墳群 5世紀

● 日本最古の横穴式石室 5世紀半の前方後円墳 向山1号墳  
脇袋古墳群の西150mの尾根上に造られた前方後円墳で、日本最古の横穴式石室を持ち、韓国あるいは九州から伝わったと考えられている。中規模ながら2段に造られ、墓石・埴輪を備え、数多くの鉄器など多彩の副葬品が出土した。



若狭 脇袋古墳群 5世紀



若狭 脇袋古墳群 への入口

若狭 脇袋古墳群 5世紀

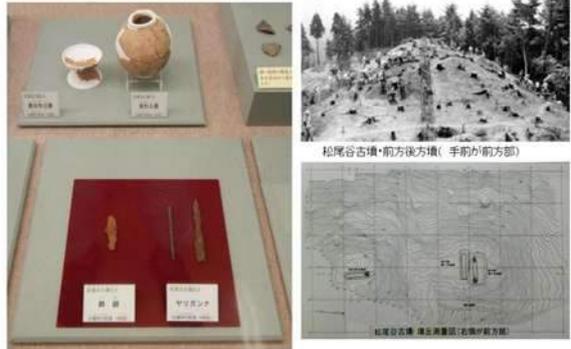
古代大和と同関係付けられる5世紀の前方後円墳・前方後円墳が点在する脇袋の夏  
北川の北岸 古代大和の鉄の道をとおさる若狭首長墓 脇袋古墳群



左面に西塚古墳、その奥に上ノ塚古墳、中塚古墳が見える。西に開け、南には若狭街道。北側が眺められる膝部山の山麓から土を運ばれた土間に古代若狭街道を納めたこの地の首長墓が散在する。地図の印通し 鎌倉《かしのわのあみ》一帯の墓といわれる。

若狭 脇袋古墳群 5世紀

● 松尾谷古墳 4世紀後半 若狭で最も古い時代に造られた前方後円墳



古墳時代前期 4世紀 物見谷古墳出土品  
若狭町歴史文化館で  
若狭で前方後円墳に先立ち4世紀前半に造られた前方後円墳 松尾谷古墳。若狭町南前川村松尾谷の尾根にあり、若狭に於ける最初の地域首長墓である。前方後円墳は初期大和政権との結びつきが強いのか、下位に位置づけられる場合の古墳形式であるが、大和政権と若狭との連携の始まりを示している。主体部は3つ、それぞれ木棺が置かれ、出土したものでヤリガシナ・碧玉製玉珠刺、鉄槌、鉄鋸などが知られている。しかし、すでに水源地建設の為、消滅しているという。

若狭 脇袋古墳群 5世紀

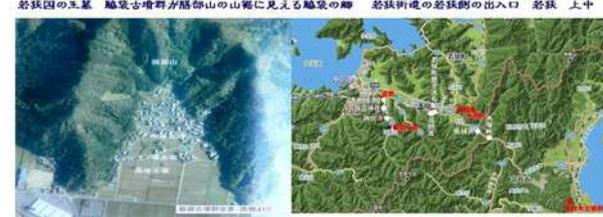
● 西塚古墳 脇袋古墳群 5世紀後半の前方後円墳



脇袋古墳群にある6世紀後半の前方後円墳で、横穴式石室を持ち、大陸の影響を受けた形態をしている。前方後円墳の中央部の土が壊され、現在は後円部と前方部を残すのみとなっているが、金製耳飾り・埴輪・金銅製等金具・鉄器・銅鈴・馬具・貴など多彩な副葬品が出土した。



若狭 脇袋古墳群 5世紀



若狭町の王墓 脇袋古墳群が膝部山の山麓に見える脇袋の脚 若狭街道の若狭側の出入口 若狭 上中

若狭 脇袋古墳群 5世紀



上ノ塚古墳 5世紀の前方後円墳 若狭地方最大級の前方後円墳  
全長 約90m 後円部長 51m 高さ 30m 前方部幅 46m 高さ 7m



上ノ塚古墳は、若狭に於ける最初の大首長墓で、南流・墓石・埴輪を備え、3段築成である。



### 奈良 東大寺二月堂の修二会・お水取り

この法会は、もとは旧暦の2月1日から行われていたもので、二月に修する法会という意味をこめて「修二会」と呼ばれるようになりました。また二月堂の名もこのこと由来しています。現在では3月1日より2週間、行中の3月12日深夜(13日の午前1時半頃)には、「お水取り」といって、若狭井(わかさい)という井戸から観音さまにお供えする「お香水(おこうずい)」を汲み上げる儀式が行われます。また、この行を勤める練行衆(れんぎょうしゅう)の道明かりとして、夜毎、大きな松明(たいまつ)に火がともされ、参集した人々をわかれます。このため「修二会」は「お水取り」「お松明」とも呼ばれるようになりました。



その由来は、福井県小浜市の遠敷川の神水を遠敷明神が二月堂の観音に送水し、この御加水(あかみず)をくむ行事で、二月堂を開いた実忠和尚の勸請と伝えられている。

「修二会」の法要は、正しくは「十一面観音(じゅういちめんが)」といひ、十一面観世音菩薩(じゅういちめんがんぜおんぼんざつ)を本尊とし、「天下泰平(てんかたいへい)」「玉鏡豊穰(ごこほうじょう)」「万民快樂(ばんみんけらく)」などを願って祈りを捧げ、人々に代わって懺悔(さんげ)の行を勤めるものです。前行、本行をあわせてほぼ1ヶ月、準備期間を加えれば3ヶ月にも及ぶ大きな法要となります。



東大寺 二月堂と醍醐井(あかい)屋・若狭井 2011.11.25.

この醍醐井屋(あかい)は修二会に際し、毎年3月12日(13日午前1時過ぎ)にこの屋内にある鎮座より本尊十一面観音菩薩にお供えする御香水を汲む儀式を行うところである天平勝宝四年(752)実忠和尚(かしょう)が二月堂で初めて修二会を行ひ諸神を勧請(かんじょう)した際、若狭国の遠敷明神が献じたものであるところから、若狭井とも呼ばれる

東大寺



2月堂 お水取り・おたいまつ



二月堂の背後の山腹にある遠敷神社 遠敷神社は飯道神社、興成神社と共に二月堂の鎮守である。

### 大陸・朝鮮半島から大和へと続く東アジアの文物交流路・和鉄の道 その日本海側窓口「若狭」の実像が見えてきた



3. 近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄  
鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った

7・8世紀 近江の鉄

近江は古くから鉄鉱石の産地でもあり古代の近畿最大の鉄生産国でもありました。「砂鉄の採れる出雲や吉備、播磨などが先進地だと考えられがちですが、良質の鉄鉱石が採掘できた近江が鉄製産技術を確立し、60ヶ所以上の製鉄遺跡が発見されています。

特に北東の伊吹山・金鷲山、湖北のマキノ、西浅井 比良には多くの遺跡があり湖北は重要な鉄の拠点になっていたとおもわれます。

日本で製鉄が始まったのは6世紀の初め頃。  
北近江 木之本の古橋製鉄遺跡は 周辺の鉄鉱石を使っていち早く製鉄をはじめています。

もう一つ 近江の鉄でのトピックスという 琵琶湖の南東岸の瀬田丘陵では7・8世紀にかけて、国家プロジェクトとして、幾つも同じたたら炉が立ち並ぶ並ぶ量産技術に確立し、量産型の製鉄コンビナートに仕上げました。(野路小野山製鉄遺跡)そして、この製鉄コンビナートをモデルに 鉄を大量に必要とする東北・北九州に古代の大製鉄コンビナートがつけられてゆきました。

これら 製鉄技術の確立には 製鉄技術を持った朝鮮半島の数多くの渡来人がかかわっていたと考えられ、若狭の湊から北近江を通して 入ってきた渡来人が、近江のたたら製鉄技術を支えたと考えられる。

琵琶湖北東部を勢力圏とした息長氏(おきなが)と、琵琶湖西岸を拠点とし勢力を張った和邇氏 そして安曇川の安曇集団もかかわっていたかもしれません。



近畿で一番古い 北近江 古橋製鉄跡



図1 滋賀県の製鉄遺跡の分布



瀬田丘陵 木瓜原遺跡のイラスト図



野路小野山遺跡

近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

中国山地で始まった たたら製鉄 が 7世紀 畿内でも量産炉へと展開

古代たたら製鉄 量産炉への変遷を示す 近江 瀬田丘陵 最古の箱型製鉄炉 源内峠製鉄遺跡 2007.1.30.



古代 たたら製鉄 箱型炉の変遷 製鉄開始から大型・量産炉へ

中国山地で6世紀 箱型炉による製鉄ガスタート		近江など畿内で量産・大型炉がはくまれる		量産モデル炉による官営製鉄コンビナートへ	
石見 今狭山 製鉄遺跡 6世紀後半 45cm×45cm 自然通風・皮吹き	吉備 大蔵池南製鉄遺跡 6世紀後半 50~60cm×100~120cm 自然通風・皮吹き	古橋製鉄遺跡の箱型炉 7世紀前半 50cm×2m 自然通風・皮吹き	源内峠製鉄遺跡の箱型炉 7世紀後半 0.3~0.6m×2m~2.5m 自然通風・皮吹き	近江 野路小野山製鉄遺跡 8世紀 約1.2m×約2m 人口送風 踏鞴	陸奥 金沢製鉄遺跡 8世紀 60cm×2m 人口送風 足踏鞴
石見 今狭山 製鉄遺跡	吉備 大蔵池南製鉄遺跡	古橋製鉄遺跡の箱型炉	源内峠製鉄遺跡の箱型炉	近江 野路小野山製鉄遺跡	陸奥 金沢製鉄遺跡





# 11月 平城京 朱雀門のすぐ前から 奈良時代初期8世紀の大きな鍛冶工房が出土した 平城京造営の釘や鉄製の工具を造る鍛冶工房とみられている

この鍛冶工房に鉄素材を提供したのはどこか??

鉄の量産技術を確認した近江がこの鉄素材を供給した可能性は高い

## 平城京で最大規模の鉄鍛冶工房跡 朱雀門や宮に鉄製品供給か 2011.11.17

朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した遺跡。炉の跡や金床石（中央の出っ張った岩）などが見つかっていることから、工房のような建築物の跡とみられる。

奈良市の平城京跡の朱雀門前で、奈良時代前半（8世紀前半）の鉄鍛冶（かじ）工房跡とみられる3つの建物跡が見つかり、奈良文化財研究所（奈文研）が17日、発表した。平城京エリアでは最大規模の工房群という。

平城宮の正門・朱雀門の周辺は当時の一等地で、奈文研は「平城京の造営期に朱雀門や宮内に鉄製品を供給していた可能性が高く、遷都直後の京の様子を知る貴重な資料」としている。

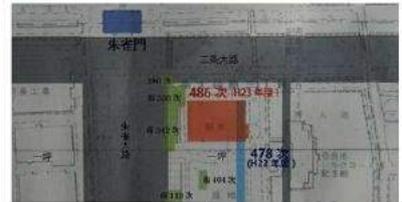
工房群跡は、朱雀門の南東約100メートルで見つかり、今年3月に出土した六角形の大型井戸跡に隣接。周辺から大量の炭を含む、焼け焦げた炉跡が約50基出土した。炉跡は地面を掘った直径30～40センチの円形で、鉄くぎや、鍛冶や金属加工に使う金床石（かなとこいし）や砥石（といし）、製錬などで生じる鉄滓（てっさい）と呼ばれる不純物も確認された。

さらに、工房は早期に埋め戻して整地され、更地は広場として利用された可能性が高いという。また、井戸からは「天平二年」（730年）と書かれた木簡や「右相撰（みぎのすまい）」と記された墨書土器も出土し、井戸は工房が役目を終えた後に掘られたことも判明した。

奈良大の酒井龍一教授（考古学）は「資材供給の合理性を考えればこれ以上適した場所はなく、工房自体が公共的なものだったと考えられる」と話している。



朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した遺跡。



## 日本黎明期 北部九州の「鉄」に対して 大和の対抗軸は何なのだろうか?



# 国内最大級の耕地面積をもつ弥生時代 前期の水田遺構が出土

## 大和の国力の源泉「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」

### 奈良・中西遺跡：弥生前期最大の水田跡 2千枚 高い計画性と技術

2011年11月9日 1時31分 インターネット 毎日JP・Asahi.com より整理

奈良県立橿原考古学研究所は11月8日、同県御所市條の中西遺跡で、弥生時代前期(約2400年前)としては国内最大の水田跡(約2万平方メートル)を発見したと発表した。

水田が河川の氾濫による土砂で埋まった後、大規模開発などが行われなかったため地中に残っていたとみられ、橿原研は「当時の水田開発の仕方が非常によく分かる発見」と評価している。

発掘調査は京奈和道のインターチェンジ工事に伴い今年4月から約1万3500平方メートルで行われている。

同遺跡は緩やかな傾斜地。水田跡は約850枚あって、いずれもあぜ道で細かく区切られ、1枚あたり東西4メートル、南北3メートルほどの小さなものが多かった。

水田に水をためるためには、地面を水平にする土工が必要で、橿原研は「1枚あたりの面積が小さいのは、土工の労力を抑えるためでは」とみている。今回の調査では、水田跡が約9000平方メートル見つかると、過去の調査で確認された約7000平方メートルに加え、隣接地で継続中の発掘調査でも現時点で約4000平方メートルを検出。合わせると約2万平方メートルになるという。これまで弥生時代前期の大規模な水田跡としては、服部遺跡(滋賀県守山市)が約1万8700平方メートルで最も大きく、次いで池島・福万寺遺跡(大阪府八尾市・東大阪市)の1万8000平方メートルだった。「自然地形に合わせて大規模に水田を造るのは弥生中期や後期のパターンと同じ。前期の段階から大規模な水稲農耕が行われていたことが裏付けられた」という。



弥生時代前期 国内最大の水田跡  
奈良県御所市の中西遺跡

弥生前期の水田跡 御所市條 中西遺跡 Asahi.com 2011年11月9日より  
「自然地形に合わせて大規模に水田を造る水稲農耕が弥生前期の段階から行われていた」という裏付け  
大和は早くから 大規模水田が広がる穀倉地帯 ???



見つけた弥生前期の水田跡。あぜに沿って白線が引かれている  
=8日、奈良県御所市、朝日新聞社へりから、小林裕幸撮影  
中西遺跡の水田跡。あぜに沿って白線が引かれている  
=8日、奈良県御所市、中里友紀撮影  
Asahi.com 2011年11月9日より



中西遺跡 京奈和道の御所南ICインターチェンジ工事が進む御所市條周辺

### 中西遺跡の直ぐ北から縄文の翡翠 秋津遺跡

最近の和鉄の道 トピックスから

長大な溝で囲われた4世紀前半の方形区画跡・その下層から縄文後期の翡翠が出土  
また、ここを本拠とする細城氏の中核をおもむく方形区画と独立棟持ち柱の遺構が出土  
この周辺には縄文時代からずっと、各地との交通路があった開けた肥沃の地

橿原研は2011年8月、御所市の秋津遺跡で確認されていた古墳時代前期(4世紀)の遺跡のうち8棟が、建物の外に壁柱を支える柱のある「独立棟持(むな)ち柱建物」だったと発表。  
独立棟持ち柱建物は「神殿」との見方があり、8棟の場所は単に囲まれた国内最大規模の区画跡内(最大南北90メートル、東西48メートル以上)であることから、「祭儀を執り行った特別な空間の可能性もある」としている。  
橿原研によると、各棟は60〜100年の間に建て替えられ、すべてが同時期に存在したわけではないが、古墳時代の遺跡で8棟も独立棟持ち柱建物が確認された例はないという。  
また、区画跡跡の南側に壁柱20棟が断片的に見つかった。  
壁柱は遺跡と方形区画跡跡の間には幅3メートルの溝があり、橿原研は「居住と祭儀の空間が明確に分けられていた」としている。  
5世紀に大和政権の中心を移したとされる古代武庫-葛城氏との関連が指摘されている。  
また、古墳時代の遺構が出土した土層の下層から、縄文時代後期後半(2800〜2500年前)の首飾りの一部とみられる赤糸川産と推定される翡翠(長さ約4センチ、太さ約2センチ)が見つかった。  
この地は縄文人が居て、新石器系魚川につながる交通路がこの地にあった可能性も否定できない。



秋津遺跡で見つかった翡翠の碧玉 長大な溝で囲われた4世紀前半の方形区画跡跡が見つかった秋津遺跡

### << まとめ >>

### 日本海側の玄関口諸国と若狭

数多くの技術系渡来者・各地の人たちがやってきて、大陸・朝鮮半島との交流  
文化・技術を伝え、日本国を作り上げていった  
そんな輝く時代が北近江・若狭にありました

そんな大陸・朝鮮半島交流を担った、海人集団の日本各地に数々の遺跡を残し、安曇川にも...



### << まとめ >>

数多くの技術系渡来者・各地の人たちがやってきて、大陸・朝鮮半島との交流  
文化・技術を伝え、日本国を作り上げていった  
そんな輝く時代が北近江・若狭にありました

- 日本誕生の時代 大和の日本海側玄関口として、大きな役割を演じた北近江・若狭 遠敷の漆と東大寺・渡来者そして船袋古墳群など大和との強い結びつき
- 熊野本遺跡や若狭にある初期の前方後墳の存在は 東海とつながりを示す 東国への入口、渡来者・海族の人たちが技術・文化を各地へ運んだ
- 近江は鉄の国・製鉄技術の先進地として、たたら製鉄技術を高め、各地へ技術移入

古代の北近江 安曇川にも、そんな国際感覚の人たちが住み 積極的な交流を推し進めたのだろう。 その中心に鉄があったかもしれないと...

近江・若狭を通る和鉄の道が、今後 鉄の謎を解き明かし、また 卑弥呼・日本誕生の謎を解き明かしてくれるかもしれないと思っています

そんな鉄を乗せ、つれづれ各地を風来坊 Country walk  
兼道ししい鉄の奥色夜寝なます

©2011.12.1 by Mutsu Nakanishi



弥生末期から古代奈良時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「朝鮮半島の鉄素材」  
その鉄を日本に持ち込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たちがいた。

古墳時代から古代 大陸・朝鮮半島への大和の日本海側玄関口として「輝いた北近江・若狭」の時代でもある。

文物ばかりでなく、数多くの人たちが行き来し、新しい文化・技術が息づき、交易を生業として 大陸・日本各地をめぐる担航海術にたけた人たち海人族と呼ばれる人たちが活躍し、この海人族や渡来人が朝鮮半島・大陸と日本の交流を支え、日本各地に文化・技術を伝え、日本の国づくりに大きな役割を演じつつ、日本各地に定住していった。  
北近江・若狭にもそんな人たちが数多くおり、大和との連携しつつ、大きな役割をしたと考えられている。

北近江 安曇川はそんな海人族の人たちがいた痕跡が、安曇川の地名に残っている。

この時代の交易の中心は朝鮮半島の鉄素材。

その鉄が若狭・北近江を通して、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作っていた。

自分たちの町の祖先たちがその過程に大きな役割を果たしていた。

そんな「鉄」の景色のスライド集を最後に見ていただき、まとめとします。

【 プレゼン ベース資料 】

1. 「和鉄の道・Iron Road」 北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron01.pdf>
2. 「和鉄の道・Iron Road」 南北市羅（してき） 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」  
<http://www.infokkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1109yayoiironroad.pdf>
3. 「和鉄の道・Iron Road」 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」  
大陸・朝鮮半島の鉄を求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて  
<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/iron4/0810wksa00.htm>
4. 「和鉄の道・Iron Road」 古墳時代朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる  
<http://www.infokkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1110wakasa00.htm>
5. 「和鉄の道・Iron Road」 愛媛大・今治市共同シンポジウム「鉄と古代国家 今治に刻まれた鉄の歴史」  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron15.pdf>

◎ 十分 話ができなかったことの図面

鉄の集積や古墳から垣間見える初期大和政権を形成した国々の相互関係  
若狭と丹後 出雲と北陸 若狭・近江と東海 そしてそれらと大和等々  
鉄から見た高地性弥生集落の分布変化が物語ることなど

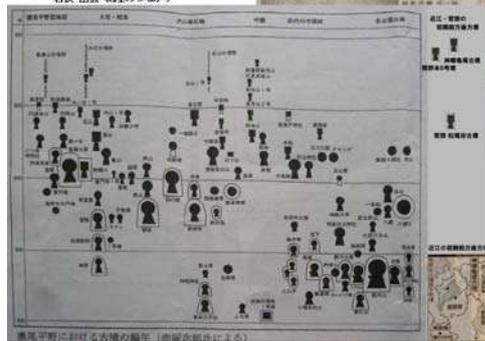


お話しできなかったことの補足

3-4世紀頃 若狭と東海の関係

前方後方墳は東海で発展し、主に北陸・関東へ広がりが、東海等がすたれた6世紀 突如 出雲で鉄の拡がりをみせる。広がり

若狭・出雲・北陸のつながり



畿内とその外縁沿岸地域の古墳編年表 若狭と丹後

地域	河内	高市郡	丹波	美作	出雲	北陸	近江	丹波	丹波	丹波
古墳	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

お話しできなかったことの補足

古墳の形から諸国の交流を考える

紀元後3世紀前半百長墓の形と分布

『古代国家』によって生まれた『都立古墳』と『日本列島』から『朝鮮半島』に運搬された。紀元後3世紀前半の百長墓の形と分布





# 和鉄の道 Iron Road 総覧

2012.1.15.作成

## 製鉄遺跡探訪 & 日本のルーツを訪ねて

### 和鉄の道 Iron Road 【I】 製鉄遺跡探訪 1995.10.-2000.5

- まえがき 「閃光」と「肌光」 鉄への思い jstla01.pdf  
 「和鉄の道 Iron Road 【I】」 口絵 jstla00.pdf  
     口絵 1. 現在も継承されているたたら製鉄  
     口絵 2. 絵図に描かれた「たたら製鉄」  
     口絵 3. 日本各地にある砂鉄  
     口絵 4. 和鉄の歴史 概観
- ピエローグ 「Iron Road 和鉄の道」 jstlaa00.pdf
1. 「和鉄 たたらとの出会い」 砂鉄が風紋を作る砂丘海岸 鹿島・波崎・九十九里 jstlaa01.pdf
  2. 土井が浜シンポジウム 渡来系弥生人 日本人の ルーツと和鉄の道の接点を求めて jstlaa02.pdf
  3. 岡山県富村 鍛冶谷たたら 鍛冶谷たたらと初花 jstlaa03.pdf
  4. 黄金吹く行方製鉄遺跡群 福島県 原町 蝦夷征伐の兵器庫 金沢製鉄遺跡 jstlaa04.pdf
  5. 古代鉄の大王国 山陰 伯耆国 溝口の鬼伝 説と大山山麓の大製鉄遺跡群 jstlaa05.pdf
  6. 古代鉄の大王国 津軽 岩木山北麓 鬼伝説と古代津軽の大製鉄地帯 jstlaa06.pdf
  7. 縄文人の心を映すストーンサークル 東北 秋田・青森のストーンサークル jstlaa07.pdf
  8. 弘前ねぶたと岩木山北麓 鬼伝説の里 鬼沢 鬼神 社・十腰内 巖鬼山神社を訪ねて jstlaa08.pdf
  9. 山口県のたたら遺跡 秋芳 河原 上製鉄遺跡・大板山製鉄遺跡 jstlaa09.pdf
  10. 古代鉄の王国 丹後 天女の通った道は和鉄の道 羽衣伝説 jstlaa10.pdf
  11. 丹後国 もうひとつの邪馬台国 大陸と日本 を結ぶ鉄の大加工基地 遠所製鉄遺跡 jstlaa11.pdf

### 和鉄の道 Iron Road 【II】 製鉄遺跡探訪 2001 & 2002 上

- 「和鉄の道 Iron Road 【II】」 口絵 jstlb00.pdf  
     口絵 1. 和鉄の技  
     口絵 2. 日本各地の鬼・鬼伝説
1. 古代鉄の大王国 播磨国 「千種鉄」「岩鍋」 古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地 jstlbb01.pdf
  2. 古代 出雲国 謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡 jstlbb02.pdf
  3. 久しぶりの房総 九十九里浜 砂鉄の浜 飯岡浜 jstlbb03.pdf
  4. 接着・接合の原点 縄文の石鏃についたアスファルト jstlbb04.pdf
  5. 発掘された日本列島 2001 展 接合・接着の原点 「漆」「アスファルト」 jstlbb05.pdf
  6. 鬼の住む山 大江山 鬼の伝説に「Iron Road」のロマンをかきたてて jstlbb06.pdf
  7. 日本人はるかな旅 日本の源流展 jstlbb07.pdf
  8. 岩手県北上川流域の製鉄地帯 一関博物館 蝦夷の蕨手刀と日本刀のルーツ 舞草刀 jstlbb08.pdf
  9. 高度な表面処理 鉄の熱処理伝来のルーツ 2000 年前 中国から持ち込まれた鉄斧 jstlbb09.pdf
  10. 日本各地の鬼伝説 鬼伝承の鬼は本当に悪者か???? jstlbb10.pdf
  11. 真金吹く 吉備国 吉備の鉄と桃太郎伝説 jstlbb11.pdf
  12. 第五回暦博シンポジウム 伽耶の鉄と倭国 jstlbb12.pdf
  13. 大和政権を支えた近江国の鉄 瀬田丘陵の製鉄地帯 jstlbb13.pdf
  14. 信州 佐久町 茂来山製鉄遺跡 jstlbb14.pdf

和鉄の道 Iron Road 【Ⅲ】 製鉄遺跡探訪 2002 下 & 2003

「和鉄の道 Iron Road 【Ⅲ】」口絵

- 口絵 1. 奥羽山脈・北上山地 蝦夷の鉄 ir3kc01.pdf
- 口絵 2. 砂鉄原料(山砂鉄 浜砂鉄 海砂鉄) 磁鉄鉱を含む花崗岩類ベルト ir3kc02.pdf
- 口絵 3. 砂鉄・鉄鉱石ともうひとつの製鉄原料 ir3kc03.pdf
- 口絵 4. たたら製鉄が地域の自然や文化に与えた影響 ir3kc04.pdf
1. 日本最大の大型縄文貝塚 加曾利貝塚遺跡探訪 加曾利縄文貝塚公園 kasori.pdf
2. 田舎なれども南部の国は 西も東も金の山 岩手県南部 蝦夷の鉄 北上山地 大釜・釜石へ kmais.pdf
3. 古代から使われた鉄さび 赤色顔料「ベンガラ」 ベンガラの郷 岡山県 吹屋 これも和鉄の道 bng.pdf
4. 北茨城 「常陸」は産鉄の民が開いた地 北茨城 五浦海岸で砂鉄に出会う zura.pdf
5. 古代 出羽国 秋田に和鉄の道を訪ねて 奥羽山脈越の和鉄の道は蝦夷の生命線 kdaiaktaa.pdf
6. 北上(和賀)仙人峠越 蝦夷の心臓部を貫く和鉄の道 wgasen.pdf
7. 福島県土湯峠に「赤湯」温泉を訪ねて akayu.pdf
8. 心残りだった東北「和鉄の故郷」Walk 北上江釣子・砂鉄川・蔵王 8etsuriko.pdf  
「あの高嶺鬼住む誇り・・・」と唄う北上市市民憲章
9. 那須連峰の南山麓に眠る「沼原(ぬまっばら)湿原」Walk 日本最初の大規模揚水発電所建設の地 9numahara.pdf
10. 弥生時代の開始が古くまで遡れる 加速器質量分析法 C14 高精度解析 年代測定法 10yayoi.pdf
11. 鉄のモニュメント「大阪万国博」お祭り広場の大屋根 大阪万博記念公園 点描 11banpayane.pdf
12. 「高師小僧」を愛知県豊橋 高師が原を訪ねて もうひとつの古代製鉄原料?? 知っていますか?? 12takashi.pdf
13. 鉄のモニュメント 「北海道開拓百年記念塔」 13kaitaku.pdf

和鉄の道 Iron Road 【Ⅳ】 製鉄遺跡探訪 2004

「和鉄の道 Iron Road 【Ⅳ】」口絵

4ironkuchir.pdf

- 口絵 1. 先大津阿川村 山砂鉄洗取之図
- 口絵 2. ふいご祭り
- 口絵 3. 磁石石 山口県須佐 高山
- 口絵 4. 播磨風土記に記載された和鉄の里
- 口絵 5. たたら製鉄のはじまる5世紀以前に 先たたら精錬技術があったのでは・・・
1. 播磨国風土記 和鉄の道【1】「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて 4iron01.pdf
2. 炭素 14 加速器質量分析法による年代測定法 「弥生時代は500年遡れる?」歴史民俗博物館を訪ねて 4iron02.pdf
3. 長編アニメ「アテルイ」に今の時代を重ねて 岩手県の人たち製作市民映画 4iron03.pdf
4. 鉄のモニュメント 東京六本木ヒルズ 66ビル群 4iron04.pdf
5. 和鉄の道Ⅲ 口絵 もうひとつの製鉄原料 餅鉄・高師小僧・鬼板 4iron05.pdf
6. 蝦夷の鉄・東北 和鉄の道 東北地方 和鉄の道 9編 取りまとめ 4iron06.pdf
7. 播磨国風土記 和鉄の道【2】「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡(平安末期の遺跡)探訪 一宮町 4iron07.pdf
8. 鉄の山「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道 初期大和政権が王城の地に求めた産鉄の地 4iron08.pdf
9. 北陸・能登 に点在する縄文のウッドサークル探訪 金沢チカモリ・能都真脇・小矢部桜町遺跡 4iron09.pdf
10. 播磨風土記 和鉄の道【3】産鉄の地 兵庫県一宮町 三方の里を訪ねて 4iron10.pdf
11. 磁石石って 知っていますか 山口県須佐町高山に磁石石を訪ねて 4iron11.pdf
12. 「鉄の5,6世紀」日本統一を支えた大規模製鉄遺跡 北河内の大規模専業鍛冶工房 大規模製鉄遺跡探訪 4iron12.pdf
13. 「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」の周辺で 江戸末期長門の白須たたら 製鉄工程絵巻 4iron13.pdf
14. 鍛冶屋の祭り 「鞠祭り・ふいごまつり」 兵庫県三木市金物神社・岐阜県垂井町南宮大社 4iron14.pdf

和鉄の道 Iron road 【V】 たたら遺跡 探訪 2005

「和鉄の道 Iron Road 【V】」口絵

5iron00.pdf

- 口絵 1. 日本の北と南の端に製鉄遺跡を訪ねる  
 口絵 2. 隅屋加計鉄山絵巻のたたら製鉄  
 口絵 3. たたら諸施設の基本配置を完成した中世芸北のたたら製鉄  
 口絵 4. 古墳時代 畿内の大規模鍛冶工房の変遷

1. 北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk 5iron01.pdf
2. 鉄のモニュメント 弥生時代の鉄の顔 自然石「鳴石」唐古鍵弥生遺跡出土の濁鉄鉢容器 5iron02.pdf
3. 鉄の6世紀 北九州の装飾古墳に和鉄の道を重ねて 古代産鉄の技術集団が残した和鉄の道でないか 5iron03.pdf
4. 7世紀 古代飛鳥の大製鉄遺跡を訪ねて 飛鳥Walk 「飛鳥池生産工房遺跡」& 「川原寺院工房遺跡」 5iron04.pdf
5. 金剛・葛城山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」 渡来人が住み鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海」 5iron05.pdf
6. 「千年の秘技 たたら製鉄復活の炎」と映画「火火」信楽焼の「穴窯」と「たたら」の秘技 炎の美を重ねて 5iron06.pdf
7. 函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊 5iron07.pdf
8. 青森山内丸山縄文遺跡の漆製品とその赤色顔料 「縄文の赤」酸化鉄顔料に「古代鉄」のルーツを思う 5iron08.pdf  
 沼鉄(パイプ状酸 化鉄)と赤色チャート(粘土質微粒酸化鉄)
9. 古墳時代 畿内の先進鍛冶工房集落 若王寺遺跡探訪 尼崎市若王寺遺跡界限 Walk 5iron09.pdf
10. 「加計 隅屋鉄山絵巻」と加計・豊平町の製鉄遺跡江戸時代 広島藩を支えた鉄の道「芸北 加計のたたら」 5iron10.pdf
11. 北河内古代の郷 肩野物部氏の本拠地 交野界限 walk 大和王権を支えた鍛冶工房 森製鉄遺跡を訪ねて 5iron11.pdf
12. 弥生の博物館 鳥取県 青谷上寺地遺跡を訪ねて 弥生時代後期 北九州と並ぶ鉄の先進地「山陰」 5iron12.pdf
13. 2005 夏 青春 18 きっぷ 日帰りWalk アルバム 和鉄の道 古代の鉄の足跡を訪ねて 5iron13.pdf
14. 薩摩知覧の石組み製鉄遺跡群を訪ねて薩摩独自の石組炉 それが日本最初の薩摩洋式高炉を立ち上げた 5iron14.pdf
15. 日本最 初の洋式高炉建設に燃えた地 古武井 北海道渡島半島の活 火山恵山・恵山町古武井海岸を訪ねて 5iron15.pdf

和鉄の道 Iron road 【VI】 たたら遺跡 探訪 2006

「和鉄の道 Iron Road 【VI】」口絵

6ron00.pdf

- 口絵-1. たたら炉の変遷【1】 たたら炉の構造  
 口絵-2. たたら炉の変遷【2】 たたら製鉄遺跡  
 口絵-3. 3～5世紀 朝鮮半島から持ち込まれた鉄素材 大陸と倭 「七支刀」が解明かす古代製鉄の謎

1. 「鐵」の字源を調べて 『シクロードの草原の道を駆け抜けた「鐵」』 6iron01.pdf
2. 神戸の北端 丹生山に古代の赤「朱土・辰砂」を訪ねる 神戸 和鉄の山郷 押部谷・志染・丹生山・淡河 Walk 6iron02pdf
3. 蝦夷の雄「アテルイ」の足跡 京都東山 陽だまりハイク より 清水寺・將軍塚」と永観堂「みかえり阿弥陀仏」を訪ねて 6iron03.pdf
4. 近江の鉄の郷 大津市仰木 比叡山延暦寺造営を支えた生産工房 上仰木製鉄遺跡 6iron04.pdf  
 帰路は比叡と京都を結ぶ「古代の鉄の道??? きらら坂・雲母坂」ハイク
5. 石上神宮の国宝「七支刀」の復元展にあわせて 物部氏の本拠地 奈良県天理市布留を訪ねる 6iron05.pdf
6. コウノトリが大陸と日本を結ぶ古代 和鉄の道「古代 和鉄の郷 但馬 出石」 兵庫県 但馬 出石・豊岡 Country Walk 6iron06.pdf
7. 九州の旅アルバム 九州 古代の豊の国から阿蘇へ 6iron07.pdf  
 古代鉄のルーツにつながる鉄の国「豊(豊前・豊後)」臼杵石仏を作らせたのは炭焼き長者???
8. 「出羽鋼」の郷 島根県奥石見 瑞穂町市木 walk 6iron08.pdf  
 奥石見 瑞穂町 古墳時代6世紀の今佐屋山製鉄遺跡を訪ねて
9. 四国で初めて 古代の製鉄遺跡が見つかった 今治市 高橋佐夜ノ谷(Ⅱ)遺跡をたずねて 6iron01.pdf

10. 弥生の高地性集落【1】芦屋市「会下山遺跡」からロックガーデンへ ハイキング 6iron10.pdf
11. 弥生の高地性集落【2】播磨灘に浮かぶ碎石の島 360度展望 男鹿島 6iron11.pdf  
弥生の高地性集落「男鹿島 大山神社遺跡」を訪ねて
12. 弥生の高地性集落【3】弥生の高地性集落「表山遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群 6iron12.pdf  
畿内と 播磨の境 明石川・伊川流域の明石平野は弥生から開けた先進地  
補足 写真file 明石 川流域 伊川谷・玉津に弥生の高地性集落と弥生の戦を訪ねて
13. 写真アルバム 水田耕作・鉄・倭国 弥生の時代を作った渡来人たち 6iron13.pdf  
北部九州 魏志倭人伝の世界 杵岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて
14. 弥生の高地性集落【4】弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して 6iron14.pdf  
4.1. 日本人誕生と弥生時代の展開 4.2. 農耕社会の展開と鉄の役割  
4.3. 北部九州の甕棺墓が語る「弥生の人口爆発と戦」  
補足 写真file 明石 川流域 伊川谷・玉津に弥生の高地性集落と弥生の戦を訪ねて
15. 四国で初の古代製鉄炉 高橋佐夜ノ谷2製鉄遺跡 発掘報告会 6iron15.pdf  
愛媛大・今治市共同シンポジウム「鉄と古代国家 今治に刻まれた鉄の歴史」
16. 甲州・信州国境 八ヶ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて「縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた」 6iron16.pdf  
1. 日本人の心の故郷 縄文の集落がそっくりそのまま見つかった茅ヶ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡  
2. 初秋 白樺が美しい 紅葉し始めた清里の朝 八ヶ岳 清里 清泉寮に泊まって  
3. 縄文の黒曜石原産地遺跡 長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる  
黒曜石を日本各地に配っていた信州 霧ヶ峰・中山峠  
和鉄の道 Iron road 【VII】たたら遺跡 探訪 2007
- 「和鉄の道 Iron Road【VII】」 口絵 7ron00.pdf  
口絵-1. たたら製鉄の原点を探して  
口絵-2. たたら炉の 製作過程 古代のたたら炉の製作過程  
口絵-3. 古代製鉄炉の変遷 たたら炉の大きさと構造の変遷  
口絵-4. 8世紀 モデル化された量産古代製鉄炉を完成  
地方拠点に大製鉄コンビナートが出現  
口絵-5. 古代大和への鉄の道 北:淀川・木津川 西:大和川 南:紀ノ川
1. 古代 神戸の「鉄」を訪ねて 7iron01.pdf  
神戸にも製鉄遺跡があった 神戸市内の「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」  
神戸市内出土の三角縁神獣鏡・前方後方墳の足跡が語る「古墳時代の鉄の道」
2. 8-12世紀 越・柏崎に眠る大製鉄コンビナート 軽井川南製鉄遺跡群 (資料) 7iron02.pdf
3. 瀬田丘陵 の源内峠製鉄遺跡・野路小野山遺跡を訪ねて 7iron03.pdf  
大型量産製鉄炉を確立し、古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術
4. 縄文の接合 「あおもり 縄文 まほろば展」を見る 7iron04.pdf  
アスファルトで接合された合掌土偶や縄文人が描かれた石冠ほか青森の縄文の名品
5. 古代大和の鉄の道を訪ねて【1】 7iron05.pdf  
淀川・木津川から大和へ 大和の外港 木津「泉津」を訪ねて
6. 関西の縄文-1 京都 長岡京の北西端に出土した縄文集落 上里遺跡を訪ねて 7iron06.pdf
7. 高槻 三島古墳群 今城塚古墳・鬮鷄山古墳を訪ねて 7iron07.pdf
8. 物部氏のルーツ伝承 備前一宮 「石上布都魂神社」を訪ねて Country Walk 7iron08.pdf  
鉄道もバスもなし 中国山地の山又山の中 とってもミステリアスな Country Walk

9. 古代大和の鉄の道を訪ねて【2】大和川 「亀の瀬・龍田越」 Country Walk 7iron09.pdf
10. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk 7iron10.pdf  
 古代鉄の国「越」 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して
11. 古代「越」の大製鉄コンビナート 越後柏崎 軽井川南製鉄遺跡群を訪ねて 7iron11.pdf
12. 古代九州の大製鉄コンビナート 福岡 元岡製鉄遺跡群を訪ねて 7iron12.pdf
13. 縄文の心を映すストーンサークル 縄文の遺跡を訪ねて 風来坊 縄文の円環遺構 レビュー 7iron13.pdf  
 1. 縄文の時代区分と縄文文化 2. サークル遺構のある縄文遺跡リスト  
 3. 円環遺跡を有する縄文遺跡【1】 4. 円環遺跡を有する縄文遺跡【2】  
 5. まとめ 縄文のストーンサークルとは???
- 参考1. 木柱列と配列遺構の両方が一緒にみつかった糸魚川市寺地遺跡  
 参考2. 縄文の社会と文化概説 文文化の超自然観 死と再生のシンボリズム
14. 古代大和への道【3】 7iron14.pdf  
 紀ノ川水系【1】 紀ノ川のランドマーク 紀州富士「龍門山」に磁石石を訪ねて Walk
15. 古代大和への道【4】 7iron15.pdf  
 紀ノ川水系【2】 古代「紀路」紀ノ川の流れて大和へ Country Walk
16. 縄文のサヌカイト原産地 四国 坂出「金山」に「サヌカイト・讃岐石」を訪ねる 7iron16.pdf
17. 鉄のモニュメント 長良川にかかる現存最古の近代吊橋「美濃橋」(重要文化財) 岐阜県美濃市 7iron17.pdf
18. たら製鉄 砂鉄採取の地形が残る 西播磨 砥峰高原 7iron18.pdf

#### 2008年 和鉄の道 Iron road【Ⅷ】 たたら遺跡探訪 2008

- 「和鉄の道 Iron Road【Ⅶ】」 口絵 8iron00.pdf
- 口絵-1. 鉄器時代の幕開け【1】 鉄器時代を開いたヒッタイトの「鉄」その強さの秘密は良質の鉄「鋼」  
 トルコ・アナトリア半島 古ヒッタイトの世界最古の人工鉄は「鋼」だった BC19世紀
- 口絵-2. 鉄器時代の幕開け【2】 中国最古の人工鉄 河南省出土 銅柄鉄剣
- 口絵-3. 奥出雲 「たたら街道」高速道路「松江道」工事で製鉄遺跡続々出土
- 口絵-4. 鉄穴流し場遺構 広島県庄原市 比婆山山麓 六の原製鉄場 鉄穴流し遺構
1. 鉄の故郷 南ドイツ ロマンティック 街道の宝石「ローテンベルク」 8iron01.pdf  
 中世の 街並を飾るマイスターの作る飾り鉄看板と鍛冶屋敷 walk
2. 日本のたたら製鉄の源流を考える 8iron02.pdf  
 ヒッタイト・ツタンカーメンの鉄 そして四川をつなぐ西南シルクロード がたたら源流???
3. 奥出雲「たたら街道」 高速道路「松江道」工事で製鉄遺跡続々 8iron03.pdf
4. 新見市神郷町「大成山たたら」を訪ねて 備中の山奥 ダム湖に沈んだ近世のたたら 8iron04.pdf
5. 「和鉄の道」を見下ろしてきた一本桜「醍醐桜」を訪ねる 8iron05.pdf  
 奥備中・美作と伯耆の国境 近く 和鉄の道の十字路の山上で1000年
6. 愛媛大学アジア歴史講演会 「モンゴル・アウラガ宮殿における鉄器生産の様相」 8iron06.pdf  
 チンギス・ハンのモンゴル 帝国を支えた鉄
7. 日本最古の銅山 奈良の大仏の銅を産出した 山口県美祿市美東「長登銅山」を訪ねて 8iron07.pdf
8. 「鳥浜貝塚」 縄文の時代観を換えた「縄文のタイムカプセル」を若狭を訪ねる 8iron08.pdf
9. 卑弥呼の時代から大陸への玄関口 若狭・北近江の和鉄の道「若狭街道」を訪ねて 8iron09.pdf  
 分水嶺「水坂峠」の両側 北近江「高島 熊野本」と若狭「上中 熊川宿&脇袋」
10. 関東の縄文貝塚から縄文の暮らしを考える旅 千葉市加曾利貝塚 & 船橋市飛ノ台貝塚を訪ねる 8iron10.pdf  
 1. 日本最大の環状サークル 千葉市 加曾利貝塚  
 2. 縄文の村の生活のはじまりを伝える飛ノ台貝塚  
 貝塚はゴミ捨て場ではない。 再生の願いをかけた一番大事な神聖な場所か ???

11. 広島県備北のたたら製鉄地帯 8iron11.pdf  
 歴史の山 「比婆山 (御陵) 1256m とその懐「六の原たたら跡」を訪ねる
12. 愛媛大東アジア古代鉄文化研究センター 国際シンポジウム「鉄と帝国の歴史」 聴講記録 8iron12.pdf  
 1. 「人類が初めて手にした鉄の故地 ヒッタイト」 基調講演 アナトリア研究所長 大村 幸弘氏  
 2. 「東アジアにおける鉄の故地 中国」 基調講演 中国社会科学院考古研究所長 王 巍氏  
 3. 「チンギスハンの大モンゴル帝国における鉄」 基調講演 新潟大学教授 白石典之氏  
 4. パネル討論 「鉄と帝国の歴史」  
 コーディネイター 愛媛大教授 & 東アジア古代鉄センター長 村上恭通氏
13. 青森・八戸 縄文の郷「是川」 縄文文化を代表する是川遺跡・風張遺跡を訪ねる 8iron13.pdf  
 ● 縄文漆の素晴らしい文化を咲かせた縄文晩期の是川中居遺跡  
 ● 墓域のある広場を環状に取り囲む住居群 縄文後期の環状集落 風張遺跡

### 和鉄の道 Iron road【9】 たたら遺跡探訪 2009

- 「和鉄の道 Iron Road【】」 口絵 9iron00.pdf  
 口絵-1 日本の重厚長大の時代を支えた鉄のモニュメント  
 1. ニロック(尼崎閘門) 2. 山陰線 余部鉄橋  
 3. 宇治川喜撰山発電所 4. 「鉄人 28号」登場  
 口絵-2 奥播磨 かつてのたたら郷に咲く「ピンクの花・ジキタリス」の花園・宍粟市 野々隅原 大国牧場  
 口絵-3 弥生時代後半 国内最大級の鍛冶の村「垣内遺跡(鍛冶工房跡)」  
 口絵-4 BC 19世紀に遡れるという ヒッタイト 最古の人工鉄 と 中国最古の鉄  
 【参考】 東アジア 製鉄技術の歴史

1. 北東北の縄文【2】 ストーンサークルを囲む土屋根の竪穴式住居群 御所野縄文遺跡探訪 2008.10.30. 9iron01.pdf  
 縄文の森に 600 を越える土屋根の竪穴式住居群 縄文の村がそっくりそのまま残っていた
2. 弥生時代後半 国内最大級の鍛冶の村 淡路島「垣内遺跡(鍛冶工房跡)」現地説明会 Walk 2009.1.25. 9iron02.pdf  
 倭国から初期大和王権誕生へ 日本誕生の謎を解き明かすかも・・・
3. 2月陽だまりハイク エ都 尼崎 を支える「尼崎港閘門(ニロック)」Walk 2009.2.4. 9iron03.pdf
4. 一筋縄ではいかぬ古墳時代の幕開け 激動の時代 淡路島がその鍵を握るのか???? 2009.3.15. 9iron04.pdf  
 淡路島で発掘された卑弥呼の時代の日本最大級の鍛冶工房村の位置付けに思いをめぐらす
5. 【鉄のモニュメント】 まもなく90年の役目を終える山陰線但馬海岸「余部鉄橋」の雄姿 2009.3.25 9iron05.pdf  
 高さ41mの橋脚が立ち並ぶ鉄橋 見上げる余部集落の空を列車が山から山へ走り抜ける
6. 【鉄のモニュメント】 関西最初の大型揚水発電所「喜撰山発電所」を訪ねて 宇治川 Walk 2009.5.10. 9iron06.pdf  
 「高溶接性・強度・靱性を兼ね備えた高級高強度厚鋼板の実用化の先駆」
7. 【スライド】 奥播磨 かつてのたたら郷に「ピンクの花 ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6.21. 9iron07.pdf  
 奥播磨 黒尾山 西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花の Walk
8. 古代近江湖南の製鉄遺跡群を湖南アルプスより眺める 2009.7.12. 9iron08.pdf  
 ナイフリッジの尾根が続く湖南アルプス(太神山・堂山)& 南郷洗堰 Walk
9. 湖南 南郷の古代の製鉄遺跡を訪ねて 袴腰山を巡る 2009.7.30. 9iron09.pdf
10. 初秋の青森・秋田風来坊【1】 2009.9.4-7 9iron10.pdf  
 青森 初秋の風物詩 岩木高原「嶽キミ」Walk と三内丸山遺跡「縄文のお月見」  
 1. 青森初秋の風物詩岩木高原「嶽キミ」Walk 2009.9.4.&9.5.朝  
 2. 三内丸山縄文遺跡「縄文のお月見」 2009.9.5.
11. 初秋の青森・秋田風来坊【2】 2009.9.6-7 9iron11.pdf  
 秋田県中央 マタギの里「森吉山」Walk と縄文の環状列石 鷹巣・伊勢堂岱遺跡再訪  
 1. マタギの里 阿仁 リンドウの花満開の森吉山ハイク 2009.9.6

2. 鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 再訪 2009.9.7

12. 【スライド】「鉄のモニュメント」阪神淡路大震災からの長田復興のシンボル「鉄人 28 号」 2009.10.1 9iron12.pdf  
実物大モニュメントが神戸 新長田駅前に完成
13. インターネット検索資料レビュー 英国のストーンヘンジ(巨石環状列石) 2009.11.15. 9iron13.pdf  
日本と英国の環状列石どちらも「墓場 転生思想に基づく先祖を祭る祭りの場」との説が 最近の調査で有力に
14. 【シンポジウム】 愛媛大 東アジア古代鉄文化センター「たたら製鉄の歴史と技術」聴講概要 2009.11.28. 9iron14.pdf

和鉄の道 Iron road 【10】 たたら遺跡探訪 2010

〔たたら製鉄概説〕 風来坊 和鉄の道を訪ねて たたらとは 2010. 1. 10iron01.pdf

1. 和鉄の道・Iron road たたらの源流
2. 日本独自の直接製鉄法 たたら製鉄
3. たたらの語源 & 関連の言葉や地名
4. 奥出雲・播磨 たたら「金屋子神」の伝承
5. 日本各地に残る和鉄の道 風景リスト
6. 東アジア 鉄の歴史年表 中国・朝鮮・日本

「和鉄の道 Iron Road」【10】 口絵 10iron00.pdf

- 口絵-1. 「地球誕生から約 46 億年鉄の歴史と役割」 岩波「鉄学 137 億年の宇宙誌」より  
「地球に鉄がなかったら、現在の地球環境も 人間を含めた生命体も存在しえず、人の歴史も生まれなかった」
- 口絵-2. ヒットタイトの鉄 日本の考古学者が明らかにする世界最古の鉄の歴史
- 口絵-3. 弥生から古墳時代へ 国の形成に大きな役割を演じた Iron Road・和鉄の道  
近畿に実用鉄器の幕開けを告げた淡路島 先進鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡
- 口絵-4. 褐鉄鉱の宝庫「みすずかる信濃」 八ヶ岳連峰 蓼科中央高原 諏訪鉄山跡
- 口絵-5. 鉄がない縄文時代 この時代にも素晴らしい文化が開いていた  
日本の心のふるさと縄文 縄文人の精神生活と深くかかわった渦巻・円環文様

1. たたらの話 あれこれ 〔たたら製鉄概説〕 - 風来坊 和鉄の道を訪ねて 2010. 1. 10iron01.pdf
  - Iron road たたらの源流
  - 日本独自の直接製鉄法 たたら製鉄
  - たたらの語源 & 関連の言葉や地名
  - 奥出雲・播磨 たたら「金屋子神」の伝承
  - 日本各地に残る和鉄の道 風景リスト
  - 東アジア 鉄の歴史年表 中国・朝鮮・日本
2. 桃太郎伝説の吉備路 walk 鬼ノ城を訪ねる 2010. 1. 15. 10iron02.pdf  
唐の侵攻に備えた古代 7 世紀の朝鮮式山城「鬼ノ城」の中に鍛冶工房があった
  - 1. 吉備の中山 walk 吉備津神社の「鳴釜神事」 本当に釜が唸るのにびっくりです・・
  - 2. 足守川の土手を北へ鬼ノ城へ向かって walk
  - 3. 7 世紀唐の侵攻に備えた朝鮮式山城「鬼ノ城」& 鍛冶工房跡を訪ねる
  - 4. 古代の製鉄地帯 奥坂・阿曾に下って 血吸川に沿って足守駅へ
  - 5. 桃太郎伝説の吉備路 walk「鬼ノ城」を訪ねる総括
  - 吉備 温羅伝説・鬼ノ城・千引カナクロ谷製鉄遺跡 概説
3. 吉備津神社「鬼の唸り・鳴釜」の再現を試しました 10iron03.pdf  
意外にも澄んだ響き、イメージが次々と広がってゆきす
4. 阿波 鍛冶工房から砂鉄が出土 弥生の大集落「矢野遺跡」を訪ねる 2010. 2. 6. 10iron04.pdf  
弥生時代中期末から北九州と時期をほぼ同じくして鉄器生産を始めた鍛冶工房.  
【概説】 1. 「阿波の国」概説 阿波と初期大和王権のかかわり [2.1MB PDF]  
2. 「矢野遺跡」概説 村から国へ 鉄器加工を始めた弥生の大集落
5. 「地球誕生から約 46 億年鉄の歴史と役割にびっくり」 10iron05.pdf  
岩波の科学ライブラリー「鉄学 137 億年の宇宙誌」を読んで  
「地球に鉄がなかったら現在の地球環境も 生命体も存在しえず 人の歴史も生まれなかった」
6. 日本美術刀剣保存協会たたら「日刀保たたら」の操業 2005. 2. 7. 鉄鋼新聞 記事より 10iron06.pdf

7. 東近江 永源寺相谷熊原縄文遺跡 Walk 2010. 6. 5. 10iron07.pdf  
 縄文のビーナス誕生を思わせる日本最古級の美しい土偶が出土 東近江 永源寺相谷熊原遺跡 現地説明会に参加  
 参考 東近江永源寺相谷熊原遺跡 日本最古級の土偶と縄文草創期の竪穴住居群の出現を報じる新聞記事整理
8. 奥播磨 千種川に注ぐ恋文川源流 2010. 7. 20. 10iron08.pdf  
 たたら郷 宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる
9. 参考資料 朝日新聞朝刊に掲載された記事「ヒッタイトの鉄の謎に挑む」 2010. 8. 7. 10iron09.pdf
10. 旧諏訪鉄山の痕跡を北八ヶ岳山麓 蓼科中央高原を訪ねる 2010. 10. 17. 10iron10.pdf  
 みすずかる信濃 信濃の鉄を象徴する褐鉄鉱
11. この秋 二つの弥生時代後期の製鉄関連遺跡の講演会を聞いて 10iron11.pdf  
 「阿蘇谷 大量の鉄を集積した集落『下扇原遺跡』」 & 「淡路島 西日本最大級の鍛冶工房村『五斗長垣内遺跡』」
12. 【写真アルバム】 縄文を代表する国宝「火焰土器」 新潟県十日町市笹山遺跡を訪ねる 2010. 11. 17. 10iron12.pdf
13. 弥生時代から卑弥呼の邪馬台国・大和初期王権へ 古代国家形成の時代を動かした「鉄」 10iron13.pdf  
 無手勝流で鉄をキーワードに弥生から邪馬台国・大和王権への変遷を整理  
 1. 弥生時代から卑弥呼の邪馬台国・大和初期王権へ 国家形成の時代を動かした「鉄」  
 2. 日本統一国家形成へ 時代を動かした鉄 資料図集
14. 弥生後期から卑弥呼の時代へ ベールを脱いだ「弥生の Iron Road 和鉄の道」 10iron14.pdf  
 淡路島 五斗長垣内遺跡の謎 シンポ 2010. 11. 21. 聴講 して  
 1. 五斗長垣内遺跡の概要 伊藤宏幸氏(淡路市教育委員会) 講演「五斗長垣内遺跡と淡路島の弥生遺跡」より整理  
 2. 五斗長垣内鍛冶遺跡の役割と時代的位置づけ 村上恭通氏(愛媛大学東アジア古代鉄文化センタ長)  
 講演「弥生人が目指した鉄器化社会」より整理  
 3. 弥生後期の和鉄の道・Iron Road 大久保徹也氏(徳島文理大教授)  
 講演「播磨灘と五斗長垣内遺跡を考える瀬戸内をめぐる交流・地域間関係」より整理。  
 4. 弥生後期 近畿でも急速に実用鉄器化が進んだことを示す石の刃物の変化 禰宜田佳男氏(文化庁 主任調査官)  
 講演「近畿における石の刃物と鉄の刃物」より整理
5. まとめ
- 番外 蓼科横谷溪谷で拾った褐鉄鉱? の検証 「褐鉄鉱を焼くと磁石に引っつくか?」 10ironB1.pdf

## 和鉄の道 Iron road 【10】 たたら遺跡探訪 2010

- 「和鉄の道 Iron Road」【11】 口絵 11iron00.pdf
- 口絵-1. 2011年 見学した製鉄関連遺跡・遺構  
 1. 西播磨 古墳時代の鍛冶工房跡 赤穂市有年牟礼・井田遺跡 2. 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡  
 3. 平城京 朱雀門のすぐ横から出土した奈良時代前半の鍛冶工房
- 口絵-2. 弥生時代前期の広大な水田跡 御所市条 中西遺跡  
 大和は早くから開けた大穀倉地帯だった・・・大和の力の源泉か??
- 口絵-3. 日本列島で一番低い分水嶺を越える水上回廊  
 太古から動植物の移動路 古代から多くの物産・人の移動路・交易路
- 口絵-4. 鉄系超高温伝導体の急速展開と超高温伝導体実用化技術の進歩
- 口絵-5. 鉄のモニュメント [ 1. 神戸 兵庫港にある浮きドック群 2. 鉄のアーティスト 榎忠の作品群 ]

1. 近畿 弥生時代後期 淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の2-3世紀 11iron01.pdf  
 「鉄器は出ないが、急速な鉄器化が進行という「幻の鉄器」の時代があった」という考えには疑問符  
 - 鉄器時代のイメージ先行の弥生時代「北部九州以外 実用鉄器はさほど普及していなかったのではないか」-
2. 「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」 11iron02.pdf  
 西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる 2011.2.11.

3. 西神戸神出東西に秀麗な山並みを見せる神奈備山 雌岡山・雄岡山 Walk 2011.3.11. 11iron03.pdf  
**鍛冶神大己貴命の伝説の地「神出」渡来鍛冶技能集団の進出地の伝承も**
4. 豊臣時代の大阪城の鍛冶工房跡を訪ねる大坂城南側から見つかった大規模な鍛冶工房跡 2011.4.16. 11iron04.pdf  
**大坂城のお堀端南約 100m 大阪市中央区森ノ宮 2 丁目**
5. 日本で一番低い中央分水界を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ水上回廊 2011.5.14. 11iron05.pdf  
**加古川から由良川水系域へ 山越のない「水別れ街道」に行く**
6. 神戸でも北の縄文と交流 遮光器土偶[部分]が出土した神戸篠原遺跡 2011.5.20. 11iron06.pdf  
**縄文後期・晩期 関西にも日本列島をつなぐ広い交流路がつながっていた**
7. 京都の新しいパワースポット 磁石が吸い付く平野神社の「すえひろがね・餅鉄」を訪ねる 2011.5.22 11iron07.pdf  
**東北と関係深く東北蝦夷の族長アテルイの顕彰碑がある清水寺にも久しぶりにゆきました**
8. 南北市糴(してき) 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」 11iron08.pdf  
**魏志倭人伝の時代 朝鮮半島の鉄との交易品は何か……**
9. **鉄のモニュメント** 奈良 三輪山 大神神社の大鳥居 久しぶりに巻向・三輪 三輪山山裾を歩く 11iron09.pdf
10. 古墳時代 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる 2011.8.30. 11iron10.pdf  
**脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学 & 若狭小浜港・遠敷(おにゆう)の里 Walk**
11. **鉄のモニュメント**「浮きドック」・神戸兵庫の港 界限 walk 2011.9.15. 11iron11.pdf
12. 淡路・出雲・高千穂 三大神話の郷 神楽の競演 淡路島伊弉諾神宮 三大神話 神楽祭 2011.9.23. 11iron12.pdf
13. 最近の鉄の話題「新しい鉄 高温超電導体」 11iron13.pdf  
**BS フジ 10月9日(日)8:00 放送「ガリレオ X 電気抵抗ゼロがひらく未来」より**
14. **鉄のモニュメント** 鉄のアーティスト 榎忠氏(1944-)の鉄の作品群 2011.11.23. 11iron14.pdf  
**兵庫県立美術館「榎忠展 -美術館を野生化する-」より**
15. 北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼンスライド 2011.12..1. 11iron15.pdf  
**「和鉄の道 Iron Road 」から見た日本誕生前夜-北近江・若狭が輝いた時代-**
16. 平城京 朱雀門前から大規模な鍛冶工房が出土した **平城第 486 次平城京左京三条一坊一坪の調査** 11iron16.pdf  
**奈良時代前半の鍛冶工房跡 平城京建設に鉄製品供給か??** 2011.11.25.
17. 「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」 2011.11.25. 11iron17.pdf  
**国内最大級弥生時代前期の水田跡2千枚が出土?御所市 中西遺跡**

